



札幌市立大学年報
平成25年度
(2013年度)



札幌市立大学

SAPPORO CITY UNIVERSITY

目次

I 概要

1	大学設置の経緯	1
2	デザイン学部の概要	3
3	看護学部の概要	4
4	デザイン研究科の概要	5
5	看護学研究科の概要	6
6	助産学専攻科の概要	7
7	平成25年度の特筆すべき事項	8
8	行事	9

II 教育活動

1	教育活動概要	10
2	共通教育・連携教育	11
3	デザイン学部	13
4	看護学部	30
5	デザイン研究科	44
6	看護学研究科	49
7	助産学専攻科	58
8	デザインと看護の連携教育	61
9	産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業(産業界ニーズGP)	63

III 研究活動

1	個人研究費による研究一覧	66
2	学内公募研究課題一覧	70
3	学外からの研究費、研究補助金などの受入状況	71
4	寄附金の受入状況	74
5	その他研究助成	74
6	海外出張記録	75

IV 社会活動

1	地域貢献諸活動	78
2	公開講座開催実績	98
3	社会における活動	100
4	ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業(COC事業)	103
5	空知旧産炭地域における「炭鉱(やま)の記憶」をキーワードにした 地域再生のためのアートマネジメント人材育成事業	104
6	専門職支援・セミナー講師等	105
7	国際交流実績	119
8	JICA草の根技術協力事業	120
9	サテライトキャンパスの利用状況	121

V キャリア支援活動

1	デザイン学部	122
2	看護学部(助産学専攻科含む)	127

3	デザイン研究科	129
VI	平成26年度入学者選抜結果	
1	デザイン学部・看護学部	131
2	デザイン研究科・看護学研究科	136
3	助産学専攻科	141
VII	附属図書館	
1	概要	143
2	利用状況	144
VIII	役員会、経営審議会及び教育研究審議会	
1	役員会及び審議会の審議状況	145
2	役員及び審議会委員名簿	146
IX	学内運営の概要	
1	2013年度(平成25年度)公立大学法人札幌市立大学 組織図	147
2	経営会議	147
3	部局長会議	147
4	学外連携企画会議	148
5	教育・研究企画会議	148
6	教授会	148
7	地域連携研究センター	149
8	附属図書館	150
9	アドミッションセンター	150
10	キャリア支援センター	150
11	学内委員会	151
12	FD・SD活動	158
X	資料	
1	平成25年度年度計画	161
2	平成25年度決算	168
3	教職員数	169
4	管理職一覧表	169
5	教員一覧表	170
6	学生定員及び学生数	171
7	授業料等	172
8	奨学金貸与・授業料減免実施状況	172
9	学生の入選・受賞	173
10	学生の課外活動	174
11	後援会	175
12	教育・研究刊行物一覧	175
13	施設	176
14	大学への交通アクセス	180
15	札幌市立大学 大学歌『みらいの手』	181
XI	教員業績一覧	182



I 概要

1 大学設置の経緯

環境問題や少子高齢化、高度情報化、国際化などの進展に伴い、社会構造がますます複雑化する中で、学術研究の高度化、学際化とともに、社会では高い資質と能力をもった職業人が強く求められている。特に、札幌市においては、公共事業の削減が進む中、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取り組みがより重要であり、こうした取り組みに対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

また、今後も当分の間、看護職の不足が続くと予測されている中、在宅医療を支える訪問看護等の需要増加を初めとして、今後は、患者の生活の質向上を目指したケアを行うことができる、広範で高度な看護能力を有する看護職の確保が求められている。

一方、今日の高等教育機関においては、その高度な教育研究機能を通じて、これまで以上に地域社会への貢献を果たすことが大きな社会的要請となっている。

平成3年に開校した札幌市立高等専門学校は中学卒業時から5年間の早期一貫教育を行うデザイン系高等教育機関として、実践的職業人を数多く輩出してきたほか、企業や行政からの受託研究などを通じて、産業の振興や市民生活の向上に貢献してきた。

また、昭和40年に開校した札幌市立高等看護学院は、高校卒業後の3年課程の専修学校として、市立札幌病院を始めとする札幌市内医療機関に看護職を多数輩出し、市民の健康支援に貢献してきた。

このような状況の中で、先の地域課題への対応や社会的要請にこたえるために、札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院の大学化の必要性と方向性について幅広い議論を行うべく、平成13年11月、「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」を設置した。

大学化検討懇話会は、市民論議の中心的役割を担う立場から、インターネットを始め、さまざまな形で寄せられる市民の意見に耳を傾け、審議経過を逐次公開しながら検討を進め、平成14年12月、約1年間にわたる市民論議の集大成として、「札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院が社会構造の変化に的確に対応し、かつ、地域社会の要請にこたえていくためには、4年生大学化によるレベルアップをできるだけ早期に図る必要がある。」とした「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」をまとめた。

こうした市民論議の経過を踏まえて、札幌市では、平成15年9月に「（仮称）札幌市立大学基本構想」を策定し、平成18年春の札幌市立大学の開学を目指すこととした。

そして、この基本構想に盛り込まれた方向性を具体化するために、平成15年11月に大学教育の専門家を中心とする「（仮称）札幌市立大学設置準備委員会」を設置して調査・審議を進め、学部・学科や教育課程、学生の受け入れ、校地・校舎のあり方といった事項について準備委員会における検討内容を踏まえて、平成16年7月に「（仮称）札幌市立大学基本計画」を策定し、平成17年4月に札幌市立大学の設置認可申請を行った。同年12月に大学の設置が認可され、「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を理念とした札幌市立大学を平成18年4月に開学した。

また、デザインと看護の学部での教育を基盤として、より高度な専門的知識を有する高度専門職業人及び研究者・教育者の育成を目的として大学院修士課程を設置することとした。

大学院修士課程は大学院基本計画に基づき1期生の卒業時期に合わせた開設が計画され、平成21年5月に「札幌市立大学大学院設置認可申請書」を文部科学省に提出、10月に大学院の設置が認可され、平成22年4月に札幌市立大学大学院を開設した。

大学院の開設と合わせて、より高度な能力を持った助産師の養成が必要とする社会的要請を受け、本学に助産学専攻科を設置して助産師の養成を行うこととした。

その後、平成23年5月に「大学院（博士後期課程）設置認可申請」を文部科学省に提出、10月に大学院（博士後期課程）の設置が認可され、平成24年4月に札幌市立大学大学院（博士後期課程）を開設した。



沿革

昭和40年4月	札幌市立高等看護学院 開校
平成3年4月	札幌市立高等専門学校 開校
平成8年4月	札幌市立高等専門学校専攻科 開設 札幌市立高等専門学校附属研究所 開設
平成13年11月	「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」設置
平成14年12月	同懇話会による「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」
平成15年9月	「(仮称)札幌市立大学基本構想」策定
平成15年11月	「(仮称)札幌市立大学設置準備委員会」設置
平成16年7月	「(仮称)札幌市立大学基本計画」策定
平成17年12月	大学設置認可
平成18年3月	公立大学法人札幌市立大学 設立認可
平成18年4月	公立大学法人札幌市立大学 開学
平成18年10月	サテライトキャンパス 開設
平成19年4月	地域連携研究センター 開設 アドミッションセンター 開設
平成20年3月	札幌市立高等看護学院 閉校
平成20年4月	キャリア支援センター 開設
平成20年8月	認定看護管理者制度サードレベル教育課程 開講
平成21年3月	札幌市立高等専門学校本科 閉科
平成21年10月	大学院（修士課程）設置認可
平成21年12月	助産学専攻科の助産師学校指定通知
平成22年4月	大学院（修士課程）デザイン研究科・看護学研究科・助産学専攻科 開設
平成23年3月	札幌市立高等専門学校専攻科 閉校
平成23年10月	大学院（博士後期課程）設置認可
平成24年4月	大学院（博士後期課程）開設



2 デザイン学部の概要

1) 特色

デザイン学部では、大学の特色を踏まえ、幅広い職業人の育成を行うことを基盤とし、デザインという特定の専門分野の教育研究を通じて、社会に貢献することを特色としている。具体的には、優秀で創造的な人材を社会に輩出するほか、企業との共同研究や受託研究といった産学連携、個人の創造性・スキルに基盤を置き、知的資産によって価値を生み出す創造的な産業の振興などを通じて社会に貢献するものである。

また、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある七つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、デザインという「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2) 教育目的

デザイン学部では、次のような人材の育成を目的とする。

- ① 幅広いデザイン能力を持った人材の育成
デザインの基礎的な理論や技術について幅広く教育を行い、高度な職業人に必要なデザイン能力を持った人材を育成する。
- ② 人間中心の視点に立ったデザインに取り組める人材の育成
造形の基盤となる芸術的要素に機能の基盤となる工学的要素を融合させ、人にやさしいデザインや使いやすいデザインなど、人間中心の視点に立ったデザインに取り組むことのできる人材を育成する。
- ③ 地域社会に貢献できる人材の育成
時代や社会の要請を的確に捉えた教育研究に取り組むとともに、地域産業や芸術・文化の振興を始め、都市機能や都市景観の向上など、まちづくり全体に幅広く貢献する人材を育成する。

3) 育成する人材像

札幌市においては、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野や、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取組が特に重要視されており、こうした取組に対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

デザイン学部では、そうした社会の人材需要にこたえとともに、教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

- ① 多様なコミュニケーション能力
的確に意思疎通を図り、豊かな人間関係を形成することができる能力のほか、海外とのコミュニケーションに必要な実用的な英語能力、高度情報化社会に不可欠な情報処理能力を養う。
- ② 課題探求能力と問題解決能力
社会の課題やニーズを自ら探求する能力と、その問題をデザインによって解決することのできる能力を養う。
- ③ デザインの基礎となる表現力
豊かな感性を涵養するとともに、創造的な発想と豊かな表現力を養う。
- ④ 人間や環境に配慮したデザイン思考能力
人間にとって使いやすいデザインや環境への負荷に配慮したデザインを行う能力を養う。
- ⑤ 新たな価値を発見する柔軟な発想力
固定観念にとらわれず、さまざまな視点からデザインに取り組むことのできる柔軟な発想を養う。
- ⑥ 企画力や管理・運営能力
デザインを実践的に活用することのできる企画力や管理・運営能力を養う。



3 看護学部の概要

1) 特色

看護学部では、幅広い職業人を育成することを基盤として、看護学という特定の専門的分野の教育研究を通じて、社会貢献を果たしていくことを特色としている。具体的には、確実な看護実践力を持ち、高い資質を有する看護職を輩出するとともに、保健・医療・福祉行政や関係機関などと連携し、地域看護の充実や市民の健康の保持増進につながる研究を通して社会に貢献するものである。

したがって、看護学部では、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある7つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、看護という「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2) 教育目的

看護学部では、看護職として活躍する次のような人材の育成を目的とする。

① 的確な実践力を有する人材の育成

看護は、看護の理論や知識を基盤とした看護実践を通して研鑽を重ねつつ、専門性を深める学問である。

高度・専門化する医療、多様化する看護ニーズに対応するためには、緻密な観察に基づく的確な判断能力と技術力、さらにこれらを基盤とした問題解決能力が求められる。また、人々がより高い水準の健康を維持・獲得するためには、科学的根拠に基づいた専門的知識・技術を用いて、自律的にケアを推進する実践的な援助能力が求められる。

このため、あらゆる健康レベルや場において、人々が快適で安全に安心して生活できるよう、理論・知識・根拠に基づき的確に看護を実践できる技術と能力を有する看護職を育成する。

② 人間性を尊重した対人関係形成能力を備えた人材の育成

看護の援助過程は、看護職と看護を必要とする人との人間関係形成により進行するものである。看護職は、人間の尊厳を重視し、安心感を与える態度・態様が求められるとともに、看護行為を実施する上では、すべての人に対する人権の擁護と倫理的判断ができるように常に志向することが肝要である。

また、医療施設における看護はもとより、福祉施設や在宅における看護、地域における看護など、看護職に求められる能力、期待される役割が増大しているとともに、高度化する医療は、さまざまな職種の医療従事者を必要としており、看護職や他の従事者と連携・協働し、対象である人間を中心とする視点に立った医療・看護を提供することが重要である。

このため、対象あるいは医療従事者間との意思疎通を図り、対人関係の形成のために、身体的側面だけではなく、心理的、社会的側面から人間を理解し、幅広い教養を基盤とした豊かな人間性と倫理観を備えた看護職を育成する。

③ 地域社会に貢献できる人材の育成

市民の健康に対するニーズの増大や価値観の多様化などに伴い、看護職に対する需要は増大、複雑化してきており、本学では、このような地域の看護需要に対応することが必須になる。

このため、保健・医療・福祉などの学びに加えて、幅広い分野・職種と連携し、創造的、主体的に学習することで、積極的に地域社会における市民の健康の保持増進に貢献できる人材を育成する。また、看護職に対する需要は、それぞれの地域ごとに異なっており、札幌市はもとより、北海道内あるいは全国的な視点から、看護の発展に寄与できる看護職を育成する。

3) 育成する人材像

札幌市には、多くの高度・専門的医療機関が立地し、北海道における高度、先進的医療技術の中核的役割を担っている。少子高齢化が急速に進行し、さらに、独居老人世帯数、高齢夫婦世帯



数も増加しており、このような社会情勢に的確に対応した看護職が求められている。

このため、看護学部では、医療機関における高度・専門的医療を担う看護職を育成することはもとより、在宅の高齢者等に対する看護、保健指導など地域の看護需要に対応できる看護職を育成することとし、こうした社会の人材需要の充足と教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

- ① 対人関係形成能力
豊かな人間性と倫理的判断力を備え、安心感を与える的確な意思疎通により対人関係を形成できる能力を養う。
- ② 権利擁護・安全なケア提供能力
さまざまな健康レベル、あらゆる発達段階、さまざまな場において、対象の権利を擁護し、安全なケアを提供できる能力を養う。
- ③ 的確な判断能力と問題解決能力に基づく看護実践技術力
緻密な観察と科学的知識に基づく的確な判断能力と問題解決能力を培い、これらを基盤とした看護実践技術力を養う。
- ④ 医療従事者間における調整・指導のための基礎的能力
看護対象者の視点から保健・医療・福祉を追究し、各分野における看護の専門性と役割を認識の上、医療従事者間の調整や指導的役割を担うための基礎的な能力を養う。
- ⑤ 課題解決力を高めるための自己研鑽能力
主体的・創造的に課題探求に取り組み、解決する力を高めるために継続的に自己研鑽できる能力を養う。

4 デザイン研究科の概要

1) 特色

デザインの役割が拡張し、従来のように造形や視覚表現にとどまらず、社会や地域、産業等の複雑な問題をデザイン課題として受け止め、人間や環境に配慮したデザイン提案によりその解決策を実現できる、高度なデザイン能力を有する人材が必要となっている中で、デザイン研究科では、よりよい地域社会の実現に貢献できる高度専門職業人及び研究者・教育者を育成するため、以下の能力を修得することを特色とする。

また、平成17年9月中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」の四つの「大学院に求められる人材養成機能」のうち「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」及び「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成」に比重を置いて教育・研究に取り組む。

【博士前期課程】

- ① デザインに関連する複合的かつ複雑な課題・問題を解決する「課題解決能力」
- ② デザインを通じて新たな価値を生み出す「創造力」
- ③ 課題・問題の発見、分析から具体的事業化までを一貫したデザインプロセスとしてまとめる「企画調整能力」
- ④ 一連のデザインプロセスを具体化する「実践能力」

【博士後期課程】

- ① 自身の専攻分野の専門的知識・技能を中心としつつ、関連近隣分野の基礎的素養をも習得し、幅広い見識から事象の本質を捉える「課題発見・分析・解決能力」
- ② デザインの視点を通じて自主的・自立的に研究や調査、分析等を実践できる「研究遂行能力」
- ③ 国内外の専門家や研究者とのコミュニケーションを図りながら、広く社会全体を俯瞰し、「リーダーシップ」を発揮できる確かな「調整力」及び「指導力」



2) 教育目的

【博士前期課程】

地域社会全体に内在する様々な課題に対してデザインによる解決策を教育・研究することにより、高度で専門的なデザイン能力を持った職業人の育成を目指し、産業、芸術・文化等の振興、地域再生・活性化などの貢献を果たすことを目的としている。

【博士後期課程】

自立した研究者として独創的な視点から社会課題を発見するとともに、深く研究に取り組み、デザイン分野における学術理論及び技能の高度化の追究を通じて、社会への貢献を果たすことを目的としている。

3) 育成する人材像

【博士前期課程】

- ① 屋内外の様々な空間を対象とする空間デザイン分野において、人間の生活や自然環境に配慮しつつ、建築デザインや環境デザインに関する高度なデザイン能力を有する人材。
- ② 人間生活に欠かせない多様な製品並びにそれを支えるインタフェース（操作性）について、人間中心の生活システムとしての製品やそのインタフェースをデザインできる高度なデザイン能力を有する人材。
- ③ 人々の豊かなコミュニケーション活動を支えるコンテンツの制作と、多様なコンテンツのメディア展開を企画・構築し、運営に至るプロセスをプロデュースできる高度なデザイン能力を有する人材。

【博士後期課程】

- ① デザインを通じた組織構築や質改善のためのシステム開発を実践し、組織において指導的立場となり得る人材。
- ② 自立して研究活動を行い、デザインの学問的体系を構築できる人材。

5 看護学研究科の概要

1) 特色

近年、看護分野は専門分化しており、これに対応する卓越した実践能力を有する看護職及び統合的な調整能力を有する看護管理者の育成が急務となっている。

また、これら卓越した臨床能力及び看護の専門性のさらなる向上には、看護の未来を見据えた洞察力・創造力を有し、学問的理念を基盤として研究を推進する自立した教育者・研究者の果たす役割が大きい。

看護学研究科は、このような社会の要請に応える人材を育成し、札幌を発信源に、21世紀の看護の一端を担い、これを保健・医療・福祉分野へ発信できる、看護のバランス感覚に優れた人材の育成を目指している。

なお、本研究科では、平成17年9月5日中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」の4つの「大学院に求められる人材養成機能」のうち「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」及び「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成」に比重を置いて教育・研究に取り組むことを特色とし、以下の能力の修得を目指している。

【博士前期課程】

- ① 正確性・緻密性及び独創性を有する高度な臨床看護実践能力
- ② 高度な倫理観に基づき、専門看護分野において分析・判断・行動・評価ができる能力
- ③ 他職種と協働し、看護における将来展望に資する統合・調整ができる能力
- ④ 積雪寒冷地における健康づくり支援に取り組む能力



【博士後期課程】

- ① 看護に対する社会的課題を的確に認識し、将来を見据えた技術開発やシステムの検証・創出、組織での施策提言等を行う能力
- ② 豊かな人間性や広い視野に加え、高度な倫理観、専門知識や技能に裏打ちされる高い管理能力、指導能力
- ③ 高度な学識と臨床の両面から、看護学の基礎研究や応用研究に自立的に取り組み、実践科学としての看護学を追究する能力

2) 教育目的

【博士前期課程】

広い視野に立って看護学の基盤を学修した個々人の専門性及び学識を深めつつ、看護学を発展させることのできる研究者・教育者や様々な形態での看護の実践及び幅広く地域社会に貢献できる高度で専門的な人材を育成することを目的としている。

【博士後期課程】

自立した研究者として、様々な看護現象に対して深く研究に取り組み、看護の枠組みの再構築やシステム開発、技術開発などを行い、看護分野における学術理論及び技能の高度化の追究を通じて、社会への貢献を果たすことを目的としている。

3) 育成する人材像

【博士前期課程】

- ① 保健・医療の中核を担う高度臨床看護実践者の育成（専門看護師を含む）
- ② 総合的に看護ケアをマネジメントする看護管理者の育成
- ③ 地域や在宅において健康な生活と福祉の向上に率先して貢献する看護職の育成
- ④ 看護の未来を創造・開拓する看護研究者、看護教育者の育成
- ⑤ 看護技術の開発及び評価能力を備える人材の育成
- ⑥ 幅広い視野のもとで新しい看護システムや制度の開発に資する人材の育成

【博士後期課程】

- ① 看護学の基礎研究・応用研究に自立的に取り組み、人材育成システムの検証・提言ができる研究者、開発者
- ② 確かな知識や技術、倫理観を基盤として、看護職者を志す人々に質の高い教育を実現し、さらに新たな教育制度や方法、カリキュラム等の創出に寄与できる教育者
- ③ 看護現象の分析・評価を通じて、看護システムをグローバルに構築・変革し、自ら行動する高度専門職業人及び看護管理者を養成・指導できる教育者・管理者

6 助産学専攻科の概要

1) 特色

助産学専攻科では、学士課程4年間において培った自己研鑽力が発揮できる教育課程を特色としている。

その1つとして、選択科目を設定せず、学生個々に助産学に広く関連した課題を発見し、自ら学びを深める機会を創っている。加えて、この学びの更なる発展に向け文献研究を行う。

また、1年間の学修では、助産師に必要な基本的知識・技術を土台に、ハイリスク事例に対応できるような高度な知識・技術を熟練した助産師と専門医のもとで修得する。この学修では看護師資格が大いに役立っている。



2) 教育目的

札幌市立大学の理念である「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を基盤に、各種助産技術能力の正確な修得を目指し、次のような教育を目的とする。

- ① 助産師に必要な基本的かつ高度な知識が修得できる。
- ② 助産師に必要な基本的かつ正確な助産技術が修得できる。
- ③ 助産師に必要な知識と技術を統合し、助産ケアが実践できる。

3) 育成する人材像

北海道、札幌市においては、需給見通しで助産師の不足が見込まれる一方、産科医師の減少などにより、助産師の需要がさらに増加する可能性がある。また、少子高齢化が急速に進行する中で、より一層安全で安心な分娩介助が求められるとともに、思春期や更年期への相談など、助産師が担う役割は広範化・高度化する傾向にある。

このため、助産学専攻科においては、次のような人材を育成する。

- ① 助産に関する幅広く、高度な知識と正確な技術を有する助産師
- ② 地域社会における母子健康の向上に貢献できる助産師
- ③ 人間性豊かな助産師

7 平成25年度の特筆すべき事項

平成25年度、札幌市立大学では以下のような特筆すべき事項があった。

1) 学長補佐体制の整備

第二期中期計画において、理事長（学長）のリーダーシップが機動的に発揮できるよう、平成25年度に学長補佐体制の整備を行った。具体的には、理事長、副学長、事務局長で構成し、法人及び大学運営の重要事項を審議する経営会議を新たに設置した。また、理事長が平成24年度に策定した第二期経営戦略を着実に進めていくための組織として教育研究企画会議と学外連携企画会議を設置し、経営戦略を計画的に推進していくための体制を構築した。

2) 大型外部資金の獲得

平成25年度には大型の外部資金として以下の3つの補助金及び研究費を獲得した。1つ目は文部科学省が地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を支援する「地（知）の拠点整備事業」に採択された「ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成『学び舎』事業」である。本事業では、札幌市南区の廃校を拠点として、教育カリキュラムの改革や地域住民の健康増進等に寄与する研究の推進、地域の再生や活性化等につながる取組を推進していく（事業期間:平成25～29年度、申請額:215,813千円）。

2つ目は、日本学術振興会の科学研究費助成事業基盤研究（A）に採択された「タイム・スペースシェアリング型地域連携による地域創成デザイン研究」である。本研究は、地方市町村と大都市の双方における暮らしの質の維持や魅力創出のための手法の構築を目的とし、地域衰退の先行事例となる可能性のある北海道地域の地方市町村と大都市を対象に、定量的な調査分析を行い、それぞれの魅力と課題を明らかにするものである（研究期間:平成25～27年度、研究経費:34,100千円）。

3つ目は、文化庁の「大学を活用した文化芸術推進事業」に採択された「空知旧産炭地域における『炭鉱(やま)の記憶』をキーワードにした地域再生のためのアートマネジメント人材育成事業」である。本事業は、本学のアート、デザインに関する教員、学生、教育研究機能、施設・資料等と空知旧産炭地域の地域資産である炭鉱遺産施設、公共施設等を活用したアートプロジェクト、ワークショップ、研修等の企画、実施を通して実践的な人材育成を行うものである。



3) 広報戦略及び国際化基本方針の策定

本学の広報力の強化と情報共有の推進等を図るため、平成25年度に広報戦略と戦略を具体的に展開する行動計画について検討を行い、平成26年3月に策定した。広報戦略では、大学の魅力の発掘や学内情報の共有、共感型広報の推進などの基本戦略を定めるとともに、新設した広報室を中心に、学生及び教職員が全学一丸となって広報活動の推進に取り組むこととしている。

また、本学の国際交流活動の指針となる「大学の国際化に関する基本方針」を、地域連携研究センターを中心に検討し平成25年9月に策定した。基本方針では、グローバルな視点に立った教育・研究の推進や国際的な視野を持った人材の育成等を目指すこととしている。

8 行事

前期開始	4月1日
入学式・後援会総会	4月3日
前期ガイダンス	4月4日
前期授業開始	4月5日
前期履修登録期間	4月5日～17日
健康診断	4月15日・17日
第1回オープンキャンパス	6月15日
デザイン学部3年次編入学試験	7月20日
大学院デザイン研究科博士前期課程推薦選抜入学試験	7月20日
前期定期試験期間	8月1日～8月9日
夏季休業	8月10日～9月4日
看護学部3年次編入学試験	9月7日
助産学専攻科入学試験	9月7日
第2回オープンキャンパス	9月21日
後期ガイダンス	9月27日
大学院デザイン研究科博士前期課程一般・特別選抜入学試験	9月28日
大学院看護学研究科博士前期課程一般・特別選抜入学試験	9月28日
前期終了	9月30日
後期授業開始	9月30日
後期履修登録期間	9月30日～10月10日
後期開始	10月1日
大学祭	10月12日・13日
デザイン・看護学部特別選抜入学試験（推薦入学・社会人）	11月23日
冬季休業	12月21日～1月5日
後期定期試験期間	2月6日～18日
大学院看護学研究科博士前期課程一般・特別選抜入学試験（2次募集）	2月8日
大学院看護学研究科博士後期課程入学試験	2月8日
デザイン・看護学部一般選抜入学試験（前期日程）	2月25日
デザイン学部特別選抜入学試験（私費外国人留学生）	2月25日
大学院デザイン研究科博士前期課程一般・特別選抜入学試験（2次募集）	3月1日
大学院デザイン研究科博士後期課程入学試験	3月1日
春季休業	3月5日～31日
デザイン学部一般選抜入学試験（後期日程）	3月12日
卒業式・修了式	3月19日
後期終了	3月31日



II 教育活動

1 教育活動概要

デザイン学部・看護学部共通の「共通教育科目」は、両学部に通ずる「人間重視」の考え方を基本に、両学部の学生と一緒に学習することにより、学部間の交流を深め、異なる分野を志す学生が互いの発想に触れ、広い視野を持つことができるよう体系化した。また、「共通教育科目」は、①大学における心構えや履修方法、あるいは基本的な学習の進め方や研究方法を学ぶ「導入科目」、②文化や人間、社会に対する理解を目的とする「教養科目」、③語学などのコミュニケーション・ツールの習得を目的とする「コミュニケーション科目」の3つの区分で構成した。

デザイン学部の「専門教育科目」は、デザインの基礎的な理論や技術から、より専門性の高い知識や技術、実践的・発展的な知識やデザインの方法までを体系的に理解できるよう、①「基本科目」、②「展開科目」、③「発展科目」の3つの科目群で構成した。また、学芸員の資格を取得するために必要となる科目を「自由科目」という区分で開講した。その他、専門教育科目を履修する上で必要となる技術や知識を補完する目的で「デザインエンジニアという仕事」、「生活を創るグラフィックス」といった特別講義を実施した。

デザイン研究科博士前期課程の授業科目は、幅広い視野を身につけ、デザインと看護に共通する関連領域の基礎的素養を涵養するため、看護学研究科と合同で行う「研究科連携科目」とデザイン分野における高度専門職業人及び研究者・教育者に必要な専門知識・技術、研究方法を修得するための「専門教育科目」の2つに区分し、「専門教育科目」はさらに「基本科目」、「展開科目」、「実践科目」及び「修了研究」の4つの科目群で構成し、学生がデザインの高度かつ専門的な知識・技術を学ぶことができるよう体系化した。

デザイン研究科博士後期課程では、「基本科目」、「展開科目」、「研究指導科目」の3つの科目区分を設け、体系的なコースワークによる教育課程を編成し、研究指導を体系的・組織的に展開する教育・研究環境を整備した。それにより、専門分野に関する高度な専門知識及び能力を修得させるとともに、関連する分野の教育を行う。

2 共通教育・連携教育

1) 教育活動

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
スタートアップ演習	演習・60時間	1年次前期	◎原 俊彦 石井 雅博 武邑 光裕 武田 亘明 張 浦華 町田 佳世子 上田 裕文 杉本 達應 松井 美穂 金子 晋也 河原田 まり子 坂倉 恵美子 川村 三希子 藤井 瑞恵 三上 智子 山本 真由美 多賀 昌江 田仲 里江 坂東 奈穂美 檜山 明子
哲学と倫理	講義・30時間	1年次前期	★中島 孝一
体のしくみ	講義・30時間	1年次前期	小宮 加容子
人間関係を考える	講義・30時間	1年次前期	★椿 武愛子
自然科学を学ぶ	講義・30時間	1年次前期	★小野田 波里
札幌を学ぶ	講義・30時間	1年次前期	原 俊彦
英語 I A	演習・30時間	1年次前期	町田 佳世子 松井 美穂 ★大野 拓恵 ★佐川 萌東子 ★清水 香
英語 I B	演習・30時間	1年次前期	★白土 淳子 ★向井 千和子
英語 I C	演習・30時間	1年次前期	★アイツバマイ モクター ★山田 パトリシア
日本語表現法	演習・30時間	1年次前期	★斎木 正直 ★安永 立子
基礎カウンセリング	演習・30時間	1年次前期	★小坂 守孝
情報リテラシー I (デザイン学部)	演習・30時間	1年次前期	★児玉 潤二郎
情報リテラシー I (看護学部)	演習・30時間	1年次前期	★川畑 智子
情報リテラシー II (デザイン学部)	演習・30時間	1年次前期	大淵 一博
情報リテラシー II (看護学部)	演習・30時間	1年次後期	★川島 千明
宗教と思想	講義・30時間	1年次後期	★堀 雅彦
芸術と文化	講義・30時間	1年次後期	★望月 由美子
心のしくみ	講義・30時間	1年次後期	★山崎 圭子
動物の暮らし	講義・30時間	1年次後期	★桑原 禎知
現代社会と家族	講義・30時間	1年次後期	原 俊彦
現代社会と経済	講義・30時間	1年次後期	★近藤 公彦
統計の世界	講義・30時間	1年次後期	原 俊彦
英語 II A	演習・30時間	1年次後期	町田 佳世子 ★大野 拓恵 ★佐川 萌東子 ★清水 香
英語 II B	演習・30時間	1年次後期	松井 美穂 ★白土 淳子 ★三ツ木 真実
英語 II C	演習・30時間	1年次後期	★アイツバマイ モクター ★山田 パトリシア



授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
プレゼンテーション	演習・30時間	1年次後期	◎武田 亘明 柿山 浩一郎
対人コミュニケーション	演習・30時間	1年次後期	町田 佳世子
手話	演習・30時間	1年次後期	★高橋 淨
環境を考える	講義・30時間	2年次前期	矢部 和夫
生活と文化	講義・30時間	2年次前期	★幅崎 麻紀子
ジェンダーと文化 (平成23年度(編入学生は平成25年度)以前入学生は「ジェンダーを考える」)	講義・30時間	2年次前期	松井 美穂
健康とスポーツ(デザイン学部)	講義・30時間	2年次前期	★出町 道代
現代社会と国際関係	講義・30時間	2年次前期	★青木 隆直
ボランティア活動を考える	講義・30時間	2年次前期	★小沼 春日
中国語(デザイン学部)	演習・30時間	2年次前期	★照井 はるみ
ロシア語(デザイン学部)	演習・30時間	2年次前期	★ジダーノフ ウラジーミル
グループ・ダイナミクス	演習・30時間	2年次前期	★山口 司
実践英語A(デザイン学部)	演習・30時間	2年次 前期・後期	町田 佳世子 松井 美穂
実践英語B	演習・30時間	2年次前期	★アイツバマイ モクター ★山田 パトリシア
実践英語A(看護学部)	演習・30時間	2年次前期	町田 佳世子 松井 美穂
健康とスポーツ(看護学部)	講義・30時間	2年次後期	★出町 道代
中国語(看護学部)	演習・30時間	2年次後期	★照井 はるみ
ロシア語(看護学部)	演習・30時間	2年次後期	★ジダーノフ ウラジーミル
教育を考える(デザイン学部)	講義・30時間	2年次後期	★竹中 健
教育を考える(看護学部)	講義・30時間	2年次後期	★光本 滋
日本国憲法を学ぶ	講義・30時間	2年次後期	★岡田 信弘
韓国語	演習・30時間	2年次後期	★松田 由紀

◎印：科目責任者(オムニバス形式などの場合)

★印：非常勤講師



3 デザイン学部

1) 平成25年度時間割

① 1年前期

		月	火	水	木	金	
1	9:00 } 10:30	情報リテラシーⅡ	デザイン原論	情報リテラシーⅠ	体のしくみ	人間関係を考える	
2	10:40 } 12:10	情報リテラシーⅡ	色彩設計論	情報リテラシーⅠ	英語ⅠA 英語ⅠB 日本語表現法	哲学と倫理	
3	13:10 } 14:40	デザイン史	造形基礎 実習Ⅰ	表現基礎 実習 ※2010年 度以降入 学生	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC 日本語表現法	英語ⅠA 英語ⅠB 日本語表現法	札幌を学ぶ
4	14:50 } 16:20	造形基礎 実習Ⅰ			表現基礎 実習 ※2010年 度以降入 学生	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC 日本語表現法	スタートアップ演習
5	16:30 } 18:00		リメディアル	自然科学を学ぶ		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC 基礎カウンセリング	

② 1年後期

		月	火	水	木	金		
1	9:00 } 10:30	デザイン方法論	プログラミングⅠ	芸術と文化	工学基礎 ※2010年度以降入学生	手話		
2	10:40 } 12:10	感性科学	プログラミングⅠ	宗教と思想 動物の暮らし	現代社会と家族	手話		
3	13:10 } 14:40	コンピュータ 基礎実習Ⅰ	造形基礎 実習Ⅱ	コンピュータ 基礎実習Ⅰ	造形基礎 実習Ⅱ	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC プレゼンテーション	英語ⅡA 英語ⅡB プレゼンテーション	現代社会と経済
4	14:50 } 16:20					英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC	英語ⅡA 英語ⅡB	英語ⅡA 英語ⅡC 対人コミュニケーション
5	16:30 } 18:00			心のしくみ	統計の世界	英語ⅡA 英語ⅡC 対人コミュニケーション		



③ 2年前期

		月	火	水	木	金	
1	9:00 } 10:30	デザイン材料加工実習 I	コンピュータ基礎実習Ⅱ A (3D)	現代社会と国際関係	感性デザイン論	創造産業論	デザイン解析論
				生活と文化			
2	10:40 } 12:10		ロシア語	デザイン法規	設計製図基礎	健康とスポーツ	
			実践英語 A			実践英語 B	
3	13:10 } 14:40	プログラミングⅡ	ロシア語	認知科学	デザイン材料加工実習 I	コンピュータ基礎実習Ⅱ A (3D)	実践英語 B
			実践英語 A				
4	14:50 } 16:20	ヒューマンファクターズ入門	環境を考える	中国語			ユニバーサルデザイン論
			ジェンダーと文化 (ジェンダーを考える) *				
5	16:30 } 18:00	近現代建築史	グループ・ダイナミクス	中国語	現代芸術論		
			ボランティア活動を考える				

※ () 内の科目名は、平成23年度 (編入学生は平成25年度) 以前入学生用の科目名

④ 2年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 } 10:30	エコロジーデザイン論		コンピュータグラフィクス	コンピュータ基礎実習Ⅱ C (CAD)	コンピュータ基礎実習Ⅱ B (ムービー)
		情報社会論				
2	10:40 } 12:10	製品デザイン論	韓国語	日本国憲法を学ぶ	ヒューマンファクターズ	
		コンテンツデザイン論				
		メディアデザイン論				
3	13:10 } 14:40	デザイン材料加工実習Ⅱ	メディアビジネス	コンピュータ基礎実習Ⅱ B (ムービー)	広告デザイン	ダイナミックオブジェクトデザイン
					製品造形論	空間デザイン史
					空間デザイン論	広告デザイン
4	14:50 } 16:20		家具・インテリアデザイン			
5	16:30 } 18:00	キャリアガイダンス	実践英語A	教育を考える	デザイン総合実習 I	デザイン材料加工実習Ⅱ



⑤ 3年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 } 10:30	博物館実習			一般構造	物語デザイン論
			環境計画論			
			インタラクティブデザイン			
2	10:40 } 12:10	博物館実習	アニメーション I	メディア文化史	都市計画論	マルチメディアコンテンツデザイン
					製品計画論	
3	13:10 } 14:40	博物館資料論	プロトタイプシミュレーション I	博物館資料論	建築計画論	景観デザイン論
			出版メディアデザイン		感性情報学	ブランド構築
					コンテンツ制作システム論	
4	14:50 } 16:20	博物館経営論	学外実習A インターンシップ		知的財産権論	デザイン総合実習 II
			学外実習B フィールドスタディ			
5	16:30 } 18:00	博物館情報論	キャリアガイダンス	博物館経営論		

⑥ 3年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 } 10:30	寒冷地デザイン論	バーチャルリアリティ		構造・材料実験	
					インターネットメディアデザイン	
2	10:40 } 12:10	観光とデザイン	空間デザイン法規		構造・材料実験	構造力学
			製品デザイン史			
			アニメーション II		アートマネジメント論	デジタル映像コンテンツデザイン
			デジタルアーカイブ			
3	13:10 } 14:40	デジタル映像史		建築講法	建築生産	プロトタイプシミュレーション II
					メカトロニクス	メディア芸術論
4	14:50 } 16:20	地場産業振興論	学部連携演習		感性インタラクション	デザイン総合実習 III

⑦ 4年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 } 10:30		デジタル音響デザイン			
2	10:40 } 12:10		放送メディアデザイン	ネットワークシステムデザイン	コンテンツ流通技術	構造力学Ⅱ
			建築設備計画			ヒューマンケア機器デザイン
3	13:10 } 14:40		住宅論	デザイン英語	デザインマネジメント	ロボティクス
4	14:50 } 16:20		起業論			
5	16:30 } 18:00		キャリアガイダンス			

⑧ 4年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 } 10:30					
2	10:40 } 12:10					
3	13:10 } 14:40					
4	14:50 } 16:20					
5	16:30 } 18:00	キャリアガイダンス				

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

平成18～20年度（編入学生は平成20～22年度）入学生用

区分	授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件 単位				
			必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次						
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
共通教育科目	導入科目	スタートアップ演習	2			○											2単位	
	文化に対する理解	哲学と倫理	講義	2			○											4単位以上
		宗教と思想	講義	2				○										
		芸術と文化	講義	2				○										
		環境を考える	講義	2					○									
		教育を考える	講義	2						○								
	人間に対する理解	生活と文化	講義		2				○									4単位以上
		心のしくみ	講義	2				○										
		体のしくみ	講義	2				○										
		ジェンダーを考える	講義	2					○									
		人間関係を考える	講義	2				○										
	社会に対する理解	健康とスポーツ	講義	2						○								6単位以上
		自然科学を学ぶ	講義		2		○											
		動物のくらし	講義		2		○											
		現代社会と家族	講義	2			○											
		現代社会と国際関係	講義	2					○									
	外国語	現代社会と経済	講義	2				○										8単位以上
		礼儀を学ぶ	講義	2				○										
		ボランティア活動を考える	講義	2						○								
		統計の世界	講義	2						○								
		日本国憲法を学ぶ	講義		2						○							
英語 I A		演習	1				○											
英語 I B		演習	1				○											
英語 I C		演習	1				○											
英語 II A		演習	1					○										
英語 II B		演習	1					○										
英語 II C	演習	1					○											
コミュニケーション・情報技術	実践英語A	演習		1					○	○							4単位以上	
	実践英語B	演習		1					○	○								
	韓国語	演習	1							○								
	中国語	演習	1							○								
	ロシア語	演習	1							○								
	日本語表現法	演習	1				○											
	プレゼンテーション	演習	1					○										
	基礎カウンセリング	演習	1				○											
	対人コミュニケーション	演習	1				○											
	グループ・ダイナミクス	演習	1							○								
専門教育科目	手話	演習		1					○								さらに基本科目から10単位以上	
	情報リテラシー I	演習	1				○											
	情報リテラシー II	演習	1				○											
	デザイン基礎	デザイン原論	講義	2				○										
		デザイン史	講義	2				○										
		デザイン方法論	講義	2					○									
		色彩設計論	講義	2				○										
		感性科学	講義	2					○									
		感性デザイン論	講義	2							○							
		ユニバーサルデザイン論	講義	2							○							
		創造産業論	講義	2							○							
		現代芸術論	講義		2							○						
		デザイン解析論	講義	2							○							
		ヒューマンファクターズ入門	講義	2							○							
		認知科学	講義	2								○						
		デザイン法規	講義	2							○							
	エコロジーデザイン論	講義	2								○							
	情報社会論	講義	2								○							
	造形基礎	造形基礎実習 I	実習	2				○										6単位以上
		造形基礎実習 II	実習	2					○									10単位以上
		デザイン材料加工実習 I	実習	2						○								
デザイン材料加工実習 II		実習		2						○								
情報基礎	コンピュータ基礎実習 I	実習	2					○										
	コンピュータ基礎実習 II A (3D)	実習	2						○									
	コンピュータ基礎実習 II B (ムービー)	実習	2							○								
	コンピュータ基礎実習 II C (CAD)	実習	2								○							
	プログラミング I	演習	2					○										
プログラミング II	演習	2						○										



区分	授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件単位		
			必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
展開科目 専門教育科目	空間デザイン論	講義		2						○						展開科目から一つの系の全科目を含め34単位以上を修得
	空間デザイン史	講義		2					○							
	景観デザイン論	講義		2							○					
	都市計画論	講義		2							○					
	空間デザイン法規	講義		2								○				
	構造力学	講義+演習		2								○				
	建築構法	講義+演習		2								○				
	構造・材料実験	実習		2								○				
	建築設備計画	講義+演習		2									○			
	建築計画論	講義		2							○					
	環境計画論	講義		2							○					
	家具・インテリアデザイン	講義+演習		2							○					
	住宅論	講義		2									○			
	製品デザイン論	講義		2						○						
	製品デザイン史	講義		2								○				
	製品造形論	講義		2							○					
	製品計画論	講義		2								○				
	感性情報学	講義		2							○					
	ヒューマンファクターズ	講義+演習		2							○					
	インタラクションデザイン	講義+演習		2							○					
	マクロニクス	講義+演習		2								○				
	ロボティクス	講義+演習		2									○			
	感性インタラクションデザイン	演習		2									○			
	プロトタイプシミュレーションⅠ	演習		2								○				
	プロトタイプシミュレーションⅡ	演習		2								○				
	ヒューマンケア機器デザイン	演習		2									○			
	コンテンツデザイン論	講義		2							○					
	デジタル映像史	講義		2								○				
	コンテンツ制作システム論	講義		2								○				
	物語デザイン論	講義		2								○				
	バーチャルリアリティ	講義		2								○				
	コンピュータグラフィクス	講義+演習		2								○				
	アニメーションⅠ	講義+演習		2								○				
	アニメーションⅡ	講義+演習		2								○				
	デジタル音響デザイン	講義+演習		2									○			
	ダイナミックオブジェクトデザイン	演習		2									○			
	マルチメディアコンテンツデザイン	演習		2									○			
	デジタル映像コンテンツデザイン	演習		2									○			
	ネットワークシステムデザイン	演習		2										○		
	メディアデザイン論	講義		2								○				
	メディア文化史	講義		2								○				
	知的財産権論	講義		2								○				
メディア芸術論	講義		2									○				
アートマネジメント論	講義		2									○				
広告デザイン	講義+演習		2								○					
ブランド構築	講義+演習		2								○					
デジタルアーカイブ	講義+演習		2									○				
コンテンツ流通技術	講義+演習		2										○			
メディアビジネス	演習		2								○					
出版メディアデザイン	演習		2								○					
インターネットメディアデザイン	演習		2									○				
放送メディアデザイン	演習		2										○			
寒冷地デザイン論	講義		2									○				
観光とデザイン	演習		2									○				
地場産業振興論	講義		2									○				
デザインマネジメント	演習		2										○			
起業論	講義		2										○			
デザイン英語	演習		2										○			
学外実習A(インターンシップ)	実習		2											◎		
学外実習B(フィールドスタディ)	実習		2											◎		
学部連携	演習		2										○		2単位	
デザイン総合実習Ⅰ	実習		2								○				6単位	
デザイン総合実習Ⅱ	実習		2									○			6単位	
デザイン総合実習Ⅲ	実習		2									○			6単位	
卒業研究	演習		6										○	○	6単位	
自由科目 ※この他に共通教育科目の1単位修得が必要	生涯学習概論	講義			1						○				11単位	
	博物館概論	講義			2						○					
	博物館経営論	講義			1							○				
	博物館資料論	講義			2							○				
	博物館情報論	講義			1								○			
	博物館実習	実習			3								◎			
視覚教育メディア論	講義			1							○					

注1) ◎は集中開講 注2) 展開科目(単位数の網掛け部分): 所属コース内の各科目は卒業要件単位となるため、すべて履修する必要があります。

平成21年度（編入学生は平成23年度）入学生用

区分	授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件 単位数				
			必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次						
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
共通教育科目	導入科目	スタートアップ演習	2			○											2単位	
	文化に対する理解	哲学と倫理	講義	2			○											4単位以上
		宗教と思想	講義	2				○										
		芸術と文化	講義	2				○										
		環境を考える	講義	2					○									
		教育を考える	講義	2						○								
		生活と文化	講義			2				○								
	人間に対する理解	心のしくみ	講義	2				○										4単位以上
		体のしくみ	講義	2				○										
		ジェンダーを考える	講義	2						○								
		人間関係を考える	講義	2				○										
		健康とスポーツ	講義	2						○								
		自然科学を学ぶ	講義			2		○										
	社会に対する理解	動物のくらし	講義			2		○										6単位以上
		現代社会と家族	講義	2				○										
		現代社会と国際関係	講義	2						○								
		現代社会と経済	講義	2					○									
		札幌を学ぶ	講義	2				○										
		ボランティア活動を考える	講義	2		2				○								
	外国語	統計の世界	講義	2					○									8単位以上
		日本国憲法を学ぶ	講義			2					○							
		英語 I A	演習	1				○										
		英語 I B	演習	1				○										
		英語 I C	演習	1				○										
		英語 II A	演習	1					○									
		英語 II B	演習	1					○									
英語 II C		演習	1					○										
実践英語A		演習		1					○	○								
実践英語B		演習		1						○								
韓国語		演習		1							○							
中国語		演習		1							○							
ロシア語		演習		1							○							
コミュニケーション・情報技術		日本語表現法	演習		1			○										
	プレゼンテーション	演習	1				○											
	基礎カウンセリング	演習		1				○										
	対人コミュニケーション	演習		1					○									
	グループ・ダイナミクス	演習		1						○								
	手話	演習		1							○							
専門教育科目	デザイン基礎	情報リテラシー I	演習	1			○										16単位以上 さらに基本科目から10単位以上	
		情報リテラシー II	演習	1				○										
		デザイン原論	講義	2				○										
		デザイン史	講義	2				○										
		デザイン方法論	講義	2					○									
		色彩設計論	講義	2				○										
		感性科学	講義	2					○									
		感性デザイン論	講義	2						○								
		ユニバーサルデザイン論	講義	2							○							
		創造産業論	講義	2								○						
		現代芸術論	講義	2									○					
		デザイン解析論	講義	2										○				
		ヒューマンファクターズ入門	講義	2											○			
		近現代建築史	講義	2												○		
	設計製図基礎	演習	2												○			
	認知科学	講義	2												○			
	デザイン法規	講義	2												○			
	エコロジーデザイン論	講義	2												○			
	情報社会論	講義	2												○			
	造形基礎	造形基礎実習 I	実習	2				○										6単位以上
		造形基礎実習 II	実習	2					○									
		デザイン材料加工実習 I	実習	2						○								
		デザイン材料加工実習 II	実習	2	2						○							
	情報基礎	コンピュータ基礎実習 I	実習	2					○									8単位以上
		コンピュータ基礎実習 II A (3D)	実習	2						○								
		コンピュータ基礎実習 II B (ムービー)	実習	2							○							
		コンピュータ基礎実習 II C (CAD)	実習	2								○						
		プログラミング I	演習	2					○									
		プログラミング II	演習	2						○								



区分	授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件単位			
			必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次					
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
空間デザイン系	空間デザイン論	講義		2					○								
	空間デザイン史	講義		2				○									
	景観デザイン論	講義		2						○							
	都市計画論	講義		2						○							
	空間デザイン法規	講義		2								○					
	構造力学	講義+演習		2								○					
	建築構法	講義+演習		2								○					
	構造・材料実験	実習		2								○					
	建築設備計画	講義+演習		2										○			
	建築計画論	講義		2						○							
製品デザイン系	環境計画論	講義		2						○							
	家具・インテリアデザイン	講義+演習		2					○								
	住宅論	講義		2										○			
	製品デザイン論	講義		2					○								
	製品デザイン史	講義		2								○					
	製品造形論	講義		2					○								
	製品計画論	講義		2						○							
	感性情報学	講義		2						○							
	ヒューマンファクターズ	講義+演習		2					○								
	インタラクションデザイン	講義+演習		2						○							
コンテンツデザイン系	メカトロニクス	講義+演習		2								○					
	ロボティクス	講義+演習		2									○				
	感性インタラクションデザイン	演習		2								○					
	プロトタイプシミュレーションⅠ	演習		2							○						
	プロトタイプシミュレーションⅡ	演習		2								○					
	ヒューマンケア機器デザイン	演習		2									○				
	コンテンツデザイン論	講義		2						○							
	デジタル映像史	講義		2								○					
	コンテンツ制作システム論	講義		2								○					
	物語デザイン論	講義		2								○					
メディアデザイン系	バーチャルリアリティ	講義		2								○					
	コンピュータグラフィクス	講義+演習		2						○							
	アニメーションⅠ	講義+演習		2						○							
	アニメーションⅡ	講義+演習		2							○						
	デジタル音響デザイン	講義+演習		2									○				
	ダイナミックオブジェクトデザイン	演習		2						○							
	マルチメディアコンテンツデザイン	演習		2								○					
	デジタル映像コンテンツデザイン	演習		2									○				
	ネットワークシステムデザイン	演習		2										○			
	メディアデザイン論	講義		2						○							
デザイン応用	メディア文化史	講義		2							○						
	知的財産権論	講義		2							○						
	メディア芸術論	講義		2								○					
	アートマネジメント	講義		2								○					
	広告デザイン	講義+演習		2						○							
	ブランド構築	講義+演習		2							○						
	デジタルアーカイブ	講義+演習		2								○					
	コンテンツ流通技術	講義+演習		2									○				
	メディアビジネス	演習		2						○							
	出版メディアデザイン	演習		2							○						
デザイン応用	インターネットメディアデザイン	演習		2								○					
	放送メディアデザイン	演習		2									○				
	一般構造	講義+演習		2								○					
	寒冷地デザイン論	講義		2									○				
	観光とデザイン	演習		2									○				
	地場産業振興論	講義		2									○				
	建築生産	講義+演習		2									○				
	デザインマネジメント	演習		2										○			
	起業論	講義		2										○			
	デザイン英語	演習		2										○			
学部連携	構造力学Ⅱ	講義+演習		2									○				
	学外実習A(インターンシップ)	実習		2										◎			
	学外実習B(フィールドスタディ)	実習		2										◎			
	学部連携演習	演習	2										○				
デザイン総合実習	デザイン総合実習Ⅰ	実習	2									○					
	デザイン総合実習Ⅱ	実習	2									○					
	デザイン総合実習Ⅲ	実習	2										○				
卒業研究	演習	6											○	○			
学芸員課程 関連科目 ※この他に共通 教育科目の「教 育を考える」の単 位修得が必要	生涯学習概論	講義			1						○						
	博物館概論	講義			2						○						
	博物館経営論	講義			1							○					
	博物館資料論	講義			2							○					
	博物館情報論	講義			1							○					
	博物館実習	実習			3							◎					
視聴覚教育メディア論	講義			1							○						

展開科目から一つの系の全科目を含め34単位以上を修得

8単位以上

2単位

6単位

6単位

11単位

注1) ◎は集中開講 注2) 展開科目(単位数の網掛け部分): 所属コース系内の各科目は卒業要件単位となるため、すべて履修する必要があります。



平成22～23年度（編入学生は平成24～25年度）入学生用

区分	授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件 単位数			
			必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次					
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
共通教育科目	導入科目	スタートアップ演習	2			○										2単位	
	文化に対する理解	哲学と倫理	講義	2			○										4単位以上
		宗教と思想	講義	2				○									
		芸術と文化	講義	2				○									
		環境を考える	講義	2					○								
		教育を考える	講義	2						○							
	人間に対する理解	生活と文化	講義		2				○								4単位以上
		心のしくみ	講義	2				○									
		体のしくみ	講義	2				○									
		ジェンダーを考える	講義	2						○							
人間関係を考える		講義	2				○										
社会に対する理解	健康とスポーツ	講義	2					○								6単位以上	
	自然科学を学ぶ	講義		2			○										
	動物のくらし	講義		2				○									
	現代社会と家族	講義	2				○										
	現代社会と国際関係	講義	2						○								
外国語	現代社会と経済	講義	2				○									8単位以上	
	札幌を学ぶ	講義	2				○										
	ボランティア活動を考える	講義	2						○								
	統計の世界	講義	2					○									
	日本国憲法を学ぶ	講義		2						○							
	英語 I A	演習	1				○										
	英語 I B	演習	1				○										
	英語 I C	演習	1				○										
	英語 II A	演習	1					○									
	英語 II B	演習	1					○									
英語 II C	演習	1					○										
コミュニケーション・情報技術	実践英語A	演習		1					○	○							
	実践英語B	演習		1					○								
	韓国語	演習		1					○	○							
	中国語	演習		1					○								
	ロシア語	演習		1					○								
	日本語表現法	演習		1			○										
	プレゼンテーション	演習	1					○									
	基礎カウンセリング	演習		1			○										
	対人コミュニケーション	演習		1				○									
	グループ・ダイナミクス	演習		1					○								
専門教育科目	デザイン基礎	手話	演習		1			○								4単位以上	
		情報リテラシー I	演習	1			○										
		情報リテラシー II	演習	1			○										
		デザイン原論	講義	2				○									
		デザイン史	講義	2				○									
		デザイン方法論	講義	2					○								
		色彩設計論	講義	2				○									
		感性科学	講義	2					○								
		工学基礎	講義		2				○								
		感性デザイン論	講義	2						○							
	ユニバーサルデザイン論	講義	2						○								
	創造産業論	講義	2						○								
	現代芸術論	講義		2					○								
	デザイン解析論	講義		2					○								
	ヒューマンファクターズ入門	講義		2					○								
	近現代建築史	講義		2					○								
	設計製図基礎	演習		2					○								
	認知科学	講義		2					○								
	デザイン法規	講義		2					○								
	エコロジーデザイン論	講義		2						○							
情報社会論	講義		2						○								
造形基礎	造形基礎実習 I	実習	2				○								6単位以上		
	表現基礎実習	実習	2				○										
	造形基礎実習 II	実習	2					○									
	デザイン材料加工実習 I	実習		2					○								
情報基礎	デザイン材料加工実習 II	実習		2					○						8単位以上		
	コンピュータ基礎実習 I	実習	2					○									
	コンピュータ基礎実習 II A(3D)	実習		2					○								
	コンピュータ基礎実習 II B(ムービー)	実習		2						○							
	コンピュータ基礎実習 II C(CAD)	実習		2						○							
プログラミング I	演習	2					○										
プログラミング II	演習		2					○									

さらに基本科目から10単位以上



区分	授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件単位					
			必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次							
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
展開科目 専門教育科目	空間デザイン系	空間デザイン論	講義	2						○									展開科目から一つの系の全科目を含め34単位以上を修得
		空間デザイン史	講義	2						○									
		景観デザイン論	講義	2								○							
		都市計画論	講義	2									○						
		空間デザイン法規	講義	2										○					
		構造力学	講義+演習	2										○					
		建築構法	講義+演習	2										○					
		構造・材料実験	実習	2											○				
		建築設備計画	講義+演習	2												○			
		建築計画論	講義	2									○						
		環境計画論	講義	2									○						
	家具・インテリアデザイン	講義+演習	2									○							
	住宅論	講義	2													○			
	製品デザイン論	講義	2									○							
	製品デザイン史	講義	2										○						
	製品造形論	講義	2									○							
	製品計画論	講義	2										○						
	感性情報学	講義	2										○						
	ヒューマンファクターズ	講義+演習	2										○						
	インタラクションデザイン	講義+演習	2										○						
	メカトロニクス	講義+演習	2											○					
	ロボティクス	講義+演習	2												○				
	感性インタラクションデザイン	演習	2											○					
	プロトタイプシミュレーションⅠ	演習	2											○					
	プロトタイプシミュレーションⅡ	演習	2											○					
	ヒューマンケア機器デザイン	演習	2												○				
	コンテンツデザイン論	講義	2											○					
	デジタル映像史	講義	2												○				
	コンテンツ制作システム論	講義	2												○				
	物語デザイン論	講義	2												○				
	バーチャルリアリティ	講義	2													○			
	コンピュータグラフィクス	講義+演習	2													○			
	アニメーションⅠ	講義+演習	2												○				
	アニメーションⅡ	講義+演習	2													○			
	デジタル音響デザイン	講義+演習	2														○		
	ダイナミックオブジェクトデザイン	演習	2														○		
マルチメディアコンテンツデザイン	演習	2														○			
デジタル映像コンテンツデザイン	演習	2														○			
ネットワークシステムデザイン	演習	2														○			
メディアデザイン論	講義	2														○			
メディア文化史	講義	2														○			
知的財産権論	講義	2														○			
メディア芸術論	講義	2														○			
アートマネジメント論	講義	2														○			
広告デザイン	講義+演習	2														○			
ブランド構築	講義+演習	2														○			
デジタルアーカイブ	講義+演習	2														○			
コンテンツ流通技術	講義+演習	2														○			
メディアビジネス	演習	2														○			
出版メディアデザイン	演習	2														○			
インターネットメディアデザイン	演習	2														○			
放送メディアデザイン	演習	2														○			
発展科目	デザイン応用	一般構造	講義+演習	2														8単位以上	
		寒冷地デザイン論	講義	2															
		観光とデザイン	演習	2															
		地場産業振興論	講義	2															
		建築生産	講義+演習	2															
		デザインマネジメント	演習	2															
		起業論	講義	2															
		デザイン英語	演習	2															
		構造力学Ⅱ	講義+演習	2															
		学外実習A(インターンシップ)	実習	2															
		学外実習B(フィールドスタディ)	実習	2															
学部連携	学部連携演習	演習	2																
デザイン総合実習	デザイン総合実習Ⅰ	実習	2																
	デザイン総合実習Ⅱ	実習	2																
	デザイン総合実習Ⅲ	実習	2																
卒業研究	卒業研究	演習	6																
自由科目	学芸員課程 関連科目 ※この他に共通 教育科目の「教 育を考える」の単 位修得が必要	生涯学習概論	講義			1												11単位	
		博物館概論	講義			2													
		博物館経営論	講義			1													
		博物館資料論	講義			2													
		博物館情報論	講義			1													
		博物館実習	実習			3													
		視聴覚教育メディア論	講義			1													

注1) ◎は集中開講 注2) 展開科目(単位数の網掛け部分):所属コース内の各科目は卒業要件単位となるため、すべて履修する必要があります。

注3) 平成24年度の編入学生の学芸員課程関連科目は、平成24年度以降入学生用の授業科目一覧を参照。



平成24年度（編入学生は平成26年度）以降入学生用

区分	授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件 単位		
			必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
共通教育科目	導入科目	スタートアップ演習	演習	2		○										2単位
	文化に対する理解	哲学と倫理	講義	2		○										4単位以上
		宗教と思想	講義	2			○									
		芸術と文化	講義	2			○									
		教育を考える	講義	2				○								
		生活と文化	講義	2					○							
		ジェンダーと文化	講義	2					○							
	人間に対する理解	心のしくみ	講義	2				○								4単位以上
		体のしくみ	講義	2			○									
		人間関係を考える	講義	2			○									
		健康とスポーツ	講義	2					○							
		環境を考える	講義	2					○							
		自然科学を学ぶ	講義	2			○									
	社会に対する理解	動物のくらし	講義	2				○								6単位以上
		現代社会と家族	講義	2				○								
		現代社会と国際関係	講義	2					○							
		現代社会と経済	講義	2					○							
		札幌を学ぶ	講義	2			○									
		ボランティア活動を考える	講義	2					○							
	外国語	統計の世界	講義	2				○								8単位以上
		日本国憲法を学ぶ	講義	2						○						
		英語 I A	演習	1			○									
		英語 I B	演習	1			○									
		英語 I C	演習	1			○									
		英語 II A	演習	1				○								
		英語 II B	演習	1				○								
		英語 II C	演習	1				○								
		実践英語A	演習	1	1				○	○						
		実践英語B	演習	1	1					○						
		韓国語	演習	1	1						○					
		中国語	演習	1	1						○					
	コミュニケーション科目	ロシア語	演習	1	1						○					4単位以上
		日本語表現法	演習	1	1		○									
		プレゼンテーション	演習	1	1			○								
		基礎カウンセリング	演習	1	1		○									
		対人コミュニケーション	演習	1	1			○								
		グループ・ダイナミクス	演習	1	1				○							
		手話	演習	1	1				○							
		情報リテラシー I	演習	1	1		○									
		情報リテラシー II	演習	1	1		○									
		デザイン原論	講義	2			○									
	専門教育科目	基本科目	デザイン史	講義	2			○								さらに基本科目から10単位以上
			デザイン方法論	講義	2				○							
			色彩設計論	講義	2			○								
			感性科学	講義	2				○							
工学基礎			講義	2	2			○								
感性デザイン論			講義	2					○							
ユニバーサルデザイン論			講義	2					○							
創造産業論			講義	2					○							
現代芸術論			講義	2	2				○							
デザイン解析論			講義	2	2				○							
ヒューマンファクターズ入門			講義	2	2				○							
近現代建築史			講義	2	2				○							
設計製図基礎			演習	2	2				○							
認知科学			講義	2	2				○							
デザイン法規			講義	2	2				○							
エコロジーデザイン論			講義	2	2					○						
情報社会論			講義	2	2						○					
造形基礎			造形基礎実習 I	実習	2			○								
	表現基礎実習	実習	2			○										
	造形基礎実習 II	実習	2				○									
	デザイン材料加工実習 I	実習	2	2				○								
	デザイン材料加工実習 II	実習	2	2					○							
	コンピュータ基礎実習 I	実習	2	2					○							
情報基礎	コンピュータ基礎実習 II A(3D)	実習	2	2					○					8単位以上		
	コンピュータ基礎実習 II B(ムービー)	実習	2	2						○						
	コンピュータ基礎実習 II C(CAD)	実習	2	2							○					
	プログラミング I	演習	2	2			○									
	プログラミング II	演習	2	2				○								



区分	授業科目	授業形態	単位数			配当年次								卒業要件単位			
			必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次					
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
展開科目	空間デザイン系	空間デザイン論	講義	2						○							
		空間デザイン史	講義	2						○							
		景観デザイン論	講義	2								○					
		都市計画論	講義	2								○					
		空間デザイン法規	講義	2									○				
		構造力学	講義+演習	2										○			
		建築構法	講義+演習	2											○		
		構造・材料実験	実習	2												○	
		建築設備計画	講義+演習	2													○
		建築計画論	講義	2										○			
		環境計画論	講義	2											○		
		家具・インテリアデザイン	講義+演習	2													○
住宅論	講義	2													○		
展開科目	製品デザイン系	製品デザイン論	講義	2						○							
		製品デザイン史	講義	2												○	
		製品造形論	講義	2							○						
		製品計画論	講義	2										○			
		感性情報学	講義	2											○		
		ヒューマンファクターズ	講義+演習	2								○					
		インタラクションデザイン	講義+演習	2										○			
		メカトロニクス	講義+演習	2												○	
		ロボティクス	講義+演習	2													○
		感性インタラクションデザイン	演習	2													○
		プロトタイプシミュレーションⅠ	演習	2													○
		プロトタイプシミュレーションⅡ	演習	2													○
ヒューマンケア機器デザイン	演習	2													○		
展開科目	コンテンツデザイン系	コンテンツデザイン論	講義	2												○	
		デジタル映像史	講義	2												○	
		コンテンツ制作システム論	講義	2												○	
		物語デザイン論	講義	2												○	
		バーチャルリアリティ	講義	2												○	
		コンピュータグラフィクス	講義+演習	2												○	
		アニメーションⅠ	講義+演習	2												○	
		アニメーションⅡ	講義+演習	2												○	
		デジタル音響デザイン	講義+演習	2													○
		ダイナミックオブジェクトデザイン	演習	2													○
		マルチメディアコンテンツデザイン	演習	2													○
		デジタル映像コンテンツデザイン	演習	2													○
ネットワークシステムデザイン	演習	2													○		
展開科目	メディアデザイン系	メディアデザイン論	講義	2												○	
		メディア文化史	講義	2												○	
		知的財産権論	講義	2												○	
		メディア芸術論	講義	2												○	
		アートマネジメント論	講義	2												○	
		広告デザイン	講義+演習	2												○	
		ブランド構築	講義+演習	2												○	
		デジタルアーカイブ	講義+演習	2												○	
		コンテンツ流通技術	講義+演習	2												○	
		メディアビジネス	演習	2												○	
		出版メディアデザイン	演習	2												○	
		インターネットメディアデザイン	演習	2												○	
放送メディアデザイン	演習	2												○			
展開科目	デザイン応用	一般構造	講義+演習	2												○	
		寒冷地デザイン論	講義	2												○	
		観光とデザイン	演習	2												○	
		地場産業振興論	講義	2												○	
		建築生産	講義+演習	2												○	
		デザインマネジメント	演習	2												○	
		起業論	講義	2												○	
		デザイン英語	演習	2												○	
		構造力学Ⅱ	講義+演習	2												○	
		学外実習A(インターンシップ)	実習	2												◎	
		学外実習B(フィールドスタディ)	実習	2												◎	
		学部連携	学部連携演習	演習	2												◎
デザイン総合実習	デザイン総合実習Ⅰ	実習	2													◎	
	デザイン総合実習Ⅱ	実習	2													◎	
	デザイン総合実習Ⅲ	実習	2													◎	
卒業研究	卒業研究	演習	6													◎	
自由科目	学芸員課程 関連科目	生涯学習概論	講義			2											
		博物館概論	講義			2											
		博物館経営論	講義			2											
		博物館資料論	講義			2											
		博物館資料保存論	講義			2											
		博物館展示論	講義			2											
		博物館博物館情報・メディア論	講義			2											
		博物館教育論	講義			2											
		博物館実習	実習			3											

展開科目から一つの系の全科目を含め34単位以上を修得

8単位以上

2単位

6単位

6単位

11単位

注1) ◎は集中開講 注2) 展開科目(単位数の網掛け部分):所属コース内の各科目は卒業要件単位となるため、すべて履修する必要があります。



② 卒業要件

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	13	15	28
専門教育科目	40	56	96
(基本科目)	(26)	(14)	(40)
(展開科目)	(-)	(34)	(34)
(発展科目)	(14)	(8)	(22)
合計	53	71	124

3) 教育活動

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
デザイン原論	講義・30時間	1年次前期	◎吉田 恵介 原田 昭 武邑 光裕
デザイン史	講義・30時間	1年次前期	★今村 信隆
色彩設計論	講義・30時間	1年次前期	★中井 和子
造形基礎実習 I	実習・60時間	1年次前期	◎石崎 友紀 ★外崎 由香
表現基礎実習	実習・60時間	1年次前期	◎齋藤 利明 杉 哲夫 金子 晋也
デザイン方法論	講義・30時間	1年次後期	酒井 正幸
感性科学	講義・30時間	1年次後期	張 浦華
造形基礎実習 II	実習・60時間	1年次後期	◎上遠野 敏 上田 裕文 須之内 元洋
コンピュータ基礎実習 I	実習・60時間	1年次後期	◎吉田 和夫 ★児玉 潤二郎
プログラミング I	演習・30時間	1年次後期	大淵 一博
工学基礎	講義・30時間	1年次後期	◎齋藤 雅也 細谷 多聞 ★菊池 規雄 ★和田 義則
感性デザイン論	講義・30時間	2年次前期	張 浦華
ユニバーサルデザイン論	講義・30時間	2年次前期	酒井 正幸
創造産業論	講義・30時間	2年次前期	武邑 光裕
現代芸術論	講義・30時間	2年次前期	上遠野 敏
デザイン解析論	講義・30時間	2年次前期	中原 宏
ヒューマンファクターズ入門	講義・30時間	2年次前期	小宮 加容子
デザイン法規	講義・30時間	2年次前期	★津幡 笑
認知科学	講義・30時間	2年次前期	片山 めぐみ
デザイン材料加工実習 I	実習・60時間	2年次前期	◎上遠野 敏 石崎 友紀 齋藤 利明
コンピュータ基礎実習 II A (3D)	実習・60時間	2年次前期	細谷 多聞 ★増田 直也
プログラミング II	演習・30時間	2年次前期	石井 雅博



授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
近現代建築史	講義・30時間	2年次前期	◎羽深 久夫 山田 良 ★池上 重康 ★小澤 丈夫 ★武田 明純 ★中渡 憲彦
設計製図基礎	演習・30時間	2年次前期	山田 良
エコロジーデザイン論	講義・30時間	2年次後期	矢部 和夫
情報社会論	講義・30時間	2年次後期	武田 亘明
デザイン材料加工実習Ⅱ	実習・60時間	2年次後期	◎石崎 友紀 ★川上 理恵
コンピュータ基礎実習Ⅱ B (ムービー)	実習・60時間	2年次後期	望月 澄人 ★河原 大 ★松崎 祐哉
コンピュータ基礎実習Ⅱ C (CAD)	実習・60時間	2年次後期	◎城間 祥之 金子 晋也
空間デザイン論	講義・30時間	2年次後期	◎吉田 恵介 山田 良
空間デザイン史	講義・30時間	2年次後期	羽深 久夫
家具・インテリアデザイン	講義+演習・30時間	2年次後期	◎★中村 昇 片山 めぐみ ★澤口 将達
製品デザイン論	講義・30時間	2年次後期	◎長谷川 聡 杉 哲夫
製品造形論	講義・30時間	2年次後期	石崎 友紀
ヒューマンファクターズ	講義+演習・30時間	2年次後期	小宮 加容子
コンテンツデザイン論	講義・30時間	2年次後期	◎望月 澄人 城間 祥之 石井 雅博 齋藤 利明 細谷 多聞 大淵 一博 福田 大年
コンピュータグラフィクス	講義+演習・30時間	2年次後期	福田 大年
ダイナミックオブジェクトデザイン	演習・30時間	2年次後期	◎齋藤 利明 細谷 多聞
メディアデザイン論	講義・30時間	2年次後期	◎武邑 光裕 上遠野 敏 吉田 和夫 武田 亘明 石田 勝也 杉本 達應 須之内 元洋
広告デザイン	講義+演習・30時間	2年次後期	吉田 和夫
メディアビジネス	演習・30時間	2年次後期	杉本 達應
デザイン総合実習Ⅰ (空間デザインコース)	実習・60時間	2年次後期	◎片山 めぐみ 中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 吉田 恵介 齊藤 雅也 山田 良 上田 裕文 金子 晋也
デザイン総合実習Ⅰ (製品デザインコース)	実習・60時間	2年次後期	◎杉 哲夫 酒井 正幸 石崎 友紀 柿山 浩一郎 張 浦華 小宮 加容子 三谷 篤史 長谷川 聡
デザイン総合実習Ⅰ (コンテンツデザインコース)	実習・60時間	2年次後期	◎細谷 多聞 大淵 一博
デザイン総合実習Ⅰ (メディアデザインコース)	実習・60時間	2年次後期	◎吉田 和夫 上遠野 敏 武田 亘明 石田 勝也
景観デザイン論	講義・30時間	3年次前期	◎吉田 恵介 ★武田 雅哉 ★三宅 理一



授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
都市計画論	講義・30時間	3年次前期	中原 宏
建築計画論	講義・30時間	3年次前期	片山 めぐみ
環境計画論	講義・30時間	3年次前期	◎齊藤 雅也 矢部 和夫 吉田 恵介
製品計画論	講義・30時間	3年次前期	柿山 浩一郎
感性情報学	講義・30時間	3年次前期	張 浦華
インタラクティブデザイン	講義+演習・30時間	3年次前期	柿山 浩一郎
プロトタイプシミュレーションI	演習・30時間	3年次前期	三谷 篤史
コンテンツ制作システム論	講義・30時間	3年次前期	福田 大年
物語デザイン論	講義・30時間	3年次前期	望月 澄人
アニメーションI	講義+演習・30時間	3年次前期	望月 澄人
マルチメディアコンテンツデザイン	演習・30時間	3年次前期	細谷 多聞
メディア文化史	講義・30時間	3年次前期	武田 亘明
知的財産権論	講義・30時間	3年次前期	◎★安河内 正文 ★北尾 知道 ★野呂 洋子 ★濱口 英樹 ★武藤 伸樹 ★八代 峰樹 ★渡邊 泰師
ブランド構築	講義+演習・30時間	3年次前期	武邑 光裕
出版メディアデザイン	演習・30時間	3年次前期	◎吉田 和夫 杉本 達應
一般構造	講義+演習・30時間	3年次前期	羽深 久夫
学外実習 A (インターンシップ)	実習・60時間	3年次 前期(学外 での実習は 集中)	◎齊藤 雅也 石田 勝也 小宮 加容子 福田 大年
学外実習 B (フィールドスタディ)	実習・60時間	3年次 前期(学外 での実習は 集中)	◎大淵 一博 杉 哲夫 片山 めぐみ 須之内 元洋
デザイン総合実習Ⅱ (空間デザインコース)	実習・60時間	3年次前期	◎片山 めぐみ 中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 吉田 恵介 齊藤 雅也 上田 裕文 山田 良 金子 晋也
デザイン総合実習Ⅱ (製品デザインコース)	実習・60時間	3年次前期	◎張 浦華 酒井 正幸 石崎 友紀 杉 哲夫 柿山 浩一郎 小宮 加容子 三谷 篤史 長谷川 聡
デザイン総合実習Ⅱ (コンテンツデザインコース)	実習・60時間	3年次前期	◎城間 祥之 石井 雅博 齋藤 利明
デザイン総合実習Ⅱ (メディアデザインコース)	実習・60時間	3年次前期	◎吉田 和夫 上遠野 敏 須之内 元洋
空間デザイン法規	講義・30時間	3年次後期	★小林 宏

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
構造力学	講義+演習・30時間	3年次後期	★石丸 修二
建築構法	講義+演習・30時間	3年次後期	金子 晋也
構造・材料実験	実習・60時間	3年次後期	羽深 久夫
製品デザイン史	講義・30時間	3年次後期	杉 哲夫
メカトロニクス	講義+演習・30時間	3年次後期	三谷 篤史
感性インタラクショナルデザイン	演習・30時間	3年次後期	◎三谷 篤史 張 浦華
プロトタイプシミュレーションII	演習・30時間	3年次後期	柿山 浩一郎
デジタル映像史	講義・30時間	3年次後期	◎武邑 光裕 石田 勝也
バーチャルリアリティ	講義・30時間	3年次後期	石井 雅博
アニメーションII	講義+演習・30時間	3年次後期	福田 大年
デジタル映像コンテンツデザイン	演習・30時間	3年次後期	福田 大年
メディア芸術論	講義・30時間	3年次後期	◎武邑 光裕 須之内 元洋
アートマネジメント論	講義・30時間	3年次後期	上遠野 敏
デジタルアーカイブ	講義+演習・30時間	3年次後期	須之内 元洋
インターネットメディアデザイン	演習・30時間	3年次後期	須之内 元洋
寒冷地デザイン論	講義・30時間	3年次後期	◎齊藤 雅也 山田 良
観光とデザイン	演習・30時間	3年次後期	◎上田 裕文 ★小野 有五 ★今野 一彦 ★敷田 麻美 ★鈴木 宏一郎 ★廣瀬 岳史
地場産業振興論	講義・30時間	3年次後期	★内田 純一
建築生産	講義+演習・30時間	3年次後期	★中村 欣嗣
学部連携演習	演習・60時間	3年次後期	◎齋藤 利明 石崎 友紀 細谷 多聞 矢部 和夫 吉田 恵介 柿山 浩一郎 山田 良 石田 勝也 三谷 篤史 長谷川 聡 ◎猪股 千代子 定廣 和香子 大野 夏代 貝谷 敏子 菊地 ひろみ 清水 光子 守村 洋 太田 晴美 原井 美佳 工藤 京子
デザイン総合実習Ⅲ (空間デザインコース)	実習・60時間	3年次後期	◎山田 良 中原 宏 小西 敏正 羽深 久夫 矢部 和夫 吉田 恵介 齊藤 雅也 上田 裕文 片山 めぐみ 金子 晋也
デザイン総合実習Ⅲ (製品デザインコース)	実習・60時間	3年次後期	◎小宮 加容子 酒井 正幸 石崎 友紀 杉 哲夫 柿山 浩一郎 張 浦華 三谷 篤史 長谷川 聡
デザイン総合実習Ⅲ (コンテンツデザインコース)	実習・60時間	3年次後期	◎望月 澄人 福田 大年

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
デザイン総合実習Ⅲ (メディアデザインコース)	実習・60時間	3年次後期	◎上 遠野 敏 武邑 光裕 吉田 和夫 武田 亘明 石田 勝也 杉本 達應 須之内 元洋
建築設備計画	講義+演習・30時間	4年次前期	齊藤 雅也
住宅論	講義・30時間	4年次前期	山田 良
ロボティクス	講義+演習・30時間	4年次前期	三谷 篤史
ヒューマンケア機器デザイン	演習・30時間	4年次前期	◎小宮 加容子 杉 哲夫 張 浦華
デジタル音響デザイン	講義+演習・30時間	4年次前期	◎★久保 壽光 ★伊藤 博之
ネットワークシステムデザイン	演習・30時間	4年次前期	大淵 一博
コンテンツ流通技術	講義+演習・30時間	4年次前期	石田 勝也
放送メディアデザイン	演習・30時間	4年次前期	杉本 達應
デザインマネジメント	演習・30時間	4年次前期	杉 哲夫
起業論	講義・30時間	4年次前期	◎★佐々木 信 ★小林 元
デザイン英語	演習・30時間	4年次前期	松井 美穂
構造力学Ⅱ	講義+演習・30時間	4年次前期	★石丸 修二
卒業研究 (空間デザインコース)	演習・90時間	4年次全期	◎中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 吉田 恵介 齊藤 雅也 山田 良 上田 裕文 片山 めぐみ 金子 晋也
卒業研究 (製品デザインコース)	演習・90時間	4年次全期	◎石崎 友紀 酒井 正幸 杉 哲夫 柿山 浩一郎 張 浦華 小宮 加容子 三谷 篤史 長谷川 聡
卒業研究 (コンテンツデザインコース)	演習・90時間	4年次全期	◎望月 澄人 城間 祥之 石井 雅博 齋藤 利明 細谷 多聞 大淵 一博 福田 大年
卒業研究 (メディアデザインコース)	演習・90時間	4年次全期	◎吉田 和夫 上遠野 敏 武邑 光裕 武田 亘明 石田 勝也 杉本 達應 須之内 元洋
博物館経営論	講義・15時間	3年次前期	◎矢部 和夫 ★佐藤 幸宏 ★佐々木 亨 ★中山 雅茂
博物館資料論	講義・30時間	3年次前期	◎★古沢 仁 ★亀谷 隆 ★佐藤 幸宏
博物館情報論	講義・15時間	3年次前期	武邑 光裕
博物館実習	実習・90時間	3年次 前期(学外 での実習 は集中)	◎矢部 和夫 ★石井 淳 ★佐藤 幸宏 ★吉崎 元章

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

★印：非常勤講師



4 看護学部

1) 平成25年度時間割

① 1年前期

		月		火	水	木	金
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)				
1	9:00 } 10:30				情報リテラシー I	体のしくみ	人間関係を考える
2	10:40 } 12:10	薬理学		看護観察技術論	情報リテラシー I	英語 I A 英語 I B 日本語表現法	哲学と倫理
3	13:10 } 14:40	形態機能学 I			英語 I A 英語 I B 英語 I C 日本語表現法	英語 I A 英語 I B 日本語表現法	札幌を学ぶ
4	14:50 } 16:20	形態機能学 I		感染予防論	英語 I A 英語 I B 英語 I C 日本語表現法	スタートアップ演習	基礎カウンセリング 英語 I A 英語 I B 英語 I C
5	16:30 } 18:00	看護学原論	地域保健学 概論	人間発達援助論	自然科学を学ぶ		基礎カウンセリング 英語 I A 英語 I B 英語 I C

※集中講義：看護初期実習 6月3日（月）～6月7日（金）
 ※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合があります。

② 1年後期

		月		火		水	木	金
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)			
1	9:00 } 10:30	病理病態学		看護過程論		芸術と文化		情報リテラシー II 手話
2	10:40 } 12:10	病理病態学		看護理論		宗教と思想 動物のくらし	現代社会と家族	情報リテラシー II 手話
3	13:10 } 14:40	基礎看護技術論		形態機能学 II		英語 II A 英語 II B 英語 II C プレゼンテーション	英語 II A 英語 II B プレゼンテーション	現代社会と経済
4	14:50 } 16:20	基礎看護技術論		形態機能学 II		英語 II A 英語 II B 英語 II C	英語 II A 英語 II B	英語 II A 英語 II C 対人コミュニケーション
5	16:30 } 18:00					心のしくみ	統計の世界	英語 II A 英語 II C 対人コミュニケーション

※集中講義：基礎看護学臨地実習 I 10月15日（火）～10月18日（金）
 ※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合があります。



③ 2年前期

		月		火	水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)
1	9:00 } 10:30		人間工学	現代社会と国際関係 生活と文化	生命科学		家族社会学	老年看護学 概論	環境保健	
2	10:40 } 12:10	疾病治療学B		実践英語A 実践英語B	医療情報		疾病治療学概論	臨床栄養学		
3	13:10 } 14:40	精神看護学 概論	成人看護 援助論	実践英語A 実践英語B	生命倫理	社会福祉学	成人看護学概論	症状マネジメント論		
4	14:50 } 16:20		成人看護 援助論	環境を考える ジェンダーと文化	公衆衛生学	社会福祉学		症状マネジメント論		
5	16:30 } 18:00			グループ・ダイナミクス ボランティア活動を考える	公衆衛生学		疾病治療学A			

※集中講義：基礎看護学臨地実習Ⅱ 5月20日（月）～5月31日（金）

※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合があります。

④ 2年後期

		月		火	水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)
1	9:00 } 10:30		精神看護 援助論				臨床薬理学			
2	10:40 } 12:10	母性看護学 概論	精神看護 援助論	日本国憲法を学ぶ	疾病治療学C		小児看護学 概論	看護倫理学	臨床心理学	
3	13:10 } 14:40	感染管理論		中国語 ロシア語	健康とスポーツ		老年看護 援助論	がん看護学	援助的 人間関係論	在宅看護 援助論
4	14:50 } 16:20	在宅看護学 概論		中国語 ロシア語	韓国語		老年看護 援助論	がん看護学	援助的 人間関係論	在宅看護 援助論
5	16:30 } 18:00	教育を考える			公衆衛生 看護学 概論			チーム 医療論		

※集中講義：成人看護臨地実習Ⅰ 10月21日（月）～11月8日（金）

※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合があります。



⑤ 3年前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)
1	9:00 } 10:30	認知症ケア		小児看護 援助論		成人看護 技術論		保健医療 福祉行政論		保健統計	
2	10:40 } 12:10	認知症ケア		小児看護 援助論		成人看護 技術論		保健医療 福祉行政論		保健統計	
3	13:10 } 14:40	在宅看護 技術論		母性看護 援助論		地域看護学 概論		リハビリ テーショ ン看護学		精神看護 技術論	
4	14:50 } 16:20	在宅看護 技術論		母性看護 援助論				リハビリ テーショ ン看護学		精神看護 技術論	
5	16:30 } 18:00										

※集中講義：老年看護学臨地実習Ⅰ 5月13日（月）～5月17日（金）
 成人看護学臨地実習Ⅱ、精神看護学臨地実習、在宅看護学臨地実習 6月17日（月）～7月26日（金）
 ※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合があります。

⑥ 3年後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)
1	9:00 } 10:30	研究方法論		健康教育 指導法		看護教育学		地域看護 援助論		老年看護 技術論	
2	10:40 } 12:10	研究方法論		健康教育 指導法		透析ケア		地域看護 援助論		老年看護 技術論	
3	13:10 } 14:40	地域看護 援助論						小児看護 技術論		重症集中 ケア	
4	14:50 } 16:20	地域看護 援助論						小児看護 技術論		母性看護 技術論	
5	16:30 } 18:00	救急看護学		学部連携演習 ※一部集中で開講します。				放射線医療 管理論		母性看護 技術論	

※集中講義：母性看護学臨地実習、小児看護学臨地実習、老年看護学臨地実習Ⅱ 11月18日（月）～12月13日（金）、1月20日（月）～1月31日（金）
 母性看護学臨地実習の一部 12月16日（月）～12月20日（金）
 ※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合があります。



⑦ 4年前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)								
1	9:00 } 10:30	国際保健学		パリアティブケア		看護管理学				ヘルスプロモーション活動論	
2	10:40 } 12:10	現代専門職論		災害看護学		看護管理学				ヘルスプロモーション活動論	
3	13:10 } 14:40	地域看護技術論		医療経営学		看護情報学		卒業研究		医療安全管理論	
4	14:50 } 16:20	地域看護技術論		寒冷地医療				卒業研究		パリエイタルケア	
5	16:30 } 18:00			国際看護学							

※集中講義：地域看護学臨地実習ⅠⅡ 6月10日（月）～7月19日（金）
 ※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合があります。

⑧ 4年後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)								
1	9:00 } 10:30										
2	10:40 } 12:10										
3	13:10 } 14:40							卒業研究			
4	14:50 } 16:20							卒業研究			
5	16:30 } 18:00										

※集中講義：ヘルスケアマネジメント実習 9月24日（火）～10月11日（金）
 ※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合があります。



2) カリキュラム

① 授業科目一覧

平成21～23年度(編入学生は平成23～25年度)入学生用

区分	授業科目	シラバス掲載頁	授業形態	単位数			配当年次(◎は集中で開講)								卒業要件単位			
				必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次					
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
看護の基礎となるもの	ヒューマンケアの基本	看護学原論	276	講義	1			○										7単位
		看護理論	282	講義	1			○										
		援助の人間関係論	309	演習	1					○								
		人間発達援助論	277	演習	1			○										
		看護初期実習	278	実習	1			◎										
		看護倫理学	310	講義	1						○							
		健康教育指導法	334	演習	1								○					
	看護の基本的展開	看護過程論	283	演習	1			○										10単位
		看護観察技術論	279	演習	1			○										
		症状マネジメント論	298	演習	2					○								
		基礎看護技術論	284	演習	2			○										
		基礎看護学臨地実習Ⅰ	285	実習	1			◎										
		基礎看護学臨地実習Ⅱ	299	実習	2					◎								
		研究方法論	335	演習	1								○					
	小児	小児看護学概論	311	講義	1						○							5単位
		小児看護援助論	322	演習	1							○						
		小児看護技術論	336	演習	1								○					
		小児看護学臨地実習	337	実習	2								◎					
母性	母性看護学概論	312	講義	1						○							5単位	
	母性看護援助論	323	演習	1							○							
	母性看護技術論	338	演習	1								○						
	母性看護学臨地実習	339	実習	2								◎						
成人	成人看護学概論	300	講義	1					○								8単位	
	成人看護援助論	301	演習	1					○									
	成人看護技術論	324	演習	1							○							
	成人看護学臨地実習Ⅰ	313	実習	3						◎								
	成人看護学臨地実習Ⅱ	325	実習	2							◎							
老年	老年看護学概論	302	講義	1					○								6単位	
	老年看護援助論	314	演習	1						○								
	老年看護技術論	340	演習	1								○						
	老年看護学臨地実習Ⅰ	326	実習	1							◎							
	老年看護学臨地実習Ⅱ	341	実習	2								◎						
精神	精神看護学概論	303	講義	1					○								5単位	
	精神看護援助論	315	演習	1						○								
	精神看護技術論	327	演習	1							○							
	精神看護学臨地実習	328	実習	2							◎							
在宅	在宅看護学概論	316	講義	1						○							5単位	
	在宅看護援助論	317	演習	1						○								
	在宅看護技術論	329	演習	1								○						
	在宅看護学臨地実習	330	実習	2								◎						
健康問題への対応	リハビリテーション看護学	331	演習	1							○						5単位以上	
	がん看護学	318	演習	1						○								
	認知症ケア	332	演習	1							○							
	透析ケア	342	講義		1							○						
	重症集中ケア	343	講義		1							○						
	救急看護学	344	講義		1							○						
	放射線医療管理論	345	講義		1							○						
	ペリネイタルケア	353	講義		1								○					
	パリアティブケア	354	講義		1								○					
	寒冷地医療	355	講義		1								○					
コミュニティケアに関するもの	地域看護学概論	333	講義	1							○						9単位	
	地域看護援助論	346	演習	2								○						
	地域看護技術論	349	演習	1									○					
	ヘルスプロモーション活動論	350	演習	1										○				
	地域看護学臨地実習Ⅰ	351	実習	2										◎				
	地域看護学臨地実習Ⅱ	352	実習	2										◎				
	看護管理学	356	演習	1										○				
発展・統合に関するもの	看護教育学	347	講義	1									○				11単位以上	
	卒業研究	365	実習	4										○	○			
	ヘルスケアマネジメント実習	364	実習	3											◎			
	看護情報学	357	講義		1									○				
	災害看護学	358	講義		1									○				
	国際看護学	359	講義		1									○				
	国際保健学	360	講義		1									○				
	医療経営学	361	講義		1									○				
	医療安全管理論	362	講義		1									○				
	現代専門職論	363	講義		1									○				
学部連携	学部連携演習	348	演習	2									○			2単位		



区分	授業科目	シラバス掲載頁	授業形態	単位数		保健師 コース 必修	配当年次(◎は集中で開講)								卒業 要件 単位		
				必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次				
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
共通教育科目	導入科目	スタートアップ演習	104	演習	2			○								2単位	
	文化に 対する 理解	哲学と倫理	105	講義		2		○									4単位 以上
		宗教と思想	120	講義		2			○								
		芸術と文化	121	講義		2			○								
		教育を考える	147	講義		2						○					
		生活と文化	134	講義		2					○						
		ジェンダーと文化	135	講義		2					○						
	人間と 自然に 対する 理解	心のしくみ	122	講義		2			○								4単位 以上
		体のしくみ	106	講義		2			○								
		人間関係を考える	107	講義		2			○								
		健康とスポーツ	136	講義		2						○					
		環境を考える	133	講義		2					○						
		自然科学を学ぶ	108	講義		2			○								
	社会に 対する 理解	動物のくらし	123	講義		2			○								6単位 以上
		現代社会と家族	124	講義		2			○								
		現代社会と国際関係	138	講義		2					○						
		現代社会と経済	125	講義		2				○							
		札幌を学ぶ	109	講義		2			○								
		ボランティア活動を考える	139	講義		2					○						
	外国語	英語 I A	110	演習	1				○								8単位 以上
		英語 I B	111	演習	1				○								
		英語 I C	112	演習	1				○								
		英語 II A	127	演習	1					○							
		英語 II B	128	演習	1					○							
		英語 II C	129	演習	1					○							
		実践英語A	140	演習	1						○						
実践英語B		141	演習	1						○							
韓国語		149	演習	1							○						
中国語		143	演習	1							○						
ロシア語	144	演習	1							○							
コミュニ ケーション ・ 情報技術	日本語表現法	113	演習	1				○								4単位 以上	
	プレゼンテーション	130	演習	1					○								
	基礎力ウンセリング	115	演習	1				○									
	対人コミュニケーション	131	演習	1					○								
	グループ・ダイナミックス	145	演習	1						○							
	手話	132	演習	1						○							
	情報リテラシー I	116	演習	1					○								
	情報リテラシー II	118	演習	1						○							
人間と命	形態機能学 I	272	演習	2				○								5単位 以上	
	形態機能学 II	280	演習	2					○								
	生命科学	286	講義		1					○							
	生命倫理	287	講義		1					○							
	環境保健	288	講義		1					○							
	人間工学	289	講義		1					○							
	薬理学	273	講義		2				○								
	臨床薬理学	304	演習	1							○						
	臨床栄養学	290	演習	1						○							
	病理病態学	281	演習	2					○								
健康と健康 障害と予防	疾病治療学概論	291	演習	1						○						12単位	
	疾病治療学A	292	演習	1						○							
	疾病治療学B	293	演習	1						○							
	疾病治療学C	305	演習	1						○							
	感染予防論	274	講義	2					○								
	公衆衛生学	294	演習	1						○							
	社会福祉学	295	講義	1						○							
	家族社会学	296	講義	1						○							
	チーム医療論	306	講義	1							○						
	感染管理論	307	講義	1							○						
保健と医療 と福祉	臨床心理学	308	講義	1							○					9単位 以上 (保健師 コース 11単位 以上)	
	地域保健学概論	275	講義	1					○								
	保健医療福祉行政論 I	—	演習	1							○						
	保健医療福祉行政論 II	—	演習	1							○						
	保健統計	321	講義	2							○						
	疫学 I	—	講義	1							○						
	疫学 II	—	講義	1							○						
	医療情報	297	演習	1						○							



平成24年度（編入学生は平成26年度）以降入学生用

区分	授業科目	シラバス掲載頁	授業形態	単位数			配当年次(◎は集中で開講)								卒業要件単位			
				必修	選択	保健師コース必修	1年次	2年次	3年次	4年次	前期	後期	前期	後期				
看護の基礎となるもの	看護学原論	276	講義	1														7単位
	看護理論	282	講義	1														
	援助的人間関係論	309	演習	1														
	人間発達援助論	277	演習	1														
	看護初期実習	278	実習	1														
	看護倫理学	310	講義	1														
	健康教育指導法	334	演習	1														
	看護過程論	283	演習	1														
	看護観察技術論	279	演習	1														
	症状マネジメント論	298	演習	2														
	基礎看護技術論	284	演習	2														
	基礎看護学臨床実習Ⅰ	285	実習	1														
	基礎看護学臨床実習Ⅱ	299	実習	2														
	研究方法論	335	演習	1														
看護の基本的展開	小児看護学概論	311	講義	1														5単位
	小児看護援助論	322	演習	1														
	小児看護技術論	336	演習	1														
	小児看護学臨床実習	337	実習	2														
母性	母性看護学概論	312	講義	1														5単位
	母性看護援助論	323	演習	1														
	母性看護技術論	338	演習	1														
	母性看護学臨床実習	339	実習	2														
成人	成人看護学概論	300	講義	1														8単位
	成人看護援助論	301	演習	1														
	成人看護技術論	324	演習	1														
	成人看護学臨床実習Ⅰ	313	実習	3														
老年	成人看護学臨床実習Ⅱ	325	実習	2														
	老年看護学概論	302	講義	1														6単位
	老年看護援助論	314	演習	1														
	老年看護技術論	340	演習	1														
精神	老年看護学臨床実習Ⅰ	326	実習	1														
	老年看護学臨床実習Ⅱ	341	実習	2														
	精神看護学概論	303	講義	1														5単位
	精神看護援助論	315	演習	1														
精神看護技術論	327	演習	1															
精神看護学臨床実習	328	実習	2															
在宅	在宅看護学概論	316	講義	1														5単位
	在宅看護援助論	317	演習	1														
	在宅看護技術論	329	演習	1														
	在宅看護学臨床実習	330	実習	2														
健康問題への対応	リハビリテーション看護学	331	演習	1														5単位以上
	がん看護学	318	演習	1														
	認知症ケア	332	演習	1														
	透析ケア	342	講義	1														
	重症集中ケア	343	講義	1														
	救急看護学	344	講義	1														
	放射線医療管理論	345	講義	1														
	ペリネイタルケア	353	講義	1														
	バリアティブケア	354	講義	1														
	寒冷地医療	355	講義	1														
コミュニティケアに関するもの	公衆衛生看護学概論	319	講義	1														2単位 (保健師コース10単位)
	公衆衛生看護援助論Ⅰ	—	演習	1														
	公衆衛生看護援助論Ⅱ	—	演習	1														
	公衆衛生看護技術論	—	演習	1														
	ヘルスプロモーション活動論	350	演習	1														
	公衆衛生看護学臨床実習Ⅰ	—	実習	2														
発展・統合に関するもの	公衆衛生看護学臨床実習Ⅱ	—	実習	3														
	看護管理学	356	演習	1														12単位以上
	看護教育学	347	講義	1														
	卒業研究	365	演習	4														
	ヘルスケアマネジメント実習	364	実習	3														
	公衆衛生看護管理論	—	講義	1														
	看護情報学	357	講義	1														
	災害看護学	358	講義	1														
	国際看護学	359	講義	1														
	国際保健学	360	講義	1														
	医療経営学	361	講義	1														
	医療安全管理論	362	講義	1														
現代専門職論	363	講義	1															
学部連携	学部連携演習	348	演習	2														

*単位数（選択）の網掛け部分と保健師コース必修部分は、保健師コース選択の学生の必修科目です。
（保健師コース必修部分は看護師コースの学生は履修できません。）

区分	授業科目	シラバス掲載頁	授業形態	単位数			配当年次(◎は集中で開講)								卒業要件単位			
				必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次					
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
共通教育科目	導入科目	スタートアップ演習	104	演習	2		○									2単位		
	文化に対する理解	哲学と倫理	105	講義		2		○									4単位以上	
		宗教と思想	120	講義		2			○									
		芸術と文化	121	講義		2			○									
		環境を考える	133	講義		2				○								
		教育を考える	147	講義		2					○							
		生活と文化	134	講義			2			◎								
	人間に対する理解	心のしくみ	122	講義		2			○								4単位以上	
		体のしくみ	106	講義		2			○									
		ジェンダーを考える	135	講義		2				○								
		人間関係を考える	107	講義		2			○									
		健康とスポーツ	136	講義		2					○							
		自然科学を学ぶ	108	講義			2	○										
	社会に対する理解	動物のくらし	123	講義			2		○								6単位以上	
		現代社会と家族	124	講義		2			○									
		現代社会と国際関係	138	講義		2				○								
		現代社会と経済	125	講義		2			○									
		札幌を学ぶ	109	講義		2			○									
		ボランティア活動を考える	139	講義		2					○							
	外国語	統計の世界	126	講義	2				○								8単位以上	
		日本国憲法を学ぶ	148	講義			2				○							
		英語 I A	110	演習	1			○										
		英語 I B	111	演習	1			○										
		英語 I C	112	演習	1			○										
		英語 II A	127	演習	1				○									
		英語 II B	128	演習	1				○									
		英語 II C	129	演習	1				○									
		実践英語A	140	演習		1				○								
		実践英語B	141	演習		1				○	○							
		韓国語	149	演習		1					○							
		中国語	143	演習		1					○							
		ロシア語	144	演習		1					○							
		コミュニケーション・情報技術	日本語表現法	113	演習		1		○									
プレゼンテーション			130	演習		1			○									
基礎カウンセリング	115		演習		1			○										
対人コミュニケーション	131		演習		1			○										
グループ・ダイナミクス	145		演習		1				○									
手話	132		演習		1			○										
情報リテラシー I	116		演習	1				○										
情報リテラシー II	118		演習	1				○										
人間と命	形態機能学 I	272	演習	2				○								5単位以上		
	形態機能学 II	280	演習	2					○									
	生命科学	286	講義		1					○								
	生命倫理	287	講義		1					○								
	環境保健	288	講義		1					○								
	人間工学	289	講義		1					○								
	健康と健康障害と予防	薬理学	273	講義	1				○									10単位
		臨床薬理学	304	演習	1						○							
		臨床栄養学	290	演習	1						○							
		病理病態学	281	演習	2					○								
		疾病治療学概論	291	演習	1						○							
		疾病治療学A	292	演習	1						○							
疾病治療学B		293	演習	1						○								
疾病治療学C		305	演習	1						○								
感染予防論		274	講義	1					○									
公衆衛生学		294	演習	1						○								
保健と医療と福祉	社会福祉学	295	講義	1						○						7単位以上		
	家族社会学	296	講義		1					○								
	チーム医療論	306	講義		1						○							
	感染管理論	307	講義		1						○							
	臨床心理学	308	講義		1						○							
	地域保健学概論	275	講義	1				○										
	保健医療福祉行政論	320	演習	1							○							
	保健統計	321	演習	1							○							
	医療情報	297	演習	1						○								

※自由科目は卒業要件単位に含まれません。

② 卒業要件

※平成21～23年度(編入学生は平成23～25年度)入学生

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	12	16	28
専門教育科目	94	6	100
(専門基礎科目)	(20)	(2)	(22)
(専門科目)	(74)	(4)	(78)
合計	106	22	128

※平成24年度(編入学生は26年度)以降入学生

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	12	16	28
専門教育科目	91	7	98
(専門基礎科目)	(24)	(2)	(26)
(専門科目)	(67)	(5)	(72)
合計	103	23	126

3) 教育活動

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
形態機能学Ⅰ	演習・60時間	1年次前期	★高野 廣子
薬理学	講義・30時間	1年次前期	★松本 真知子
感染予防論	講義・30時間	1年次前期	★富樫 武弘
地域保健学概論	講義・15時間	1年次前期	清水 光子 河原田 まり子 山田 典子 櫻井 繭子
看護学原論	講義・15時間	1年次前期	◎定廣 和香子 猪股 千代子
人間発達援助論	演習・30時間	1年次前期	◎内田 雅子 坂倉 恵美子 松浦 和代 宮崎 みち子 山本 勝則
看護初期実習	実習・45時間	1年次前期	◎吉川 由希子 大野 夏代 貝谷 敏子 菊地 ひろみ 菅原 美樹 村松 真澄 守村 洋 山田 典子 太田 晴美 神島 滋子 櫻井 繭子 田中 広美 原井 美佳 藤井 瑞恵
看護観察技術論	演習・30時間	1年次前期	◎大野 夏代 田中 広美 檜山 明子
形態機能学Ⅱ	演習・60時間	1年次後期	★高野 廣子
病理病態学	演習・60時間	1年次後期	★小林 正伸
看護理論	講義・15時間	1年次後期	定廣 和香子 檜山 明子
看護過程論	演習・30時間	1年次後期	◎大野 夏代 田中 広美 檜山 明子



授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
基礎看護技術論	演習・60時間	1年次後期	◎田中 広美 樋之津 淳子 大野 夏代 檜山 明子
基礎看護学臨地実習Ⅰ	実習・45時間	1年次後期	◎田中 広美 定廣 和香子 樋之津 淳子 大野 夏代 三上 智子 檜山 明子 工藤 京子 坂東 奈穂美 田仲 里江 小田嶋 裕輝 柏倉 大作 鈴木 ちひろ 御厩 美登里 星 幸江 横川 亜希子
生命科学	講義・15時間	2年次前期	★山田 恵子
生命倫理	講義・15時間	2年次前期	★村上 友一
環境保健	講義・15時間	2年次前期	★齋藤 健
人間工学	講義・15時間	2年次前期	◎樋之津 淳子 檜山 明子 ★佐藤 秀一
臨床栄養学	演習・30時間	2年次前期	★高野 良子
疾病治療学概論	演習・30時間	2年次前期	◎★福島 直樹 ★伊東 義忠
疾病治療学 A	演習・30時間	2年次前期	◎★柳澤 克之 ★秋江 研志 ★甲谷 哲郎
疾病治療学 B	演習・30時間	2年次前期	★永坂 敦
公衆衛生学	演習・30時間	2年次前期	★喜多 歳子
社会福祉学	講義・15時間	2年次前期	★大内 高雄
家族社会学	講義・15時間	2年次前期	◎原 俊彦 吉川 由希子
医療情報	演習・30時間	2年次前期	★小笠原 克彦
症状マネジメント論	演習・60時間	2年次前期	◎貝谷 敏子 菅原 美樹 村松 真澄 神島 滋子 藤井 瑞恵 工藤 京子
基礎看護学臨地実習Ⅱ	実習・90時間	2年次前期	◎大野 夏代 定廣 和香子 樋之津 淳子 田中 広美 三上 智子 工藤 京子 坂東 奈穂美 田仲 里江 檜山 明子 小田嶋 裕輝 柏倉 大作 鈴木 ちひろ 御厩 美登里 星 幸江 横川 亜希子
成人看護学概論	講義・15時間	2年次前期	◎内田 雅子 中村 恵子
成人看護援助論	講義・30時間	2年次前期	◎菅原 美樹 川村 三希子 貝谷 敏子 神島 滋子 藤井 瑞恵 工藤 京子
老年看護学概論	講義・15時間	2年次前期	坂倉 恵美子
精神看護学概論	講義・15時間	2年次前期	山本 勝則
臨床薬理学	演習・30時間	2年次後期	★唯野 貢司
疾病治療学 C	演習・30時間	2年次後期	★三澤 一仁
チーム医療論	講義・15時間	2年次後期	◎太田 晴美 猪股 千代子 坂東 奈穂美
感染管理論	講義・15時間	2年次後期	◎スーディ神崎 和代 ★前田 朝子 ★土佐 理恵子
臨床心理学	講義・15時間	2年次後期	◎山本 勝則 ★菊池 浩光
援助の人間関係論	演習・30時間	2年次後期	◎守村 洋 山本 勝則 田中 広美 藤井 瑞恵
看護倫理学	講義・15時間	2年次後期	宮崎 みち子
小児看護学概論	講義・15時間	2年次後期	松浦 和代
母性看護学概論	講義・15時間	2年次後期	◎宮崎 みち子



授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
成人看護学臨地実習Ⅰ	実習・135時間	2年次後期	◎藤井 瑞恵 内田 雅子 川村 三希子 貝谷 敏子 菅原 美樹 神島 滋子 工藤 京子 田仲 里江 坂東 奈穂美 檜山 明子 小田嶋 裕輝 柏倉 大作 鈴木 ちひろ 御厩 美登里 星 幸江 横川 亜希子
老年看護援助論	演習・30時間	2年次後期	◎村松 真澄 坂倉 恵美子 原井 美佳 ★川人 由美子
精神看護援助論	演習・30時間	2年次後期	◎守村 洋 山本 勝則 ★高橋 義人 ★松原 良次 ★山本 晋
在宅看護学概論	講義・15時間	2年次後期	スーディ神崎和代
在宅看護援助論	演習・30時間	2年次後期	◎菊地 ひろみ スーディ神崎和代 ★工藤 和子 ★石崎 剛
がん看護学	演習・30時間	2年次後期	◎川村 三希子 松浦 和代 貝谷 敏子
公衆衛生看護学概論	演習・30時間	2年次後期	◎河原田 まり子 清水 光子
保健医療福祉行政論	演習・30時間	3年次前期	清水 光子 守村 洋 山田 典子 櫻井 蘭子 田仲 里江
保健統計	演習・30時間	3年次前期	◎★片倉 洋子 ★榎 洋一
小児看護援助論	演習・30時間	3年次前期	◎吉川 由希子 三上 智子 ★富樫 武弘
母性看護援助論	演習・30時間	3年次前期	◎山本 真由美 多賀 昌江 ★奥 毅公雄
成人看護技術論	演習・30時間	3年次前期	◎藤井 瑞恵 川村 三希子 貝谷 敏子 菅原 美樹 神島 滋子 工藤 京子
成人看護学臨地実習Ⅱ	実習・90時間	3年次前期	◎神島 滋子 内田 雅子 川村 三希子 貝谷 敏子 菅原 美樹 藤井 瑞恵 工藤 京子 柏倉 大作
老年看護学臨地実習Ⅰ	実習・45時間	3年次前期	◎原井 美佳 坂倉 恵美子 村松 真澄
精神看護技術論	演習・30時間	3年次前期	◎守村 洋 山本 勝則
精神看護学臨地実習	実習・90時間	3年次前期	◎守村 洋 山本 勝則 星 幸江
在宅看護技術論	演習・30時間	3年次前期	◎菊地 ひろみ スーディ神崎和代
在宅看護学臨地実習	実習・90時間	3年次前期	◎菊地 ひろみ スーディ神崎和代
リハビリテーション看護学	演習・30時間	3年次前期	◎神島 滋子 ★石鍋 圭子 ★平山 光久 ★石井 陽史
認知症ケア	演習・30時間	3年次前期	スーディ神崎和代
地域看護学概論	講義・15時間	3年次前期	◎河原田 まり子 ★清水 光子
健康教育指導法	演習・30時間	3年次後期	◎櫻井 蘭子 清水 光子 山田 典子 田仲 里江
研究方法論	演習・30時間	3年次後期	◎内田 雅子 松浦 和代 貝谷 敏子
小児看護技術論	演習・30時間	3年次後期	◎吉川 由希子 松浦 和代 三上 智子
小児看護学臨地実習	実習・90時間	3年次後期	◎三上 智子 松浦 和代 吉川 由希子
母性看護技術論	演習・30時間	3年次後期	◎多賀 昌江 山内 まゆみ 山本 真由美
母性看護学臨地実習	実習・90時間	3年次後期	◎山本 真由美 宮崎 みち子 山内 まゆみ 多賀 昌江

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
老年看護技術論	演習・30時間	3年次後期	◎原井 美佳 村松 真澄
老年看護学臨地実習Ⅱ	実習・90時間	3年次後期	◎村松 真澄 坂倉 恵美子 原井 美佳
透析ケア	講義・15時間	3年次後期	◎内田 雅子 ★木村 剛
重症集中ケア	講義・15時間	3年次後期	◎菅原 美樹 中村 恵子 ★小山 昭人
救急看護学	講義・15時間	3年次後期	◎菅原 美樹 中村 恵子 ★三上 剛人
放射線医療管理論	講義・15時間	3年次後期	◎★池田 光 ★神島 保
地域看護援助論	演習・60時間	3年次後期	◎山田 典子 清水 光子 櫻井 繭子 田仲 里江
看護教育学	講義・15時間	3年次後期	◎定廣 和香子 田中 広美
学部連携演習	演習・60時間	3年次後期	◎猪股 千代子 定廣 和香子 大野 夏代 貝谷 敏子 菊地 ひろみ 清水 光子 守村 洋 太田 晴美 原井 美佳 工藤 京子 ◎齋藤 利明 石崎 友紀 細谷 多聞 矢部 和夫 吉田 恵介 柿山 浩一郎 山田 良 石田 勝也 三谷 篤史 長谷川 聡
地域看護技術論	演習・30時間	4年次前期	◎櫻井 繭子 清水 光子 山田 典子 田仲 里江
ヘルスプロモーション活動論	演習・30時間	4年次前期	◎山田 典子 清水 光子 櫻井 繭子 田仲 里江
地域看護学臨地実習Ⅰ	実習・90時間	4年次前期	◎櫻井 繭子 河原田 まり子 清水 光子 山田 典子 田仲 里江
地域看護学臨地実習Ⅱ	実習・90時間	4年次前期	◎清水 光子 河原田 まり子 山田 典子 櫻井 繭子 田仲 里江
ペリネイタルケア	講義・15時間	4年次前期	◎三上 智子 多賀 昌江 田仲 里江
パリアティブケア	講義・15時間	4年次前期	◎川村 三希子 菊地 ひろみ ★石垣 靖子 ★松山 茂子
寒冷地医療	講義・15時間	4年次前期	◎坂倉 恵美子 ★前沢 政次
看護管理学	演習・30時間	4年次前期	◎猪股 千代子 太田 晴美 坂東 奈穂美
看護情報学	講義・15時間	4年次前期	★佐藤 ひとみ
災害看護学	講義・15時間	4年次前期	◎太田 晴美 ★浅井 康文
国際看護学	講義・15時間	4年次前期	◎大野 夏代 スーディ神崎 和代
国際保健学	講義・15時間	4年次前期	★玉城 英彦
医療経営学	講義・15時間	4年次前期	◎猪股 千代子 スーディ神崎 和代 坂東 奈穂美
医療安全管理論	講義・15時間	4年次前期	◎猪股 千代子 ★佐々木 真理子
現代専門職論	講義・15時間	4年次前期	◎樋之津 淳子 中村 恵子
ヘルスケアマネジメント実習	実習・135時間	4年次後期	◎太田 晴美 猪股 千代子 大野 夏代 貝谷 敏子 菊地 ひろみ 菅原 美樹 村松 真澄 守村 洋 吉川 由希子 神島 滋子 田中 広美 原井 美佳 藤井 瑞恵 坂東 奈穂美



授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
卒業研究	演習・120時間	4年次全期	◎内田 雅子 猪股 千代子 河原田 まり子 川村 三希子 坂倉 恵美子 定廣 和香子 スーディ神崎和代 松浦 和代 宮崎 みち子 山本 勝則 大野 夏代 貝谷 敏子 菊地 ひろみ 清水 光子 菅原 美樹 村松 真澄 守村 洋 山田 典子 吉川 由希子 太田 晴美 神島 滋子 櫻井 繭子 田中 広美 原井 美佳 藤井 瑞恵 三上 智子 工藤 京子 多賀 昌江 田仲 里江 坂東 奈穂美 檜山 明子

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

★印：非常勤講師

4) 実習概要

※機関種別

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
看護初期実習	平成25年6月3日～7日	医療機関	81人
		障がい児通園施設	30人
		老人福祉センター	81人
		地域包括支援センター・ 居宅介護支援事業所	18人
		保健所・保健センター	24人
		その他	9人
基礎看護学臨地実習Ⅰ	平成25年10月15日～18日	医療機関	243人
基礎看護学臨地実習Ⅱ	平成25年5月20日～5月31日	医療機関	756人
成人看護学臨地実習Ⅰ	平成25年10月21日～11月8日	医療機関	1079人
老年看護学臨地実習Ⅰ	平成25年5月13日～17日	老人福祉センター	240人
成人看護学臨地実習Ⅱ	平成25年6月17日～7月26日	医療機関	780人
精神看護学臨地実習	平成25年6月17日～7月26日	医療機関	693人
在宅看護学臨地実習	平成25年6月17日～7月26日	医療機関	80人
		訪問看護ステーション	266人
		地域包括支援センター・ 居宅介護支援事業所	266人
母性看護学臨地実習	平成25年11月18日～29日	医療機関	711人
	平成25年12月2日～20日		
	平成26年1月20日～31日		
小児看護学臨地実習	平成25年11月18日～29日	医療機関	474人
	平成25年12月2日～13日	保育所	395人
	平成26年1月20日～31日		
老年看護学臨地実習Ⅱ	平成25年11月18日～1月31日	医療機関	385人
		介護老人保健施設	168人
地域看護学臨地実習Ⅰ	平成25年6月10日～7月5日	保健所・保健センター	890人
地域看護学臨地実習Ⅱ	平成25年7月8日～19日	事業所	89人
		教育機関	178人
ヘルスケアマネジメント実習	平成25年9月24日～10月11日	医療機関	1,105人
		介護老人保健施設	52人



5 デザイン研究科

1) 平成25年度時間割

① 前期

		月		火	水	木		金	土
		芸森キャンパス		芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス		芸森キャンパス	桑園キャンパス
		博士前期1年生	博士後期課程	博士前期1年生	博士前期1年生	博士前期1年生	博士前期2年生	博士前期1年生	博士前期1年生
1	9:00 } 10:30								国際関係特論
2	10:40 } 12:10	環境マネジメント特論		製品造形特論					コミュニケーション特論
3	13:10 } 14:40	デザイン研究法		構法デザイン特論		形状情報処理			少子高齢社会特論
4	14:50 } 16:20			インターンシップI (事前講義)		インタラクションデザイン特論			連携プロジェクト演習
				インターンシップII (事前講義)					
5	16:30 } 18:00	メカトロニクス特論		ビジュアルデザイン特論	建築構造デザイン特論	地域創成デザイン特別セミナーA			
6	18:10 } 19:40	環境共生デザイン特論	人間空間デザイン研究法	デザイン特論	メディアプロデュース特論		地域プロジェクト演習	景観デザイン特論	
			人間情報デザイン研究法						
7	19:50 } 21:20								

※建築計画特論は集中開講。

※デザイン特別演習、特別研究および横断型連携特別演習の開講時期は担当教員により異なる。

② 後期

		月		火	水	木		金	土
		芸森キャンパス		芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス		芸森キャンパス	桑園キャンパス
		博士前期1年生	博士後期課程	博士前期1年生	博士前期1年生	博士前期1年生		博士前期1年生	博士前期1年生
1	9:00 } 10:30			建築環境学特論					健康福祉政策特論
2	10:40 } 12:10			製品評価特論		造形表現特論		デザインマネジメント特論	地域経済政策特論
3	13:10 } 14:40	地域ブランド構築特論		認知・感性科学特論		インタフェースデザイン特論	映像デザイン特論		ヒューマニティ特論
4	14:50 } 16:20	日本建築史特論		ソシオデザイン特論					地域創成デザイン特別セミナーB
5	16:30 } 18:00	地域環境評価特論							
6	18:10 } 19:40	現代芸術特論	人間空間デザイン特講						
			人間情報デザイン特講						
7	19:50 } 21:20	日本建築史特論							

※デザイン特別演習、特別研究および横断型連携特別演習の開講時期は担当教員により異なる。

2) カリキュラム

① 授業科目一覧
 <博士前期課程>

科目区分	授業科目の名称	配当年次 (時期)	単位数			空間デザイン分野		製品デザイン分野		コンテンツ・メディア デザイン分野		
			必修	選択	自由	建築デザイン	環境デザイン	プロダクトデザイン	インタフェースデザイン	コンテンツ制作	メディア展開	
研究科連携科目	国際関係特論	1・2 前期		2					△		△	
	少子高齢社会特論	1・2 前期		2			△					
	健康福祉政策特論	1・2 後期		2		△						
	地域経済政策特論	1・2 後期		2			△	△			△	
	ヒューマニティ特論	1・2 後期		2						△		
	コミュニケーション特論	1・2 前期		2					△	△		
	連携プロジェクト演習	1 通年		2		△		△				
小計(7科目)	-	-	14	-	4	4	4	4	4	4		
基本科目	デザイン特論	1 前期	2			◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	デザイン研究法	1 前期		2			△		△	△	△	
	デザインマネジメント特論	1 後期		2		△		△			△	
	小計(3科目)	-	2	4	-	4	4	4	4	4	4	
	展開科目	建築計画特論	1・2 後期		2		△■					
		建築環境学特論	1・2 後期		2		△■					
		建築構造デザイン特論	1・2 前期		2		△■					
		構法デザイン特論	1・2 前期		2		△■					
		日本建築史特論	1・2 後期		2		△					
		景観デザイン特論	1・2 前期		2			△				
		地域環境評価特論	1・2 後期		2			△				
		環境共生デザイン特論	1・2 前期		2			△				
		環境マネジメント特論	1・2 前期		2			△		△		
		製品造形特論	1・2 前期		2				△			
		ソシオデザイン特論	1・2 後期		2				△	△		
		製品評価特論	1・2 後期		2				△	△		
		メカトロニクス特論	1・2 前期		2				△	△		
		インタフェースデザイン特論	1・2 後期		2				△	△		
		認知・感性科学特論	1・2 後期		2					△	△	
		インタラクションデザイン特論	1・2 前期		2					△	△	
		形状情報処理特論	1・2 前期		2						△	
		造形表現特論	1・2 後期		2						△	
		映像デザイン特論	1・2 後期		2						△	△
		ビジュアルデザイン特論	1・2 前期		2							△
		現代芸術特論	1・2 後期		2							△
		メディアプロデュース特論	1・2 前期		2							△
		地域ブランド構築特論	1・2 後期		2				△			△
デザイン特別演習		1 前・後	2			◎■	◎	◎	◎	◎	◎	
小計(24科目)		-	2	46	-	12	12	12	12	12	12	
実践科目		地域プロジェクト演習	2 前期		2		◎■	◎	◎	◎	◎	◎
		地域創成デザイン特別セミナーA	1・2 前期		2							△
	地域創成デザイン特別セミナーB	1・2 後期		2					△	△		
	インターンシップI	1・2 集中		2		△■	△	△				
	インターンシップII	1・2 集中		2	4	△■						
小計(5科目)	-	2	6	4	8	4	4	4	4	4		
修了研究	特別研究	1・2 通年	6	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	小計(1科目)	-	6	-	-	6	6	6	6	6	6	
合計(40科目)			12	70	4	34	30	30	30	30	30	

<博士後期課程>

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習
基本科目	横断型連携特別演習	1 通	2				○	
	人間空間デザイン研究法	1 前		2		○		
	人間情報デザイン研究法	1 前		2		○		
	小計(3科目)	-	2	4	0	-		
展開科目	人間空間デザイン特講	1 後		2		○		
	人間情報デザイン特講	1 後		2		○		
	博士デザイン特別演習	2 前	2				○	
小計(3科目)	-	2	4	0	-			
研究指導科目	博士特別研究I	1 通	2				○	
	博士特別研究II	2 通	2				○	
	博士特別研究III	3 通	4				○	
	小計(3科目)	-	8	0	0	-		
合計(9科目)		-	12	8	0			



② 修了要件
 <博士前期課程>

科目区分		修了要件	
研究科連携科目		4単位以上	
専門教育科目	基本科目	4単位以上	
	展開科目	空間デザイン分野 製品デザイン分野 コンテンツ・メディアデザイン分野	12単位以上
	実践科目		4単位以上
	修了研究		6単位
合計		30単位以上	

<博士後期課程>

科目区分	修了要件
基本科目	4 単位以上
展開科目	4 単位以上
研究指導科目	8 単位以上
合計	16 単位以上

3) 教育活動
 <博士前期課程>

連携科目

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
国際関係特論	講義・30時間	1・2年次前期	◎スーディ神崎和代 城間 祥之 石井 雅博 大野 夏代 ★玉城 英彦
少子高齢社会論	講義・30時間	1・2年次前期	原 俊彦
コミュニケーション特論	講義・30時間	1・2年次前期	町田 佳世子
健康福祉政策特論	講義・30時間	1・2年次後期	◎山本 勝則 ★大久保 一郎
地域経済政策特論	講義・30時間	1・2年次後期	★佐藤 孝一
ヒューマニティ特論	講義・30時間	1・2年次後期	★藤尾 均
連携プロジェクト演習	演習・30時間	1・2年次通年	◎城間 祥之 吉田 和夫 張 浦華 山田 良 片山 めぐみ ◎内田 雅子 川村 三希子 村松 真澄 菊地 ひろみ

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

★印：非常勤講師

専門教育科目

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
デザイン特論	講義・30時間	1年次前期	原田 昭
デザイン研究法	講義・30時間	1年次前期	◎中原 宏 矢部 和夫 柿山 浩一郎
デザインマネジメント特論	講義・30時間	1・2年次後期	★近藤 公彦
建築計画特論	講義・30時間	1・2年次集中	★那須 聖
建築環境学特論	講義・30時間	1・2年次後期	齊藤 雅也
建築構造デザイン特論	講義・30時間	1・2年次前期	★渡邊 和之
構法デザイン特論	講義・30時間	1・2年次前期	小西 敏正
日本建築史特論	講義・30時間	1・2年次後期	羽深 久夫
景観デザイン特論	講義・30時間	1・2年次前期	吉田 恵介
地域環境評価特論	講義・30時間	1・2年次後期	◎中原 宏 矢部 和夫
環境共生デザイン特論	講義・30時間	1・2年次前期	◎上田 裕文 山田 良
環境マネジメント特論	講義・30時間	1・2年次前期	◎上田 裕文 片山 めぐみ
製品造形特論	講義・30時間	1・2年次前期	石崎 友紀
ソシオデザイン特論	講義・30時間	1・2年次後期	蓮見 孝
製品評価特論	講義・30時間	1・2年次後期	柿山 浩一郎
メカトロニクス特論	講義・30時間	1・2年次前期	三谷 篤史
インタフェースデザイン特論	講義・30時間	1・2年次後期	酒井 正幸
認知・感性科学特論	講義・30時間	1・2年次後期	石井 雅博
インタラクションデザイン特論	講義・30時間	1・2年次前期	細谷 多聞
形状情報処理特論	講義・30時間	1・2年次前期	城間 祥之
造形表現特論	講義・30時間	1・2年次後期	齋藤 利明
映像デザイン特論	講義・30時間	1・2年次後期	望月 澄人
ビジュアルデザイン特論	講義・30時間	1・2年次前期	吉田 和夫
現代芸術特論	講義・30時間	1・2年次後期	上遠野 敏
メディアプロデュース特論	講義・30時間	1・2年次前期	★久保 俊哉
地域ブランド構築特論	講義・30時間	1・2年次後期	★内田 純一
デザイン特別演習	演習・30時間	1年次 前期・後期	◎城間 祥之 蓮見 孝 酒井 正幸 中原 宏 原田 昭 石井 雅博 石崎 友紀 上遠野 敏 小西 敏正 齋藤 利明 羽深 久夫 細谷 多聞 望月 澄人 矢部 和夫 吉田 和夫 吉田 恵介 柿山 浩一郎 齊藤 雅也 山田 良 三谷 篤史
地域プロジェクト演習	演習・30時間	2年次前期	◎城間 祥之 酒井 正幸 羽深 久夫 細谷 多聞
地域創成デザイン特別セミナーA	演習・30時間	1・2年次前期	羽深 久夫
地域創成デザイン特別セミナーB	演習・30時間	1・2年次後期	酒井 正幸
インターンシップ I	実習・60時間	1・2年次集中	◎中原 宏 羽深 久夫 齊藤 雅也 山田 良



授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
インターンシップⅡ	実習・120時間	1・2年次集中	◎羽深 久夫 中原 宏 齊藤 雅也 山田 良
特別研究	演習・90時間	1・2年次通年	◎城間 祥之 蓮見 孝 酒井 正幸 中原 宏 原田 昭 石井 雅博 石崎 友紀 上遠野 敏 小西 敏正 齋藤 利明 羽深 久夫 細谷 多聞 望月 澄人 矢部 和夫 吉田 恵介 柿山 浩一郎 齊藤 雅也 山田 良 三谷 篤史

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

★印：非常勤講師

<博士後期課程>

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
人間空間デザイン研究法	講義・30時間	1年次前期	◎中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫
人間情報デザイン研究法	講義・30時間	1年次前期	◎城間 祥之 原田 昭 石井 雅博
横断型連携特別演習	演習・30時間	1年次通年	◎齊藤 雅也 石崎 友紀 柿山 浩一郎 スーディ神崎和代 坂倉 恵美子 ★佐藤 孝一
人間空間デザイン特講	講義・30時間	1年次後期	◎羽深 久夫 小西 敏正 中原 宏 矢部 和夫 齊藤 雅也
人間情報デザイン特講	講義・30時間	1年次後期	◎酒井 正幸 城間 祥之 原田 昭 石井 雅博 細谷 多聞
博士特別研究Ⅰ	演習・30時間	1年次通年	城間 祥之 原田 昭 石井 雅博 石崎 友紀 小西 敏正 酒井 正幸 中原 宏 羽深 久夫 細谷 多聞 矢部 和夫 柿山 浩一郎 齊藤 雅也
博士デザイン特別演習	演習・30時間	2年次前期	城間 祥之 原田 昭 石井 雅博 石崎 友紀 小西 敏正 酒井 正幸 中原 宏 羽深 久夫 細谷 多聞 矢部 和夫 柿山 浩一郎 齊藤 雅也
博士特別研究Ⅱ	演習・30時間	2年次通年	城間 祥之 原田 昭 石井 雅博 石崎 友紀 小西 敏正 酒井 正幸 中原 宏 羽深 久夫 細谷 多聞 矢部 和夫 柿山 浩一郎 齊藤 雅也

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

★印：非常勤講師



6 看護学研究科

1) 平成25年度時間割

<博士前期課程>

		月		火		水	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	9:00 } 10:30						
2	10:40 } 12:10						
3	13:10 } 14:40						
4	14:50 } 16:20	看護理論特論	看護コンサルテーション特論	看護研究法特論	寒冷地生活支援看護学特論	看護専門職教育特論 クリティカルケア看護学特論 がん看護学・緩和ケア特論 精神看護学特論IV	臨床哲学特論 がん看護学・緩和ケア援助特論 クリティカル精神看護学演習
5	16:30 } 18:00	地域生活看護学特論 母子看護学特論 成人看護学特論 精神看護学特論I 看護技術学特論I 看護教育・看護マネジメント学特論	老年看護学特論 在宅看護学特論 地域看護学特論 母性看護学特論 小児看護学特論B 急性期看護学特論 慢性期看護学特論 がん看護学特論 精神看護学特論II 看護技術学特論II 看護教育学特論 看護マネジメント学特論	看護管理学特論	家族看護学特論	看護倫理学特論	継続教育特論
6	18:10 } 19:40	地域生活看護学特論 母子看護学特論 成人看護学特論 精神看護学特論I 看護技術学特論I 看護教育・看護マネジメント学特論	老年看護学特論 在宅看護学特論 地域看護学特論 母性看護学特論 小児看護学特論B 急性期看護学特論 慢性期看護学特論 がん看護学特論 精神看護学特論II 看護技術学特論II 看護教育学特論 看護マネジメント学特論	看護研究法特論	寒冷地生活支援看護学特論	看護専門職教育特論 クリティカルケア看護学特論 がん看護学・緩和ケア特論 精神看護学特論IV	臨床哲学特論 がん看護学・緩和ケア援助特論 クリティカル精神看護学演習
7	19:50 } 21:20	看護理論特論	看護コンサルテーション特論	看護管理学特論	家族看護学特論	看護倫理学特論	継続教育特論

※ 開講曜日・時間は週によって変更する場合がある。

※ 集中講義の日程は別途、掲示する。



木		金		土	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
				国際関係特論	健康福祉政策特論
				コミュニケーション特論	地域経済政策特論
				少子高齢社会特論	ヒューマニティ特論
地域生活看護学演習 母子看護学演習 成人看護学演習 精神看護学演習I 看護技術学演習I 看護教育・看護マネジメント学演習 老年看護学演習 在宅看護学演習 地域看護学演習 母性看護学演習 小児看護学演習A 急性期看護学演習 慢性期看護学演習 がん看護学演習I 精神看護学演習III 看護技術学演習II 看護教育学演習 看護マネジメント学演習		特別研究 課題研究		連携プロジェクト演習	
		小児看護学特論A アドバンスト・フィジカルアセスメント看護学演習 腫瘍学特論 精神看護学特論VI	小児看護学特論C 急性期病態管理学特論 病態治療特論 精神看護学特論V	リハビリテーション 精神看護学演習	
地域生活看護学演習 母子看護学演習 成人看護学演習 精神看護学演習I 看護技術学演習I 看護教育・看護マネジメント学演習 老年看護学演習 在宅看護学演習 地域看護学演習 母性看護学演習 小児看護学演習A 急性期看護学演習 慢性期看護学演習 がん看護学演習I 精神看護学演習III 看護技術学演習II 看護教育学演習 看護マネジメント学演習		小児看護学特論A アドバンスト・フィジカルアセスメント看護学演習 腫瘍学特論 精神看護学特論VI	小児看護学特論C 急性期病態管理学特論 病態治療特論 精神看護学特論V		
		特別研究 課題研究			

<博士後期課程>

		月		火		水	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	9:00 } 10:30						
2	10:40 } 12:10						
3	13:10 } 14:40						
4	14:50 } 16:20			後期特別研究III			
5	16:30 } 18:00			(横断型連携特別演習)			
6	18:10 } 19:40			後期特別研究III			
7	19:50 } 21:20			(横断型連携特別演習)			

- ※ 開講曜日・時間は週によって変更する場合がある。
- ※ 「後期特別研究 I II」は、教員と学生が協議の上で授業時間帯を確定する。
- ※ 集中講義の日程は別途、掲示する。

木		金		土	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
看護学特講				横断型連携特別演習	
看護技術学特別演習 実践看護学特別演習 機能看護学特別演習					
看護学特講					
看護技術学特別演習 実践看護学特別演習 機能看護学特別演習					



2) カリキュラム

① 授業科目一覧
〈博士前期課程〉

科目区分	授業科目の名称	シラバス 掲載頁	配当年次	単位数			授業形態			修了要件	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
研究科連携科目	国際関係特論	36	1・2 前		2			○		4単位以上	
	少子高齢社会特論	37	1・2 前		2			○			
	健康福祉政策特論	38	1・2 後		2			○			
	地域経済政策特論	39	1・2 後		2			○			
	ヒューマニティ特論	40	1・2 後		2			○			
	コミュニケーション特論	41	1・2 前		2			○			
	連携プロジェクト演習	42	1 通		2				○		
専 門 基 礎 科 目	看護理論特論	44	1 前	2				○		8単位以上	
	看護研究法特論	45	1 前	2				○			
	看護倫理特論	46	1 前		2			○			
	看護管理学特論	47	1 前		2			○			
	臨床哲学特論	48	1 後		2			○			
	看護コンサルテーション特論	49	1 後		2			○			
	看護専門職教育特論	50	1 前		2			○			
	継続教育特論	51	1 後		2			○			
	寒冷地生活支援看護学特論	52	1 後		2			○			
	家族看護学特論	53	1 後		2			○			
	専 門 実 践 科 目	地域生活看護学特論	56	1 前		2			○		
老年看護学特論		57	1・2 後		2			○			
在宅看護学特論		58	1・2 後		2			○			
地域看護学特論		59	1・2 後		2			○			
地域生活看護学演習		60	1 通		2				○		
老年看護学演習		61	1・2 通		2				○		
在宅看護学演習		62	1・2 通		2				○		
地域看護学演習		63	1・2 通		2				○		
母 子 科 学 領 域		母子看護学特論	64	1 前		2			○		
		母性看護学特論	65	1・2 後		2			○		
		小児看護学特論A	66	1 前		2			○		
		小児看護学特論B	67	1 後		2			○		
		小児看護学特論C	68	1 後		1			○		
		小児看護学特論D	69	2 前		1			○		
		母子看護学演習	70	1 通		2				○	
		母性看護学演習	71	1・2 通		2				○	
		小児看護学演習A	72	1 通		2				○	
		小児看護学演習B	73	1・2 通		2				○	
成 人 科 学 領 域		小児看護学実習I	74	1・2 通		4				○	
		小児看護学実習II	75	1・2 通		2				○	
		成人看護学特論	76	1 前		2			○		
		急性期看護学特論	77	1・2 後		2			○		
		慢性期看護学特論	78	1・2 後		2			○		
		がん看護学特論	79	1・2 後		2			○		
		急性期病態管理学特論	80	1・2 後		2			○		
		クリティカルケア看護学特論	81	1 前		1			○		
		がん看護学・緩和ケア特論	82	1 前		1			○		
	がん看護学・緩和ケア援助特論	83	1 後		1			○			
	腫瘍学特論	84	1 前		2			○			
	病態治療特論	85	1 後		2			○			
	成人看護学演習	86	1 通		2				○		
	急性期看護学演習	87	1・2 通		2				○		
	アド・インスト・フォジカルアセスメント演習	88	1 前		1				○		
	クリティカルケア看護学演習	89	1 通		2				○		
	分 野	慢性期看護学演習	90	1・2 通		2				○	
がん看護学演習I		91	1・2 通		2				○		
がん看護学演習II		92	2 通		2				○		
急性期看護学実習		93	1・2 通		6				○		
がん看護学実習I		94	1 後		2				○		
がん看護学実習II		95	2 通		4				○		
精神看護学特論I		96	1 前		2			○			
精神看護学特論II		97	1・2 後		2			○			
精神看護学特論IV		98	1・2 前		1			○			
精神看護学特論V		99	1 後		2			○			
専 門 科 目	精神看護学特論VI	100	2 前		2			○			
	精神看護学演習I	101	1 通		2				○		
	精神看護学演習III	102	1・2 通		2				○		
	クリティカル精神看護学演習	103	1 後		1				○		
	リハビリテーション精神看護学演習	104	2 前		1				○		
	精神看護学実習I	105	1 後		2				○		
	精神看護学実習II	106	2 通		4				○		
	看護技術学特論I	107	1 前		2			○			
	看護技術学特論II	108	1・2 後		2			○			
	看護技術学演習I	109	1 通		2				○		
看護技術学演習II	110	1・2 通		2				○			
専 門 科 目	看護教育・看護マネジメント学特論	111	1 前		2			○			
	看護教育学特論	112	1・2 後		2			○			
	看護マネジメント学特論	113	1・2 後		2			○			
	看護教育・看護マネジメント学演習	114	1 通		2				○		
	看護教育学演習	115	1・2 通		2				○		
	看護マネジメント学演習	116	1・2 通		2				○		
	特別研究	117	1~2 通		8						
課題研究	118	1~2 通		4							

<博士後期課程>

科目区分	授業科目の名称	シラバス掲載頁	配当年次	単位数			授業形態			修了要件
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
博士後期連携科目	横断型連携特別演習	142	1 通	2				○		2単位
博士後期専門科目	看護学特講	144	1 前	2			○			4単位以上
	看護技術学特別演習	145	1 通		2			○		
	実践看護学特別演習	146	1 通		2			○		
	機能看護学特別演習	147	1 通		2			○		
博士後期研究指導科目	後期特別研究I	150	1 通	2				○		8単位
	後期特別研究II	154	2 通	2				○		
	後期特別研究III	158	3 通	4				○		

② 修了要件

<博士前期課程>

※修士論文コース

区分	必修	選択	自由科目	合計
研究科連携科目	—	4	—	4
専門教育科目	4	20	—	24
専門基礎科目	4	4	—	8
専門科目	—	16	—	16
選択する領域・分野から	—	8	—	8
研究	—	8	—	8
合計	4	26	—	30

※専門看護師コース

区分	必修	選択	自由科目	合計
研究科連携科目	—	4	—	4
専門教育科目	4	24	—	28
専門基礎科目	4	4	—	8
専門科目	—	20	—	20
選択する領域・分野から	—	16	—	16
研究	—	4	—	4
合計	4	30	—	34

<博士後期課程>

区分	必修科目	選択科目	自由科目	合計
博士後期連携科目	2	-	-	2
博士後期専門科目	2	2	-	4
博士後期研究指導科目	8	-	-	8
合計	12	2	-	14

3) 教育活動

<博士前期課程>

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
国際関係特論	講義・30時間	1・2年次前期	◎スーディ神崎和代 城間 祥之 石井 雅博 大野 夏代 ★玉城 英彦
少子高齢社会特論	講義・30時間	1・2年次前期	原 俊彦
健康福祉政策特論	講義・30時間	1・2年次後期	◎山本 勝則 ★大久保 一郎
地域経済政策特論	講義・30時間	1・2年次後期	★佐藤 孝一
ヒューマニティ特論	講義・30時間	1・2年次後期	★藤尾 均
コミュニケーション特論	講義・30時間	1・2年次前期	町田 佳世子
連携プロジェクト演習	演習・30時間	1年次通年	◎内田 雅子 川村 三希子 菊地 ひろみ 村松 真澄 ◎城間 祥之 吉田 和夫 張 浦華 山田 良 片山 めぐみ
看護理論特論	講義・30時間	1年次前期	◎内田 雅子 ★黒田 裕子
看護研究法特論	講義・30時間	1年次前期	◎松浦 和代 内田 雅子
看護倫理学特論	講義・30時間	1年次前期	◎宮崎 みち子 ★今井 道夫 川村 三希子
看護管理学特論	講義・30時間	1年次前期	◎猪股 千代子 中村 恵子
臨床哲学特論	講義・30時間	1年次後期	★尾形 敬次
看護コンサルテーション特論	講義・30時間	1年次後期	◎猪股 千代子 ★藤野 智子
看護専門職教育特論	講義・30時間	1年次前期	定廣 和香子
継続教育特論	講義・30時間	1年次後期	◎★佐藤 紀子 ★中山 登志子
寒冷地生活支援看護学特論	講義・30時間	1年次後期	◎坂倉 恵美子 ★池田 貴夫 ★前沢 政次
家族看護学特論	講義・30時間	1年次後期	◎吉川 由希子 ★柳原 清子
地域生活看護学特論	講義・30時間	1年次前期	◎坂倉 恵美子 スーディ神崎和代 河原田 まり子 山田 典子
老年看護学特論	講義・30時間	1・2年次後期	坂倉 恵美子
在宅看護学特論	講義・30時間	1・2年次後期	スーディ神崎和代
地域看護学特論	講義・30時間	1・2年次後期	◎河原田 まり子 山田 典子
地域生活看護学演習	演習・60時間	1年次通年	◎坂倉 恵美子 スーディ神崎和代 河原田 まり子 菊地 ひろみ 村松 真澄 山田 典子
老年看護学演習	演習・60時間	1・2年次通年	◎村松 真澄 坂倉 恵美子
在宅看護学演習	演習・60時間	1・2年次通年	◎菊地 ひろみ スーディ神崎和代



授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
地域看護学演習	演習・60時間	1・2年次通年	◎山田 典子 河原田 まり子
母子看護学特論	講義・30時間	1年次前期	◎宮崎 みち子 松浦 和代
母性看護学特論	講義・30時間	1・2年次後期	宮崎 みち子
小児看護学特論A	講義・30時間	1年次前期	松浦 和代
小児看護学特論B	講義・30時間	1年次後期	松浦 和代
小児看護学特論C	講義・15時間	1年次後期	松浦 和代
小児看護学特論D	講義・15時間	2年次前期	◎松浦 和代 吉川 由希子
母子看護学演習	演習・60時間	1年次通年	◎松浦 和代 山内 まゆみ 宮崎 みち子 吉川 由希子
母性看護学演習	演習・60時間	1・2年次通年	◎宮崎 みち子 山内 まゆみ
小児看護学演習A	演習・60時間	1年次通年	◎松浦 和代 吉川 由希子
小児看護学演習B	演習・60時間	1・2年次通年	◎吉川 由希子 松浦 和代
小児看護学実習Ⅰ	実習・180時間	1・2年次通年	◎松浦 和代 吉川 由希子
小児看護学実習Ⅱ	実習・90時間	1・2年次通年	◎松浦 和代 吉川 由希子
成人看護学特論	講義・30時間	1年次前期	◎内田 雅子 川村 三希子 中村 恵子
急性期看護学特論	講義・30時間	1・2年次後期	中村 恵子
慢性期看護学特論	講義・30時間	1・2年次後期	内田 雅子
急性期病態管理学特論	講義・30時間	1・2年次後期	◎★田中 秀治 ★浅井 康文 ★山口 芳裕
クリティカルケア看護学特論	講義・15時間	1年次前期	◎中村 恵子 菅原 美樹
がん看護学・緩和ケア特論	講義・15時間	1年次前期	川村 三希子
がん看護学・緩和ケア援助特論	講義・15時間	1年次後期	◎川村 三希子 ★荒尾 晴恵
腫瘍学特論	講義・30時間	1年次前期	★小林 正伸
病態治療学特論	講義・30時間	1年次後期	◎★小林 正伸 ★鈴木 恵士郎 ★小池 和彦
成人看護学演習	演習・60時間	1年次通年	◎内田 雅子 菅原 美樹 中村 恵子 川村 三希子
急性期看護学演習	演習・60時間	1・2年次通年	◎中村 恵子 菅原 美樹 ★平尾 明美 ★藤野 智子
アドバンスト・ フィジカルアセスメント演習	演習・30時間	1年次前期	◎菅原 美樹 中村 恵子
クリティカルケア看護学演習	演習・60時間	1年次通年	◎中村 恵子 菅原 美樹
慢性期看護学演習	演習・60時間	1・2年次通年	内田 雅子
がん看護学演習Ⅰ	演習・60時間	1・2年次通年	川村 三希子
がん看護学演習Ⅱ	演習・60時間	2年次通年	◎川村 三希子 ★田村 恵子
急性期看護学実習	実習・270時間	1・2年次通年	◎中村 恵子 菅原 美樹 ★藤野 智子
がん看護学実習Ⅰ	実習・90時間	1年次後期	川村 三希子
がん看護学実習Ⅱ	実習・180時間	2年次通年	川村 三希子
精神看護学特論Ⅰ	講義・30時間	1年次前期	◎山本 勝則 ★阿保 順子
精神看護学特論Ⅱ	講義・30時間	1・2年次後期	◎山本 勝則 ★藤井 博英
精神看護学特論Ⅳ	講義・15時間	1・2年次前期	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学特論Ⅴ	講義・30時間	1年次後期	◎山本 勝則 ★藤井 博英

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
精神看護学特論Ⅵ	講義・30時間	2年次前期	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学演習Ⅰ	演習・60時間	1年次通年	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学演習Ⅲ	演習・60時間	1・2年次通年	◎山本 勝則 守村 洋
クリティカル精神看護学演習	演習・30時間	1年次後期	◎山本 勝則 守村 洋
リハビリテーション精神看護学演習	演習・30時間	2年次前期	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学実習Ⅰ	実習・90時間	1年次後期	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学実習Ⅱ	実習・180時間	2年次通年	◎山本 勝則 守村 洋
看護技術学特論Ⅰ	講義・30時間	1年次前期	樋之津 淳子
看護技術学特論Ⅱ	講義・30時間	1・2年次後期	樋之津 淳子
看護技術学演習Ⅰ	演習・60時間	1年次通年	◎樋之津 淳子 大野 夏代 ★山内 豊明
看護技術学演習Ⅱ	演習・60時間	1・2年次通年	◎大野 夏代 樋之津 淳子
看護教育・マネジメント学特論	講義・30時間	1年次前期	◎定廣 和香子 猪股 千代子
看護教育学特論	講義・30時間	1・2年次後期	定廣 和香子
看護マネジメント学特論	講義・30時間	1・2年次後期	◎猪股 千代子
看護教育・看護マネジメント学演習	演習・60時間	1年次後期	◎定廣 和香子 猪股 千代子
看護教育学演習	演習・60時間	1・2年次通年	定廣 和香子
看護マネジメント学演習	演習・60時間	1・2年次通年	猪股 千代子
特別研究	演習・240時間	1・2年次通年	◎中村 恵子 内田 雅子 猪股 千代子 川村 三希子 坂倉 恵美子 定廣 和香子 スーディ神崎和代 樋之津 淳子 松浦 和代 宮崎 みち子 山本 勝則 大野 夏代 菊地 ひろみ 菅原 美樹 村松 真澄 守村 洋 山田 典子 吉川 由希子 山内 まゆみ
課題研究	演習・120時間	1・2年次通年	◎中村 恵子 川村 三希子 松浦 和代 山本 勝則 菅原 美樹 守村 洋 吉川 由希子

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

★印：非常勤講師

<博士後期課程>

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
横断型連携特別演習	演習・30時間	1年次通年	◎松浦 和代 中村 恵子 内田 雅子 河原田 まり子 坂倉 恵美子 定廣 和香子 スーディ神崎和代 樋之津 淳子 宮崎 みち子 山本 勝則
看護学特講	講義・30時間	1年次前期	◎中村 恵子 スーディ神崎和代 松浦 和代 河原田 まり子 ★木村 純 ★真田 弘美 ★松下 博宣
看護技術学特別演習	演習・60時間	1年次通年	◎樋之津 淳子 村松 真澄



授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
実践看護学特別演習	演習・60時間	1年次通年	◎山本 勝則 内田 雅子 中村 恵子 坂倉 恵美子 スーディ神崎和代 松浦 和代 宮崎 みち子 菊地 ひろみ 守村 洋 吉川 由希子
機能看護学特別演習	演習・60時間	1年次通年	◎樋之津 淳子 河原田 まり子
後期特別研究Ⅰ	演習・60時間	1年次通年	◎樋之津 淳子 村松 真澄 ◎中村 恵子 内田 雅子 坂倉 恵美子 スーディ神崎和代 山本 勝則 菊地 ひろみ 守村 洋 ◎松浦 和代 宮崎 みち子 ◎定廣 和香子 河原田 まり子
後期特別研究Ⅱ	演習・60時間	2年次通年	◎樋之津 淳子 村松 真澄 ◎中村 恵子 内田 雅子 坂倉 恵美子 スーディ神崎和代 山本 勝則 菊地 ひろみ 守村 洋 ◎松浦 和代 宮崎 みち子 ◎定廣 和香子 河原田 まり子
後期特別研究Ⅲ	演習・120時間	3年次通年	◎樋之津 淳子 村松 真澄 ◎中村 恵子 内田 雅子 坂倉 恵美子 スーディ神崎和代 山本 勝則 菊地 ひろみ 守村 洋 ◎松浦 和代 宮崎 みち子 ◎定廣 和香子 河原田 まり子



7 助産学専攻科

1) 平成25年度時間割

① 前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)								
1	9:00 } 10:30	妊娠期助産 診断・ 技術学		分娩期助産 診断・ 技術学		周産期 ハイリスク 援助論		分娩期助産 診断・ 技術学		産褥期助産 診断・ 技術学	
2	10:40 } 12:10	妊娠期助産 診断・ 技術学		分娩期助産 診断・ 技術学		周産期 ハイリスク 援助論		分娩期助産 診断・ 技術学		産褥期助産 診断・ 技術学	
3	13:10 } 14:40	助産学総論		助産学 フィールド 演習		周産期医学論		乳幼児 支援論		助産管理論	
4	14:50 } 16:20	助産学総論		助産学 フィールド 演習		周産期医学論		乳幼児 支援論			
5	16:30 } 18:00			地域母子 保健論							

※開講曜日時間は週によって変更する場合があります。

② 後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)								
1	9:00 } 10:30	助産学演習									
2	10:40 } 12:10	助産学演習									
3	13:10 } 14:40	助産学課題研究									
4	14:50 } 16:20	助産学課題研究									
5	16:30 } 18:00										

※開講曜日時間は週によって変更する場合があります。

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

区分	授業科目の名称	授業形態	単位数 (全科目:必修)
基礎助産学	助産学総論	講義	2
	周産期医学論	講義	2
	乳幼児支援論	講義	2
	妊娠期助産診断・技術学	演習	1
	分娩期助産診断・技術学	演習	2
	産褥期助産診断・技術学	演習	1
実践助産学	助産学フィールド演習	演習	1
	周産期ハイリスク援助論	演習	1
	地域母子保健論	講義	1
	助産管理論	講義	1
	助産学実習Ⅰ	実習	3
	助産学実習Ⅱ	実習	3
	助産学実習Ⅲ	実習	3
	助産学実習Ⅳ	実習	2
助産学実習Ⅴ	実習	1	
統合助産学	助産学演習	演習	2
	助産学課題研究	演習	2
合計			30

② 修了要件

30単位 (全科目必修)

3) 教育活動

授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
助産学総論	講義・30時間	前期	宮崎 みち子
周産期医学論	講義・30時間	前期	◎★堀本 江美 ★小泉 基生 ★高野 良子 ★唯野 貢司 ★西 基
乳幼児支援論	講義・30時間	前期	◎渡邊 由加利 ★小林 正樹 ★丸山 知子 多賀 昌江
妊娠期助産診断・技術学	演習・30時間	前期	◎山内 まゆみ 多賀 昌江
分娩期助産診断・技術学	演習・60時間	前期	◎渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美 多賀 昌江
産褥期助産診断・技術学	演習・30時間	前期	◎山本 真由美 渡邊 由加利



授業科目	授業形態・時数	年次	担当教員
助産学フィールド演習	演習・30時間	前期	◎山内 まゆみ 山本 真由美 ★有原 友子 ★岡野 ひとみ
周産期ハイリスク援助論	演習・30時間	前期	◎渡邊 由加利 ★平山 恵美 ★荒木 英司 ★鈴木 伸和 ★紅粉 陸男 ★佐野 敬夫 ★服部 司 ★中島 健夫 ★山田 俊
地域母子保健論	講義・15時間	前期	◎宮崎 みち子 ★宮本 まゆみ 大野 夏代
助産管理論	講義・15時間	前期	◎宮崎 みち子 ★荻田 ヒロミ ★浪花 弘美 ★成瀬 恵 ★水野 栄子 中村 恵子
助産学実習Ⅰ	実習・135時間	通年	◎渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美 多賀 昌江 鈴木 ちひろ
助産学実習Ⅱ	実習・135時間	通年	◎渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美 多賀 昌江 鈴木 ちひろ
助産学実習Ⅲ	実習・135時間	通年	◎山内 まゆみ 山本 真由美 渡邊 由加利 多賀 昌江 鈴木 ちひろ
助産学実習Ⅳ	実習・90時間	後期	◎渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美 多賀 昌江 宮崎 みち子 鈴木 ちひろ ★橋詰 智子 ★成瀬 恵
助産学実習Ⅴ	実習・45時間	後期	◎山本 真由美 山内 まゆみ 渡邊 由加利 多賀 昌江 宮崎 みち子 鈴木 ちひろ
助産学演習	演習・60時間	通年	◎宮崎 みち子 羽深 久夫 渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美 多賀 昌江
助産学課題研究	演習・60時間	通年	◎宮崎 みち子 渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）
★印：非常勤講師

4) 実習概要

※機関種別

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数（名）
助産学実習	平成25年6月3日～ 平成26年2月28日	医療機関	775
	平成25年7月1日～ 12月27日	母子健康センター	16



8 デザインと看護の連携教育

「デザイン」・「看護」という、一見異なる学部の学生たちが、共に学ぶことが札幌市立大学の特色である。常識にとらわれない多彩なカリキュラムと自由な雰囲気での授業で、地域社会に根ざした豊かな人間性と柔軟な感性を育む。

1年次前期「スタートアップ演習」（共通教育科目）では、「デザインと看護の連携」をテーマに、大講義室での合同講義や少人数編成によるグループ活動を通じ、コミュニケーション能力を高める。また、異分野同士が協力して何かを作り出す体験をすることで、主体的に勉学・研究を進めるための基礎的な学習方法や課題解決の手法などを学ぶ。

平成25年度（2013年度）「スタートアップ演習」

テーマ	チーム名
SHOKUHO -より快適で人にやさしい札幌駅前通りづくり-	しょこらまかるん
愛と夢(アトム)ワールド -誰もが住みやすく、家族みんなが幸せになる街-	愛と夢(アトム)
MAP OF JE	時をススメたいっちゃん!
着れるんです! -災害時に衣服になる避難バッグのデザイン-	吉田モッキンバー井
シルバーニア 団塊世代の夢の職業を核にした地域再生センター	ほうれん草
みそば	スカイウェイ走り隊
楽院~らくえん~	三カ所
住まーとタウン・密	ネバネバ~ヘッドホン
Are You Happy ? ~満足度を認識するためのゲーム~	すびりちゅあるくまもん
ストレスレス	伊右衛law門key

3年次後期「学部連携演習」（専門教育科目）では、スタートアップ演習から2年を経て、基本的な専門教育の上に、相互の専門性を尊重し合い、それぞれがデザイン・看護の専門家として積極的に取り組む姿勢を身につける。少人数グループで、デザイン・看護相互に関わりのあるテーマや課題について、毎年共通テーマを設定し、相互の学生が共同・協力しながら、課題発見・解決に取り組む。

平成25年度（2013年度）「学部連携演習」

テーマ	チーム名
オリンピック施設の再生 ~真駒内セキスイハイムアイスアリーナを南区のランドマークへ~	やまちゃんファミリー
死への不安を軽減する終活	今日は私の誕生日
定山溪さんぽ未知との遭遇	チームからあげ

テーマ	チーム名
石山商店街いきいきプロジェクト ターゲット別マップ付きエコバックの提案	右手に剣を左手に剣を ～攻めの汗だくだく連携～
まこまない遊歩林道	ひげちゃびん
ねんりん広場 退職後のいきいき空間の提案	おれもお前も族
南区に“芸術の森鉄道”を通す	芸鉄
みなみらくる	C L S ～官能と理性のかつてない融合～
みなみの畑	サウ酢ビネガーズ
南区きんりんピック 地域スポーツ大会による真駒内地域活性化の提案	D × Npic



9 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業（産業界ニーズGP）

1) 概要

文部科学省補助事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」について、本学を含む北海道・東北ブロックの17校が平成24年度から平成26年度までの3ヵ年事業として採択された。当ブロック協同テーマ「産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成」を基に、3つの取組テーマ、①『企業構造・地域課題を踏まえた教育内容の評価と改善』②『産業界と大学のニーズを踏まえたインターンシップの実施』③『早い段階から「将来目標」「社会・企業」を意識させる正課外取組』に基づき、本学では下記の実施体制の下実施した。

2) 実施体制

【全体会議】

①GP推進会議、②広報部門、③評価部門、④FD部門

【学部内会議】

デザイン学部

①早期キャリア教育班、②ワークショップ型インターンシップ班、
③ポートフォリオ班、④キャリアデータベース班、⑤地域キャリア連携班

看護学部

①実務家教員導入班、②往還型（シャトル）研修班、
③ポートフォリオ班、④キャリアデータベース班、⑤地域キャリア連携班

3) 「産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成」平成25年度の主な事業実績

年月日	事業実績	部門・班	
平成25年4月1日	SCU 看護キャリアデータベースマニュアル第3版発行（学生用・教員用）	看護学部	キャリアデータベース班
平成25年5月15日	「大学と病院連携協力意見交換会」開催（参加者41名）	看護学部	地域キャリア連携班
平成25年5月21日	新入生対象キャリアデータベース講習会（参加者101名）	看護学部	キャリアデータベース班
平成25年6月5日	1年次生対象キャリアガイダンス「人生設計図を書く」開催。（講師：大坂靖彦氏－非営利株式会社ビッグ・エスインターナショナル社長）（参加者43名）	デザイン学部	早期キャリア教育班
平成25年6月10日	キャリアデータベースFD研修会開催（参加者13名）	看護学部	キャリアデータベース班
平成25年7月3日	看護学部臨地教授称号授与式（参加者14名）	看護学部	実務家教員導入班
平成25年7月18日	第1回往還型（シャトル）研修（札幌会場）「お元気ですか？へこんでませんか？」（参加者31名）	看護学部	往還型研修班
平成25年7月19日	第1回往還型（シャトル）研修（東京会場）「お元気ですか？へこんでませんか？」（参加者9名）	看護学部	往還型研修班



平成25年7月23日	「OB・OG 講演会&ワークショップ」開催（講師:OB・OG6名）（参加者 70名）	デザイン学部	ワークショップ型インターンシップ班・ポートフォリオ班・キャリアデータベース班
平成25年7月31日	ポートフォリオ講習会「臨床での新人看護職員育成におけるポートフォリオ活用の実際について」開催。（講師:宮崎隆氏-東京都立小児総合医療センター看護部看護担当科長）（参加者 52名）	看護学部	ポートフォリオ班
平成25年8月28日	「コンソーシアムモデル構築に向けた討論会(1)」開催（参加者 22名）	看護学部	地域キャリア連携班
平成25年10月1日	1・2年次生対象 JointMeeting 開催（参加者 21名）	看護学部	ポートフォリオ班
平成25年10月5日	第2回往還型（シャトル）研修（札幌会場）「自分らしくキャリアアップ！みつけよう、私の看護師キャリア」（参加者 14名）	看護学部	往還型研修班
平成25年10月23日	3・4年次生対象 JointMeeting 開催（参加者 10名）	看護学部	ポートフォリオ班
平成25年10月28日	専門家の経験を生かしたワークショップ「表現者になることー社会的実践とキャリアパス」開催（講師:メディアアーティスト クワクボ・リョウタ氏）（参加者 59名）	デザイン学部	ワークショップ型インターンシップ班・ポートフォリオ班・キャリアデータベース班
平成25年10月29日	地域の若手従事者を交えたワークショップ「表現者になることー社会的実践とキャリアパス」開催（講師:メディアアーティスト クワクボ・リョウタ氏）（参加者 59名）	デザイン学部	ワークショップ型インターンシップ班・ポートフォリオ班・キャリアデータベース班
平成25年11月14日	第3回往還型（シャトル）研修（札幌会場）「若手看護職員のためのキャリアアップ(1)」（参加者 6名）	看護学部	往還型研修班
平成25年11月14日	第4回往還型（シャトル）研修（札幌会場）「若手看護職員のためのキャリアアップ(2)」（参加者 6名）	看護学部	往還型研修班
平成25年11月15日	第3回往還型（シャトル）研修（東京会場）「若手看護職員のためのキャリアアップ(1)」（参加者 6名）	看護学部	往還型研修班
平成25年11月15日	第4回往還型（シャトル）研修（東京会場）「若手看護職員のためのキャリアアップ(2)」（参加者 5名）	看護学部	往還型研修班



平成25年11月20日	FD研修会「金沢工業大学の初年次からのキャリアデザインとアクテオブラーニング-自ら考え行動する技術者・社会人の要請プログラムとその仕掛け-」開催(講師:藤本元啓氏-金沢工業大学 教授)(参加者66名)	デザイン学部・看護学部	地域キャリア連携班
平成25年11月25日	専門家の経験を生かしたワークショップ「今、注目される“デザイン”について」開催(講師:河村玲永子氏-三菱電機(株))(参加者33名)	デザイン学部	ワークショップ型インターンシップ班・ポートフォリオ班・キャリアデータベース班
平成25年12月9日	「コンソーシアムモデル構築に向けた討論会(2)」開催(参加者25名)	看護学部	地域キャリア連携班
平成25年12月20日	ポートフォリオ作成指導講習会(講師:佐川崇氏-(株)東芝デザインセンター)(参加者22名)	デザイン学部	ポートフォリオ班
平成26年1月16日	パンフレット・リーフレット・ポスター制作	全学	広報部門
平成26年1月20日	講演会「猪子寿之からのメッセージ」開催(講師:猪子寿之氏-チームラボ(株)代表取締役社長)(参加者53名)	デザイン学部	早期キャリア教育班
平成26年2月27日 ~3月14日	卒業前スキルアップトレーニング(参加学生62名、卒業生インストラクター市内9施設33名)	看護学部	往還型研修班
平成26年3月4日	臨地実習指導者会議シンポジウム「実務家教員と大学教員との連携教育の可能性」開催	看護学部	実務家教員導入班
平成26年3月4日~5日	地域の若手従事者を交えたワークショップ「新たな価値を生む仕事のデザイン」「ビジュアル思考のワークショップ」開催(講師:尾形慎哉氏-(株)グラグリッド代表取締役、三澤直加氏-(株)グラグリッド取締役)(参加者29人)	デザイン学部	ワークショップ型インターンシップ班・ポートフォリオ班・キャリアデータベース班
平成25年3月8日	公開フォーラム(成果報告会)開催(参加者76名)	全学	広報部門
平成26年3月14日	4年次生対象説明会「キャリアポートフォリオのすすめ」開催	看護学部	ポートフォリオ班
平成26年3月31日	キャリアデータベース機能追加	看護学部	キャリアデータベース班



Ⅲ 研究活動

1 個人研究費による研究一覧

デザイン学部

教員名	研究課題
蓮見 孝	デザインと看護の連携によるウェルネス科学の推進
酒井 正幸	ユニバーサルデザイン研究 動物園のランドデザイン
城間 祥之	デザインの価値創造とその評価方法に関する研究 —パッケージデザインの印象評価を対象として—
中原 宏	地域の多様性とコミュニティデザインに関する研究 —路地空間の視点から—
原田 昭	札幌市立大学の国際関係事業の展開と、産学公連携事業の展開
小西 敏正	北海道における構法の地域特性
石井 雅博	視覚認知に関する研究
石崎 友紀	工学的性能・審美的性能・情緒的性能の相対的な考察 道具学の探求 地域様式デザイン探求 造形教育
上遠野 敏	現代美術創作研究 同時代の美術研究 日本の美意識研究
齋藤 利明	オールビスクによる創作人形制作研究と人形を主体とした空間演出
杉 哲夫	北国におけるプロダクトデザイン事例研究およびデザイン開発
武邑 光裕	都市のメディア化とフェスティバル経済
羽深 久夫	北海道における歴史的建造物の保存・再生・活用 米国・東欧・北欧及び東アジア(韓国・台湾)における木造建築の保存・再生・活用 日本および世界における医療施設・福祉施設の調査 世界の高等教育機関における建築教育調査と相互交流
原 俊彦	ドイツと日本における無子の増加に関する研究 超少子高齢化・人口減少社会に対応した社会保障システムのデザイン 地域社会の人口減少・少子高齢化に対する施策の研究
細谷 多聞	視覚的環境情報の電子化とその活用に関する研究
望月 澄人	C G 作品、アニメーション・実写合成映像の制作
矢部 和夫	地域の湿原やその他の生態系における生物多様性の保全・再生と創出に関する研究
吉田 和夫	組織活性化におけるVI(ビジュアル・アイデンティティ)の役割とその生成について
吉田 恵介	ランドスケープデザインをベースにしたコミュニティデザイン手法によるエリアマネージメントの可能性について
柿山 浩一郎	講義内容改善を目的とした、学生からの講義に対する意見収集システムの開発



教員名	研究課題
齊藤 雅也	北方型住宅の温熱快適性と人体エクセルギー消費
武田 亘明	クリエイティブ人材育成のための実践的学びの場のデザイン
張 浦華	形態の感性評価の相関要因に関する研究
町田 佳世子	コミュニケーション能力の構造と評価方法の研究 「伝えるコミュニケーション」に関する研究
山田 良	環境デザイン(環境芸術・ランドスケープデザイン)の地域に果たす役割に関する研究
石田 勝也	サウンドアンドビジュアルを使用した空間的創造性の構築 コンテンツ産業における地域プロモーションの研究
上田 裕文	風景イメージスケッチ手法を用いた風景計画に関する研究
大淵 一博	デザイン学習者向け教材の開発と教育効果測定に関する研究
片山 めぐみ	屋内展示を主とした積雪寒冷地の動物園デザインのあり方
小宮 加容子	子どもを対象にした身体・認知の発達に適した魅力あるデザインに関する研究
杉本 達應	情報の視覚化に関する技術調査と教材開発
福田 大年	ワークショップの活動を基盤としたアイデア発想能力の向上におけるスケッチを活かしたプロトタイプングの可能性に関する基礎的研究
松井 美穂	アメリカ南部文学研究、モダニズム文学研究
三谷 篤史	メカトロ積木の多様化を目的としたパーツの汎用化についての検討
金子 晋也	木造建築の構法に関する研究
須之内 元洋	オンライン音響編集プラットフォームを活用したサウンドスケープ活動の展開、及び音響パターン認識技術の研究
長谷川 聡	人の行為を誘引する製品・空間に関する研究

看護学部

教員名	研究課題
中村 恵子	大学院教育における高度実践看護に関する研究
樋之津 淳子	看護基礎教育と臨床教育をつなぐ卒業研修プログラムの開発と評価
スーディ神崎 和代	ICT を用いた遠隔看護(E-KANGO)に関する研究 認知症と環境に関する研究:センサーガーデン
宮崎 みち子	胎児の生きる権利に関する研究
猪股 千代子	地域で暮らす難病患者の生を支える全人的統合医療ケアリングプログラムの研究
内田 雅子	慢性期看護 事例研究法 看護職キャリア形成プロセス
河原田 まり子	ソーシャル・キャピタルを活用した公衆衛生看護活動の推進
川村 三希子	認知症を伴うがん患者の看護の課題に関する研究



教員名	研究課題
坂倉 恵美子	積雪寒冷地地域高齢者の生活の実態と主観的幸福の関連
定廣 和香子	看護学実習における医療事故防止に向けた教授活動自己評価尺度の開発
松浦 和代	低学年児童の基礎活動力を高める転倒予防マットレスの開発と運動プログラムへの適用
山本 勝則	精神看護学におけるシミュレーション教育
大野 夏代	マッサージなど看護技術や統合医療に関する研究 国際的活動の計画や評価に関する研究 往還型研修、スキルアップトレーニング等、キャリア支援に関する研究
貝谷 敏子	Cost-effectiveness of conservative sharp wound debridement for pressure ulcers offered by wound, ostomy and continence nurses: A propensity score matching analysis.
菊地 ひろみ	神経難病療養者のQOL に対する心理社会的介入の有効性に関する基礎的研究
清水 光子	都市に暮らす高齢者のソーシャル・キャピタルの実態と今後の地域保健福祉活動 継続的に養育支援が必要な家族への保健師の援助の実際
菅原 美樹	高度実践看護師のシミュレーション教育と評価に関する文献検討と視察による調査
村松 真澄	介護保険施設における口腔ケアに関する看護管理的取り組みの介入が対象者(入院、入所者)の心身に及ぼす影響に関する調査
守村 洋	メンタルヘルスに関する研究(主として精神障害セルフヘルプ・グループへの地域生活支援および自殺予防に関する研究)
山田 典子	セーフティプロモーション(SP)/セーフコミュニティ(SC)に関する外傷予防活動
吉川 由希子	北海道における在宅で医療的ケアを受けている小児と家族を支えるシステムについて
太田 晴美	災害看護に取り組む看護師支援に関するアクションリサーチ
神島 滋子	高次脳機能障害患者・家族の生活の実態と生活上の工夫について
櫻井 繭子	産業保健に関わるシステムに関する研究
田中 広美	基礎看護技術の教授活動に関する研究
原井 美佳	前期高齢者である女性の加齢に伴う尿失禁のリスク要因の解明 高齢女性の通常歩行時に身体が受ける振動と老年症候群との関連についての検討
藤井 瑞恵	成人看護学領域における臨床とのユニフィケーション - 中小規模病院教育担当者・学生・教員にとっての効果 -
三上 智子	小児看護学OSCE における新たな課題の検討
山内 まゆみ	助産学専攻科自己学習用教材の作成の試み 学生へのグループインタビューから、看護学部ポートフォリオプロジェクトの現状の課題と改善点を明らかにする 助産学OSCE の成果と課題 助産学専攻科生を対象にした「私はこんな助産師になるぞ、プロジェクト」2013 の評価と課題
山本 真由美	助産師に求められる実践能力の強化-助産師外来を開設して- 客観的臨床能力試験(OSCE)を用いた母性看護学に必要な技術修得状況の把握と到達度を高めるための課題
渡邊 由加利	助産学客観的臨床能力試験(OSCE)における教員評価と学生自己評価の相違



教員名	研究課題
工藤 京子	呼吸機能障害患者・家族、酸素業者の災害避難に対する意識と取り組み
多賀 昌江	死産児出産の悲しみを癒す棺の感性デザインに関する研究
田仲 里江	地域保健分野におけるソーシャル・キャピタルに関する研究
坂東 奈穂美	看護師と看護補助者のケア協働システム構築への取り組み －看護補助者の協働の現状と抱えている課題－ シミュレーションモデルを用いた注射の研究
檜山 明子	入院患者に対する転倒予防対策に関する研究
小田嶋 裕輝	2型糖尿病患者の首尾一貫感を高めるための支援方法の検討 －文献検討と質的帰納的研究からの示唆－
柏倉 大作	周手術期における患者の栄養状態と術後合併症の関連および看護ケアプログラムの構築 注射技術取得のためのシミュレーション教育(仮題)
鈴木 ちひろ	月経前症候群の症状が夜勤に従事する看護職者に与える影響
御厩 美登里	在宅死を促進する要因に関する研究 訪問看護師の職務継続意向に関連する要因
星 幸江	精神科長期入院患者の退院支援の実態と地域における支援の可能性
横川 亜希子	医療事故を克服した看護師の経験に関する研究－就職後1年以内に医療事故の当事者となった看護師に焦点を当てて－



2 学内公募研究課題一覧

学術奨励研究

教員名	研究課題
片山 めぐみ	「地域おこし協力隊」を通してみた農村居住におけるウェルネスモデルの検討
小宮 加容子	「散剤に適した子どもの服用動作分析および処方薬分袋のデザイン提案－識別性、視認性の検証－」
杉本 達慶	デジタルワークショップのモバイルアプリケーション開発研究
松井 美穂	ウィリアム・フォークナーの作品と黒人文化
渡邊 由加利	妊娠期にある夫婦の夫婦間の情緒的関係を維持・促進するためのコミュニケーション支援プログラムの開発
小田嶋 裕輝	2型糖尿病患者のストレス対処能力を高めるための支援方法の検討－文献検討と質的帰納的研究からの示唆－
鈴木 ちひろ	「月経前症候群の症状が夜勤に従事する看護師・助産師に与える影響」

共同研究

教員名	研究課題
◎杉 哲夫	生ごみ水切り器具のデザイン研究
◎張 浦華 三谷 篤史	短期型国際合同ワークショップの実施とその教育効果
◎山田 良	"北方圏都市のまちづくりにおける環境芸術の役割と可能性 －札幌市、ノボシビルスク市の屋外公共空間での作品展開催を通じて－"
◎大淵 一博 内田 雅子 清水 光子 多賀 昌江 檜山 明子	タブレット型端末を活用した看護O S C E運営・評価支援システムの開発と検証
◎三谷 篤史 松浦 和代	木の感性性能を生かしたメカトロ積木の多機能化を目的とした積木パーツの改良と遊びのデザイン
◎川村 三希子 菊地 ひろみ 上田 裕文	広域積雪地域における緩和ケア普及のためのアクションリサーチ
◎菊池 ひろみ スーディ神崎和代 柿山 浩一郎 福田 大年	E-KANGO のサービス付き高齢者向け住宅入居者の健康モニタリングに対する応用
◎守村 洋 杉 哲夫 山本 勝則	"統合失調症者の親が感じる困難と求める支援 ～障害の有無に関わらず、誰もが安心して生きられるまちづくり～"
◎田中 広美 杉 哲夫 樋之津 淳子 原井 美佳 檜山 明子	車椅子移乗の自立支援に向けたスライディングボードの作製と検証

◎印：代表者

田村ICT基金

教員名	研究課題
◎細谷 多聞	遠隔現実を活用した移動体験を支援する機器の開発

◎印：代表者

採択状況

学術奨励研究		共同研究		田村 ICT 基金		合計	
応募件数	採択件数	応募件数	採択件数	応募件数	採択件数	応募件数	採択件数
9	7	17	9	1	1	27	17



3 学外からの研究費、研究補助金などの受入状況

科学研究費助成事業(科研費)

研究代表者	研究課題	研究種目	金額(円)
定廣 和香子	看護学実習中の医療事故回避に向けた教授活動自己評価尺度の開発—実習安全FDの実現	基盤研究(C)	1,040,000
町田 佳世子	動物園を舞台とした教育・啓蒙活動における専門的実践家の役割とその効果の解明	基盤研究(C)	910,000
原 俊彦	札幌市における配偶関係別移動率の解明	基盤研究(C)	650,000
三谷 篤史	異方性エッチング加工による非対称微細構造表面におけるトライボロジ特性の解明	基盤研究(C)	1,560,000
太田 晴美	災害看護に取り組む看護師支援に関するアクションリサーチ	基盤研究(C)	1,040,000
山内 まゆみ	現職助産師の業務実態を背景とした看護系大学による卒後研修教育プランの開発	基盤研究(C)	780,000
宮崎 みち子	助産学専攻科における客観的臨床能力試験(O S C E)を用いた教育プログラムの開発	基盤研究(C)	910,000
菊地 ひろみ	看護系大学の在宅看護分野における看護技術教育の到達度と方法の明確化	基盤研究(C)	1,950,000
齊藤 雅也	小学児童の夏・冬の閾値温度の地域比較研究	基盤研究(C)	1,560,000
松浦 和代	低学年児童の基礎活動力を高める転倒予防マットレスの開発と運動プログラムへの適用	基盤研究(C)	2,210,000
矢部 和夫	低地泥炭湿原の群落の景観と種組成における地理的変異の把握とその生成機構の解明	基盤研究(C)	1,950,000
藤井 瑞恵	地域一般住民のアルコール摂取量とアディポカイトサイン、生活習慣病リスクとの関係	基盤研究(C)	1,820,000
村松 真澄	介護保険施設において実践されている口腔ケアに関する看護管理的取り組みの実態調査	基盤研究(C)	1,170,000
小宮 加容子	散剤に適した子どもの服用動作分析および処方薬分包袋のデザイン提案	基盤研究(C)	2,860,000
羽深 久夫	明治期以降の北海道における枠内構法の民家の歴史的展開過程	基盤研究(C)	2,990,000
工藤 京子	北海道における患者を主体とした自助行動としてのHOT患者災害時避難システム	基盤研究(C)	1,560,000
菅原 美樹	高度実践看護師の臨床推論・判断能力を強化するシミュレーション教育プログラムの開発	基盤研究(C)	2,340,000
河原田 まり子	地域保健活動評価のためのソーシャル・キャピタル測定尺度の開発	基盤研究(C)	2,080,000
清水 光子	都市に暮らす高齢者のソーシャル・キャピタルの実態と今後の地域保健福祉活動	基盤研究(C)	650,000
貝谷 敏子	看護経済学の構築に向けた基盤研究—褥瘡患者立脚型QOL評価指標の開発—	基盤研究(C)	1,690,000
山田 典子	外傷サーベイランスが現場にもたらす課題とシミュレータを用いたスタッフ育成	挑戦的萌芽	1,170,000



研究代表者	研究課題	研究種目	金額(円)
片山 めぐみ	高齢者福祉に対する子どもの感性を育む地域コミュニティ：幼老複合施設の新しい試み	若手研究 (B)	650,000
檜山 明子	「疼痛アセスメント能力自己評価尺度－精神科看護師用－」の開発	若手研究 (B)	910,000

※課題番号順

科学研究費助成事業基盤研究A(科研A)

研究代表者	研究課題	研究種目	金額(円)
蓮見 孝	タイム・スペースシェアリング型地域連携による地域創成デザイン研究	基盤研究 (A)	22,360,000

①概要

本研究は、地方市町村と大都市の双方における暮らしの質の維持、および魅力創出のための手法の構築を目的とするものです。

地域衰退の先行事例となる可能性のある北海道地域の地方市町村と大都市を対象に、定量的な調査分析を行い、それぞれの魅力と課題を明らかにします。この分析結果を踏まえ、アート&デザインを核に地方市町村と大都市を相補・連携させる「タイム・スペースシェアリング(略称 TSS)」手法による地域創成活動の実証実験を行うことを核としています。また、「暮らしの満足度(ウェルネスデザイン)」評価によってこの実証実験の効果検証を行いません。さらに、地域創成のための社会・文化・経済的支援に関する学問領域を「地域創成デザイン学」と名付けて体系化し、関連教育プログラム構築・実践をめざします。

平成 25 年度は、北海道 札幌市の中央区・南区、三笠市、寿都郡寿都町、虻田郡喜茂別町、沙流郡平取町で TSS の仮説構築を目的とした活動を行いました。また、道外先進事例として高知県津野町、徳島県神山町および上勝町の視察調査を実施しました。これらの活動を通じ、アート&デザインの持つ 4 つの力と、地域創成のキーとなる 4 つの要素で構成される地域創成の枠組みを仮説として構築いたしました。平成 26 年度以降は実証実験を通じての本仮説の検証が課題となります。

②実施体制

研究代表者：蓮見 孝

研究分担者：酒井 正幸、城間 祥之、中原 宏、上遠野 敏、原 俊彦、石井 雅博、齊藤 雅也、山田 良、柿山 浩一郎、上田 裕文、片山 めぐみ

③研究組織

統括、大都市(札幌市)の魅力分析班、過疎市町村の魅力分析班、地域創成先行事例分析班、暮らし満足度定量化手法班、事務局

④主な事業実績

年月日	事業実績
平成25年6月10日～9月30日	グリーンカーテン栽培による「まちの TSS デザイン」(参加者：30 名)
平成25年8月24日・25日 ～9月7日	寿都町：風ぐるまアートプロジェクト(参加者：約 20 名)
平成25年9月2日～5日・ 12月26日～27日・ 3月2日・3日	平取町：鹿革商品開発プロジェクト(のべ参加者：約 50 名)
平成25年9月8日・15日～16日	ミライサイクルプロジェクト—自転車 day にて出展した空間作品群(参加者：約 120 名)
平成25年9月15日～17日	新潟県十日町市、津南町(大地の芸術祭の里、アートプロジェクトによる地域づくり)の視察(参加者：1 名)
平成25年9月21日～29日	小樽アートプロジェクト(調査部門)(来場者：約 450 名)



平成25年9月21日・10月14日・19日・11月3日	奔別アートプロジェクト 2013 来場者への意識調査実施（調査対象者：約 60 名）
平成25年9月26日・27日	福岡県 東峰村（観光まちづくりによる着地型観光の先進地域）との情報交換（のべ参加者：約 30 名）
平成25年11月1日～4日	徳島県那賀町 isa 環境芸術会議 杜舞台アートプロジェクト（視察）
平成25年11月16日	「喜茂別だより・寿都だより」弁当 喜茂別町の食材、資源さがしワークショップ実施（参加者：23 名）
平成25年11月23日	「喜茂別だより・寿都だより」弁当 寿都町の食材、資源さがしワークショップ実施（参加者：23 名）
平成25年11月30日～12月3日	徳島県 神山町（移住人口の増加、過疎地域と都市との共生の取り組み）、上勝町（地域資源を活用した「葉っぱビジネス」）との情報交換（のべ参加者：約 20 名）
平成25年12月2日・3日	高知県 津野町（廃校利用の宿泊施設「森の巣箱」にみる住民主体の集落活性化／他）との情報交換（のべ参加者：約 30 名）
平成25年12月	ホームページ作成
平成25年12月16日 ～平成26年1月31日	魅力発見大規模調査（回答者：1,189 名）
平成26年3月2日	「井戸端寺子屋会議 in 平取」（参加者：約 45 名）

受託研究費

研究代表者	研究課題	受託元	金額(円)
石井 雅博	共生社会に向けた人間調和型情報技術の構築	(独) 科学技術振興機構	5,720,000
上田 裕文	寿都町におけるブルーツーリズムと中間支援組織に関する調査研究	寿都町	1,200,000
片山 めぐみ	寿都町におけるコミュニティ・レストランを拠点としたソーシャル・キャピタル醸成のアクションリサーチ	寿都町	1,200,000
松浦 和代	学校保健に関する健康教育導入へ向けての基礎調査	(公財)札幌がんセミナー	777,777
齊藤 雅也	積雪寒冷地におけるゾウ舎のデザイン研究	札幌市(環境局)	1,500,000
吉田 恵介	芸術文化導入によるまちづくりに関する研究	美瑛町	3,000,000
吉田 恵介	憩ヶ森公園整備設計に関する研究	美瑛町	7,990,500
羽深 久夫	仮称札幌市障がい児(者)医療・福祉複合施設整備に係る障がい児等への療育環境向上のためのデザイン、看護双方向の視点による研究	札幌市(保健福祉局)	2,700,000
酒井 正幸	新ホッキョクグマ・アザラシ舎の観覧満足度向上に係るデザイン研究	札幌市(環境局)	1,000,000
片山 めぐみ	喜茂別町における「交流ハウス」のデザインと住民主体のまちづくり促進に関するアクションリサーチ	喜茂別町	1,480,500
福田 大年	北海道の風土と文化にちなんだ色と言葉の選定に関する調査研究	(株)マーケティング・コミュニケーション・エルグ	1,000,000
福田 大年 小宮 加容子	子どもの能動的参加を促し、遊び場を構築する道具や手法に関する基礎的研究	札幌市(市長政策室)	1,428,000
矢部 和夫	円山動物園の森ビオトープの生物多様性向上のための研究	札幌市(環境局)	500,000



研究代表者	研究課題	受託元	金額(円)
吉田 和夫	ユニバーサルデザイン視点からの動物園のサイン計画研究 - 西門周辺アプローチの誘導サイン -	札幌市(環境局)	500,000
齊藤 雅也	アフリカに生息する動物の展示デザインと動物舎のエネルギー・マネジメントに関する研究	札幌市(環境局)	1,000,000
齊藤 雅也	札幌市の全住宅の熱需要MAP作成と札幌市南区真駒内での「次世代コミュニティ暖房」の検討	札幌市(市長政策室)	1,445,850
吉田 恵介	札幌国際芸術祭 2014 都市緑化プロジェクトに関する調査・研究業務	札幌市(観光文化局)	1,480,500
齊藤 雅也	大規模複合商業施設における商学連携による地域向け住環境教育のデザイン研究	(株)札幌副都心開発公社	1,000,000

4 寄附金の受入状況

教員名	寄附目的	寄附元	金額(円)
矢部 和夫	釧路湿原生態系保全に関する研究のため	環境コンサルタント(株)	500,000
	ウトナイ湖の水位変化が北西岸湿地のハンノキ林や他の群落の分布に与える影響の評価に対する研究助成	(公財)リバーフロント研究所	800,000
中村 恵子	教育を基にした人材育成のための支援 看護教育の促進強化	(医)徳州会 札幌徳州会病院	240,000
		(医)溪仁会 手稲溪仁会病院	150,000
	看護研究の促進及び看護の質の向上のため	北海道勤労者医療協会	350,000
		JA 北海道厚生連札幌厚生病院	210,000
三谷 篤史	ゴム銃の社会的認知度とデザイン性水準の向上に貢献する	森下 大	60,000
	若いブランディング提案が可能なデザイナーの育成	(株)コーポレーション・ミヤ	50,000

5 その他研究助成

教員名	寄附目的	寄附元	金額(円)
三谷 篤史	操作により反応が変わるメカトロ積み木作業療法への応用	(公財)北海道科学技術総合振興センター	2,000,000
スーディ神崎 和代	「E-KANGO を応用した集合住宅居住者用健康管理システムの検証」	(公財)北海道科学技術総合振興センター	4,000,000



6 海外出張記録

期間	教員名	目的国	目的
平成25年4月19日 ～4月23日	三谷 篤史	シンガポール	国際学会 ICMMA2013への参加および発表
平成25年5月9日 ～5月17日	石井 雅博	アメリカ	Vision Sciences Society 13th Annual Meeting 参加、研究成果発表及び資料収集
平成25年5月17日 ～5月21日	張 浦華	台湾	2013 Global Chinese Industrial Design Forum and Conference 出席及び研究発表
平成25年5月17日 ～5月23日	宮崎 みち子	オーストラリア	国際看護師協会第25回4年毎大会参加
平成25年6月8日 ～6月16日	酒井 正幸	イギリス、アイルランド、デンマーク、ドイツ	札幌市円山動物園におけるゾウ導入準備のための視察調査
平成25年6月8日 ～6月16日	福田 大年	イギリス、アイルランド、デンマーク、ドイツ	札幌市円山動物園におけるゾウ導入準備のための視察調査
平成25年6月8日 ～6月21日	齊藤 雅也	イギリス、アイルランド、デンマーク、ドイツ、チェコ	札幌市円山動物園におけるゾウ導入準備のための視察調査、国際会議 CLIMA2013学会発表
平成25年6月9日 ～6月17日	杉本 達應	アメリカ	WWDC 2013 参加、エクスプロラトリウム見学
平成25年6月15日 ～6月21日	村松 真澄	フランス	研究の成果交流及び高齢者施設・病院等の口腔ケアの実施状況の視察
平成25年6月22日 ～6月25日	片山 めぐみ	韓国	第20回国際老年学会ソウル大会での研究発表
平成25年7月7日 ～7月14日	三谷 篤史	オーストラリア	国際会議 AIM2013への参加・発表
平成25年7月21日 ～7月28日	定廣 和香子	チェコ	国際学会発表(シグマ・シータ・タウ・インターナショナル)
平成25年7月30日 ～8月5日	須之内 元洋	スウェーデン	国際会議(SMAC/SMC 2013)発表
平成25年8月25日 ～9月1日	片山 めぐみ	アメリカ	縁側サービスに関する調査(シカゴの Mather's Café にて調査)
平成25年8月26日 ～8月31日	原 俊彦	韓国	IPC(International Population Conference) 参加
平成25年9月6日 ～9月15日	三谷 篤史	イタリア	国際学会 World Tribology Congress 2013 (WTC2013) への参加, 発表
平成25年9月6日 ～9月24日	武邑 光裕	オランダ、フランス、ドイツ、イタリア	欧州創造都市事例調査、ユネスコ Creative Cities Network 総会出席
平成25年9月8日 ～9月17日	羽深 久夫	スイス、オランダ	スイスのアールヌーヴォー建築、オランダの歴史的建造物調査
平成25年9月12日 ～9月19日	松井 美穂	アメリカ	大学図書館等でのリサーチ(William Faulkner と Blues に関する資料調査、情報収集)



期間	教員名	目的国	目的
平成25年9月22日 ～9月28日	矢部 和夫	インドネシア	国際ワークショップ「インドネシアの泥炭における火災と炭素管理」での研究発表
平成25年9月27日 ～10月1日	吉田 恵介	イギリス	RHS Malvern Autumn Show の視察・調査
平成25年10月8日 ～10月12日	山田 良	ロシア	北方圏都市のまちづくりにおける環境芸術の役割と可能性 ―現地調査、作品展示
平成25年10月10日 ～10月15日	川村 三希子	タイ	10TH ASIA PACIFIC HOSPICE CONFERENCE 2013 参加発表
平成25年10月15日 ～10月17日	村松 真澄	韓国	9th International Nursing Conference in Seoul, Korea 研究発表
平成25年10月17日 ～10月19日	宮崎 みち子	韓国	第3回世界看護科学学会参加(3rd World Academy of Nursing Science)
平成25年10月17日 ～10月21日	定廣 和香子	アメリカ	共同研究者打ち合わせ、研究推進コース遠隔開催準備、実施
平成25年10月17日 ～10月23日	蓮見 孝	台湾	「LOCHAS2013」学会出席、表敬訪問・座談会等出席(国立台中科技大学・国立雲林科技大学)、表敬訪問(私立華梵大学)
平成25年10月19日 ～10月26日	山田 典子	メキシコ	研究発表と会議出席
平成25年10月26日 ～10月31日	町田 佳世子	オーストリア	World Psychiatric Association(国際精神医学会) International Congress Vienna 2013参加、成果発表
平成25年11月7日 ～11月14日	武邑 光裕	ドイツ	Berliner GazetteCOMPLICITY 国際会議
平成25年11月14日 ～11月17日	張 浦華	韓国	Asia Network Beyond Desig (ANBD) ソウル展(展示準備、オープニング)及び(韓国の家-伝統五感体験研修)参加
平成25年11月24日 ～11月29日	菊地 ひろみ	オーストラリア	在宅ケア施設 訪問看護施設視察
平成25年12月11日 ～12月16日	定廣 和香子	アメリカ	共同研究者打ち合わせ、研究推進コース遠隔開催準備、実施
平成26年2月17日 ～2月23日	上田 裕文	フィンランド	共同研究のための研究打合せ、コミュニティ拠点の施設視察、ラップランド大学との連携打合せ、デザインウィーク視察(ストーリーセミナー参加)
平成26年2月21日 ～2月25日	小西 敏正	マレーシア	マレーシアにおける近代建築の保存に対する調査、1990年次との比較を行う
平成26年3月1日 ～3月7日	片山 めぐみ	デンマーク	福祉施設を拠点とした世代間交流の先進事例視察
平成26年3月2日 ～3月6日	齊藤 雅也	ドイツ	札幌市大学提案型公募研究における欧州先進事例視察と国際共同研究のワークショップ参加
平成26年3月3日 ～3月9日	松井 美穂	アメリカ	William Faulkner の資料調査・収集、南部研究や blues 研究の動向についての調査
平成26年3月13日 ～3月17日	村松 真澄	ハワイ	第3回 ハワイ国際交流セミナー&視察研修
平成26年3月13日 ～3月18日	山田 典子	イタリア	フォレンジック看護調査



期間	教員名	目的国	目的
平成26年3月21日 ～3月25日	上田 裕文	台湾	陽明山国家公園、内洞国家森林遊楽区、富徳霊骨楼への研究視察
平成26年3月23日 ～3月28日	守村 洋	オーストラリア	精神障害者患者会および家族会へのインタビュー
平成26年3月23日 ～3月31日	張 浦華	台湾	学術交流協定校の華梵大学からの招聘による授業および学術交流等
平成26年3月23日 ～4月2日	原田 昭	台湾	学術交流協定校の華梵大学からの招聘により客員教授として授業・講演、学術交流等
平成26年3月26日 ～3月31日	村松 真澄	アメリカ	Oral health consortium meeting & simulation lab の見学
平成26年3月27日 ～3月30日	スーディ神崎 和代	イギリス	Alzheimer's Disease in down Syndrome: from molecules to cognition 参加



IV 社会活動

1 地域貢献諸活動

1) 受託研究一覧

研究課題	期間	概要	連携先
共生社会に向けた人間調和型情報技術の構築	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	交差および非交差の両眼網膜像差による奥行き知覚を上視野と下視野で調べた。 輻輳刺激による絶対距離知覚が調節刺激によって変調されるか調べた。 3D空間での奥行き方向の運動がPseudo-Haptics知覚に及ぼす影響について調べた。	(独)科学技術振興機構
寿都町におけるブルーツーリズムと中間支援組織に関する調査研究	平成25年4月23日 ～平成26年3月25日	寿都町民が主体となった地域づくり活動を発展させるため、中間支援組織構築に向けた取り組みと、住民活動の場の創出を目指した。具体的には、中間支援組織としての観光協会の位置づけを見据え、プロジェクト活動全般を共同で企画運営した。	寿都町
寿都町におけるコミュニティ・レストランを拠点としたソーシャルキャピタル醸成のアクションリサーチ	平成25年4月23日 ～平成26年3月25日	住民主体のまちづくり企画として「食」に注目し、寿都町の食材と料理文化を背景としたコミュニティ・レストラン「風のごはんや」を平成24年度にオープンさせた。本年度は、食後の交流会の企画・運営、町内外への広報活動など、コミレスがさらなるソーシャルキャピタルの醸成につながるような企画や仕組みを具体的なアクションによって仕掛け、その効果を検証した。	寿都町
学校保健に関する健康教育導入へ向けての基礎調査	平成25年5月10日 ～平成26年3月14日	北海道における保健の授業に関する調査<小学校6年生・中学校3年生>を、道内全小学校1145校および全中学校652校を対象に実施した。保健の授業で難しい取り組みは、小学校・中学校ともに、「自らの健康問題を主体的に解決していく力を育てる工夫」「身近な問題として児童・生徒に意識づけること」であり、ライフスキル教育の実践が難しい課題であることが明らかとなった。	(公助)札幌がんセミナー
積雪寒冷地におけるゾウ舎のデザイン研究	平成25年5月10日 ～平成26年2月28日	札幌市円山動物園において、今後導入を検討しているアジアゾウの飼育展示施設の基本計画を策定した資料を作成した。 バイオクライマティックデザインの視点導入、観覧者向けサインデザイン、ユニバーサルデザインを重要視している。	札幌市(環境局)



研究課題	期間	概要	連携先
芸術文化導入によるまちづくりに関する研究	平成25年5月27日 ～平成26年3月14日	美瑛町の芸術文化導入によるまちづくりの在り方について、まちづくりの方向性、芸術文化づくりへの市民参加の在り方の模索、札幌市等都市住民との連携とブランディングについて調査研究を行い、まちづくりデザインの提案を行った。	美瑛町
憩ヶ森公園整備設計に関する研究	平成25年6月4日 ～平成26年2月20日	住民によるワークショップ、美瑛町からの課題提示を踏まえコンセプトを作成。 次に園路線形の改善とユニバーサル化、催事広場、開拓広場の活性化、日本庭園の景観整備のコンセプトに基づき実施設計図を作成した。	美瑛町
仮称札幌市障がい児(者)医療・福祉複合施設整備に係る障がい児等への療育環境向上のためのデザイン、看護双方の視点による研究	平成25年6月19日 ～平成26年3月14日	札幌市障がい児(者)医療・福祉複合施設整備を進めるにあたって、デザイン、看護の双方の視点による研究を行い、整備に反映させることで、施設を主に利用する障がい児の療育環境の向上を目指した。	札幌市(保健福祉局)
新ホッキョクグマ・アザラシ舎の観覧満足度向上に係るデザイン研究	平成25年7月19日 ～平成26年2月28日	新ホッキョクグマ・アザラシ舎について、来園者の観覧満足度と飼育動物の環境エンリッチメントを両立させることを目標に(1)国内外の既存他施設の調査分析、および(2)新ホッキョクグマ・アザラシ舎のデザイン監修を行った。	札幌市(環境局)
北海道の風土と文化にちなんだ色と言葉の選定に関する調査研究	平成25年9月9日 ～平成26年2月28日	「北海道ココロカラープロジェクト」の初年度の活動の一環として、北海道の生活に根付く色と言葉を収集・調査する方法等の模索・検討、ならびにその結果を踏まえた提案を市民に対して行なった。	㈱マーケティング・コミュニケーション・エルグ
喜茂別町における「交流ハウス」のデザインと住民主体のまちづくり促進に関するアクションリサーチ	平成25年9月17日 ～平成26年3月20日	喜茂別町鈴川地区における空き家改修による交流拠点デザインおよび利活用方法について、住民の参加促進を働きかける活動を進めながら複数パターンの提案を行った。結果、地区活性化協議会で拠点整備が決定され、最終的に改修の基本計画を提示した。	喜茂別町
子どもの能動的参加を促し、遊び場を構築する道具や手法に関する基礎的研究	平成25年10月11日 ～平成26年2月28日	主に小学生以下の子どもを対象に、能動的に参加することで遊び体験が深化・発展する場の構築の可能性に着目し、その構築にデザイン系大学で実践している「企画、試作、実践、分析」といった循環型のデザインプロセスと、デザイン活動の基本である「描く、つくる」といった造形要素を活かし、有用な道具や手法の開発の模索と汎用化に向けた課題を抽出し検証することを目的とした。	札幌市(市長政策室)



研究課題	期間	概要	連携先
札幌国際芸術祭2014都市緑化プロジェクトに関する調査・研究業務	平成25年10月9日 ～平成26年3月16日	札幌国際芸術祭2014会場に於いて設置する垂直緑化の実証実験を行った。 また、今回の垂直緑化設置可能性と既存都市緑化の連続性を把握するため、フィールドワークによる踏査を行った。 この結果、新たな札幌都心緑化の可能性が明らかになった。	札幌市(観光文化局)
大規模複合商業施設における商学連携による地域向け住環境教育のデザイン研究	平成25年10月18日 ～平成26年2月28日	札幌市厚別区新札幌地区にある大規模複合商業施設を核とする、地域住民を対象にした「商学連携による住環境教育」を推進することを目的として、1)夏季の「グリーンカーテン」による地域住民向け住環境教育のデザイン、2)ESCO事業による建築設備の改修後のシステムを活用した「エコミュージアム」による地域住民向け住環境教育の企画案をまとめた。	㈱札幌副都心開発公社
円山動物園の森ビオトープの生物多様性向上のための研究	平成25年10月22日 ～平成26年2月28日	1)ササ除去による山野草回復試験 2)外来種除去による山野草回復試験 3)復元対象小動物の現状把握と地図化 4)小動物の生育環境のモニタリング 5)ガイドボランティアの技術向上 6)動物園の森全体管理方針検討会議への出席 7)動物園の森の環境教育への活用企画を行った。	札幌市(環境局)
ユニバーサルデザイン視点からの動物園のサイン計画研究－西門周辺アプローチの誘導サイン－	平成25年10月22日 ～平成26年2月28日	平成27年度に予定されている円山公園第一駐車場エレベーター基の新設を踏まえて、駐車場入場から動物園西門入園における「歩行者の安全確保」「自動車の駐車場内誘導」「バス停からの来場者誘導(動物園らしい楽しさの演出)」の3点を軸に、ユニバーサルデザインの視点から導線およびサイン計画素案として立案、並行して施工予算積算を行った。	札幌市(環境局)
アフリカに生息する動物の展示デザインと動物舎のエネルギー・マネジメントに関する研究	平成25年10月22日 ～平成26年2月28日	札幌市円山動物園のアフリカゾーンの施設設計を受けて、200分の1スケールの詳細な建築・敷地模型を製作するとともに、これまで視察した国内外類似施設のデータを解析し、展示デザインの基礎資料を作成したものである。さらに、園内の各動物舎の電力・ガス・水道使用データに基づき、今後、各動物舎のエネルギー・マネジメントを適切に行なうのに必要とされる条件を述べた。	札幌市(環境局)
札幌市の全住宅の熱需要MAP作成と札幌市南区真駒内での「次世代コミュニティ暖房」の検討	平成25年12月20日 ～平成26年3月20日	平成24年度からの継続研究として、札幌市の全住宅(戸建住宅・集合住宅)の暖房用エネルギー使用の削減、室内温熱快適性の向上、「次世代コミュニティ暖房」を推進するために、札幌市の次世代に向けたエネルギー・環境政策の基礎資料の作成を目的とした。	札幌市(市長政策室)



2) 共同研究（学外との連携）一覧

事業名	期間	概要	担当教員	連携先
生ごみ水切りの市民意識向上のための共同研究	平成25年4月17日 ～8月30日	平成24年度に行った研究を基に、魅力的な生ごみ水切り器具のデザイン開発及び製造・販売に係るマネジメント等の調査・研究を、産学官連携の上、共同研究として進めた。	杉 哲夫	札幌市(環境局) アッシュコンセプト(株)
I C T を用いた E-KURASHI システムの開発	平成25年9月9日 ～平成26年3月31日	札幌市立大学が開発した遠隔看護システム(E-KANGO)をベースに、都市部の人たちの日常生活を支援・促進するE-KURASHI「イークラシ」システムの開発を行い、その有用性・課題抽出のために琴似再開発地区での実証実験を行う。	スーディ神崎 和代	AVCテクノロジー(株) (株)コーポレーション・ミヤ 日本マイクロソフト(株)

3) 受託事業一覧

事業名	期間	概要	担当教員	連携先
札幌市民憲章制定50周年記念モニュメント制作	平成25年6月5日 ～平成26年3月31日	札幌市民憲章は制定から50周年となり、憲章が未来に受け継がれ多くの人への周知を図るため、札幌の景観及び街並みに合ったモニュメントを制作した	上 遠野 敏	札幌市(環境局)

4) 地域連携研究センターへの協力依頼一覧

事業名	依頼元	対応教員名
CAD 操作、技術向上を目的とした、プロトタイプモデルの制作補助	トロリーライン(株)	石崎 友紀
札幌市まちづくり戦略ビジョンの表紙デザイン制作について	札幌市(市長政策室)	上 遠野 敏
環境保全及び環境活動推進事業 グリーンカーテン普及プロジェクト	芸術の森地区連合会	齊藤 雅也
札幌シーニックバイウエイPR 及び節電啓発うちわの制作	札幌市南区	羽深 久夫
(仮称)日本女性会議2014 札幌のロゴマーク・タイトルデザイン制作	日本女性会議2014 札幌	吉田 和夫
札幌市民憲章制定50周年 札幌・街並み・歴史映像制作	札幌市民憲章推進会議	石田 勝也



北海道陶芸作家協会主催 第3回東日本大地震震災義捐金募集事業	北海道陶芸作家協会	張 浦華
地下鉄真駒内駅魅力アップ事業	札幌市南区	吉田 和夫 清水 光子 大 渕 一博
札幌市グリーティングカード作成事業	札幌市(総務局)	大 渕 一博
第4回ミニ大通お散歩まつり	ミニ大通お散歩まつり実行委員会	上 遠 野 敏 村 松 真澄
札幌市南区児童会館地域ふれあいの輪事業「あそびの宝箱」	(公財)さっぽろ青少年助成活動協会	福 田 大年
美瑛町東京アンテナショップPR事業	美瑛町	武 邑 光裕
障害者総合支援法周知ポスターデザイン	札幌市(保健福祉局)	吉 田 和夫
第19回 芸術の森地区文化祭	芸術の森地区連合会	羽 深 久夫
「生物多様性」マークの制作	札幌市(環境局)	齋 藤 利明
親子省エネプロジェクト「おうちでできるエコ探検」ワークブック	特定非営利活動法人 北海道グリーンファンド	吉 田 和夫
クールジャパン芽の発掘・連携促進事業	特定非営利活動法人 札幌ビズカフェ	石 田 勝也
犬の啓発プレート	札幌市動物管理センター	吉 田 和夫
和ばさみの試用・評価	興和商事(株)	齋 藤 利明
北海道さっぽろ観光案内所における機能強化について	北海道さっぽろ観光案内所運営協議会	羽 深 久夫 金 子 晋也
札幌市歓迎おもてなしポスター兼フラッグデザイン制作について	札幌市(観光文化局)	吉 田 和夫
東豊線新型車両デザインの意見交換会への参加	札幌市(交通局)	酒 井 正幸 石 崎 友紀 柿 山 浩一郎
札幌理容師会イメージビデオの制作	(一社)札幌理容師会	石 田 勝也



社会医療法人 禎心会 30周年記念ロゴ作成	(株)東急エージェンシー	吉田 和夫
揺らぐ照明器具の製作	清水勸業(株)	杉 哲夫 三谷 篤史
旧真駒内緑小のプロモーションイベントの企画への協力	札幌市(市民まちづくり局)	羽深 久夫
旧真駒内緑小のプロモーションイベント効果測定への協力	札幌市(市民まちづくり局)	杉本 達應

5) 高大連携

①デザイン学部 第5回高大連携公開講座

開催日	高校名	参加生徒数	タイトル	担当教員
平成25年10月13日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌開成高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌啓北商業高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌平岸高等学校	35名	モノ・コトを創造する方法論	柿山 浩一郎
			知とメディアのはなし	須之内 元洋

②看護学部 高大連携講座

開催日・期間	高校名	受講生徒数	受講科目名	担当教員
平成25年4月8日 ～平成26年1月30日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌藻岩高等学校 北海道札幌平岸高等学校 北海道札幌開成高等学校	25名	看護学原論 (講義・15時間)	◎定廣 和香子 猪股 千代子
			地域保健学概論 (講義・15時間)	◎清水 光子
				河原田 まり子
				山田 典子 櫻井 繭子
			人間発達援助論 (演習・30時間)	◎内田 雅子 坂倉 恵美子 松浦 和代 宮崎 みち子 山本 勝則
			チーム医療論 (講義・15時間)	◎太田 晴美 猪股 千代子 坂東 奈穂美
国際看護学 (講義・15時間)	◎大野 夏代 スーデー神崎 和代			

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）



③看護学部 模擬授業

開催日・期間	高校名	受講生徒数	受講科目名	担当教員
平成25年10月12日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌平岸高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌藻岩高等学校 北海道札幌開成高等学校 北海道札幌啓北商業高等学校	58名	がん患者さんへの社会復帰支援－人工肛門・膀胱造設患者の看護－	貝谷 敏子
	看護は国際専門職		大野 夏代	

6) 高校出前講義

デザイン学部

開催日	高校名	テーマ	担当教員
平成25年7月17日	北海道帯広緑陽高等学校	製品デザインにおけるメカトロニクス	三谷 篤史
平成25年8月27日	北海道旭川北高等学校	視覚の科学	石井 雅博
平成25年10月24日	北海道旭川南高等学校	デザインとは	石井 雅博
平成25年11月6日	北海道札幌新川高等学校	遊びとユニバーサルデザイン	小宮 加容子
平成25年11月6日	北海道札幌清田高等学校	日常のなかの空間デザイン	山田 良
平成25年11月12日	北海道札幌旭丘高等学校	使いやすさをデザインする	酒井 正幸
平成25年11月12日	北海道静内高等学校	現代建築について	金子 晋也
平成25年11月13日	北海道札幌開成高等学校	建築デザイン入門	山田 良
平成25年12月6日	北海道苫小牧東高等学校	製品デザインにおけるメカトロニクス	三谷 篤史
平成25年12月12日 ～平成26年1月30日 (全4回)	北海道札幌手稲高等学校	アートと社会貢献 ～アートはコミュニケーションのツールなのだ～	上遠野 敏

看護学部

開催日	高校名	テーマ	担当教員
平成25年10月4日	北海道札幌新川高等学校	家庭看護・医療	スーデー神崎 和代
平成25年11月1日	北海道札幌藻岩高等学校	生命(いのち)と暮らしを守る看護活動 －東日本大震災復興支援、積雪寒冷地災害調査活動から－	太田 晴美
平成25年11月8日	北海高等学校	時代とともに変化する健康課題に対する看護の挑戦	山田 典子
平成25年12月3日	北海道大麻高等学校	周手術期における術後看護	菅原 美樹



7) その他の地域貢献諸活動

デザイン学部

※教員の申告に基づく

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
蓮見 孝	デザイン委員	東海旅客鉄道(株)		平成25年4月 ～平成26年3月
	倫理委員	NPOつくば臨床検査 教育研究センター		平成25年4月 ～平成26年3月
	評議員、調査研究委員会委員長	(公財)日本サイクリ ング協会		平成25年5月 ～平成26年3月
	チ・カ・ホ デザイン調整会議委員	札幌駅前通まちづく り(株)		平成25年11月 ～平成26年3月
酒井 正幸	副理事長	北のユニバーサルデ ザイン協議会		平成25年4月 ～平成26年3月
	評議員	(財)さっぽろ産業振興 財団		平成25年4月 ～平成26年3月
	運営委員	北のケア環境研究会		平成25年4月 ～平成26年3月
	広報委員会委員長	(福)北海道共同募金会		平成25年4月 ～平成26年3月
	市電愛称審査委員会委員長	札幌市		平成25年8月
城間 祥之	理事として、IT事業の普及事業等の選 定・決定	NPO法人「札幌ITフ ロント」		平成25年4月 ～平成26年3月
	講演会参加/運営	札幌なにかができる 経済人ネットワーク		平成25年5月30日
石井 雅博	幹事	視覚科学技術コン ソーシアム		平成25年4月 ～平成26年3月
上遠野 敏	炭鉱の記憶推進事業団運営委員、各種活 動に参加	NPO炭鉱の記憶推進 事業団		平成25年4月 ～平成26年3月
	年11回の講演の企画、運営、出版、文化賞 の顕彰事業	サッポロアトラボ		平成25年4月 ～平成26年3月
	芸術の森活性化プロジェクト/100万人 委員会委員	札幌市芸術文化財団		平成25年4月 ～平成26年3月
	すすきのアートプロジェクト+越山計 画アドバイザー	北海道地域連動ア ート・プロジェクト実 行委員会		平成25年10月～11月
齋藤 利明	理事	テレビ日本美術家協会		平成25年4月 ～平成26年3月
	PMF 2013シンボルマークデザイン アートディレクション	(公財)パシフィッ ク・ミュージック・ フェスティバル		平成25年4月～5月
	「生物多様性」シンボルマークデザイン アートディレクション	札幌市環境局		平成25年7月～8月



教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
杉 哲夫	北海道中小企業人材確保・定着協議会 委員	北海道中小企業家同 友会		平成25年毎月1回
	高齢者向け三輪自転車の開発 活動 リーダー	(株)Will-E		平成25年4月 ～平成26年3月
	札幌市立桑園小学校における健康・安全 教育の推進活動支援	札幌市桑園小学校、 札幌市立大学、北海 道医療大学共同		平成25年6月20日
武 邑 光裕	理事	NPO法人都市文化創 造機構		平成25年4月 ～平成26年3月
	アドバイザー	新渡戸稲造と札幌遠 友夜学校を考える会		平成25年4月 ～平成26年3月
	顧問	札幌芸術文化フォー ラム		平成25年4月 ～平成26年3月
	顧問	札幌メディア・ア ート・フォーラム		平成25年4月 ～平成26年3月
羽 深 久夫	札幌市南区定山溪地区まちづくり協議 会 委員	札幌市南区定山溪地 区まちづくり協議会		平成25年4月 ～平成26年3月
	札幌市南区芸術の森地区まちづくり推 進会議 特別委員	札幌市南区芸術の森地 区まちづくり推進会議		平成25年4月 ～平成26年3月
	札幌市南区芸術の森地区「雪明かりの祭 典」実行委員会 委員	札幌市南区芸術の森 地区「雪明かりの祭 典」実行委員会		平成25年10月 ～平成26年2月
	札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員 会 委員	札幌市南区「こまおか 夏祭り」実行委員会		平成25年4月～9月
	札幌市南区石山地区まちづくり協議会 委員(石山商店街振興組合理事として)	札幌市南区石山地区 まちづくり協議会		平成25年4月 ～平成26年3月
	NPO法人北の民家の会 理事長・事務局	NPO法人北の民家の 会理事長・事務局		平成25年4月 ～平成26年3月
	NPO法人日本民家再生協会 会員	NPO法人日本民家再 生協会		平成25年4月 ～平成26年3月
	NPO法人アルテピアッツァ美唄 会員	NPO法人アルテピ アッツァ美唄		平成25年4月 ～平成26年3月
	芸術の森フラワーロードに花を咲かせ る会 会員	芸術の森フラワーロ ードに花を咲かせる会		平成25年4月 ～平成26年3月
	100万人委員会、札幌芸術の森運営協議 会委員	札幌市芸術文化財団		平成25年4月 ～平成26年3月
	札幌市保養センター駒岡運営協議会	札幌市環境福祉事業団		平成25年4月 ～平成26年3月
	北海道中小企業家同友会札幌支部南地 区会 会員	北海道中小企業家同 友会		平成25年4月 ～平成26年3月
札幌市南区商店街連絡協議会 会員	札幌市南区商店街連 絡協議会		平成25年4月 ～平成26年3月	



教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
細谷 多聞	理事	北海道デザインマネジメントフォーラム		平成25年4月 ～平成26年3月
矢部 和夫	湿原再生のアドバイザーとしての役割	NPOフラット南幌		平成25年4月 ～平成26年3月
	道内の自然を守る活動(常務理事)	NPO北海道自然保護協会		平成25年4月 ～平成26年3月
	湿原植生のアドバイザーとしての役割	NPOキウシト湿原の会		平成25年4月 ～平成26年3月
	副理事長として活動を推進した	NPO湿原研究所		平成25年4月 ～平成26年3月
	ST/JICAプロジェクト「インドネシアの泥炭・森林における火災と炭素管理」メンバー	北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター		平成25年4月 ～平成26年3月
	サマーアートキャンプ I N江別(江別市共催)の子どもキャンプのスタッフを務めた	トライ☆アス☆カル 2013実行委員会		平成25年7月～8月
吉田 和夫	路面電車新型低床車両の愛称「ポラリス」のロゴタイプデザイン	札幌市 交通局	3年生 6名 4年生 3名 計9名 計16作品	平成25年11月 ～平成26年2月
	国内外の観光客を歓迎するため市内の観光施設等に掲出するポスター兼フラッグをデザイン	札幌市 観光文化局	3年生 7名 4年生 6名 15作品	平成25年12月 ～平成26年3月
	男女共同参画「日本女性会議2014札幌」マークをデザイン、Web投票で決定された	札幌市 市民まちづくり局	4年生 8名 13作品	平成25年8月 ～平成26年1月
	改正された障害者総合支援法の周知用ポスターデザインの制作	札幌市 保健福祉局	4年生 7名 9作品	平成25年8月～11月
	ペットのマナーに関するプレート2種(糞尿処理・リードの着用)のデザイン	札幌市 動物管理センター	3年生 3名 4年生 5名	平成25年10月～11月
	親子省エネ冊子「おうちでできるエコ探検」ワークブック表紙とキャラクターのデザイン	NPO法人 北海道グリーンファンド	3年生 3名 4年生 5名	平成25年10月～12月



教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
吉田 和夫	禎心会30周年記念ロゴマーク作成	社会医療法人 禎心会	3年生 8名 4年生 6名 19作品	平成26年1月～3月
	地下鉄真駒内駅魅力アップ事業:区民とワークショップを行い、駅構内をアートで装飾し個性的な駅空間を創出した。	札幌市 南区 地域振興課	2年生 10名	平成25年7月 ～平成26年3月
	物産品トマトのキャラクターデザイン提案	喜茂別町	4年生 2名	平成26年3月
吉田 恵介	隊長として地域振興活動を支援	八剣山発見隊		平成25年5月12日、 6月2日、8月11日、9 月1・10・12・13・22、 平成26年1月12日、 2月2・23日、3月9日
	ボランティアハンドブック作成の為編集委員として参加した	公園緑化協会		平成25年5月29日
	会長として札幌市、北海道新聞、野菜ソムリエ等からなる構成員と研究会を実施した	札幌の農業を考える会		平成25年8月30日、 12月18日、 平成26年1月14日、 3月11日
	会長として農業支援活動と支援方法に関するアドバイス、および幹事会運営	札幌のふるさとつくる会		平成25年9月9日、 10月9日、11月6日、 12月9日、 平成26年1月9日、2 月7日、3月11日
	協議会設立に向けた準備活動を支援	南区簾舞連合町内会		平成25年11月24日
齊藤 雅也	円山スネークアート展2013への協力	札幌市円山動物園		平成25年8月～9月
	グリーンカーテン普及プロジェクトへの協力	札幌市南区芸術の森地区まちづくりセンター		平成25年6月～10月
	余市エコカレッジ「学び舎」改修デザインのアドバイザー	北海道エコビレッジ推進プロジェクト		平成25年5月 ～平成26年3月
	公開講座企画のアドバイザー(本学COCと連動)	札幌市博物館活動センター		平成25年4月 ～平成26年3月
武田 亘明	web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動	情報と教育フォーラム「オンコの木」		平成25年4月 ～平成26年3月
	web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動	ハイパー風土記札幌InterCityOroppas運営委員会		平成25年4月 ～平成26年3月
	web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動	ネットワークコミュニティフォーラム事務局		平成25年4月 ～平成26年3月



教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
武田 亘明	運営委員。事務局活動、ワークショップ等プロジェクト企画運営	札幌メディアアートフォーラム		平成25年4月 ～平成26年3月
	理事。会運営に関する活動	北海道高齢者ハートフル共同住宅・地域ケア協議会		平成25年4月 ～平成26年3月
	副会長、北海道支部長。web・ドメイン管理およびメディア教育に関する情報交流	教育とコンピュータ利用研究会		平成25年4月 ～平成26年3月
	代表。障害者就労支援、人材育成支援およびメディア戦略検討プロジェクト等の主催	北海道企画デザイン研究会		平成25年4月 ～平成26年3月
張 浦華	被災地支援陶芸作品チャリティーバザール運営実施、ならびに陶芸販売品の制作と提供	北海道陶芸作家協会		平成25年7月20日
町田 佳世子	アドバイザーフェロー 上山型の温泉クアオルトの周知・広報への協力、調査等のアドバイス	上山市温泉クアオルト協議会		平成25年4月1日 ～平成26年3月31日
	女性の地位向上を目的とした講演企画・実施(1月)・活動参加	特定非営利活動法人日本BPW連合会札幌クラブ		平成25年4月1日 ～平成26年3月31日
山田 良	杜舞台アートプロジェクト支援	isa環境芸術推進会議		平成25年4月～11月
	自転車day 会場デザイン	札幌大通まちづくり会社		平成25年9月
	芸術の森地区ゆきあかりの祭典支援	札幌南シーニックバイウエイ		平成26年1月
石田 勝也	行啓通フィルムコンテストの企画運営	行啓通フィルムコンテスト実行委員会		平成25年4月～10月
	道内クリエイティブ企業・団体のプロモーション支援(映像制作)	クリエイティブ北海道実行委員会		平成25年6月 ～平成26年3月
	市民憲章50周年記念コンサート「オープニング映像」制作	札幌市市民まちづくり局		平成25年6～10月
	サウンドアンドビジュアルイベント「エレキネシス」運営・イベントパフォーマンス	エレキネシス実行委員会		平成25年7月・8月
大淵 一博	駅舎内壁面アートのデザイン制作指導等	札幌市南区役所 地域振興課		平成25年7月～現在
	メッセージムービーサミット2014 映像コンペ	メッセージムービーサミット2014実行委員会	24名	平成25年7月末 ～平成26年2月26日
	札幌市長グリーティングカード制作	札幌市総務局国際部 交流課推進係	25名	平成25年7月末 ～11月8日
	EGGs'13ポスターコンペ	日本建築学会北海道支部	5名	平成26年1月 ～3月7日



教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
大 瀨 一 博	円山動物園支援飲料発売記念イベント用の模型製作	北海道コカ・コーラボトリング株式会社	24名	平成25年4月8日 ～4月27日
	高校生チャレンジグルメコンテスト	高校生チャレンジグルメコンテスト実行委員会	8名	平成25年4月 ～10月6日
	メディアデザインウィーク2014 作品出展	静岡文化芸術大学	3名	平成26年2月1日 ～7日
	日本人口学会第65回大会	日本人口学会	53名	平成25年4月 ～6月2日
	札幌市立大学 中大連携講座	札幌市立大学	1名	平成25年10月13日
杉 本 達 應	石山商店街みらい会議に参加	札幌市経済局産業振興課		平成25年11月26日・12月10日、平成26年1月14日
福 田 大 年	第60回 日本デザイン学会春季研究発表大会学生交流ワークショップでメンター担当	日本デザイン学会		平成25年6月
三 谷 篤 史	ロボットキットを用いてロボットの構造やプログラムについて教える	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門		平成25年7月6日
	道内の学生を対象としたロボットコンテストの実施	ロボット・トライアスロン実行委員会		平成25年9月29日
須之内 元洋	ウィンタースポーツ振興の広報アドバイス	Snow LINKS Sapporo実行委員会		平成25年
長谷川 聡	「GOOD DESIGN AWARD 2013 応募作品共同制作」(常磐小学校生徒と共働)			平成25年7月1日



看護学部

※教員の申告に基づく

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
中村 恵子	理事	NPO 動作介助研究会		平成25年4月 ～平成26年3月
	理事	NPO 地域の包括的な医療研究会		平成25年4月 ～平成26年3月
	代表	北のケア環境研究会		平成25年4月 ～平成26年3月
スーディ神崎 和代	まちづくり(福祉政策)ワークショップ 企画・実施・講演	沼田町		平成25年11月12日・ 平成26年1月23日
	基調講演	病院ボランティア国際フォーラム実行員会・市立札幌病院		平成25年9月13日
	代表	北海道ホームヘルスケア研究会		平成25年4月 ～平成26年3月
宮崎 みち子	外部顧問として運営に従事	ゆいネット北海道		平成25年度
	運営支援・周知活動・実態調査	性暴力被害者支援センター北海道		平成25年度
	留学生の支援(バザー)	北海道国際女性協会		平成25年10月5日
猪股 千代子	ハマナス音楽&看護療法の実践 年10回	統合医療ヘルスケアシステム開発機構 HOKT123		平成25年5月 ～平成26年3月まで
		市立釧路総合病院		平成25年7月6日
		北海道済生会小樽病院		平成25年10月18日
		北海道済生会小樽病院		平成26年2月22日
河原田 まり子	桑園地区文化祭へ学生ボランティアと共に参加	桑園地区連合町内会	7名	平成25年10月20日
	札幌市立大学・北海道立総合研究機構研究交流会研究報告	札幌市立大学・北海道立総合研究機構		平成25年11月11日
川村 三希子	がん患者と家族の情報提供支援活動 サポートグループの運営	NPO法人市民と共に創るホスピスケアの会		平成25年5月～11月
	病院・在宅連携促進のためのワークショップ企画運営	札幌ホスピス緩和ケアネットワーク		平成26年1月
坂倉 恵美子	北海道ジェロントロジー推進協会 幹事	北海道ジェロントロジー協会		平成25年4月 ～平成26年3月
大野 夏代	看護師によるマッサージボランティア活動	手稲溪仁会病院ボランティア		平成25年5月10日、 5月17日、6月14日、 7月5日、8月2日・ 30日、9月27日、10 月25日、11月8日・ 29日、12月20日、平 成26年1月17日・24 日、2月14日



教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
貝谷 敏子	委員としての会議への参加	(公財)札幌市芸術文化財団		平成25年9月24日・12月10日
	札幌市立大学紹介ブースでの展示「スキンケアについて」	札幌市中央区保健福祉局		平成25年10月5日
菊地 ひろみ	幹事(札幌ホスピス緩和ケアネットワーク)			平成25年4月 ～平成26年3月
清水 光子	地下鉄真駒内駅魅力アップ事業ワークショップ	札幌市南区役所	9名	平成25年9月11日・13日・20日
	札幌市中央区社会福祉協議会評議員	(福)札幌市中央区社会福祉協議会		平成25年9月26日
村松 真澄	地域交流ボランティア同好会actの学生と健康まつりのスタッフとしてボランティア	社会福祉法人札幌市福祉事業団	10名	平成25年7月24日
	健康教育の企画運営、学生参加事業調整担当、地域交流ボランティア同好会actの学生と活動	ミニ大通りお散歩祭り実行委員会	6名	平成25年9月8日
	地域交流ボランティア同好会actの学生と住民への口腔の健康教育の企画運営	奔別アートプロジェクト	6名	平成25年10月14日
山田 典子	子育て・子育て、女性の回復とピアの支えあいについて、どう支援できるのか	青森市男女共同参画プラザ カダール		平成25年9月9日
	高齢者のセーフティプロモーションについて考える	札幌セーフコミュニティ研究会		平成25年12月13日
	町内会の取り組みとセーフコミュニティ	札幌セーフコミュニティ研究会		平成26年2月18日
太田 晴美	災害時における病院間相互支援協定による道内自治体病院4病院(市立釧路総合病院・名寄市立総合病院・市立函館病院・砂川市立病院)支援看護師派遣体制の構築 アドバイザー	自治体4病院看護部		平成25年4月 ～平成26年3月
	副会長 エマルゴインストラクター	北海道エマルゴ協会		平成25年4月 ～平成26年3月
	勤医協中央病院総合防災訓練	勤医協中央病院	3名	平成25年11月
	シニアインストラクターコース 講義・演習	日本臨床シミュレーション機構		平成26年3月21日 ～23日
神島 滋子	高次脳機能障害者のためのパーソナルノートの作成にともなう支援	脳外傷友の会コロポックル		平成25年4月 ～平成26年3月
三上 智子	桑園地区大運動会	桑園まちづくりセンター青少年育成委員会		平成25年9月1日
渡邊 由加利	性暴力被害者支援センター北海道 運営委員	ゆいネット北海道		平成25年4月 ～平成26年3月
	ママサポートタクシー 妊産褥婦を乗車させる際の留意点について	札幌第一交通株式会社		平成25年11月



教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
工藤 京子	役員会、総会への出席、講演会の企画、会報誌発行	北海道低肺の会		毎月1、2回
	大学における授業の担当者と模擬患者間の連絡調整、練習時の指導	札幌市立大学模擬患者桑の会		平成25年4～6月、平成25年12～平成26年2月
	緩和ケア病室前の掲示板装飾依頼に対して、デザイン学部教員と学生への依頼、仲介と現地での装飾の共同作業	市立札幌病院8西病棟師長		平成25年8月～平成26年3月
田仲 里江	桑園地区のまちづくりセンターでの行事に学生と参加(桑園地区大縄跳び大会)	桑園地区ボランティア	14名	平成25年8月24日



8) マスメディアへの掲載

デザイン学部

※教員の申告に基づく

教 員 名	内 容	掲載媒体	掲載日
蓮見 孝	茨城新聞「時評」	茨城新聞	平成25年4月14日、9月23日、平成26年3月23日
中原 宏	Air-G'生放送「ポップアップさっぽろ」札幌市立大学卒業修了展説明	Air-G'	平成26年3月6日
上 遠 野 敏	炭鉱はいま 21日から奔別アートプロジェクト 芸術の力で「遺産」に息吹	北海道新聞 朝刊	平成25年9月19日
	北の文化 奔別アートプロジェクト2013 上 遠野敏	朝日新聞 朝刊	平成25年10月22日
	スーパーニュース特集「炭鉱跡に廃校に摩訶不思議空間 三笠の廃墟マジカルミステリーツアー」	uhb北海道文化放送	平成25年10月31日
	奔別 3日フィナーレ 炭鉱で現代アート 1800人魅了	北海道新聞 朝刊	平成25年11月1日
	炭鉱遺産に誓う愛 施設内で盛大に結婚式 奔別アートプロ閉幕	北海道新聞 朝刊	平成25年11月4日
	季評 美術 鎌田惇 7～9月 漫画展、学校や屋外での展示 脱美術館な潮流 どう受容	北海道新聞 夕刊	平成25年11月6日
	他に北海道新聞6件掲載、読売新聞1件掲載、プレス空知2件掲載		
齋 藤 利 明	創作人形「冬の妖精たち」(金沢県立美術館広坂別館)紹介記事	北国新聞 朝刊	平成25年12月17日
	齋藤利明創作人形展「森の妖精たち」(マリヤクラフトギャラリー)紹介記事	読売新聞 夕刊	平成26年3月6日
杉 哲 夫	生ごみ水切り器の開発	北海道新聞 朝刊	平成25年11月1日
	第27回北海道 技術・ビジネス交流会 取材「札幌市立大学の特徴」	ユーチューブ	平成25年11月7日
	産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業秋田学生発表大会参加 秋田市長賞受賞	秋田新聞 朝刊	平成26年3月7日
武 邑 光 裕	北海道新聞コラム「魚眼図」	北海道新聞 夕刊	毎月連載 年12回
羽 深 久 夫	厚真町古民家再生プロジェクト	北海道建設新聞 朝刊	平成25年8月15日
	さっぽろふるさと再発見 STV 卒業修了制作展	STV	平成26年3月15日
原 俊 彦	データで見る超高齢化社会 2060年に4割	北海道新聞 朝刊	平成25年4月1日
	STVどさんこワイド「いわせて高齢化への不安」	STV	平成25年4月12日
	超高齢化「もう限界」今後のまちづくりに何が必要か	北海道新聞 朝刊	平成25年4月18日



教 員 名	内 容	掲載媒体	掲載日
原 俊彦	そこまで来ている北海道の人口500万人割れ	月刊クオリティ	平成25年6月1日
	人口減少と札幌一極手中:就業機会創出が重要	北海道新聞 朝刊	平成26年2月24日
吉田 和夫	「日本女性会議2014札幌」マークデザイン:「気軽に投票を」「市立大生考案ロゴ決まる」マークデザイン案が紹介された	北海道新聞	平成25年8月24日・10月12日
	中央区まちづくりPRのイメージデザイン選考委員会:審査風景、審査コメントの掲載	広報さっぽろ(中央区版)平成26年1月号	平成26年1月
	路面電車新型低床車両ロゴタイプデザイン:「ポラリスロゴを作りました。」学生の写真等掲載	札幌市交通局Webページ	平成26年1月~
	地下鉄真駒内駅魅力アップ事業:学生、市長、区長、区民等が参加したオープニングセレモニーの掲載	北海道新聞 朝刊 各社TVニュース	平成26年3月28日
吉田 恵介	南区再発見	広報さっぽろ(南区版)	毎月配布
	札幌市立大学学生と地域住民との情報交換会	札幌市HP(南区役所)	平成25年10月3日
	ふらっとホーム2013イン南区	札幌市HP及び広報さっぽろ(南区版)	平成26年1月9日
	土の香り農業身近に	北海道新聞 朝刊、夕刊	平成26年2月22日、23日
柿山 浩一郎	タブレットで健康維持、高齢者向け新管理システム 札幌市立大など 実証実験へ	北海道新聞	平成25年9月13日
	高齢者健康管理 タブレット活用 11月にも札幌で実験	日本経済新聞 北海道版	平成25年9月13日
	高齢者健康管理システムを実験	日経産業新聞(全国版)	平成25年9月13日
	タブレット端末 健康管理実証へ	NHK(北海道)	平成25年9月13日
齊藤 雅也	室内気候デザインを建築家とともに考える 札幌市立大学 准教授 齊藤雅也さん	建築家カタログ 北の住まいを建築家とつくりよう Vol.5	平成25年4月26日
	アフリカゾーン 15年夏オープン	北海道建設新聞 朝刊	平成26年1月9日
	北広島市役所の新庁舎、市民交流モール設置も 設計の委託業者決定	北海道新聞 朝刊	平成26年1月17日
	省エネと快適性両立 齊藤雅也 札幌市立大学准教授にインタビュー	北海道建設新聞 朝刊	平成26年1月21日
	札幌版次世代モデル展示場 グランドオープン	北海道住宅新聞 朝刊	平成26年2月5日
	温度や湿度の影響考察 住環境と健康・安全シンポ	北海道建設新聞 朝刊	平成26年3月18日
武田 亘明	平成25年度北海道高等学校商業クラブ研究発表大会報道	札幌経済新聞(WEB版)	平成25年8月30日
張 浦華	札幌市立大学・華梵大学デザインワークショップ	TVh「ウォッチング札幌」	平成25年8月22日
	札幌市立大学・華梵大学デザインワークショップ	TVh「暮らしに欠かせないデザイン」	平成25年9月3日



教 員 名	内 容	掲載媒体	掲載日
山 田 良	樽前arty誰かが見たこの街	北海道新聞 朝刊	平成25年5月3日
	エルムンド	NHK	平成25年9月8日
	小樽アートプロジェクト	北海道新聞 夕刊	平成25年9月25日
	札幌芸術展アクアライン	北海道新聞 夕刊	平成26年1月7日
	DOMANI明日展	北海道新聞 夕刊	平成26年1月22日
上 田 裕 文	旧寿都鉄道跡 歩こう	北海道新聞 朝刊	平成25年5月11日
	寿都鉄道跡歩き回想	北海道新聞 朝刊	平成25年5月19日
	枕木や駅跡 鉄路の名残	読売新聞 朝刊	平成25年5月31日
	千の風車町の風に回れ	北海道新聞 朝刊	平成25年8月30日
	興味深人	北海道新聞 朝刊	平成25年10月21日
大 淵 一 博	円山動物園支援飲料発売記念イベント	報道各社ニュース	平成25年4月27日
	「札幌ぐるりウォーキングマップ」公開	TVh「ウォッチング札幌」	平成25年5月7日
	「高校生チャレンジグルメコンテスト」開催	北海道新聞 朝刊、 毎日新聞 夕刊	平成25年10月5日
		各社TVニュース	平成25年10月7日
	「札幌市長グリーティングカード」制作	北海道新聞 夕刊	平成25年12月11日
	地下鉄真駒内駅魅力アップ事業	北海道新聞 朝刊、 各社TVニュース	平成26年3月28日
片 山 めぐみ	「食」を中心に地域づくり：寿都町のコミレス 「風のごはんや」	農家の友	平成25年11月
	ひと2013-寿都町でコミュニティーレストランの企画・運営に携わる	北海道新聞 朝刊	平成25年5月18日
福 田 大 年	ボードゲームで防災知識を学ぼう	北海道新聞 朝刊	平成25年4月13日
	防災知識 すごろくで	読売新聞 朝刊	平成25年6月26日
	札幌市立大生が考案 防災すごろく	毎日新聞 朝刊	平成25年7月26日
	マイクロソフトと札幌市大が取り組む高齢者 支援 - Surface活用で健康管理	マイナビニュース	平成25年9月17日
	探る見るさっぽろプラス「第1回さっぽろ景 観総選挙」への識者コメント	北海道新聞 朝刊	平成26年3月20日
三 谷 篤 史	札幌市立大学・華梵大学デザインワーク ショップ	TVh「ウォッチング札幌」	平成25年8月22日
	札幌市立大学・華梵大学デザインワーク ショップ	TVh「暮らしに欠かせない デザイン」	平成25年9月3日



看護学部

※教員の申告に基づく

教員名	内容	掲載媒体	掲載日
スーディ神崎 和代	高齢者健康管理タブレット活用	日本経済新聞 朝刊	平成25年9月13日
	高齢者向け新管理システム	北海道新聞 朝刊	平成25年9月13日
	タブレット端末で健康管理実験	NHK TV	平成25年9月15日
	北海道ホームヘルケア研究会(3HR)が第一回情報交流会開催、「在宅での看取り」をテーマに、それぞれの思いを共有	ベストナース 12月号	平成25年12月1日
	北海道クローズアップ: どう作る、効果的な見守り体制	NHK TV	平成26年1月17日
宮崎 みち子	男女共同参画情報誌: り・ぶ・る: 「妊活」してる?	男女共同参画情報誌: り・ぶ・る35巻春号2014	平成26年2月
猪股 千代子	統合医療を学ぶ公開セミナーについて	北海道医療新聞 朝刊	平成26年1月31日
	人々に寄り添い生活を支える統合医療セミナーについて	介護新聞 朝刊	平成26年2月6日
坂倉 恵美子	看護と福祉で支援策検討-札幌市立大学と北星大 初の学習交流会-	北海道新聞	平成25年9月14日
松浦 和代	乳児の股関節疾患予防プロジェクトが開始される	モンゴルDailynews	平成26年2月25日
	HTBニュース「イチオシ」JICA研修・市長表敬訪問	HTBテレビ	平成26年2月28日
大野 夏代	乳児の股関節疾患予防プロジェクトが開始される	モンゴルDailynews	平成26年2月25日
	HTBニュース「イチオシ」JICA研修・市長表敬訪問	HTBテレビ	平成26年2月28日
清水 光子	「札幌ぐるりウォーキングマップ」公開	TVh「ウォッチング札幌」	平成25年5月7日
	地下鉄真駒内駅魅力アップ事業	札幌市広報テレビ、広報さっぽろ、北海道新聞朝刊ほか	平成26年3月28日
村松 真澄	誤嚥性肺炎を口腔ケアで予防を生活面に紹介した	北海道新聞 朝刊	平成25年10月1日
	摂食嚥下技術を普及のための全国に先駆けた取り組みのみこみ安心ネット札幌の紹介	北海道医療新聞	平成25年10月4日
山田 典子	「DV,性犯罪の被害者対応特化 『司法看護』の学会設立	北海道新聞 夕刊	平成25年12月11日
	「ひと2013」	北海道新聞 朝刊	平成25年12月21日
太田 晴美	北海道内4つの自治体病院における病院間の相互支援に関する災害協定	全国自治体病院協議会雑誌	2013年12月号
藤井 瑞恵	お餅について(冬場に気を付けたい健康)	壮瞥町広報誌	平成26年1月号
多賀 昌江	社会面記事「短き命、安らかに」	北海道新聞 夕刊	平成25年9月26日

2 公開講座開催実績

1) 札幌市立大学主催

開催日	タイトル	講師	受講者数(名)
平成25年 6月8日	【訪問看護スキルアップ講座 2013①】 精神障がいを持つ人への訪問看護のツボ	山本 勝則(看護学部教授) 菊地 ひろみ(看護学部准教授)	68
平成25年 6月30日	札幌市立大学と芸術の森共同企画 札幌芸術の森:その樹木・森林・彫刻に触れる	矢部 和夫(デザイン学部教授) 吉崎 元章 (札幌芸術の森美術館 副館長・学芸員)	24
平成25年 7月1日	【環境保全及び環境活動推進事業「グリーンカーテン普及プロジェクト」セミナー】 「緑のカーテン」を楽しむ夏の住まい術	齊藤 雅也(デザイン学部准教授)	11
平成25年 7月9日	【私たちのセーフコミュニティ～デザインの企画から実現まで～①】 地域力とセーフコミュニティデザイン	蓮見 孝(学長・デザイン学部教授)	25
平成25年 7月16日	手で描く DESIGN	浦 一也(建築家・インテリアプランナー)	21
平成25年 7月27日	<small>コネキッド</small> Connekid! 2013 in チカホ	小宮 加容子(デザイン学部講師) 福田 大年(デザイン学部講師) あそびlab! オヘソ	保護者 86 子ども 113
平成25年 7月30日	【私たちのセーフコミュニティ～デザインの企画から実現まで～②】 セーフコミュニティとはなにか～メリットとデメリット、あなたは思う?～	山田 典子(看護学部准教授)	25
平成25年 8月26日	「気持ち良い体験」をしよう ～呼吸法・マッサージによる医療者のセルフケアのススメ～	山本 勝則(看護学部教授) 大野 夏代(看護学部准教授)	30
平成25年 9月3日	【私たちのセーフコミュニティ～デザインの企画から実現まで～③】 私だったらどうする?あなただったらどうする?!～災害・危機に備えて～	佐々木 真一 (札幌市危機管理対策室)	21
平成25年 9月24日	【私たちのセーフコミュニティ～デザインの企画から実現まで～④】 こんなまちに住みたい!～高齢者とセーフコミュニティデザイン～	吉田 恵介(デザイン学部教授)	11
平成25年 10月5日	札幌市立大学と芸術の森共同企画:認知症の進行の遅延と自然環境	スーディ神崎 和代(看護学部教授)	20
平成25年 10月22日	【デザイン夜学校①】 旅と建築	小西 敏正(デザイン学部教授)	18
平成25年 11月2日	情報交流会「在宅での看取りを叶えるために」 ～市民・看取りを経験した家族・専門職の連携で～	堀元 進(旭町医院) 及び、経験した家族・訪問看護師	45
平成25年 11月5日	【私たちのセーフコミュニティ～デザインの企画から実現まで～⑤】 セーフスクールとコミュニティデザイン～子どもを守り、地域のいのちをつむぐ～	白石 陽子(一般社団法人 日本セーフコミュニティ推進機構 代表理事)	17



開催日	タイトル	講師	受講者数(名)
平成25年 11月16日	【訪問看護スキルアップ講座 2013②】 認知症ケア(第5弾) 認知症とアクティヴィティ療法	スーディ神崎 和代(看護学部教授)	65
平成25年 11月19日	【私たちのセーフコミュニティ～デザインの 企画から実現まで～⑥】 私たちのまち、これからの「さっぽろ」をデザ インしよう！	山田 典子(看護学部准教授)	14
平成25年 11月26日	【デザイン夜学校②】 地域に根差したものづくり	杉 哲夫(デザイン学部教授)	22
平成25年 12月8日	札幌私立大学・円山動物園講演会 アフリカ中央部熱帯林における自然と人々の 暮らし～野生生物保全の現場から	齊藤 雅也(デザイン学部准教授) 西原 智昭(Wildlife Conservation Soci- ety コンゴ共和国支部 自然環境保全技 術顧問)	76
平成25年 12月17日	【デザイン夜学校③】 札幌における建築文化財のドラマづくり	羽深 久夫(デザイン学部教授)	8
平成26年 1月21日	【デザイン夜学校④】 アートができること	上遠野 敏(デザイン学部教授)	12
平成26年 2月20日	COC 市民講座 地球環境時代の住まいを考える。～省エネル ギー基準の改正をきっかけとして～	澤地 孝男((独)建築研究所環境研究グ ループ長)	53
平成26年 3月24日	SCU まちの学校 地域の人々と学生が共に学び合う“学び舎”に ついて	中原 宏(図書館長・デザイン学部教授) 中村 恵子(副学長・看護学研究科長・看 護学部教授) 酒井 正幸(デザイン学部長・教授) 齊藤 雅也(デザイン学部准教授) 清水 光子(看護学部准教授) 杉本 達應(デザイン学部講師)	26

2) 共催講座：「さっぽろ市民カレッジ」連携講座

開催日	タイトル	講師	受講者数(名)
平成25年 6月4日・11日	潜入！改修工事中の豊平館 <春> ～札幌の 語り部的建築を知る～	羽深 久夫(デザイン学部教授)	20
平成25年 7月2日・9日	円山動物園の新施設“アジアゾーン”を知ろ う！～おとなの社会科見学～	片山 めぐみ(デザイン学部講師) 山崎 彩夏(東京農工大学研究員) 三浦 乃莉子 ((株)自然教育研究センター) 三浦 圭(円山動物園)	15
平成25年 11月5日・12日	潜入！改修工事中の豊平館 <秋> ～札幌の 語り部的建築を知る～	羽深 久夫(デザイン学部教授)	7
平成26年 3月4日・11日	潜入！改修工事中の豊平館 <冬> ～札幌の 語り部的建築を知る～	羽深 久夫(デザイン学部教授)	15



3 社会における活動

デザイン学部

※教員の申告に基づく

教員名	名称／自治体名・主催団体名
蓮見 孝	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城県総合計画審議会／副会長／茨城県 ・いばらきデザインセレクション審査委員会／委員長／茨城県デザインセンター ・茨城県イメージアップ大賞審査委員会／委員／茨城県 ・札幌市創成川以東地区まちづくりビジョン検討会議／委員／札幌市 ・真駒内まちづくりコンペ審査委員会／委員長／札幌市 ・大好きいばらき県民会議／委員／茨城県
酒井 正幸	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代博物館検討会議／委員／札幌市 ・円山動物園の森協議会／委員／札幌市 ・図書館協議会／委員／札幌市 ・札幌スタイル推進会議／委員長／札幌市 ・日本女性会議実行委員会総会／委員／札幌市
城間 祥之	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度情報セキュリティポリシー研修業務に係る審査委員会／委員／札幌市 ・平成25年度情報処理技術専門スタッフ業務(8月～3月)の業務発注に係る審査委員会／委員／札幌市 ・平成26年度情報処理技術専門スタッフ業務の業務発注に係る審査委員会／委員／札幌市
中原 宏	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道建築審査会 会長／北海道 ・北のまちづくり賞選考委員会／委員長／北海道 ・アイヌアートモニュメント設置検討会議／委員／札幌市 ・札幌市中高層建築物紛争調整委員会／委員／札幌市 ・真駒内緑小跡地施設・企業選考審査委員会／委員／札幌市
石崎 友紀	<ul style="list-style-type: none"> ・公共建築ポスター審査委員長／委員長 ・札幌藝術の森工芸専門部／委員長
上遠野 敏	<ul style="list-style-type: none"> ・空知地域づくり推進委員会&ガイドマニュアル専門部会／委員／空知総合振興局 ・そらち「炭鉱の記憶」提案活動選定委員会／委員／空知総合振興局 ・アイヌアートモニュメント設置検討会議／委員／札幌市
武邑 光裕	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道商工振興審議会／委員長 ・創造都市さっぽろ実行委員会副会長／委員 ・札幌メディア・アーツ・ラボ所長(創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会メディア・アーツ部会長)／委員長 ・ユネスコ創造都市ネットワーク加盟申請起草委員会委員長／委員長 ・Film in 北海道委員会委員／委員
羽深 久夫	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市市民憲章50周年記念事業実行委員会／委員 ・豊平館修理整備等検討委員会 委員長代理／委員 ・北海道地域づくりアドバイザー／委員 ・札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓定山溪ルート運営代表者会議／委員 ・厚真町古民家再生推進協議会／委員長 ・喜茂別町水の郷喜茂別まちづくり振興基金事業選定審査会／委員 ・喜茂別町地域防災委員会／委員 ・喜茂別町民間賃貸住宅促進事業公募型プロポーザル審査委員会／委員
原 俊彦	<ul style="list-style-type: none"> ・国立社会保障・人口問題研究所 研究評価委員会／委員長／厚生労働省 ・石狩市総合計画策定審議会／委員／石狩市
細谷 多聞	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌スタイル認証審査委員会／委員長
矢部 和夫	<ul style="list-style-type: none"> ・植生凡例検討委員会／委員／環境省 ・釧路湿原自然再生協議会／委員／環境省・国土交通省



教員名	名称／自治体名・主催団体名
矢部 和夫	<ul style="list-style-type: none"> ・美々川自然再生事業技術検討委員会／委員／北海道 ・平岡公園原っぱ会議／委員／札幌市 ・円山動物園の森協議会／委員／札幌市 ・成東・東金食虫植物群落 保護検討会 作業部会委員／委員／山武市 ・石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ／委員長／国土交通省
吉田 和夫	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市都市景観審議会／委員 ・札幌市広告アドバイザ会議／委員 ・中央区まちづくりPRのイメージデザイン選考委員会／委員 ・2017冬季アジア札幌大会ロゴ選考会 アドバイザー／委員 ・元気デザイン向上事業企画運営会議／委員
吉田 恵介	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市公園緑化協会 理事／委員／札幌市 ・札幌市環境影響評価審議会／委員／札幌市 ・札幌市屋外広告物審議会／委員／札幌市 ・古代の里整備基本構想検討委員会／委員／札幌市 ・北海道縄文遺跡群保存管理計画計画検討会／委員／北海道 ・藻岩山山花曙地区社会資本整備計画評価委員会／委員／札幌市
齊藤 雅也	<ul style="list-style-type: none"> ・認定こどもセンター園基本設計 プロポーザル審査選定委員会／委員／上士幌町 ・公共施設整備基本構想アドバイザー／委員／上士幌町 ・都市局建築部プロポーザル選定委員会(円山動物園新ホッキョクグマ・アザラシ館新築工事に係る建築設計)／委員／札幌市 ・新庁舎建設設計業務プロポーザル審査委員会／委員／北広島市
武田 亘明	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道学校・家庭・地域の連携による教育活動促進事業推進委員会／委員長／北海道 ・望ましい生活習慣定着推進事業検討会議／委員／北海道 ・望ましい読書週間定着推進事業子ども読書プロジェクトチーム／委員／北海道 ・北海道立生涯学習センター業務委託契約に係る総合評価審査委員会／委員／北海道 ・「視聴覚教育・情報教育功労者表彰」選考委員会／委員／北海道 ・平成25年「子どもの権利救済機関」PR及び啓発用映像資料の制作業務に係る選考委員会／委員／札幌市 ・北海道札幌藻岩高等学校学校評議員会／委員／札幌市 ・札幌市立西岡小学校学校評議員会／委員／札幌市 ・枝幸町学校支援地域本部事業／委員／枝幸町
張 浦華	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道陶芸作家協会／役員
町田 佳世子	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭裁判所 参与員／委員 ・一般財団法人札幌市水道サービス協会評議員会／委員／札幌市 ・北海道立近代美術館協議会／委員／北海道
山田 良	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌定山溪地区まちづくり協議会／委員 ・札幌南シーニックバイウェイ協議会／委員
石田 勝也	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市中央区行啓通商店街活性化プロジェクト「行啓通フィルムコンテスト実行委員会」委員 ・クリエイティブ北海道実行委員会／委員
上田 裕文	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市みどりの審議会／委員／札幌市 ・北海道特定開発行為審査／委員／北海道 ・上山型温泉クアオルト推進員アドバイザー／フェロー／委員／上山市
片山 めぐみ	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模小売店舗立地法専門家会議／委員／札幌市 ・地域活動の場整備支援事業審査／委員／札幌市 ・水の郷きもべつまちづくり振興基金事業選定審査会／委員／喜茂別町 ・喜茂別町地域防災委員会／委員／喜茂別町
福田 大年	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌スタイル ブランドマネジメント委員会／委員／札幌市 ・札幌メディア・アートフォーラム運営委員



看護学部

教職員	名称／自治体名・主催団体名
中村 恵子	<ul style="list-style-type: none"> ・医政局 医道審議会保健師助産師看護師分科会／委員／厚生労働省 ・保健福祉局 専門委員／札幌市 ・消防局 カリキュラム検討委員／札幌市 ・大学評価分科会委員／(公財)大学基準協会 ・緊急度判定体系実証検証推進会議 構成員／委員／総務省消防庁 ・保健福祉局 委員／札幌市 ・外部評価委員／京都府立医科大学
河原田 まり子	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道建築審査会／委員／北海道
川村 三希子	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道がん対策推進委員／特別委員／北海道 ・がん在宅医療・緩和ケア推進事業評価委員会／委員／北海道
坂倉 恵美子	<ul style="list-style-type: none"> ・准看護師試験問題検討委員会／委員／北海道 ・札幌市介護認定審査会／委員／札幌市 ・札幌市社会福祉協議会／委員／札幌市 ・北海道教育施設協議会／委員／札幌市 ・北海道看護教育施設協議会／倫理審査委員／北海道 ・看護協会役員推薦委員／北海道
定廣 和香子	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費委員会／専門委員／(独)日本学術振興会
清水 光子	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市地域包括支援センター運営協議会／委員 ・札幌市桑園地区民生児童委員準備会／委員 ・札幌市中央区社会福祉協議会評議員
村松 真澄	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費委員会／専門委員／(独)日本学術振興会
守村 洋	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道精神医療審査会／委員 ・第2次札幌市自殺総合対策行動計画(仮称)意見交換会／委員 ・札幌市精神保健福祉審議会部会／委員 ・札幌市社会福祉協議会 権利擁護審査会／委員長 ・札幌市社会福祉協議会 札幌市社会福祉総合センター管理運営委員会／委員長
山田 典子	<ul style="list-style-type: none"> ・第6期札幌市男女共同参画審議会／委員／札幌市
工藤 京子	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道低肺の会／幹事



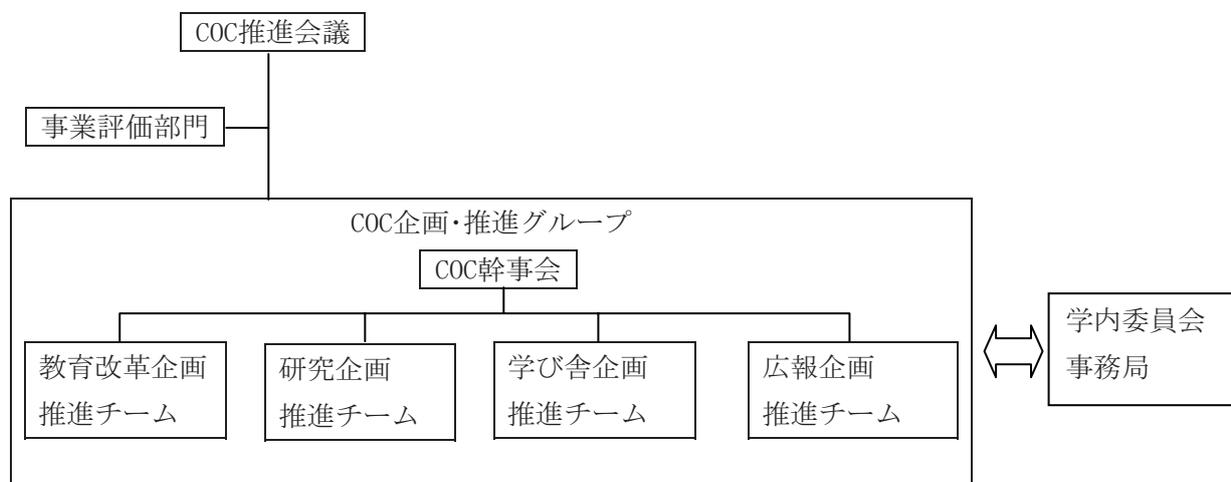
4 ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業(COC 事業)

1) 概要

平成25年度に文部科学省が公募した「地(知)の拠点整備事業」に本学が応募した「ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成『学び舎』事業」(事業期間:平成25~29年度)が採択された。

本事業は、札幌市立大学と札幌市が連携し、札幌市南区の廃校となった小学校の一部に「真駒内COCキャンパス(COC=Center of Community)」を設置し、ここを本学の学生をはじめ、多世代・多セクターの人々が学び、交流し合う「学び舎」として整備し、「地域志向」の教育、研究、社会貢献活動を推進するものである。

2) 実施体制



3) 平成25年度の主な事業実績

年月日	事業実績
平成25年5月15日	札幌市立大学、札幌市によるCOC連携会議を開催
5月23日	文部科学省に事業申請書を提出
8月2日	文部科学省から採択の通知が届く
10月16日	各学部の教授会でCOC学内組織体制を確認し活動開始
11月20日	南区連合町内会でCOC事業担当者がCOC事業を説明
12月5日	旧真駒内緑小学校の見学を実施
平成26年1月31日	札幌市立大学、札幌市、地域団体等による第1回COC連絡会議を開催
2月6日	全学FD研修会「COCカリキュラムについて」を実施
3月3日	全学FDワークショップ「『学部連携演習』をデザインする」を実施
3月8日	「COC公開フォーラム・南区いきいきプロジェクト展」を実施
3月24日	COC市民講座「地域の人々と学生が共に学びあう“学び舎”について」を実施



5 空知旧産炭地域における「炭鉱(やま)の記憶」をキーワードにした地域再生のための アートマネジメント人材育成事業(文化庁 大学を活用した文化芸術推進事業)

1) 概要

北海道空知旧産炭地域の「炭鉱^{やま}の記憶」をキーワードにした地域再生を目的としたアートマネジメント人材育成にあたり、本学のアート、デザインに関する教員、学生、教育研究機能、施設・資料等と空知旧産炭地域の地域資産である炭鉱遺産施設、公共施設等を活用したアートプロジェクト、ワークショップ、研修等の企画、実施を通して実践的な人材育成を行う。

※「炭鉱^{やま}の記憶」: 地域の炭鉱が栄えた当時の姿・様子(産業・石炭生産の姿、まちなみ・風景、炭鉱に働く人々の働く姿・暮らし・文化など)を、現在に語り継ぐ、様々な記録や情報

2) 実施体制

事業推進責任者：上遠野 敏

事業分担者：武邑 光裕

上田 裕文

3) 主な事業実績

年月日	事業実績
平成25年8月17日	研修1 アートプロジェクト現地調査および地元調整(受講者13名)
平成25年8月31日	研修2 アートプロジェクトの企画・運営案づくり(受講者7名)
平成25年9月21日～11月3日 ※土日祝開催 計16日間	研修3 「奔別アートプロジェクト2013」開催(受講者63名、来場者2500名)
平成25年12月5日・12日	研修4 札幌国際芸術祭展と地域連携(受講者6名、公開講座48名)
平成25年10月1日・25日 ※公開制作10月21日～24日	研修5 三笠プロジェクトに学ぶ(受講者6名、学生スタッフ8名)
平成25年12月2日・27日	研修6 「奔別アートプロジェクト2013報告展」開催(受講者14名、学生スタッフ8名、入場者224名)
平成26年1月26日～2月5日	研修7 マネジメントの実践/企画展の開催(受講者13名、学生スタッフ10名、入場者133名)
平成26年2月8日	研修8 マネジメントの検証(受講者6名)



6 専門職支援・セミナー講師等

デザイン学部

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
蓮見 孝	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	倫理委員会委員	特定非営利活動法人つくば臨床検査教育・研究センター
	平成25年5月1日 ～平成26年3月31日	いばらきデザインセレクション2013審査委員	茨城県
	平成25年5月20日	講演会講師	北海道札幌平岸高等学校
	平成25年5月27日 ～平成26年3月31日	SAPPORO ショートフェスト実行委員会顧問	SAPPORO ショートフェスト実行委員会
	平成25年5月31日 ～平成26年3月31日	平成25年度自転車乗用に関する調査研究事業の調査研究委員会委員	(公財)日本サイクリング協会
	平成25年10月4日	教養講座講師	崇城大学
	平成25年10月25日	サインセミナー「デザインする」というコト	(公社)日本サインデザイン協会
	平成26年1月29日	筑波大学附属病院けやき棟開院1周年記念企画展「けやきから生まれるいのちⅡ-病院のアートの芽」展 シンポジウム	筑波大学
	平成26年2月28日	社内講演会講師	(株)北海道日建設計
	平成25年11月11日 ～平成26年3月28日	創成川以東地区まちづくりビジョン策定会議委員	札幌市
酒井 正幸	平成25年6月1日 ～平成26年3月31日	(福)北海道共同募金会広報企画委員会委員	(福)北海道共同募金会
	平成25年8月7日 ～平成26年3月31日	(仮称)日本女性会議2014札幌実行委員	(仮称)日本女性会議2014札幌大会
	平成25年8月19日	路面電車新型低床車両愛称選定委員会委員	札幌市
	平成25年10月30日	さっぽろ市民カレッジ2013秋期講座講師	(公財)札幌市生涯学習振興財団
	平成26年1月26日 ～平成26年3月31日	札幌市図書館協議会委員	札幌市
	平成26年2月7日 ～3月31日の間に3回	元気デザイン向上事業企画運営会議参加	札幌市
城間 祥之	平成25年6月15日 ～平成26年3月31日	(一財)芸術工学会 理事	(一財)芸術工学会
	平成25年8月9日	平成25年度 IDE 大学セミナーシンポジスト	IDE 大学協会北海道支部
	平成25年9月5日 ～平成26年3月31日	日本感性工学会理事	日本感性工学会
	平成25年10月11日	那覇高等学校創立記念文化講演会講師	沖縄県立那覇高等学校
	平成26年1月23日 ～3月27日	平成26年度情報処理技術専門スタッフ業務の発注業務に係る審査委員	札幌市



教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
城間 祥之	平成26年3月14日 ～4月30日	平成26年度札幌市生活保護電算事務システム再構築に係る工程監理業務の発注に係る業者選定委員	札幌市
中原 宏	平成25年9月1日 ～平成26年3月31日	北海道建築士審査会委員	北海道
	平成25年9月19日 ～12月	旧真駒内緑小学校に係る公募提案審査委員会委員	札幌市
	平成25年12月26日 ～平成26年3月31日	平成25年度「北のまちづくり賞」選考委員会委員	北海道
	平成26年3月27日	平成25年度北のまちづくりセミナー 講評及び講和	北海道
石井 雅博	平成25年11月27日 ～28日	生命融合科学教育部博士課程学生の博士学位論文の予備審査及び研究指導	富山大学
	平成26年2月4日	生命融合科学教育部博士課程学生の博士学位論文審査	富山大学
石崎 友紀	平成25年5月1日 ～平成26年3月31日	札幌市芸術文化財団芸術の森事業部工芸専門委員会委員	(公財)札幌市芸術文化財団
	平成25年10月24日 ～11月15日	「公共建築の日」及び「公共建築月間」ポスターコンテスト審査委員	「公共建築の日」及び「公共建築月間」北海道地方実行委員会
	平成25年11月19日	石狩市保育所連絡協議会講演会講師	石狩市保育所連絡協議会
上遠野 敏	平成25年4月11日 ～平成26年3月31日	そらち「炭鉱の記憶」で地域づくり推進会議委員	北海道空知総合振興局
	平成25年5月21日	アイヌアートモニュメント設置検討会議委員	札幌市
	平成25年5月31日 ～平成26年3月31日	札幌芸術の森活性化施策のための委員会委員	(公財)札幌市芸術文化財団
	平成25年12月24日 ～平成26年3月31日	「クラフトで乾杯！」審査員	(公財)札幌市芸術文化財団
	平成26年2月25日	連続フォーラム「札幌を創った「近代」の底力を学ぶ～空知産炭地域から札幌への問いかけ」	北海道空知総合振興局
齋藤 利明	平成25年7月22日 ～平成26年3月31日	2014アートボックス審査委員	札幌駅総合開発(株)
杉 哲夫	平成25年4月25日 ～平成26年3月31日	北海道中小企業人材確保・育成・定着協議会委員	(一社)北海道中小企業家同友会
	平成25年12月11日	産学官連携研究会 HoPE12月例会講師	北海道中小企業家同友会、産学官連携研究会 HoPE
	平成26年3月27日	同友会大学第62期講師	(一社)北海道中小企業家同友会



教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
武 邑 光 裕	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	北翔大学生涯学習システム学部客員教授	学校法人浅井学園
	平成25年10月1日 ～平成26年2月中旬	2013八剣山ワイン・ラベルデザインコンペティション審査員	2013八剣山ワイン・ラベルデザインコンペティション実行委員会
	平成26年3月10日 ～24日	平成26年度メディア芸術情報拠点・コンソーシアム構築事業に関する企画案選定委員	文化庁
羽 深 久 夫	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	札幌芸術の森運営協議会委員	(公財)札幌市芸術文化財団
	平成25年5月31日 ～平成26年3月31日	札幌芸術の森活性化施策のための委員会委員	(公財)札幌市芸術文化財団
	平成25年6月4日・11日	「さっぽろ市民カレッジ2013年春・夏期講座」コーディネーター	(財)札幌市生涯学習振興財団
	平成25年8月12日 ～平成26年3月31日	喜茂別町地域防災委員会委員	喜茂別町
	平成25年9月5日	講演会「柏林講座」講師	(一社)湿原研究所
	平成25年9月24日 ～11月30日	芸術の森地区文化祭実行委員	芸術の森地区連合会
	平成25年11月5日・12日	さっぽろ市民カレッジ2013秋期講座講師	(公財)札幌市生涯学習振興財団
	平成25年11月13日	札幌シティガイド検定フォローアップ研修講師	札幌商工会議所
	平成25年11月21日 ～平成26年3月31日	「水の郷きもべつまちづくり振興基金事業選定審査会委員	喜茂別町
	平成25年12月20日	平成25年札幌市保養センター駒岡運営協議会委員	札幌市保養センター駒岡
平成26年3月4日・11日	「さっぽろ市民カレッジ2014年冬期講座」コーディネーター	(公財)札幌市生涯学習振興財団	
原 俊 彦	平成25年6月1日 ～平成26年3月31日	特定非営利活動法人コミュニティ支援センター顧問	特定非営利活動法人コミュニティ支援センター
	平成25年6月25日	男女共同参画公開学習会講師	札幌市手稲区
	平成25年9月9日	第2回東京の自治のあり方研究会部会講演	東京の自治のあり方研究会
	平成25年9月15日	いしかりまちづくりディスカッション2013講師	石狩市
	平成25年10月11日	平成25年度社会保障・人口問題基礎講座	(一財)厚生労働統計協会
	平成25年11月1日 ～平成26年3月31日	研究評価委員	国立社会保障・人口問題研究所
	平成25年12月3日 ～平成26年3月31日	石狩市総合計画策定審議会委員	石狩市
望 月 澄 人	平成25年4月15日	とくとく健診 PR ポスター図案選考	札幌市



教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
矢部 和夫	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	客員研究員	(一社)湿原研究所
	平成25年5月18日	講演会「晩成学舎」講師	(一社)湿原研究所
	平成25年5月31日 ～平成26年3月31日	札幌芸術の森活性化施策のための委員会委員	(公財)札幌市芸術文化財団
	平成25年6月1日 ～平成26年3月31日	(一社)湿原研究所理事	(一社)湿原研究所
	平成25年6月15日	札幌芸術の森野外美術館作品解説ボランティア研修講師	札幌芸術の森美術館
	平成25年6月16日	観察会「平岡公園春の湿生植物観察ツアー」講師	(公財)札幌市公園緑化協会
	平成25年8月22日 ～平成26年3月28日	平成25年度自然環境保全基礎調査植生調査業務のブロック調査会議参画	環境省自然環境局
	平成25年9月4日 ～平成26年3月31日	美々川自然再生技術検討委員会委員、美々川自然再生技術検討委員会アクションプログラムワーキンググループ委員	胆振総合振興局長
	平成26年2月24日 ～平成26年3月31日	石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ	北海道開発局
吉田 和夫	平成25年8月26日 ～10月31日	2017冬季アジア札幌大会ロゴ選考会アドバイザー	札幌市
	平成25年11月27日	平成25年度中央区広報PR用ロゴデザイン選考委員会委員	札幌市養護教員会
	平成26年2月7日 ～3月31日の間に3回	元気デザイン向上事業企画運営会議参加	札幌市
吉田 恵介	平成25年6月13日	第65回さっぽろ雪まつりポスター・シンボルキャラクターデザイン制作に関する競合プレゼンテーション審査員	さっぽろ雪まつり実行委員会
	平成25年6月17日	平成25年度「ほっかいどう学」かでの講座	(公財)北海道生涯学習協会
	平成25年8月2日	平成25年度さっぽろ都市型グリーン・ツーリズム事業モニターツアーのコーディネーター	札幌市
	平成25年9月4日 ～平成26年3月31日	札幌ふるさとつくる会会長	札幌ふるさとつくる会
	平成25年10月1日 ～平成26年2月中旬	2013八剣山ワイン・ラベルデザインコンペティション審査員	2013八剣山ワイン・ラベルデザインコンペティション実行委員会
	平成25年11月1日 ～平成26年3月31日	札幌市屋外広告物審議会委員	札幌市
	平成25年11月9日	ふらっとホーム2013 in 南区～市民と市長の2時間談議～	札幌市
平成25年12月8日	南区塾講師	南区の果樹園と農業を考える会(ぶどうの会)	



教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
吉田 恵介	平成26年2月22日	「農ある暮らしフォーラム」講演	札幌市
	平成26年2月28日 ～3月31日	藻岩山・山鼻・曙(路面電車沿線)地区社会資本総合整備計画評価委員会委員	札幌市
	平成26年3月23日 ～平成26年3月31日	北海道縄文遺跡群保存管理計画検討会議委員	北海道縄文遺跡群保存管理計画検討会議実行委員会
柿山 浩一郎	平成25年12月5日	札幌管区気象台職員研修会(プランニング研修)	札幌管区気象台長 高野 清治
齊藤 雅也	平成25年5月28日 ～6月25日	上士幌町認定こども園基本設計 プロポーザル審査選定委員	上士幌町
	平成25年8月1日 ～平成26年3月31日	上士幌町公共施設整備基本構想アドバイザー	上士幌町
	平成25年9月4日	留萌町職員研修講師	(一社)日本経営協会
	平成25年9月26日 ～平成26年1月31日	北広島市新庁舎建設設計業務プロポーザル審査委員会委員	北広島市
	平成25年10月11日 ～12日	SS 特別講座講師	北海道旭川西高等学校
	平成25年10月19日	札幌エコ動物園2013講師	(株)ニトリパブリック
	平成25年10月20日	福井大学公開講座・市民公開シンポジウム講演会講師	福井大学
	平成25年11月26日 ～平成26年1月31日	建築部プロポーザル選定委員会委員	札幌市
	平成25年12月5日 ～平成26年3月31日	BIS 試験講習委員会委員	(一社)北海道建築技術協会
	平成25年12月10日・平成26年1月20・29日・2月4日	BIS 養成講習会・更新講習会講師	(一社)北海道建築技術協会
	平成26年2月24日 ～平成26年3月31日	第5回 JIA・テスクチャレンジ設計コンペ審査委員長	(公社)日本建築家協会北海道支部・(株)テスク
武田 亘明	平成25年4月1日 ～計画策定作業終了	新たな情報化計画策定に関するアドバイザー(期間延長)	札幌市
	平成25年5月13日 ～平成26年3月31日	平成25年度北海道学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業推進委員会委員	北海道教育委員会
	平成25年6月1日 ～平成26年3月31日	枝幸町学校支援地域本部推進アドバイザー	枝幸町教育委員会
	平成25年6月12日	平成25年度視聴覚教育・情報教育功労者表彰候補者選考委員会委員	北海道
	平成25年8月30日	「子どもの権利救済機関」PR 及び啓発用映像資料の作成業務に関する選考委員会委員	札幌市
	平成25年8月28日 ～29日	平成25年度北海道高等学校商業クラブ研究発表大会兼全国高等学校生徒商業研究発表大会北海道予選会審査委員	北海道札幌国際情報高等学校



教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
武田 亘明	平成25年8月31日・ 9月1日・5日	アイアンフィルムメーカーコンテスト審査 委員	SAPPORO ショートフェス ト実行委員会
	平成25年10月28日 ～平成26年2月28日	北海道クラウド導入ヒント集作成検討会委員	(株)道銀地域総合研究所
	平成25年11月8日	平成25年度安平町教育研究会合同研修会講師	安平町教育研究会
張 浦 華	平成26年3月24日 ～4月1日	国際講座講師・通訳	華梵大学(台湾)
町田 佳世子	平成25年6月1日 ～平成26年3月31日	北海道立近代美術館協議会委員	北海道立近代美術館
石田 勝也	平成25年4月1日 ～平成26年12月31日	札幌国際芸術祭2014アートプロジェクトメ ンバー	創造都市さっぽろ・国際芸 術祭実行委員会
	平成25年8月22日 ～平成26年3月14日	クールジャパンの芽の発掘・連携促進事業 における専門家	NPO 法人札幌ビズカフェ
上田 裕文	平成25年5月17日 ～平成26年3月31日	札幌市緑の審議会委員	札幌市
大 測 一 博	平成25年6月29日 ～平成26年3月31日	高校生チャレンジグルメコンテスト in HOKKAIDO 実行委員	高校生チャレンジグルメコ ンテス実行委員会
	平成25年9月10日	看護師復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
片山 めぐみ	平成25年4月10日 ～平成26年3月31日	平成25年度地域活動の場整備支援事業審査 委員会委員	札幌市
	平成25年6月4日	2013年度人工知能学会全国大会招聘講演	(一社)人口知能学会
	平成25年7月2・9日	さっぽろ市民カレッジ2013春・夏期講座講師	(公財)札幌市生涯学習振興 財団
	平成25年7月10 ～11日	平成25年度網走管内社会福祉協議会職員連 絡協議会研修会講師	網走管内社会福祉協議会職 員連絡協議会
	平成25年8月12日 ～平成26年3月31日	喜茂別町地域防災委員会委員	喜茂別町
	平成25年10月6日	いしかりまちづくりディスカッション2013 講師	石狩市
	平成25年11月21日 ～平成26年3月31日	「水の郷きもべつまちづくり振興基金事業 選定審査会委員	喜茂別町
福田 大年	平成25年11月13日	札幌市養護教員会西ブロック研修会講師	札幌市養護教員会
山 田 良	平成25年10月9日 ～平成26年3月31日	ロシアノボシビルスク国立建築芸術大学客 員教授	ノボシビルスク国立建築芸 術大学
須之内 元洋	平成25年8月1日 ～平成26年12月31日	札幌国際芸術祭2014アートプロジェクトメ ンバー	創造都市さっぽろ・国際芸 術祭実行委員会
	平成25年12月14日	Tokyo Art Research Lab「集中セミナー： 運営・記録・評価のサイクルをつくる」講師	(公財)東京都歴史文化財団
長谷川 聡	平成25年7月12日	CREST 有機太陽電池シンポジウム及び有機太 陽電池研究コンソーシアム講演	京都大学エネルギー理工学 研究所
藪谷 祐介	平成26年1月21日 ～平成26年3月31日	「技をつなぐ、未来を創る」～れき・まち・ひ ろば in チ・カ・ホ～ワークショップ企画検 討委員	特定非営利活動法人歴史的 地域資産研究機構



看護学部

1) 専門職支援

①認定看護管理者教育課程サードレベル
平成25年度受講者14名(修了者14名)

開講期間	教科目／ 時間／単位	単元	講義・演習 (時間数)	講師
第Ⅰ期(12日間) 平成25年8月26日 ～9月10日	保健医療福祉政 策論 /33時間	1. 社会保障の概念	講義(3)	★梅井 治雄
		2. 諸外国の保健医療福祉	講義(3)	スーディ神崎 和代
		3. 保健医療福祉政策	講義(6)	★飯田 晃
		4. 看護制度・政策	講義(6)	★齋藤 訓子 ★丸山 知子
		5. 制度・政策に影響を及ぼす看 護管理者	講義(3)	★齋藤 訓子
		6. 保健医療福祉政策演習	演習(9)	★工藤 昭子 ★須田 倫子 ★松田 久代 猪股 千代子
		7. 小論文プレゼンテーション	演習(3)	中村 恵子 猪股 千代子
第Ⅱ期(14日間) 平成25年11月5日 ～11月22日	保健医療福祉組 織論 /30時間	1. 保健医療福祉サービスのマー ケティング	講義(6)	★松下 博宣
		2. 組織デザイン論	講義(6)	★永池 京子
		3. ヘルスケアサービスの創造	講義(6)	★平川 由紀子 スーディ神崎 和代
		4. 保健医療福祉組織論統括演習	演習(12)	★勝見 真澄 ★土井 正子 ★中村 敦子 猪股 千代子
第Ⅲ期(12日間) 平成26年1月7日 ～1月23日				



開講期間	教科目／時間／単位	単元	講義・演習(時間数)	講師
第Ⅰ期(12日間) 平成25年8月26日 ～9月10日 第Ⅱ期(14日間) 平成25年11月5日 ～11月22日 第Ⅲ期(12日間) 平成26年1月7日 ～1月23日	経営管理論 /60時間	1. 医療福祉と経済論	講義(6)	★高木 安雄
		2. 医療福祉経営	講義(12)	★工藤 高
		3. 財務管理	講義(6)	★玉川 真弓
		4. 経営分析	講義(6)	★水野 克也
		5. ヘルスケアサービスの経営と 質管理・経済性	講義(12)	★児玉 真利子 ★宮城 領子
		6. 看護経営の今後のあり方	講義(6)	★齋竹 一子 ★深澤 優子
		7. 労務管理	講義(6)	★浅見 浩
		8. 人材フローのマネジメント	講義(3)	★樋口 春美
		9. 危機管理	講義(3)	★加藤 久美子
	看護経営者論 /51時間	1. 経営者論	講義(6)	★河野 總子 中村 恵子
		2. 管理者の倫理的 意思決定	講義(6)	★近藤 ときえ 中村 恵子
		3. 看護事業の 開発と起業	講義(6)	★鈴木 英樹 ★原田 典子
		4. 実習	実習(27)	猪股 千代子
		5. 特別講義	講義(6)	★長谷川 英祐
	統合演習 /15時間	1. 統合演習	演習(15)	★加藤 久美子 ★近藤 ときえ ★佐々木 衿子 ★的場 由紀子 猪股 千代子

★印:非常勤講師

2) セミナー講師等

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
中村 恵子	平成25年6月22日	第19回日本看護診断学会学術集会教育 講演Ⅱ講師「チーム医療の将来像」及び 特別講演Ⅱ講師「米国のチーム医療と看護 診断」	第19回日本看護診断学会学術集会
	平成25年8月3日	日本救急看護学会主催基礎病態セミナー (大阪会場)の講師「救急看護師の役割」	(一社)日本救急看護学会
	平成25年9月1日	日本救急看護学会主催基礎病態セミナー (福岡会場)の講師「救急看護師の役割」	(一社)日本救急看護学会
	平成25年9月9日・19日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会



教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
中村 恵子	平成25年9月15日	日本救急看護学会主催基礎病態セミナー(東京会場)の講師「救急看護師の役割」	(一社)日本救急看護学会
	平成25年9月21日	日本救急看護学会主催基礎病態セミナー(名古屋会場)の講師「救急看護師の役割」	(一社)日本救急看護学会
	平成25年9月22日	日本救急看護学会主催基礎病態セミナー(仙台会場)の講師「救急看護師の役割」	(一社)日本救急看護学会
	平成25年10月3日、 平成25年10月4日	平成25年度看護師救急医療業務実地修練の講師「救急患者への対応とトリアージ」ワークショップ「救急トリアージの実際」	(一社)日本救急看護学会
	平成25年10月30日、 平成26年1月17日	平成25年度認定看護管理者教育制度ファーストレベル教育課程講師「看護管理概論」	(公財)北海道看護協会
樋之津 淳子	平成25年7月～8月	平成25年度専任教員養成講習会の講師「看護論」	北海道保健福祉局
	平成25年11月9日	平成25年度第3回看護教員現任教育研修の講師「看護学生における卒業時看護実践能力の習得方法(OSCE)を探る」	金沢医科大学
猪股 千代子	平成25年7月6日	市立釧路総合病院院内研修の講師「統合医療の理解とホリスティック・ナーシング」	市立釧路総合病院
	平成25年11月27日	平成25年度看護職員研修会の講師「看護研究指導」	札幌市(病院局)市立札幌病院
	平成26年1月～3月	北海道済生会小樽病院看護部の看護指導講師「統合医療と看護ケア」	(福)恩賜財団済生会支部 北海道済生会小樽病院
	平成26年2月13日	平成25年度看護職員研修会の講師「看護研究発表会」	札幌市(病院局)市立札幌病院
	平成26年2月22日	北海道済生会小樽病院院内研修会の講師「統合医療について」	(福)恩賜財団済生会支部 北海道済生会小樽病院
内田 雅子	平成25年5月18日	平成25年度看護職員研修会の講師「看護研究」	札幌市(病院局)市立札幌病院
河原田 まり子	平成25年8月21日	新人事務所課長級研修の講師「メンタルヘルス」	北海道開発局
	平成25年11月25日	平成25年度千歳地域保健室管内保健師現任研修会の講師「地域における保健師活動への期待-改正『保健師活動指針』から保健活動を考える-」	北海道石狩振興局保健環境部 千歳地域保健室
川村 三希子	平成25年5月12日	がん地域連携ワークショップ in 北見の講師「北見の関係者で情報共有し、話し合う」	北海道オホーツク総合振興局保健環境部



教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
川村 三希子	平成25年6月29日、30日	北海道大学病院腫瘍センター主催 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラムの講師	北海道大学病院
	平成25年7月6日	緩和ケア認定看護師対象の研修会「全人的ケアのゴール設定のためのアプローチ」	北海道緩和ケア認定看護師の会
	平成25年7月26日～28日	第9回 ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラムの講師	(特非)日本緩和医療学会
	平成25年10月26日、27日	緩和ケア研修会 in 名寄及び ELNEC-J in 名寄の講師	北海道保健福祉部
	平成25年11月9日、10日	第2回日本ホスピス緩和ケア協会北海道支部主催 ELNEC-J の講師	日本ホスピス緩和ケア協会北海道支部
	平成26年2月14日～16日	平成25年度 ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラム研修の講師「エンド・オブ・ライフケアにおける倫理的問題」	(独)国立がん研究センターがん対策情報センター
	平成26年3月14日、15日、21日、22日	認定看護師研修センター「試験対策セミナー」(緩和ケア分野)の講師	北海道医療大学認定看護師研修センター
坂倉 恵美子	平成25年5月1日～平成26年3月31日	平成25年度特定非営利活動法人北海道ジェロントロジー推進協会のアドバイザー	(特非)北海道ジェロントロジー推進協会
	平成25年9月11日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
定廣 和香子	平成25年7月～8月	平成25年度専任教員養成講習会の講師「看護論」	北海道保健福祉局
	平成25年7月11日、12日	秋田県立実習指導者講習会の講師「看護教育論」	秋田県立衛生看護学院
スーディ神崎 和代	平成25年9月13日	第2回病院ボランティア国際フォーラムの講師	第2回病院ボランティア国際フォーラム in Sapporo 2013 実行委員会
	平成25年9月19日、20日	平成25年度訪問看護師養成講習会の講師「Ⅱ訪問看護対象論」	(公社)北海道看護協会
	平成25年10月19日	平成25年度北海道看護協会北空知支部職能学習会の講師「2013年時点での認知症情報」[効果的なコミュニケーション手法]	(公社)北海道看護協会北空知支部
	平成25年10月22日	中央区みんなの講演会の講師	札幌市(中央区)
	平成25年10月22日	平成25年度北区新琴似地区単位町内会長研修会の講師「住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みづくり」	札幌市北区市民部新琴似まちづくりセンター
	平成25年11月12日	職員研修「まちづくり(福祉政策)研修」の講師「沼田町における福祉、医療を中心とした課題分析と将来への方策を考える」	沼田町



教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
スーディ神崎 和代	平成25年11月20日	札幌大通ライオンズクラブ研修会の講師「認知症ケアとQOL」	札幌大通ライオンズクラブ
	平成26年1月23日	職員研修「まちづくり(福祉政策)研修」の講師「沼田町における福祉、医療を中心とした課題分析と将来への方策を考える」	沼田町
	平成26年2月9日	札幌国際プラザ外国語ボランティア対象研修会の講師	(公財)札幌国際プラザ
	平成26年2月22日	平成26年度北海道看護協会札幌第一支部支部大会・講演会の講師「認知症看護～在宅につなぐ認知症看護～(仮)」	(公社)北海道看護協会札幌第一支部
	平成26年3月6日	認知症介護従事者研修会の講師「今、認知症研究が教えてくれること」	(公社)日本認知症グループホーム協会北海道支部
松浦 和代	平成25年5月7日	平成25年度看護職員研修会の講師「臨床指導者研修Ⅰ」	札幌市(病院局)市立札幌病院
	平成25年6月6日、7月9日	平成25年度看護部院内研修の講師「看護課程ミドル2」「看護研究の基礎」	KKR 札幌医療センター
	平成25年6月12日、26日	平成25年度新人看護職員研修制度における実地指導者研修の講師「自部署における新人看護職員研修の立案と評価」	札幌医科大学
	平成25年7月11日	健康講話の講師「高校生としての性への対応について」	札幌平岸高等学校
	平成25年8月8日	日本看護学教育学会第23回学術集会パネルディスカッションの講師「現代社会に生きる若者に対する看護学教育の挑戦」	日本看護学教育学会第23回学術集会
	平成25年11月26日	思春期保健講演会の講師「10代を生きるみなさんへのメッセージ～見つめよう心と体、そして性～」	帯広大谷高等学校
山本 勝則	平成25年7月14日	メンタルケア・スペシャリスト養成講座講師「メンタルケアの手法論」	(財)メンタルケア協会
	平成25年9月24日、10月8日	認定看護師教育課程認知症看護認定看護師コースの講師「認知症患者とのコミュニケーション」	日本赤十字秋田看護大学
	平成25年10月9日	認知症研修の講師	(株)えがお
	平成26年3月10日	特別講義の講師「精神看護学におけるシミュレーション教育の概観と実践」	日本赤十字秋田看護大学
大野 夏代	平成25年5月～6月 平成25年10月～11月	I M S グループ看護部職員新卒入職者対象精神的サポート”ほっとライン”面談講師「入職1ヵ月後面談」「入職6ヵ月後面談」	I M S グループ
	平成25年11月23日、24日	JICA 青年海外研修の講師	札幌保健医療大学



教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
貝谷 敏子	平成25年7月14日	東京大学大学院医学系研究科老年看護学分野看護理工学入門セミナーの講師「看護理工学研究の展開 高度創傷管理技術の効果・効率評価」	東京大学大学院医学系研究科老年看護学分野
	平成25年9月9日、12日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成25年11月9日	平成25年度第3回看護教員現任教育研修の講師「看護学生における卒業時看護実践能力の習得方法(OSCE)を探る」	金沢医科大学
	平成25年11月27日	平成25年度看護職員研修会の講師「看護研究指導」	札幌市(病院局)市立札幌病院
	平成26年2月13日	平成25年度看護職員研修会の講師「看護研究発表会」	札幌市(病院局)市立札幌病院
菊地 ひろみ	平成25年9月11日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成25年10月24日、25日	平成25年度訪問看護師養成講習会演習助言者	(公社)北海道看護協会
	平成25年11月6日	留萌地域在宅医療推進講座の講師「在宅がん患者における看護アセスメントと看護計画のポイント」	北海道留萌振興局保健環境部
	平成25年11月9日	平成25年度第3回看護教員現任教育研修の講師「看護学生における卒業時看護実践能力の習得方法(OSCE)を探る」	金沢医科大学
清水 光子	平成25年9月10日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成25年11月15日	平成25年度北海道ブロック老人クラブリーダー研修会の講師「健康な地域づくりに高齢者の力を！」	(一社)札幌市老人クラブ連合会
菅原 美樹	平成25年9月10日、11日、13日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成25年11月9日	看護福祉学部FDセミナーの講師「看護OSCEの実際～課題作成・評価・フィードバックのポイント」	北海道医療大学
村松 真澄	平成25年6月11日	北海道大学大学院歯学研究科高齢者歯学研究科高齢者歯科学教室の講師「在宅訪問歯科診療」	北海道大学大学院歯学研究科高齢者歯学研究科高齢者歯科学教室
	平成25年8月12日、13日	講師「口腔ケアに関する指導および助言」	滋賀県立大学人間看護学部人間看護学科
	平成25年8月31日	第5回日本口腔ケア協会学術大会の講師「口腔アセスメントの標準化(仮題)」	第5回日本口腔ケア協会学術大会
	平成25年9月7日	日本口腔ケア学会世話人会の講師	日本口腔看護研究会
	平成25年9月9日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会



教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
村松 真澄	平成25年11月2日	テルモ臨床栄養セミナーの講師「口腔ケア最前線—看護師が出来る簡単な口腔アセスメントとお口のお手入れ」	テルモ(株)名古屋統括支店
	平成26年1月12日	第6回日本口腔ケア協会学術大会の講師「ワークショップ『口腔ケア難症例にどう立ち向かうか』看護師の立場から」	第6回日本口腔ケア協会学術大会
	平成26年3月10日	旭川医科大学病院口腔ケア勉強会の講師	旭川医科大学病院
	平成26年3月15日	高知大学医学部附属病院がん治療センターの講師	高知大学医学部附属病院がん治療センター
	平成26年3月18日	職員研修の講師「口腔ケアについて」	(福)恩賜財団済生会支部 北海道済生会小樽病院
守村 洋	平成25年8月8日	千歳地域自殺予防対策連絡会議の講師「救急現場における自殺未遂者支援について(仮)」講義及び質疑応答	北海道石狩振興局保健環境部千歳地域保健室
	平成25年9月9日	平成25年度八雲保健所自殺対策連絡会議の講師「自殺未遂者への危機介入と関わり方について」講義及び事例検討での助言	北海道渡島総合振興局保健環境部八雲地域保健室
	平成25年10月13日	第56回日本病院・地域精神医学会の講師シンポジウム C「思春期・青年期の危機—自殺に傾く心理の理解とその支援」	第56回日本病院・地域精神医学会
	平成25年11月13日	千歳市こころのケア講座の講師	千歳市
	平成25年12月5日	平成25年度渡島保健所管内自殺予防対策地域連絡会議の講師	北海道渡島総合振興局保健環境部
	平成26年1月17日	救急講演会の講師「自殺未遂患者に対する救急場面での関わりについて」	市立千歳市民病院
	平成26年2月27日、28日	自殺予防講演会及び自殺予防人材育成研修会の講師	せたな町
	平成26年3月10日	特別講義の講師「精神看護学におけるシミュレーション教育の概観と実践」	日本赤十字秋田看護大学
山田 典子	平成25年8月31日、9月1日、9日	精神障害者の多様なライフスタイルを支援するピア活動・共同居住の研究のアドバイザー	(特非)サンネット青森
太田 晴美	平成25年7月25日、26日	災害看護「災害時に看護力を発揮する～日常から備える災害看護」研修会の講師	(公社)北海道看護協会
	平成25年7月27日	平成25年度公益社団法人北海道看護協会札幌第一支部講演会の講師「寒冷地の災害看護」「クリティカル・パスについて」	(公社)北海道看護協会札幌第一支部
	平成25年9月9日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成25年10月17日、18日	災害看護研修の講師	名寄市立総合病院



教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
太田 晴美	平成25年10月19日	小規模病院看護技術強化研修事業の講師	北海道自治体病院協議会
	平成25年12月6日、7日	平成25年度良質な医師を育てる研修(救急初療)の講師	(独)国立病院機構
	平成26年1月14日	看護課長補佐研修の講師「マネジメント研修Ⅱ 人材(財)育成」及び多職種のトップマネージャー研修の講師「医療の質をあげるためのマネジメント」	市立釧路総合病院
	平成26年3月11日	メンター研修の講師「基礎教育終了時の学生の現状と教育方法」	JA 北海道厚生連札幌厚生病院
神島 滋子	平成25年6月11日、18日	看護記録研修会の講師「電子カルテ導入に向けた看護記録」	(福)恩賜財団済生会支部 北海道済生会小樽病院
	平成25年11月28日	札幌医科大学大学院保健医療学研究科博士課程後期看護学専攻の講師「看護研究方法について」	札幌医科大学
田中 広美	平成25年6月～8月	平成25年度専任教員養成講習会講師「研究方法(演習)」	北海道保健福祉部
	平成25年9月10日、12日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
原井 美佳	平成25年6月～7月、12月～平成26年1月	平成25年度教育研修計画の講師「疑問解決看護研究」	(医)豊生会東苗穂病院
	平成26年2月20日	平成25年度看護研究発表会の講師「看護研究発表論文、研究計画書についての講評」	(医)鳩仁会札幌中央病院
藤井 瑞恵	平成25年9月12日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
山内 まゆみ	平成25年6月14日、8月1日	母性に関する研修の講師「母性に関する保健指導の充実のために～乳房管理について～」	札幌市(保健福祉局)
山本 真由美	平成25年5月14日	「看護研究計画書の作成について」の研修会講師	(独)国立病院機構北海道がんセンター
	平成25年9月～平成26年3月31日	看護研究及び論文の指導	(独)国立病院機構北海道がんセンター
	平成26年2月28日	看護研究発表会の講師	(独)国立病院機構北海道がんセンター
渡邊 由加利	平成25年11月22日	講師「妊産婦タクシー送迎について」	札幌第一交通(株)
工藤 京子	平成26年2月13日	平成25年度看護職員研修会の講師「看護研究発表会」	札幌市(病院局)市立札幌病院
	平成26年2月20日	平成25年度看護研究発表会の講師「看護研究発表論文、研究計画書についての講評」	(医)鳩仁会札幌中央病院



教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
多賀 昌江	平成25年5月26日、 11月9日、平成26年3 月8日	ワーキングマタニティスクール講師「夫 婦で楽しく妊娠・子育てライフ」	(財)母子衛生研究会
檜山 明子	平成25年5月10日	小規模病院看護技術強化研修事業の講 師	北海道自治体病院協議会
	平成25年9月11日、 13日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会

7 国際交流実績

年月日	内容	
平成25年4月1日 ～9月30日	受入	華梵大学(台湾)から特別聴講学生受入(学生1名)
平成25年7月5日	受入	ノボシビルスク日本語青年訪問団員(7名)
平成25年8月18日 ～23日	受入	華梵大学(台湾)及び雲林科技大学(台湾)とのデザインワークショップ実施(学生9名、 教員1名)
平成25年9月8日 ～13日	派遣	承德医学院(中国)への学生派遣プログラム(学生4名、教員1名)
平成25年9月22日 ～27日	派遣	トロムソ大学(ノルウェー)およびラップランド大学(フィンランド)視察(教員3名)
平成25年9月28日 ～10月1日	受入	清華大学美術学院(中国)関係者受入(教員3名)
平成25年10月17日 ～20日	派遣	交通大学(台湾)と国立台中科技大学(台湾)視察、特別講演、意見交換(教員1名)
平成25年11月1日	受入	ラップランド大学関係者と情報交換(教員2名、渉外担当1名)
平成25年11月29日	受入	ロバニエミ市関係者受入(市関係者1名)
平成26年1月31日	受入	JENESYS2.0 ASEAN科学技術訪日団第2弾(カンボジア大学生)(学生26名、引率1名)
平成26年2月17日 ～22日	派遣	ラップランド大学訪問(教員1名)



8 JICA 草の根技術協力事業

1) 概要

独立行政法人国際協力機構(以下、JICAという。)草の根技術協力事業は、日本の大学・地方自治体等の団体とJICAが共同で実施する、開発途上国の地域住民を対象とした協力活動である。

平成25年度に本学がJICAに応募した草の根協力事業は、平成26年1月～平成28年3月までの2年3ヶ月間の事業として採択され、モンゴル国を対象として育児方法の指導の研修を実施した。

モンゴルでは、乳児の手足を伸展し身体全体をぐるぐると巻くような布おむつが伝統的に用いられている。このようなおむつの装着方法は、先天性股関節脱臼(developmental dysplasia of the hip)の原因となることが知られている。先天性股関節脱臼は、成人の変形性股関節症の原因にもなる代表的な股関節疾患であり、装具装着や手術による治療によっても痛みや可動域制限が生涯続くこともある。かつて日本は、布おむつを縦・横方向からきつく巻く習慣があったが、1960年代後半から乳児健診においてマスキリーニングや育児方法等の啓発に取り組み、先天性股関節脱臼の発症率を大幅に低下させた実績を有する。

日本の経験に基づき、おむつのあて方を含む育児方法の指導を行い、先天性股関節脱臼の予防を行う国際的技術協力活動が、本事業の目的である。

平成25年度は、第1回招聘研修会を実施した。招聘研修会はリーダー研修であり、モンゴル国の子ども病院において先天性股関節脱臼のマスキリーニングと初期診療に従事している医療チームのリーダー5名を対象とした。研修期間は2週間であり、本学における講義のほか、日本国内の研修施設(札幌市保健福祉局保健所、札幌市病院局市立札幌病院、東京都立小児総合医療センター)の協力のもと、見学および実習等の研修を行った。

2) 実施体制

【プロジェクトマネージャー】 中村 恵子

【担当者】 大野 夏代、松浦 和代、吉川 由希子、清水 光子、三上 智子

【現地プログラムオフィサー】 BYAMBAA TSETSGEE (バヤンバ ツェツェゲー) 氏

3) 平成25年度の主な事業実績

年月日	事業実績	開催地
平成26年2月26日 ～3月14日	第一回招聘研修	日本(札幌、東京)

参加研修員

国籍:モンゴル国

所属:モンゴル国立母子保健センターこども病院

人数:5名

9 サテライトキャンパスの利用状況

利用目的	学内利用件数	計
セミナー	38	38
会議	94	94 (内訳 会議(学内者のみ) 26 産学連携・会議(学外者を含む) 68)
教育・研究 (研究会・学会を含む)	214	214
その他	57	57
合計	403	403

※学外貸出なし



V キャリア支援活動

1 デザイン学部

1) 概要

デザイン学部キャリア支援委員会は、デザイン学部の学生を対象としたキャリア支援の取り組みを図る目的で平成20年4月に設立された。本委員会は、定例会議（毎月1回程度）において学生の支援方法及び企業へのPR・求人開拓活動などを協議し、コース毎の独自企画と連携しながら運営を行った。

また、キャリア支援室を開設し、教職員による就職相談体制とした。キャリア支援室では、後援会からの支援を得て、就職関連図書や什器などの備品・設備を整備した。平成21年5月には就職相談員1名を配置し、きめ細かく個別指導できる体制を整備した。活動実績の詳細については、下記のとおりである。

学部4年生への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導(就職相談、面接・履歴書・ES対策など) (平成25年4月～) ・学内企業説明会(平成25年12月) ・求人情報の提供(随時)
学部3年生への支援 大学院1年生への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアガイダンス(平成25年4月～平成26年1月) ・就職活動ハンドブックの配布(平成25年4月) ・進路希望調査(平成25年10月) ・学内企業説明会(平成25年12月) ・求人情報の提供(随時) ・インターンシップ情報の提供(随時)
就職先の開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・企業向けパンフレット作成(平成26年3月)
後援会からの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・就職模擬筆記試験補助(平成25年6月・11月) ・履歴書用証明写真撮影補助(平成25年11月) ・デザイン系就職講話補助(平成25年12月) ・グループディスカッション対策講座(平成25年12月) ・模擬面接、履歴書添削補助(平成26年1月) ・企業情報誌購入補助(平成26年3月)
大学改革推進等事業(GP)による支援	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生対象早期キャリア講習会(平成25年6月) ・OBOGによるポートフォリオワークショップ (平成25年7月) ・メディアアーティストによるワークショップ (平成25年10月) ・企業のデザイナーによる講演会(平成25年11月) ・企業のデザイナーによるポートフォリオ講習会 (平成25年12月)

2) 支援体制

デザイン学部のキャリア支援は、デザイン学部キャリア支援委員会の委員、4コースのゼミ担当教員及び事務局（学生課学生支援係、就職相談員）が行っている。主な役割分担として、事業の企画・運営は当該委員会の委員が、就職先の開拓は全教員及び学生支援係が、学生相談のうち専門分野に関わることはキャリア支援室の就職相談員及び学生支援係がそれぞれ行っている。



3) 就職・進学結果

平成26年3月卒業生（5期生）

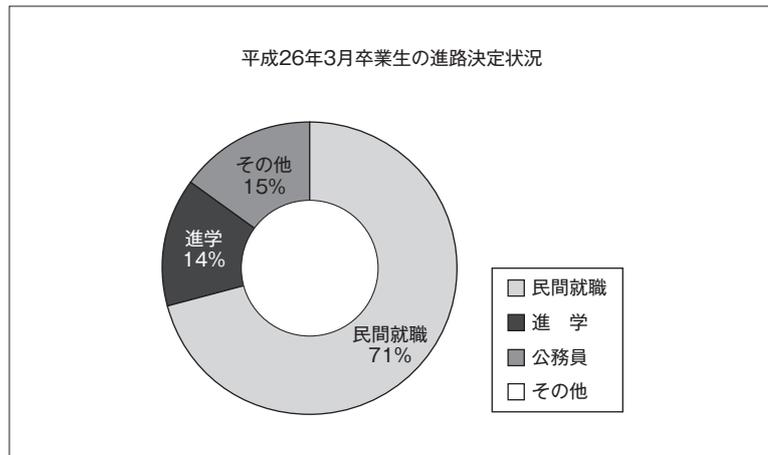
<p>就 職 先</p>	<p>■情報通信業（放送・ゲームソフト・インターネット関連・映像制作等） エイチ・テー・ビー映像(株)、(株)ギアエイト、(有)クリエイティブアソシエイツボイス、(株)スパイラル、 (株)ソフトコム、ダンアート(株)、ナスカコンピュータ(株)、(株)ヤファー、(株)ラクシス、(株)ラヴィ</p> <p>■専門・技術サービス業（デザイン業・広告業等） (株)アレンジコンクリート、(株)オズ、(株)札幌社、(株)写真工房、(株)ドラフト、 ハーミットクラブ一級建築士事務所、(株)プロコム北海道、(株)本間利雄設計事務所、(株)三景スタジオ</p> <p>■製造業 (株)エール、(株)北一硝子、(株)北の達人コーポレーション、極東高分子(株)、 (株)ケイシイシイ（LeTAO）、総合商研(株)、東京リスマチック(株)、東洋印刷(株)、ナトコ(株)、 日崎工業(株)、(株)ファンケル、(株)本田技術研究所、三浦印刷(株)、</p> <p>■卸売業・小売業 (株)アイア、大槻食材(株)、(株)キャンディハウス、(株)ドン・キホーテ、ハミューレ(株)、(株)パル、 北海道マツダ販売(株)、ヨシモト(株)、(株)リンク・セオリージャパン</p> <p>■建設業 (株)一条工務店、(株)NTTファシリティーズ、(株)土屋ホーム、(株)土屋ホームトピア、(株)フレンズ、 ヤマチコーポレーション(株)、(株)ヴァックスラボ</p> <p>■公務 (公財)札幌市芸術文化財団</p> <p>■サービス業 アミューズメント北海道(株)、キャリアバンク(株)、(株)ステージ・ループ、(株)セレブリックス、 (株)ダイナム、(株)テイパーズ</p> <p>■宿泊業・飲食サービス業 (株)グランビスタホテル&リゾート（札幌グランドホテル）</p> <p>■運輸業・郵便業 北海道旅客鉄道(株)</p> <p>■教育・学習支援業 (公財)さっぽろ青少年女性活動協会、(株)秀英予備校、(株)ファミリー</p> <p>■不動産 日本グランデ(株)</p>
<p>進 学 先</p>	<p>札幌市立大学大学院、北海道大学教育学部、産業技術大学院大学、ヒューマンアカデミー</p>



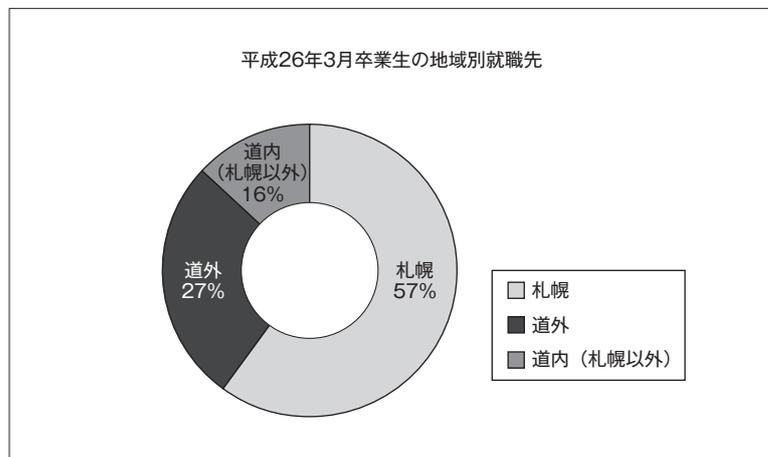
(5期生)

札幌市立大学デザイン学部 平成26年3月卒業生 就職状況 (平成26年5月15日現在)

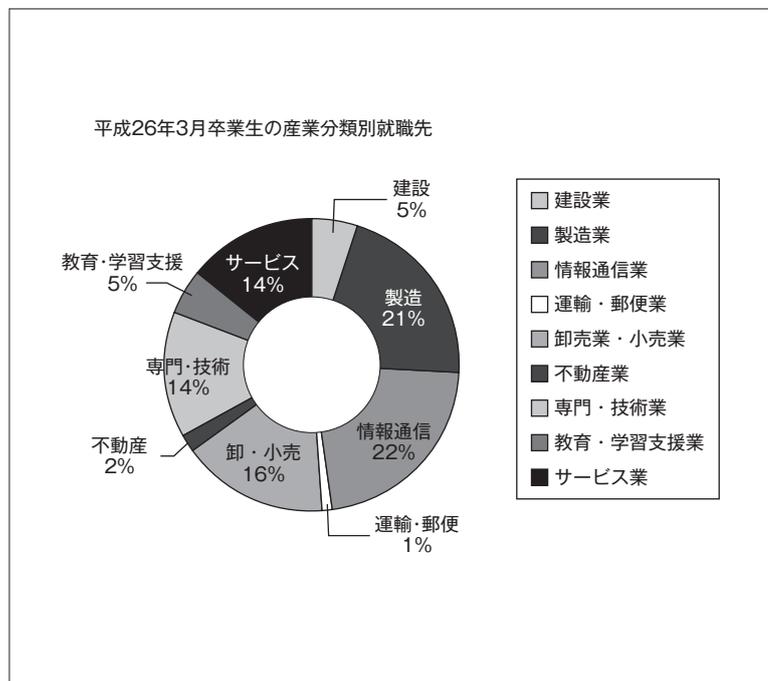
進路状況	人数	割合
民間就職	63名	70.8%
進学	13名	14.6%
公務員	0名	0.0%
その他	13名	14.6%
合計	89名	—



地域別就職先	人数	割合
札幌	36名	57.1%
道外	17名	27.0%
道内(札幌以外)	10名	15.9%
合計	63名	—



産業分類別就職先	人数	割合
建設	3名	4.8%
製造	13名	20.6%
情報通信	14名	22.2%
運輸・郵便	1名	1.6%
卸・小売	10名	15.9%
不動産業	1名	1.6%
専門・技術	9名	14.3%
教育・学習支援	3名	4.8%
サービス業	9名	14.3%
合計	63名	—





4) コース別概要

(5期生)

札幌市立大学デザイン学部 平成26年3月卒業生 進路決定状況 (概要)

1. コース別進路状況

コース	卒業生数①	1. 就職希望		就職者(起業含)※1		2. 進学希望		3. その他 ⑥ ※2
		②	内公務員志望	③	内公務員	④	進学先決定者⑤※3	
空間	14	8	0	8	0	5	5	1
製品	19	15	0	14	0	3	3	1
コンテンツ	23	17	0	13	0	3	3	3
メディア	33	30	0	28	0	2	2	1
合計	89	70	0	63	0	13	13	6
割合	100.0%	78.7%	0	90.0%	0	14.6%	100.0%	6.7%

① ÷ ① ② ÷ ① ③ ÷ ② ④ ÷ ① ⑤ ÷ ④ ⑥ ÷ ①

(備考)

※1: 就職希望者に対する就職者の割合

※2: 就職希望・進学希望以外の者(アルバイト・公務員浪人等、将来的な就職に関する進路選択をしたもの)

※3: 進学希望者に対する進学先決定者の割合

2. 内定先の内訳(市内35社37名、道内9社9名、道外17社17名)

コース	道内企業(札幌市内含む)		道外企業
空間	市内	土屋ホーム(株)[建設業:設計職] 土屋ホームトピア(株)[建設業:営業職] 株NTTファシリティーズ北海道[専門・技術サービス業:設計職] 株札幌社[情報通信業:営業職]	株本間利雄設計事務所[専門・技術サービス業:設計職] 株セレブリックス[サービス業:営業支援] 株ラクシス[情報通信業:デザイナー職]
	道内	株ケイシイシイ[製造業:デザイナー職]	
製品	市内	株北の達人コーポレーション[製造業:企画職] 株ドン・キホーテ[卸・小売業:総合職] キャリアバンク(株)[サービス業]	株本田技術研究所[製造業:デザイナー職] 株ヤフー[情報通信業:総合職] 株ファンケル[製造業:総合職] ナトコ(株)[製造業:デザイナー職] 株アレンジコンクリート[専門・技術サービス業:技術職]
	道内	ヨシモト(株)[卸・小売業:総合職] 株カンディハウス[製造業:デザイナー職]	株ドラフト[専門・技術サービス業:デザイナー職] ハーミットクラブ一級建築士事務所[専門・技術サービス業:デザイナー職] ダンアート(株)[情報通信業:総合職] 日崎工業(株)[製造業:技術職]
コンテンツ	市内	大槻食材(株)[卸・小売業:営業職] 株ラヴィ[情報通信業:デザイナー職] 株オズ[情報通信業:デザイナー職] 株リンク・セオリージャパン[卸・小売業:販売職] ナスカコンピュータ(株)[情報通信業:SE職] 株ヴァックスラボ[情報通信業:総合職] 株スパイラル[情報通信業:企画職] 株タリエイティブアソシエイツボイス[情報通信業:デザイナー職] 株ギアエイト[情報通信業:ディレクター職]	東京リスマチック(株)[製造業:総合職] 一条工務店(株)[建設業:営業職]
	道内	株ファミリー[教育・学習支援業:一般職] 東洋印刷(株)[製造業:デザイナー職]	



コース	市内	道内企業(札幌市内含む)	道外企業
メディア	市内	(株)ソフトコム〔情報通信業:SE職〕 ハミューレ(株)〔卸・小売業:総合職〕 ヤマチコーポレーション(株)〔建設業:企画職〕 総合商研(株)〔製造業:デザイナー職〕 (株)アイア〔卸・小売業:販売職〕 (株)三景スタジオ〔専門・技術サービス業:フォトグラファー〕 (株)秀英予備校〔教育・学習支援業:小中学部教師〕 (公財)さっぽろ青少年女性活動協会〔教育・学習支援業:総合職〕 (株)ダイナム〔サービス業:総合職〕 (公財)札幌市芸術文化財団〔専門・技術サービス業:総合職〕 北海道旅客鉄道(株)〔運輸、郵便業:デザイナー職〕 日本グランデ(株)〔K不動産業:広告ディレクター〕 アミューズメント北海道(株)〔サービス業:総合職〕 (株)フレンズ〔情報通信業:デザイナー職〕 エイチテービー映像(株)〔情報通信業:アシスタントディレクター〕 北海道マツダ販売(株)〔卸・小売業:事務職〕 三浦印刷(株)〔製造業:営業職〕 キャリアバンク(株)〔サービス業〕 (株)写真工房〔専門・技術サービス業:デザイナー職〕 (株)グランビスタ&リゾート(札幌パークホテル)〔サービス業:カメラマン〕	ステージループ(株)〔サービス業:オペレーター〕 (株)バル〔卸・小売業:販売職〕 (株)テイパーズ〔サービス業〕
	道内	(株)北一硝子〔製造業:販売〕 (株)プロコム北海道〔専門・技術サービス業:デザイナー職〕 (株)エール〔製造業〕 極東高分子(株)〔製造業:技術職〕	
小計		44社 46名	17社 17名
合計		61社 63名	

3. 進学状況 (大学院11名、研究生0名、その他1名)

空間	大学院	札幌市立大学大学院(4)、北海道大学大学院(1)	5名
	研究生		
	その他		
製品	大学院	産業技術大学院大学(1)、札幌市立大学大学院(1)	2名
	研究生		
	その他	ヒューマンアカデミー(1)	1名
コンテンツ	大学院	札幌市立大学大学院(3)	3名
	研究生		
	その他		
メディア	大学院	札幌市立大学大学院(1)、北海道大学大学院(1)	2名
	研究生		
	その他		
合計		大学院 12名 研究生 0名 その他 1名	13名

2 看護学部（助産学専攻科含む）

1) 概要

看護学部キャリア支援委員会は、学生の進路相談や就職活動、国家試験への支援だけでなく、就職後の支援も視野に入れ、学生を支援する体制を整えている。

看護学部における支援体制には、①進路相談、②就職活動支援、③国家資格試験対策、④卒業後のキャリア支援の4つの取組を軸に、次のような活動計画を定めた。①看護学部キャリア支援相談室の管理・運営、②進路希望調査の実施、③看護学部キャリア支援・進路活動ガイダンスの実施、④進路相談日の定期化、⑤各種就職・進学説明会の開催、⑥国家試験自主ゼミの組織化、⑦国家試験受験に向けたガイダンスの実施。

また、上記に加え平成24年度から引き続き文部科学省の「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の支援を受けて2期生、3期生、4期生を対象としたシャトル研修を実施するなど、卒後のキャリア支援も行った。

これらの活動が学生のニーズに適う内容であること及び学生の将来に有用な指針を示すものであることを念頭におき、進路希望調査の結果や進路相談などにおける学生の声を重視するとともに、これらを計画立案に反映させながら支援することに努めている。

2) 支援体制

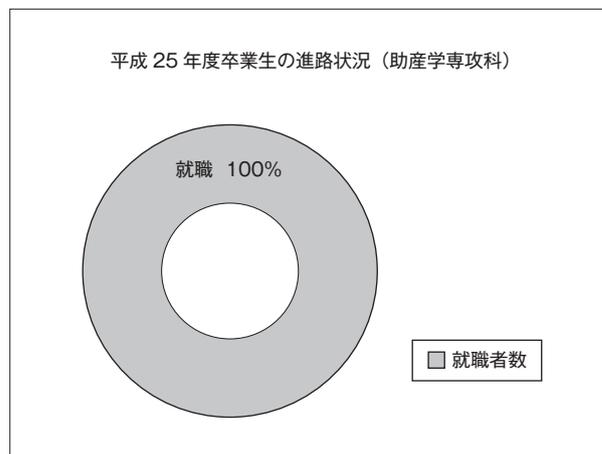
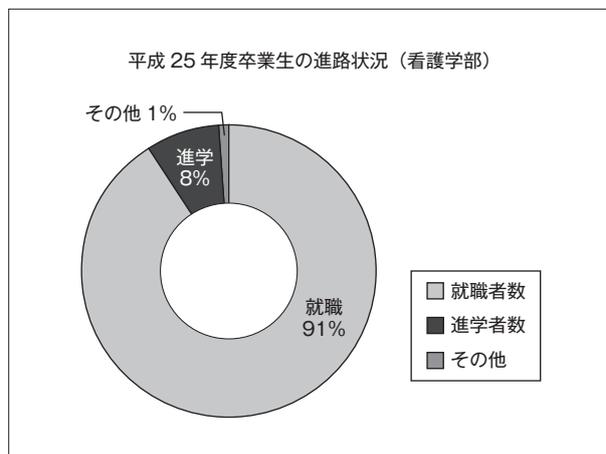
看護学部キャリア支援委員7名により、次の表のとおり年間活動計画及び進路相談などを行った。また、学生による国家試験対策自主ゼミグループを組織し、自主ゼミリーダー会議を定期的に開催した。

月	4年次生・助産学専攻科生	3年次生
4月	・前期ガイダンス ・国家試験受験ガイダンス ・キャリアハンドブック配布（専攻科生） ・進路希望調査	・前期ガイダンス ・キャリアハンドブック配布（編入生）
5月		
6月	①看護師模試	
7月		
8月	・再学修セミナー（5回） ・後期ガイダンス（専攻科生）	
9月	②保健師模試 ・後期ガイダンス	・後期ガイダンス
10月	③看護師模試	・国家試験対策自主ゼミ結成 ・進路活動ガイダンス
11月	④助産師模試 ⑤保健師模試 ・国家試験説明会	
12月		
1月	⑥看護師模試 ⑦助産師模試 ⑧保健師模試	・進路希望調査
2月	・国家試験受験事前説明会	・学内就職説明会
3月	・労務支援特別講義	①低学年用国家試験模試

3) 就職・進学結果

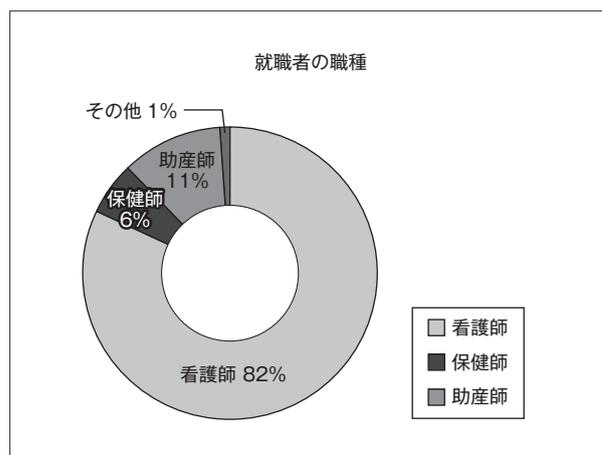
① 進路状況

	在籍数(名)	就職希望者数(名)	進学者数(名)	就職者数(名)	内定率(%)
学生数	89	81	7	81	100.0
(うち編入学)	8	7	0	7	100.0
助産学専攻科	10	10	0	10	100.0



② 就職者の職種 (単位:名)

看護師	75
保健師	5
助産師	10
その他	1
合計	91



4) 国家試験の結果

	出願者数(名)	受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)
看護師	81	81	81	100.0%
保健師	89	89	87	97.7%
助産師	10	10	10	100.0%



3 デザイン研究科

1) 就職・進学結果

(3期生)

札幌市立大学（デザイン研究科） 平成26年3月修了生

就 職 先	■情報通信業（放送・ゲームソフト・インターネット関連・映像制作等） (株)パブリックリレーションズ
	■製造業 (株)金星/東リ(株)
	■建設業 (株)建築設備設計研究所/上海現代設計院（中国）
	■公務 札幌市役所（技術職：建築）
	■サービス業 (株)ダーウィنز/(株)ジェイティービー

2) 進路決定状況概要

1. コース別進路状況

コース	修了生数①	1. 就職希望		就職者（起業含）※1		2. 進学希望		3.その他
		②	内公務員志望	③	内公務員	④	進学先決定者⑤※3	⑥※2
デザイン専攻	11	8	1	8	1	0	0	3
合計	11	8	1	8	1	0	0	3
割合	100.0%	72.7%	0	100.0%	0	0		27.3%
	①÷①	②÷①		③÷②		④÷①	⑤÷④	⑥÷①

(備考)

※1：就職希望者に対する就職者の割合

※2：就職希望・進学希望以外の者（アルバイト・公務員浪人等、将来的な就職に関する進路選択をしたもの）

※3：進学希望者に対する進学先決定者の割合

2. 内定先の内訳（市内5社5名、道内0社0名、道外3社3名）

コース	道内企業(札幌市内含む)	道外企業
デザイン専攻	(株)ダーウィنز[サービス業:総合職] 札幌市役所[公務:建築職] (株)金星[製造業:企画営業職] JTBC北海道[サービス業:総合職] (株)パブリックリレーションズ[情報通信業:SE職]	上海現代設計院(中国)[建設業:設計職] 東リ(株)[製造業:企画職] (株)建築設備設計研究所[建設業:設計職]
	道内 (株)カンディハウス[卸・小売]	
小計	5社 5名	3社 3名
合計	8社 8名	

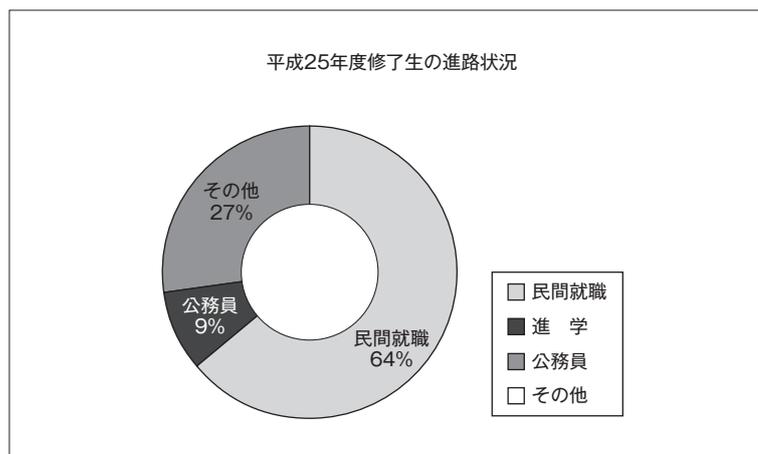
3. 進学状況

進学者なし

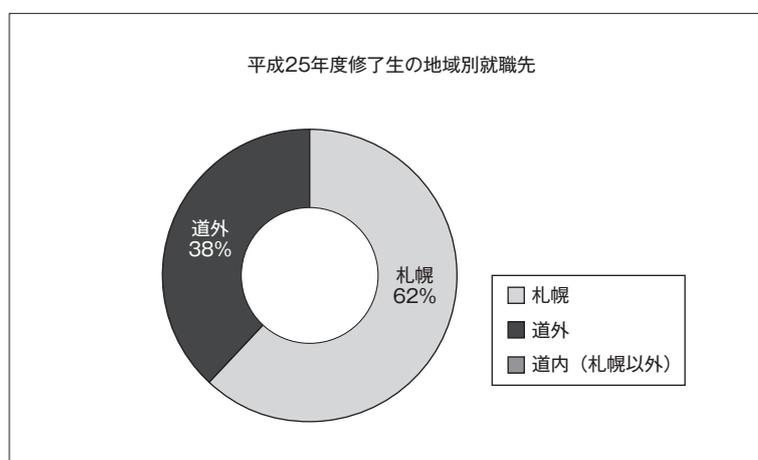
(3期生)

札幌市立大学（デザイン研究科） 平成26年3月修了生 就職・進学結果

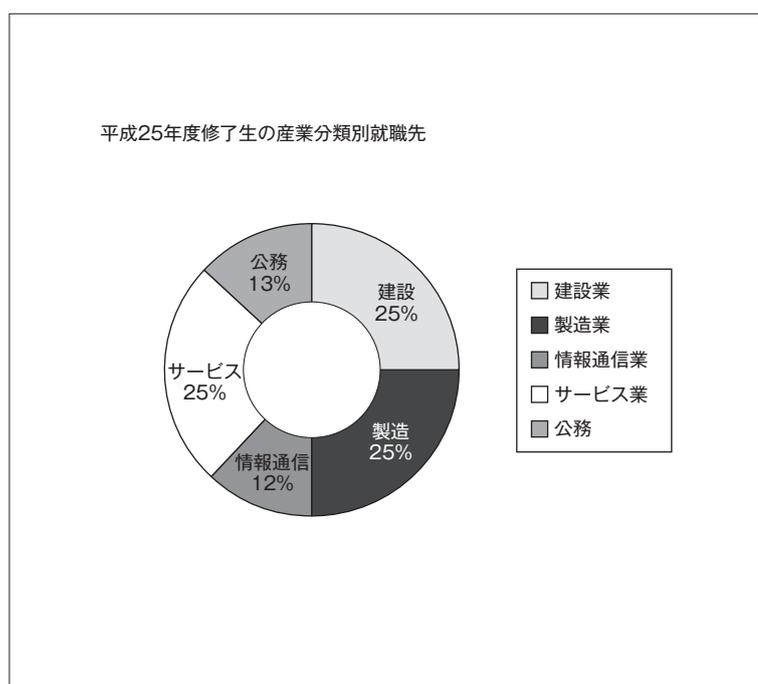
進路状況	人数	割合
民間就職	7名	63.6%
進学	0名	0.0%
公務員	1名	9.1%
その他	3名	27.3%
合計	11名	—



地域別就職先	人数	割合
札幌	5名	62.5%
道外	3名	37.5%
道内(札幌以外)	0名	0.0%
合計	8名	—



産業分類別就職先	人数	割合
建設	2名	25.0%
製造	2名	25.0%
情報通信	1名	12.5%
サービス業	2名	25.0%
公務	1名	12.5%
合計	8名	—





VI 平成26年度入学者選抜結果

1 デザイン学部・看護学部

1) 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

<教育研究の理念>

本学は、デザイン学と看護学を教育研究の対象とする。デザイン学と看護学は、いずれも人間を対象とした学問領域であることから、両者に共通する「人間重視」の考え方を常に基本とし、一人の人間から社会全体までを対象に、安全で快適な暮らしを創造できる幅広い教養と豊かな人間性を有する職業人を育成する。市民の負託にこたえ、「市民に開かれた大学」「市民の力になる大学」「市民が誇れる大学」という三つの視点を掲げて、地域貢献という使命を果たしていくため、時代の要請に柔軟に対応しながら質の高い教育研究を追求する。

<教育研究の特長>

デザイン学と看護学それぞれの専門性を極める教育を行うとともに、幅広くデザインと看護の連携を目指す。また、市民、産業界、公的機関などと連携することにより、幅広いネットワークを持った大学とし、地域課題等に対応した教育研究を積極的に展開する。

<デザイン学部の求める学生像>

- 1 人間尊重・人間重視の姿勢を持ち、デザインを通して社会に貢献しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と見識を持って、主体的かつ協同して未来のデザインを創造することに意欲のある人
- 3 デザインを通じ、地域活性化のリーダーとして文化・産業の発展に寄与する意志を持った人

このため、入学者には、日ごろから、人間及びその生活を豊かにするデザインに興味・関心を持ち、地域社会が抱える課題の発見や解決に向けて、日々の学習の中で幅広い基礎学力・思考力・発想力を身に付けるとともに、多くの人々と協働するためのコミュニケーション能力を備えていることが求められます。

<看護学部の求める学生像>

- 1 人々の健康、心、暮らしに関心を持ち、生命の尊厳を理解しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と探究心を持って、柔軟に物事を考え、自主的に学修できる人
- 3 他者と協調し、信頼関係を築くことができ、積極的に地域に貢献する意志を備えた人

そのためには、高等学校における国語、英語、数学、理科などの基礎的な学力、及び課外活動等によって培われた協調性や責任感のある人を求めています。



② 平成26年度入学者選抜概要

入学定員・募集人員

(単位:名)

学部・学科名	入学定員	募集人員				
		一般選抜		特別選抜		
		前期日程	後期日程	推薦入学	社会人	私費外国人留学生
デザイン学部 デザイン学科	85	59	14	12	若干	若干
看護学部 看護学科	80	48	-	32	若干	-

選抜日程

選抜区分		出願期間	試験日	合格者発表等
特別選抜	推薦入学 社会人	平成25年11月1日 ～11月6日	平成25年11月23日	平成25年12月10日 【入学手続期間】 平成25年12月10日～12月16日
	私費外国人留学生(※)	平成26年1月27日 ～2月5日	平成26年2月25日	平成26年3月7日 【入学手続期間】 平成26年3月7日～3月14日
一般選抜	前期日程	平成26年1月27日 ～2月5日	平成26年2月25日	平成26年3月7日 【入学手続期間】 平成26年3月7日～3月14日
	後期日程(※)	平成26年1月27日 ～2月5日	平成26年3月12日	平成26年3月20日 【入学手続期間】 平成26年3月20日～3月26日

(※)は、デザイン学部のみ実施

試験会場

学部・学科名	試験会場
デザイン学部デザイン学科	芸術の森キャンパス
看護学部看護学科	桑園キャンパス



選抜方法

選抜区分		学部・学科名	選抜方法
特別選抜	推薦入学	デザイン学部 デザイン学科	「小論文(課題解決型の論述問題)」又は「実技(鉛筆デッサン)」(いずれかを選択)、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	小論文(看護を学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力を見る。)、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	社会人	デザイン学部 デザイン学科	「小論文(課題解決型の論述問題)」又は「実技(鉛筆デッサン)」(いずれかを選択)、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	総合問題(国語、英語、自然科学、論述)、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	私費外国人留学生	デザイン学部 デザイン学科	「小論文(課題解決型の論述問題)」又は「実技(鉛筆デッサン)」(いずれかを選択)、面接、日本留学試験及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	一般選抜	一般選抜	デザイン学部 デザイン学科
看護学部 看護学科			

一般選抜試験の大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科・科目

学部・学科名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等 科目名等
		教科	科目名等	
デザイン学部 デザイン学科	前期日程	国語	「国」(古文・漢文を含む。)	「小論文(課題解決型の論述問題)」又は「実技(鉛筆デッサン)」のいずれかを選択
		地歴公民	「世A」「世B」「日A」「日B」「地理A」「地理B」「現社」「倫理」「政・経」「倫理、政・経」から1科目	
		数学	「数I・数A」と「数II・数B」の2科目	
		理科	「物I」「化I」「生I」「地学I」から1科目	
		外国語	「英」(筆記及びリスニング)	
	後期日程	国語	「国」(古文・漢文を含む。)	
		数学	「数I・数A」	
看護学部 看護学科	前期日程	国語	「国」(古文・漢文を含む。)	面接
		数学	「数I・数A」	
		理科	「物I」「化I」「生I」「地学I」から2科目	
		外国語	「英」(筆記及びリスニング)	

③ 平成26年度3年次編入学者選抜概要

募集人員 (単位:名)

学部・学科名等	募集人員
デザイン学部デザイン学科	10
看護学部看護学科	10

選抜日程・試験会場

学部・学科名	出願期間	試験日	試験会場	合格者発表等
デザイン学部 デザイン学科	平成25年6月21日 ～6月28日	平成25年7月20日	芸術の森キャンパス	平成25年8月2日 【入学手続期間】 平成25年8月2日～8月8日
看護学部 看護学科	平成25年8月9日 ～8月15日	平成25年9月7日	桑園キャンパス	平成25年9月24日 【入学手続期間】 平成25年9月24日～10月1日

選抜方法

学部・学科名	選抜方法
デザイン学部 デザイン学科	入学者の選抜は、本学が実施する小論文(課題解決型の論述問題)、英語、面接・試問及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学部 看護学科	入学者の選抜は、本学が実施する論述試験、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

2) 選抜状況

① 入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況 (単位:名)

デザイン学部

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	前期日程	59	159	159	63	63
	後期日程	14	189	113	15	13
特別選抜	推薦入学	12	34	34	12	12
	社会人	若干	0	0	0	0
	私費外国人留学生	若干	3	3	2	2



看護学部

(単位：名)

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	前期日程	48	116	105	48	48
特別選抜	推薦入学	32	77	77	32	32
	社会人	若干	22	20	4	4

b. 入学者の内訳

(単位：名)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	90	44	31	15	30	60
看護学部	84	43	38	3	2	82
合計	174	87	69	18	32	142

② 編入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況

(単位：名)

学部		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
デザイン学部	空間デザイン	10	6	6	5	5
	製品デザイン		4	4	2	2
	コンテンツデザイン		4	4	1	1
	メディアデザイン		6	4	4	3
	計	10	20	18	12	11
看護学部		10	21	21	11	10

b. 入学者の内訳

(単位：名)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	11	3	1	7	3	8
看護学部	10	3	7	0	2	8
合計	21	6	8	7	5	16



2 デザイン研究科・看護学研究科

1) 博士前期課程

i 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

【デザイン研究科】

本研究科は、地域社会全体に内在する様々な課題に対してデザインによる解決策を教育・研究することにより、高度で専門的なデザイン能力を持った職業人の育成を目指し、産業・芸術・文化等の振興、地域再生・活性化などの貢献を果たすことを目的としています。この目的を達成するために、本研究科が求める学生像は次のとおりとします。

＜デザイン研究科の求める学生像＞

- 1 デザインに関する基礎的知識を備え、豊かな感性と深い見識を持ち、人間重視の視点からデザインの発展に寄与できる人
- 2 各種のデザインを統合し、先導的なプロジェクトを主体的・戦略的に展開することに意欲のある人
- 3 デザインを通じ、地域を創成していくリーダーとして文化・産業の発展に貢献する意思を持った人

【看護学研究科】

本課程では、広い視野に立って看護学の基盤を学修した個々人の専門性及び学識を深めつつ、看護学の発展、様々な形態での看護の実践及び幅広く地域社会に貢献できる高度で専門的な人材を育成することを目的としている。

この目的を達成するために、本課程が求める学生像は次のとおりである。

＜看護学研究科（博士前期課程）が求める学生像＞

- 1 看護学の基礎知識と総合的な学力を有し、豊かな人間性と高い探究心を持って、自主的・意欲的に看護実践の向上に寄与できる人
- 2 柔軟で論理的な思考を持って保健・医療・福祉の諸問題に積極的に取り組み、問題解決に向けた研究を遂行できる人
- 3 高い倫理観を有し、地域社会や国際社会に貢献する意志と責任感を持った人

② 平成26年度入学者選抜概要

募集人員

(単位：名)

研究科・専攻名	入学定員	推薦選抜	一般選抜	特別選抜	
				社会人	私費外国人留学生
デザイン研究科 デザイン専攻	18	9	9	若干	若干
看護学研究科 看護学専攻	18	—	18 (一般選抜、社会人特別選抜、私費外国人留学生を含む)		

※デザイン研究科の特別選抜(社会人・私費外国人留学生)の若干名は推薦選抜及び一般選抜の合計18名に含む。



選抜日程

【第1次募集】

研究科・専攻名	選抜区分	出願期間	試験日	合格者発表等
デザイン研究科 デザイン専攻	推薦選抜	平成25年6月21日 ～6月28日	平成25年7月20日	平成25年8月2日 【入学手続期間】 平成25年8月2日～8月8日
	一般選抜	平成25年8月30日 ～9月6日	平成25年9月28日	平成25年10月15日 【入学手続期間】 平成25年10月15日～10月22日
	特別選抜(社会人・ 私費外国人留学生)			
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	平成25年8月23日 ～8月30日	平成25年9月28日	平成25年10月15日 【入学手続期間】 平成25年10月15日～10月22日
	特別選抜(社会人・ 私費外国人留学生)			

【第2次募集】

研究科・専攻名	選抜区分	出願期間	試験日	合格発表等
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	平成26年1月31日 ～2月7日	平成26年3月1日	平成26年3月14日 【入学手続期間】 平成26年3月14日～3月20日
	特別選抜(社会人・ 私費外国人留学生)			
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	平成26年1月10日 ～1月17日	平成26年2月8日	平成26年2月26日 【入学手続期間】 平成26年2月26日～3月5日
	特別選抜(社会人・ 私費外国人留学生)			

試験会場

研究科名	試験会場
デザイン研究科	芸術の森キャンパス
看護学研究科	桑園キャンパス

選抜方法

研究科・専攻名	選抜区分	選抜方法
デザイン研究科 デザイン専攻	推薦選抜	本学大学院が実施する面接・試問の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	一般選抜	本学大学院が実施する学力検査(専門科目の筆記試験、英語)、面接・試問の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	特別選抜 (社会人・私費外国人留学生)	本学大学院が実施する学力検査(専門科目の筆記試験)、面接・試問の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	本学大学院が実施する筆記試験(英語、専門科目)、面接(口頭試問含む)及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	特別選抜 (社会人・私費外国人留学生)	



ii 選抜状況

① 入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況

デザイン研究科【第1次・第2次募集合計】

(単位：名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推薦選抜	9	3	3	3	3
一般選抜	9	11	10	9	8
特別選抜 (社会人)	若干	3	3	3	3
特別選抜 (私費外国人留学生)	若干	0	0	0	0

看護学研究科【第1次・第2次募集合計】

(単位：名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	18	17	16	12	12
特別選抜(社会人)					
特別選抜 (私費外国人留学生)		0	0	0	0

b. 入学者の内訳

(単位：名)

研究科	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン研究科	14	12	1	1	8	6
看護学研究科	12	7	5	0	1	11
合計	26	19	6	1	9	17



2) 博士後期課程

i 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

【デザイン研究科】

〈教育研究の理念〉

本課程は、人間重視を根幹とした高度な教育・研究を実践し、「知と創造の拠点」として地域からの負託に応え、高度の専門知識・技術を基盤に地域社会の発展に寄与します。さらに、高度で先進的な教育・研究の中核機関として機能し、新たな理論構築や技術開発に独創的に取り組み、新たな社会価値の創造を図ることを教育研究の理念とします。

〈教育研究の目的〉

本課程は、地域社会に内在する様々な課題をデザインの視点から幅広く発見するとともに、高度な教育・研究の成果を通じて、その解決策を見出し、より豊かな人間生活や地域社会の実現に貢献できる人材を育成することを目的としています。この目的を達成するために、本課程が求める学生像は次のとおりです。

〈デザイン研究科博士後期課程の求める学生像〉

- 1 柔軟な思考と独創的な視点に立って地域課題を発見・明確化し、その課題解決に向けて旺盛な探究心を持って自立した研究を遂行できる人
- 2 豊かな感性と深い見識を持ち、高度な教育・研究による成果をもとにデザインの発展に貢献しようとする意識を有する人
- 3 既成の概念にとらわれず、自立して独自のデザイン理論構築や技術開発に取り組み、新たな社会価値の創造を目指す意欲と実行力を有する人

【看護学研究科】

本課程では、高度な学識と豊かな実践経験を基礎に様々な看護現象の分析や評価を行い、その研究成果をもとに将来を見据えた看護の枠組みを再構築し、システム開発などを行うことができる人材を育成することを目的としている。

この目的を達成するために、本課程が求める学生像は次のとおりである。

〈看護学研究科（博士後期課程）が求める学生像〉

- 1 柔軟な思考と独創的な視点に立って、看護を軸とした諸課題を発見・明確化し、その課題解決に向けて旺盛な探究心を持って自立した教育・研究を遂行できる人
- 2 保健医療福祉分野における新たな理論構築や技術開発等を通じて、より質の高い看護サービスのあり方を探求する意欲を有する人
- 3 卓越した看護知識と高い倫理観に基づく実践能力を有し、教育・管理能力の研鑽に励み、将来を見据えた保健医療福祉分野の指導者となりうる人



② 平成26年度入学者選抜概要

募集人員

(単位:名)

研究科・専攻名	一般選抜
デザイン研究科 デザイン専攻	3
看護学研究科 看護学専攻	3

選抜日程

研究科・専攻名	選抜区分	出願期間	試験日	合格発表等
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	平成26年1月31日 ～2月7日	平成26年3月1日	平成26年3月14日 【入学手続期間】 平成26年3月14日 ～3月20日
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	平成26年1月10日 ～1月17日	平成26年2月8日	平成26年2月26日 【入学手続期間】 平成26年2月26日 ～3月5日

試験会場

研究科名	試験会場
デザイン研究科	芸術の森キャンパス
看護学研究科	桑園キャンパス

選抜方法

研究科・専攻名	選抜区分	選抜方法
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	本学大学院が実施する面接(研究計画書に基づくプレゼンテーション、口頭試問を含む)の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	本学大学院が実施する筆記試験(英語)、面接(研究計画書に基づくプレゼンテーション、口頭試問を含む)及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。



ii 選抜状況

① 入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況

デザイン研究科

(単位：名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	3	4	4	4	4

看護学研究科

(単位：名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	3	2	2	2	2

b. 入学者の内訳

(単位：名)

研究科	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン研究科	4	3	1	0	2	2
看護学研究科	2	2	0	0	0	2
合計	6	5	1	0	2	4

3 助産学専攻科

1) 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

本専攻科は、看護学を基盤に、助産に関する幅広く高度な知識と正確な技術を育み、地域社会における母子保健の向上に貢献できる人間性豊かな助産師の育成を目的としている。

これらの目的を達成するために、本専攻科が求める学生像は次のとおりである。

< 助産学専攻科が求める学生像 >

- 1 「生命の誕生」に、責任を持って真摯に向き合える誠実で優しい人
- 2 看護学を基盤に、倫理観を持ち、主体的に「助産学」を積み重ねることができる人
- 3 広い視野で現代社会をとらえ、母子保健を取り巻くさまざまな課題の解決を追求できる人



② 平成26年度入学者選抜概要

募集人員 (単位:名)

専攻科名	募集人員
助産学専攻科	10

選抜日程

出願期間	試験日	合格者発表等
平成25年8月9日 ～8月15日	平成25年9月7日	平成25年9月24日 【入学手続期間】 平成25年9月24日 ～10月1日

試験会場

専攻科名	試験会場
助産学専攻科	桑園キャンパス

選抜方法

専攻科名	選抜方法
助産学専攻科	本学専攻科が実施する筆記試験(専門科目(看護学一般)、小論文)、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

2) 選抜状況

① 入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況 (単位:名)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
10	27	27	13	9

b. 入学者の内訳 (単位:名)

入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
	道内		道外	男	女
	札幌市内	札幌市外			
9	7	2	0	-	9

Ⅶ 附属図書館

1 概要

1) 施設規模

芸術の森キャンパス・ライブラリー … 延べ床面積／1,500㎡

桑園キャンパス・ライブラリー …… 延べ床面積／500㎡

2) 図書・雑誌・視聴覚資料・電子ジャーナル所蔵数

(平成26年3月31日現在)

図書館の名称	図書の冊数				雑誌の種数		
	和書	洋書	視聴覚資料	計	和雑誌	洋雑誌	電子ジャーナル
芸術の森 キャンパス図書館	63,959	8,772	3,330	76,061	347	54	475
桑園 キャンパス図書館	34,009	1,651	1,177	36,837	331	6	1,812
合計	97,968	10,423	4,507	112,898	678	60	2,287

3) 平成25年度年間受入状況

区分		和	洋	計	
芸術の森 キャンパス 図書館	図書 (冊)	購入	1,580	147	1,727
		寄贈	644	6	650
		計	2,224	153	2,377
	雑誌 (種)	購入	25	8	33
		寄贈	41	0	41
		計	66	8	74
桑園 キャンパス 図書館	図書 (冊)	購入	1,479	42	1,521
		寄贈	182	5	187
		計	1,661	47	1,708
	雑誌 (種)	購入	104	6	110
		寄贈	126	0	126
		計	230	6	236



2 利用状況

1) 開館時間・休館日

開館時間	平日：午前9時～午後10時 土曜日：午前10時～午後4時 大学の長期休業期間中：午前9時～午後5時(平日)
休館日	日曜・祝日・年末年始

2) 利用資格

- ① 本学学部学生・大学院生及び教職員
- ② 札幌市に在住・在勤する18歳以上の方
- ③ 北海道地区大学図書館相互利用サービス加盟館所属の方

3) 貸出冊数・期間

利用者	貸出冊数	貸出期間
学部生 (科目等履修生を含む)	10冊	図書:2週間 雑誌:2週間(芸森館の一部のみ貸出可)
教職員	無制限	図書:2ヶ月間 雑誌:2週間(芸森館の一部のみ貸出可)
市民等学外者	3冊	図書:2週間 雑誌:2週間(芸森館の一部のみ貸出可)

4) 年間利用者数・貸出冊数等

図書館の 名称	利用者	開館 日数	入館 者数	貸出 人数	貸出 冊数	ILL件数	
						受付	依頼
芸術の森 キャンパス 図書館	学生・ 教職員	273	12,947	3,550	7,991	10	54
	市民等 学外者	273	1,362	320	697	0	0
桑園 キャンパス 図書館	学生・ 教職員	271	25,848	6,426	14,427	156	1,438
	市民等 学外者	271	1,392	464	950	0	0
合計		-	41,549	10,760	24,065	166	1,492

ILL : Inter-Library Loan (相互貸借)



Ⅷ 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

1 役員会及び審議会の審議状況

回数	経営審議会	教育研究審議会	役員会
6月26日 第1回	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度事業報告及び決算について 平成24事業年度業務の実績に関する報告について 公立大学法人札幌市立大学教職員退職手当規程等の一部を改正する規程について 	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度事業報告及び決算について 平成24事業年度業務の実績に関する報告について 公立大学法人札幌市立大学教職員退職手当規程等の一部を改正する規程について 	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度事業報告及び決算について 平成24事業年度業務の実績に関する報告について 公立大学法人札幌市立大学教職員退職手当規程等の一部を改正する規程について
8月27日 第2回 持ち回り	<ul style="list-style-type: none"> 平成24事業年度の業務実績に関する評価結果案に対する意見について 	<ul style="list-style-type: none"> 平成24事業年度の業務実績に関する評価結果案に対する意見について 	<ul style="list-style-type: none"> 平成24事業年度の業務実績に関する評価結果案に対する意見について
9月27日 第3回 持ち回り	<ul style="list-style-type: none"> 公立大学法人札幌市立大学役員報酬規程等の改正について 	<ul style="list-style-type: none"> 公立大学法人札幌市立大学役員報酬規程等の改正について 	/
11月29日 第4回	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度予算編成方針について 公立大学法人札幌市立大学教職員就業規則等の改正について 教員の再任について 	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度予算編成方針について 公立大学法人札幌市立大学教職員就業規則等の改正について 	第3回 <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度予算編成方針について 公立大学法人札幌市立大学教職員就業規則等の改正について 教員の再任について
3月26日 第5回	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度年度計画及び予算について 規則等の制定及び改正等について 	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度年度計画及び予算について 	第4回 <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度年度計画及び予算について 規則等の制定及び改正等について



2 役員及び審議会委員名簿 (平成26年3月31日現在)

1) 役員

役職	氏名	現職
理事長	蓮見 孝	札幌市立大学 学長
理事(常勤)	中村 恵子	札幌市立大学 副学長
理事(非常勤)	横内 龍三	(株)北洋銀行 取締役会長
理事(非常勤)	山岸 正美	(株)マーケティング・コミュニケーションエルグ 代表取締役
理事(非常勤)	橋本 道政	(公財)札幌市芸術文化財団 副理事長
監事(非常勤)	藤田 美津夫	藤田・荒木法律事務所(札幌市任命)
監事(非常勤)	高松 謹也	公認会計士 高松謹也事務所(札幌市任命)

2) 経営審議会委員

役職	氏名	現職
理事長	蓮見 孝	
理事	中村 恵子	
理事	横内 龍三	(株)北洋銀行 取締役会長
理事	橋本 道政	(公財)札幌市芸術文化財団 副理事長
事務局長	林 泰男	
学外委員	菊嶋 明廣	札幌商工会議所 常務理事
学外委員	福井 知克	(一財)さっぽろ産業振興財団 専務理事
学外委員	秋野 豊明	(医)溪仁会 理事長
学外委員	花井 秀勝	フュージョン(株) 代表取締役会長
学外委員	町野 和夫	北海道大学大学院経済学研究科 教授

3) 公立大学法人札幌市立大学教育研究審議会委員

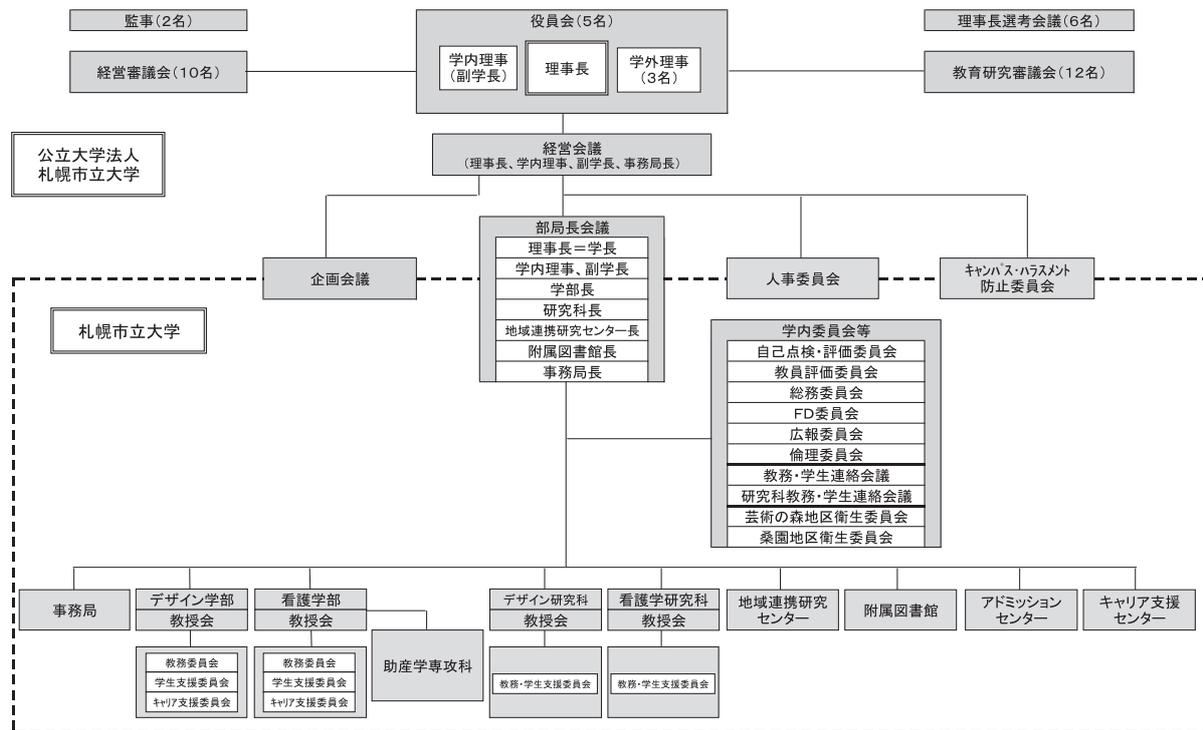
役職	氏名	現職
学長	蓮見 孝	
理事	中村 恵子	
理事	山岸 正美	(株)マーケティング・コミュニケーションエルグ 代表取締役
デザイン学部長	酒井 正幸	
看護学部長	樋之津 淳子	
デザイン研究科長	城間 祥之	
附属研究所長	上遠野 敏	
附属図書館長	山本 勝則	
事務局長	林 泰男	
学外委員	山中 善夫	札幌市教育委員会 委員長
学外委員	平山 妙子	公益社団法人北海道看護協会 会長
学外委員	石垣 靖子	北海道医療大学 客員教授

任期：平成28年3月31日まで



Ⅸ 学内運営の概要

1 2013年度(平成25年度)公立大学法人札幌市立大学 組織図



2 経営会議

平成25年度は16回の会議を開催した。
 会議では、法人の経営及び札幌市立大学の教育に関する重要事項について協議を行った。

3 部局長会議

回数	開催日	議題
第1回	4月9日	(1)年度計画における重点取組項目(案)の設定について
第2回	5月8日	なし
第3回	6月5日	(1)平成24年度年度計画の実績報告にかかる点検結果について (2)平成24年度決算について
第4回	7月3日	なし
第5回	7月8日	文科省によるCOCヒアリングについて
第6回	8月19日	(1)法人評価結果案について (2)COCの取組について
第7回	9月4日	なし
第8回	10月2日	転入学の取扱いについて
第9回	11月6日	転入学の取扱いについて



回数	開催日	議題
第10回	12月4日	リサーチ・アシスタント制度の導入と要綱等の制定について
第11回	1月8日	(1)平成26年度年度計画の策定スケジュールについて (2)アドミッションセンター規則の改正について (3)JAIRO Cloud(機関リポジトリ)の導入について (4)札幌市立大学危機管理体制の整備と危機管理基本マニュアルの改正について
第12回	2月5日	(1)学術論文掲載料補助及びCOC特任教員の学内競争的資金への応募について (2)助産学専攻科ディプロマポリシーについて (3)図書館の予算(電子ジャーナル、データベース)について
第13回	2月18日	平成26年度年度計画(案)について
第14回	2月26日	平成26年度年度計画(案)について
第15回	3月5日	(1)学外からの研究員の受け入れ取扱要領の策定について (2)規則等の改正について
第16回	3月18日	(1)優先調達推進法に基づく障害者就労施設等からの物品等調達方針の策定について (2)規程等改正について (3)キャンパスの活用等に関するプラン骨子(案)について

4 学外連携企画会議

学外連携企画会議は、平成24年度に策定された第二期経営戦略に基づき平成25年度に新設された会議であり、経営戦略の3つの基本戦略のうち、産学官連携、地域貢献、国際化の推進等に関する取組を所管し、平成25年度は9回開催した。

平成25年度の主な活動としては、戦略を具体的に進めていくための実行プログラム（計画期間：平成25～29年度）を策定したほか、広報戦略に関する検討やデザイン分野と看護分野の連携強化等について協議を行った。

5 教育・研究企画会議

教育研究企画会議は、平成24年度に策定された第二期経営戦略に基づき平成25年度に新設された会議であり、経営戦略の3つの基本戦略のうち、教育研究の充実・強化に関する取組を所管し、平成25年度は9回開催した。

平成25年度の主な活動としては、戦略を具体的に進めていくための実行プログラム（計画期間：平成25～29年度）を策定したほか、教育課程の体系化を進めるため、現行のカリキュラム体系や成績評価、学修到達度の把握、ナンバリング等に関する検討を行った。

6 教授会

1) デザイン学部教授会

デザイン学部教授会は、平成25年度に13回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、その他学部の教育等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。

また、教授会終了後には、毎回、各学内委員会及び学部委員会からの報告を行う教員会議を開



催した。

2) 看護学部教授会

看護学部教授会は、平成25年度に臨時教授会2回を含む14回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、進級卒業判定、施設整備及びその他学部の教育研究等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。また、助産学専攻科における教育課程の編成、修了判定及びその他専攻科の教育研究に関する事項などについても本教授会において、幅広く審議を行った。

教授会終了後には、各学内委員会及び学部委員会からの報告を行う教員会議を開催した。

3) デザイン研究科教授会

デザイン研究科教授会は、平成25年度に13回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、その他研究科の教育等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。

4) 看護学研究科教授会

看護学研究科教授会は、平成25年度に臨時教授会3回を含む15回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、修了判定、施設整備及びその他研究科の教育研究等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。また、各学内委員会等からの報告も行い、必要に応じて看護学研究科科目担当専任教員を構成員とする拡大会議として開催した。

7 地域連携研究センター

地域・産学連携部門、人材育成・継続教育部門、国際交流部門、紀要編集委員会の4セクションに構成員を配置して、研究活動、地域貢献および国内外ネットワーク形成の推進を担い、活動を行った。また、運営会議（計12回開催）で課題や情報を集約した。加えて知的財産委員会任も担い、学内の知的財産に係わる管理等を行った。主な活動内容は以下のとおりである。

<地域・産学連携>

地域からの受託研究や協力依頼に対して、本学教員・学生が教育・研究の成果を地域に還元することを目的に、協力をを行った。また、教員の研究成果を学外に周知し、産官学連携のきっかけを探るために、「ビジネスEXPO」等の展示会へ出展したほか、産官学連携を目的とした学外向けの研究交流会を開催した。平成22年に協定を締結した北海道立総合研究機構との共催研究交流会、公開シンポジウムを初めて開催し、更なるネットワークづくりを図った。

<人材育成・継続教育>

大学が持つ知的資源をデザイン・看護の視点に基づき地域に還元し、地域の産業、まちづくり、保健・医療・福祉等への貢献をすることを目的として、公開講座を開催した。専門職業人や市民を対象とした13コース（22コマ）の講座を、延べ698名が受講した。平成25年度年度計画に基づき、大学全体で実施する公開講座を体系化した。また、新たに、COC関連の公開講座・セミナーを本学公開講座の一環として位置づけた。

<国際交流>

第2期中期計画に基づき、大学の国際化に関する基本方針および行動計画を策定した。承德医学院への学生派遣プログラム及び華梵大学とのデザインワークショップ（受入）を実施した。その他、提携校拡大の可能性を視野に入れた海外大学の視察を実施した。



<紀要編集>

研究論文集「SCU Journal of Design & Nursing 第8巻」を平成26年5月末に発行することとし、投稿論文について査読を行い、発行の準備をした。

<研究推進>

地域や産業界から依頼された受託研究18件、寄附金8件の受入れを行い、次年度の学内競争的研究費（学術奨励研究費・共同研究費）の公募と審査に係わる制度設計を行い、学術論文掲載料等補助の制度を新設した。また、両学部の教員の交流を図るため研究交流会を、産学官連携のシーズ創出を図るため産学官連携研究交流会及び北海道立総合研究機構との研究交流会を企画・実施した。

<知的財産委員会>

「広域大学知的財産アドバイザー派遣事業：（工業所有権情報・研修館主催）における広域大学知的財産ネットワーク」（①北海道地域中小規模大学知財ネットワーク、②異分野融合によるデザイン産学官連携広域ネットワーク）へ継続加盟した。当該事業から派遣される大学知的財産アドバイザーによる「知的財産セミナー全3回」を全学FDとして開催した。また、技術移転に関わる権利譲渡のフローを整備した。

8 附属図書館

平成25年度は全11回運営会議を開催し、附属図書館の運営に係る事項について協議を行った。主な協議内容は、図書館予算の考え方、後援会からの寄附、データベース・電子ジャーナル、購読雑誌の契約検討、JAIRO Cloud 導入、AV 資料の館外貸出日数の変更、等であった。

この他、公立大学協会図書館協議会北海道東北ブロック地区館会議の当番館をつとめた（9月6日開催）。芸術の森図書館では、芸術の森美術館との連動企画展を開催（10月21日～11月9日）、アートブックフェア（11月18日～12月7日）へ参加した。

9 アドミッションセンター

入学者選抜試験及びそれに伴う試験区分ごとの従事者説明会の実施、入試広報、入学者選抜方法の調査研究及び統計等に関する事業の計画的な推進を行った。

平成25年度は計9回の会議を開催し、前年度の結果の分析、入学者選抜方法の検討、高校訪問・進学相談会の実施計画の策定、入試区分ごとの学生募集要項・入学者選抜試験実施要領の策定、入学者選抜試験に係る現状分析を行った。また、平成27年度大学入試センター試験の変更に伴う、両学部一般選抜試験における本学の対応を決定した。

学生募集に係る具体的な取組として、オープンキャンパス、高校訪問及び進学相談会等についての企画・運営を行うとともに、中学生向けの広報活動を実施した。

10 キャリア支援センター

キャリア支援センター会議は、両学部に関係するキャリア支援に係る改善・充実を目的として、平成20年4月に設置された。平成25年度は会議としては開催されなかったが、両学部のキャリア支援委員会において各学部の特性や特徴及び社会情勢に応じたキャリア支援を行った。



11 学内委員会

1) 自己点検・評価委員会

自己点検・評価委員会は、主に認証評価や年度計画の進捗管理等に関する事項を所管しており、平成25年度は6回開催した。

平成25年度の主な活動としては、平成24年度年度計画の実績報告書（案）の作成を行ったほか、平成25年度年度計画について半期（一部の項目は四半期）ごとに取組状況の進捗管理を行った。

進捗管理の点検結果は部局長会議等へ報告し学内で共有することにより、取組の遅れている項目の改善を促すことができ、年度計画の着実な達成に向けた取組を行うことができた。

2) 教員評価委員会

平成25年度は6回の委員会のほか、ワーキングや専門部会を開催し、各教員から提出された教員活動実績申告書の確認作業や教員評価書の作成作業を行うとともに、次年度に向けた記入要領及び申告書様式等の検証や教員評価制度の見直しを行った。

評価結果については、平成25年度末に任期満了を迎える教員の再任審査に活用し、また、研究費の追加配分にも活用した。

3) 総務委員会

平成25年度は8回の委員会を開催した。

委員会では、危機管理体制の整備及び危機管理基本マニュアルの改正について検討を行い、「改正札幌市立大学危機管理基本マニュアル骨子」をまとめたほか、施設保全計画の見直しを進め、平成27年度から10年間を計画期間として再編を行った。

また、平成28年度までに「キャンパスの活用等に関するプラン」を策定するにあたり「プラン骨子（案）」を策定した。

なお、昨年を引き続き、夏季及び冬季の節電対策について検討を行い実施した。

4) FD委員会

平成25年度、FD委員会は、教員の資質向上、情報の共有化、情報収集のため、学内研修会の開催及び学外研修会への教員派遣等を積極的に行った。委員会を10回開催し、FD活動の方針について論議するとともに、具体的な取り組みについて、内容を検討し、実施した。

平成25年度の具体的な活動として、FD委員会が主催・共催の全学FD研修会（4回）、学外研修会への教職員派遣（6回延べ14名）、本学学生及び教職員への授業評価アンケート集計結果に対する所見の公開、教員相互の授業参観等を企画・実施した。なお、学内で実施されたFD研修会の実施状況については、FDマップを作成することで整理した。

また、「北海道地区FD・SD推進協議会」に幹事校として参加し、北海道内の大学間のFD活動の交流にも関わっている。

5) 広報委員会

「戦略広報チーム」「実践広報チーム」の2つのチーム編成により計9回の委員会を開催し、機能的に活動した。また、広報委員会とは別に、広報戦略策定のため、戦略広報チームを母体として学外連携企画会議のプロジェクト的な組織として「広報戦略準備室」を設置した。

<ウェブサイト>

- ・適宜、情報提供を行った。
- ・更新作業を教職員各々から直接委託先に依頼するしくみづくりを整えた。

<大学案内等>

- ・2014大学案内を22,000部印刷し、公立大学、道内大学、札幌市などに発送した。



- ・ 2015大学案内、2015大学院案内、2015助産学専攻科リーフレットについて検討し、デザイン企画制作を行った。

<年報>

- ・ 平成24年度年報を電子データ制作し、公式サイトに掲載した。

<その他>

- ・ 平成26年度の広報業務に関わる業務委託の企画審査会を実施し、委託先を選定した。
- ・ 英語版大学紹介DVD を作成した。

【広報戦略準備室の活動】

計11回会議を開催し、以下の活動を行った。

- ・ 広報戦略策定の参考とするため、学外の知見者からレクチャーを2回開催した。
- ・ 広報戦略の策定に向けて調査・検討を行い、広報戦略案を作成した。

6) 倫理委員会

倫理委員会は研究を遂行する際に、被験者（研究協力者）等の人権擁護の観点から、研究倫理に則った十分な配慮をした研究計画になっているかを審査している。

平成25年度は原則、毎月末日を研究倫理審査申請の締切りとし、毎月第4水曜日に委員会を開催した（計11回開催）。また、平成24年度から倫理委員会における審査の前段として、倫理委員が審査資料の確認をし、申請者へコメントを送付することにより、審査時間の短縮と研究倫理審査の申請から研究開始までの迅速化を図っている。年間の審査申請総数は44件であり、1回当たり平均4件の審査を実施した。審査結果は「承認」、「条件付承認」、「変更の勧告」、「非該当」のいずれかとし、「条件付承認」となった申請については、修正箇所を確認し承認する「迅速審査」を行った。

また、倫理審査の社会的透明性及び客観性を担保し、同時に申請者や委員に係るリスク管理の保全のために、平成23年度から引き続き、法律家を外部委員として委嘱し、吉岡直樹弁護士が委員として審査に加わった。

このほか、審査申請様式・手順等について、委員会で協議のうえ見直しを図り、基本資料の改訂版を作成した。

7) 教務・学生連絡会議

教務・学生連絡会議は、平成25年度に11回の会議を開催し、共通教育、デザイン・看護両学部との連携教育に関する事項及び学生生活、課外活動支援に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即して、必要となる協議を行った。

具体的には、学事暦、時間割、シラバス、定期試験及び授業評価アンケートに関すること、また、奨学金、大学祭、チューター制度に関すること等について議論を重ねたほか、年度計画に対応した取り組みとしては、共通教育科目の効果検証、成績評価に関するFD研修会の実施、授業評価アンケートの見直し等を行った。また、毎回、両学部の教務委員会及び学生支援委員会から教務及び学生支援に関する課題を報告し、協議を行った。

8) 研究科教務・学生連絡会議

研究科教務・学生連絡会議は、平成25年度に7回の委員会を開催し、デザイン・看護学両研究科の連携に関する事項、研究科連携科目に関する事項及び学生生活に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即して、必要となる協議を行った。

具体的には、連携プロジェクト演習等の連携科目の効果検証、リサーチ・アシスタント制度の制定、博士後期課程における学位論文の取り扱いに係る学位規則の改正を行い、また、奨学金、チューター制度に関すること等について議論した。



構成員名簿

区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
	経営会議	◎ 蓮見 孝 中村 恵子 林 泰男	理事長 副学長 兼 看護学研究科長 事務局長
	部局長会議	◎ 蓮見 孝 中村 恵子 酒井 正幸 樋之津 淳子 城間 祥之 スーディ神崎 和代 中原 宏 林 泰男	理事長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 地域連携研究センター長 附属図書館長 事務局長
	学外連携企画会議	◎ 蓮見 孝 スーディ神崎 和代 中原 宏 林 泰男	理事長 地域連携研究センター長 附属図書館長 事務局長
	教育・研究企画会議	◎ 中村 恵子 酒井 正幸 樋之津 淳子 城間 祥之	副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長
	人事委員会	◎ 蓮見 孝 中村 恵子 酒井 正幸 樋之津 淳子 城間 祥之 林 泰男	学長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 事務局長
	キャンパス・ハラスメント 防止委員会	◎ 蓮見 孝 中村 恵子 酒井 正幸 樋之津 淳子 城間 祥之 林 泰男	学長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 事務局長



区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
	地域連携研究センター	◎ スーディ神崎 和代 石井 雅博 羽深 久夫 原 俊彦 矢部 和夫 山本 勝則 張 浦華 山田 良 大野 夏代 貝谷 敏子 石田 勝也 松井 美穂 太田 晴美 神島 滋子 原井 美佳 長谷川 聡 川上 敏正 上田 理子	地域連携研究センター長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 デザイン学部助教 桑園事務室長 兼 調整担当部長 事務局地域連携課長
	図書館	◎ 中原 宏 松浦 和代 武田 亘明 町田 佳世子 清水 光子 藤井 瑞恵 金子 晋也 長谷川 聡 上田 理子	附属図書館長 看護学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師 デザイン学部助教 デザイン学部助教 事務局地域連携課長
	アドミッションセンター	酒井 正幸 樋之津 淳子 ◎ 城間 祥之 石井 雅博 杉 哲夫 猪股 千代子 菅原 美樹 山田 典子 山内 まゆみ 田村 洋郷 加藤 聖治	デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
	キャリア支援センター	◎ 酒井 正幸 樋之津 淳子 杉 哲夫 宮崎 みち子 川上 敏正	デザイン学部長 看護学部長 デザイン学部教授 看護学部教授 桑園事務室長 兼 調整担当部長



区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
学内委員会 常置委員会	自己点検・評価委員会	◎ 中村 恵子 酒井 正幸 樋之津 淳子 城間 祥之 吉田 和夫 宮崎 みち子 坂本 将司	副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 デザイン学部教授 看護学部教授 事務局次長 兼 経営企画課長
	教員評価委員会	◎ 蓮見 孝 中村 恵子 酒井 正幸 樋之津 淳子 城間 祥之 矢部 和夫 山本 勝則 林 泰男	学長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 デザイン学部教授 看護学部教授 事務局長
	総務委員会	吉田 恵介 坂倉 恵美子 山田 典子 石田 勝也 小宮 加容子 渡邊 由加利 ◎ 林 泰男	デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 看護学部講師 事務局長
	FD 委員会	スーディ神崎 和代 武 邑 光裕 ◎ 定廣 和香子 齊 藤 雅也 山田 良 菊地 ひろみ 村松 真澄 田村 洋郷 加藤 聖治	地域連携研究センター長 デザイン学部教授 看護学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
	広報委員会	◎ 中原 宏 齋 藤 利明 山本 勝則 吉川 由希子 片山 めぐみ 福田 大年 田中 広美 上田 理子	附属図書館長 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 看護学部講師 事務局地域連携課長
	倫理委員会	◎ 樋之津 淳子 石崎 友紀 原 俊彦 内田 雅子 宮崎 みち子 守村 洋 片山 めぐみ 上田 理子	看護学部長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 事務局地域連携課長



区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
連絡調整会議	学部間 教務・学生連絡会議	◎樋之津 淳子 羽深 久夫 原 俊彦 細谷 多聞 内田 雅子 定廣 和香子 田村 洋郷 加藤 聖治	看護学部長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部教授 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
	研究科間 研究科教務・学生連絡会議	◎中村 恵子 城間 祥之 中原 宏 松浦 和代 田村 洋郷 加藤 聖治	副学長 兼 看護学研究科長 デザイン研究科長 附属図書館長 看護学部教授 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
衛生委員会	芸術の森地区衛生委員会	上遠野 敏 武田 亘明 松井 美穂 ◎坂本 将司	デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 事務局次長 兼 経営企画課長
	桑園地区衛生委員会	河原田 まり子 三上 智子 田仲 里江 ◎川上 敏正	看護学部教授 看護学部講師 看護学部助教 桑園事務室長 兼 調整担当部長
学部委員会	デザイン学部 教務委員会	◎細谷 多聞 柿山 浩一郎 町田 佳世子 山田 良 福田 大年 金子 晋也 須之内 元洋	デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部助教 デザイン学部助教
		◎羽深 久夫 上遠野 敏 原 俊彦 上田 裕文 大淵 一博 小宮 加容子 杉本 達應	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師
	キャリア支援委員会	◎杉 哲夫 石井 雅博 齊藤 雅也 石田 勝也 上田 裕文 小宮 加容子 杉本 達應 福田 大年	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師



区分	委員会等	委員・構成員		
		教職員名	所属・職位等	
学部委員会	看護学部	教務委員会	◎内田 雅子 河原田 まり子 貝谷 敏子 清水 光子 吉川 由希子 田中 広美 原井 美佳 藤井 瑞恵 工藤 京子 多賀 昌江 坂東 奈穂美 鈴木 ちひろ 横川 亜希子	看護学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助手 看護学部助手
		学生支援委員会	◎定廣 和香子 川村 三希子 菅原 美樹 村松 真澄 太田 晴美 山本 真由美 田仲 里江 柏倉 大作 御厩 美登里 星 幸江	看護学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助手 看護学部助手
		キャリア支援委員会	◎宮崎 みち子 大野 夏代 神島 滋子 櫻井 蘭子 三上 智子 檜山 明子 小田嶋 裕輝	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助手
研究科委員会	デザイン研究科	教務・学生支援委員会	◎中原 宏 石井 雅博 羽深 久夫 望月 澄人 矢部 和夫 齊藤 雅也 町田 佳世子 三谷 篤史	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師
	看護学研究科	教務・学生支援委員会	◎松浦 和代 猪股 千代子 川村 三希子 菊地 ひろみ 守村 洋	看護学部教授 看護学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授

◎印:所管部局長等



12 FD・SD 活動

FD 活動 年間活動概要

(単位:名)

全学FD・SD		研修会名(講師)	場所	参加者数
5月15日 5月30日 6月12日	FD/SD	知財ミニセミナー(知的財産アドバイザー 丞村宏氏)	5/15 桑園:講義室1 5/30 芸森:大会議室 6/12 芸森:理事会室	20
7月17日	FD/SD	ソーシャル・メディアとどう向かいあうのか? 学生・教職員のリスク・マネジメント(武邑光裕教授)	芸森:大講義室 桑園:講義室1	75
8月1日	FD	グループ演習型授業の成績評価に関するワークショップ	桑園:大講義室、 各教室	62
8月27日	FD	2013年度札幌市立大学研究交流会	芸森:C棟1階、 スカイウェイ	80
9月18日	FD	平成25年度 地(知)の拠点整備事業:ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業について(中原宏教授)	芸森:大講義室 桑園:講義室1	93
9月20日	FD	成績評価の基本とグループ演習型授業の成績評価について(帝京大学 井上史子准教授)	桑園:講義室1 芸森:大講義室 ※遠隔で配信	46
11月20日	FD	金沢工業大学の初年次からのキャリアデザインとアクティブラーニング -自ら考え行動する技術者・社会人の養成プログラムとその仕掛け-(金沢工業大学 藤本元啓教授)	芸森:大講義室 桑園:講義室1 ※遠隔で配信	56
1月15日	FD/SD	芸術系大学・学部におけるデザイン産学連携契約の現状と課題(知的財産アドバイザー 丞村宏氏)	芸森:大講義室 桑園:講義室1 ※遠隔で配信	19
2月6日	FD	COCカリキュラムについて(細谷多聞教授)	芸森:大講義室 桑園:講義室1 ※遠隔で配信	53
3月3日	FD	SCU=D×Nを語ろう「学部連携演習」のこれまで・これからpart3(学部連携演習をテーマとするワークショップ)	桑園:大会議室、 各教室	50



(単位:名)

デザイン学部・研究科 FD・SD		研修会名(講師)	場所	参加者数
5/13-7/8 全8回	FD/SD	統計解析の応用(原田昭特任教授)	レクチャールーム	10
5月22日	FD	デザイン学部 コースプレゼンテーション(中原教授、 柿山准教授、福田講師、吉田(和)教授)	階段教室	36
10月1日	FD	TAの心構えとTA受け入れについて (城間祥之教授)	レクチャールーム	3
12月11日	FD	学生カウンセラーと語ろう(デザイン学部学生カウ ンセラー渡邊紀子氏)	大会議室	21
1月22日	FD	新カリキュラム導入に向けたデザイン学部教員ワー クショップ	大会議室	31

(単位:名)

看護学部・研究科 FD・SD		研修会名(講師)	場所	参加者数
6月10日	FD	S C U看護キャリアデータベースの活用と今後の課 題(内田教授、村松准教授、三上講師)	コンピュータ室1	14
8月19日	FD	シミュレーション学習時のインストラクションスキ ル(マイアミ大学医学部 Ivette Motola准教授)	大講義室、シミュレ ーションラボ	46
9月6日	FD	OSCE を通した看護教育におけるコミュニケーション スキルの向上(劇団イナダ組 稲田博氏)	講義室4	35
10月31日	FD	学部・大学院教育におけるシミュレーション学習の実 際とその効果(ピッツバーグ大学Richard Henker教授)	大講義室	14
2月10日	FD	看護学演習・実習中の対人賠償事故対策における今後 の課題(札幌星空法律事務所 弁護士 渡邊太郎氏)	講義室4	30
3月6日	FD	模擬患者参加型演習とOSCEの振り返り—効果的な フィードバック—(渡邊講師、坂東助教)	講義室5	44

(単位:名)

SD	研修名	形態	受講者数
4月5日、15日	新採用職員研修	内部	4
4月25日	接遇マナーワンランクアップ研修	外部	1
6月18日	キャリアバンク・東洋実業グループ 職員研修 人を最大限に活 かす! キャリア・コーチングの実践	外部	1



SD	研修名	形態	受講者数
6月29日～30日	(公財)大学セミナーハウス 職員研修 第28回大学職員セミナー 大学職員の挑戦と実践	外部	1
7月1日～11月30日	(株)オービックビジネスコンサルタント 職員研修 2013年度社会保険セミナーオンライン講座	外部	1
7月17日～19日	(一社)公立大学協会 職員研修 平成25年度公立大学協会 公立大学職員セミナー(7/17～19)	外部	2
7月19日	(公財)日本生産性本部 職員研修 学校法人における教職員の人事評価・賃金制度再構築の実務セミナー	外部	1
8月1日～2日	札幌商工会議所 職員研修 女性管理者研修	外部	1
8月1日～3日	平成25年度就職・キャリア支援研修会〔基礎コース〕	外部	1
8月2日～3日	高等教育問題研究会「大学人力」養成チーム職員研修 第23回大学人コミュニケーション力養成セミナー	外部	1
8月7日～9日	(一社)公立大学協会 職員研修 平成25年度公立大学協会 公立大学法人会計セミナー	外部	1
8月21日	キャリアバンク・東洋実業グループ 職員研修若手・中堅社員のための！仕事管理力の向上と「働き方」変革講座	外部	2
9月25日	キャリアバンク・東洋実業グループ 職員研修 ビジネスに役立つ！ロジカルシンキング習得講座	外部	2



X 資料

1 平成25年度年度計画

I 大学の教育研究の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置

ア 特色ある教育の実施

- 平成28年度の新カリキュラム導入に向けた課題を整理するため、アンケート等により、共通教育科目の効果検証を実施する。
※指標：共通教育科目の効果検証の実施 25年度
- 学部及び研究科ごとの課題を踏まえ、横断型連携教育を実施し、効果検証を実施する。
※指標：学部及び研究科における横断型連携教育の効果検証の実施 25年度
- 平成26年度の博士後期課程の完成に向けて、設置認可申請に基づいた教育を展開するとともに、文部科学省への履行状況報告を適切に実施する。
- 本学におけるグローバルな人材育成教育にかかる現状の課題及び先進事例の調査を踏まえ、新カリキュラムの導入に向けた取り組みを進める。

イ 時代に即した教育課程の編成

- ディプロマポリシー（学位授与の方針）に基づき、学生の卒業時の学習到達度の検証を実施する。
- カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）の見直しに向けて課題整理を行う。
※指標：ディプロマポリシーの明文化 25年度
学習到達度検証の試行 25年度

ウ 入学者選抜方法の検証と見直し

- ディプロマポリシーの明文化、カリキュラムポリシーの検討開始に併せて、アドミッションポリシーについて、他大学の内容を調査する。
- 各入学者選抜方法を検証するため、入学者アンケート結果及び志願状況（小論文又は実技の科目選択状況を含む）の分析を行うとともに、平成19～24年度入学者の入学後の成績等をもとに、追跡調査を行う。
- オープンキャンパスの開催、進学相談会、出前授業等への参加により、高校生、保護者等へ本学の活動内容を周知する機会を設けるとともに、高等学校の教員を対象とする大学説明会を継続して開催する。

※指標：オープンキャンパス受入計画数 延べ800名

- 中学生を対象とした広報活動を実施する。

エ 教育方法の改善等

- 平成24年度の見直し内容を踏まえ、1年次について半期ごとの登録単位の上限を導入する。
※指標：登録単位の上限の見直し 25年度
- GPA制度を活用した履修指導を実施する。
- 公平かつ適切な成績評価を実施するため、各科目における成績評価基準や成績評価の状況を検証する。
※指標：成績評価の検証 25年度
成績評価の見直し 25年度

(2) 教育の実施体制に関する目標を達成するための措置

- 授業内容及び方法の改善を図るため、平成24年度に引き続き、学生に対する授業評価アンケート及び卒業生に対する追跡調査を実施し、その結果を教員へフィードバックする。



※指標：授業評価アンケート 学期ごと実施

卒業生に対する追跡調査 年1回実施

- ・ 授業評価アンケートの質問項目及び集計結果の検証結果をもとに見直しを行う。また、卒業生に対する追跡調査の質問項目及び集計結果について検証を行う。

※指標：授業評価アンケートの見直し 25年度

- ・ 教育内容の充実や教員の資質向上を図るため、平成25年度FD研修会実施計画を策定し、成績評価・授業方法等の改善に資するFD研修会を計画的に実施し検証を行う。

※指標：FD研修会開催 7回以上

(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

- ・ 産業界、保健・医療・福祉関係とのコンソーシアム（共同事業体）構築に向けて、デザイン関係団体、経済団体、保健・医療・福祉関係団体と連携し、平成24年度に採択された文部科学省の補助事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の取り組みを実施する。
- ・ 通年のキャリアガイダンスを継続し、学生の進路希望調査をもとに、学部の特性や学生ニーズに合わせて職場適応力、職業適応力に留意したプログラムを実施する。
- ・ 学生への情報伝達の改善に向けて、現状の課題及び先進事例調査等を踏まえ、情報伝達の改善に必要なシステム機能等の検討を行う。
- ・ 留学生を対象にしたチューター制度を継続して実施するとともに、留学生及びチューターとなった学生から意見聴取を行うなどして、支援内容の検証を行う。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

- ・ デザイン分野と看護分野が連携した研究を行う。

※指標：デザイン分野と看護分野が連携した研究数 6件

- ・ 大型プロジェクトの獲得に向けた基盤を活用し、分野横断的な研究を推進する。

※指標：科学研究費補助金の新規応募及び継続申請を合わせた申請率 69.2%

- ・ 学術奨励研究費の「国際学会発表者補助」を継続し、教員の研究成果を評価の高い学術誌や著書、国際学会・国際展示会等において積極的に発表する。

※指標：国際学会等における発表件数 10件以上

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 研究の実施体制

- ・ 学外の共同研究者の受け入れ体制の確立に向け、学外から共同研究者を受け入れる際の手続き等を整備する。

イ 地域連携の強化

- ・ 地域連携専門員を活用しながら、産業界とのネットワークづくり、学内のシーズ発掘及び研究成果の公表等、産学連携に係る地域連携研究センターの機能強化を図る。

※指標：共同研究・受託研究の数（研究支援目的の寄附金を含む） 14件／年

- ・ サテライトキャンパスの空き状況等の情報を教職員間で共有できるようにするため、既存のシステムの活用について検討を行う。

- ・ サテライトキャンパスの活用策に関する学内アンケートの結果を分析し、サテライトキャンパスの利用拡大やリエゾンオフィス機能の充実等に向けた取り組みを進める。

- ・ 外部機関や他大学等との連携の場として、地域連携研究センターがサテライトキャンパスを活用する。

※指標：外部機関や他大学等との連携の場としての活用 40件以上／年



II 地域貢献、国際化、大学間連携に関する目標を達成するための措置

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置

(1) 札幌市等のまちづくりへの貢献に関する目標を達成するための措置

- ・ 学内の地域貢献に関わる情報の集約と発信に積極的に取り組む。
- ・ 地域連携専門員を活用して学内のシーズ発掘に取り組むとともに、教員の研究成果の公表等、ネットワークづくりに向けた取り組みを進める。

※指標：まちづくりに貢献した事例数 100件以上/年

(2) 市民への学習機会の提供に関する目標を達成するための措置

- ・ 公開講座の充実を図り、受講者の満足度をアンケート等で確認する。

※指標：公開講座受講者満足度5段階評価 4.3以上

- ・ 公開講座の体系化を促進し内容を充実させ、大学の知的資源の地域への還元に取り組む。

- ・ さっぽろ夜学校等の専門職向けの公開講座の継続的な実施に加え、認定看護管理者制度サードレベル教育課程等の専門職業人を対象とした支援講座等を実施する。

※指標：専門職業人支援講座等開催 225時間以上/年

2 国際化に関する目標を達成するための措置

- ・ 国際化に関する方針を策定する。

※指標：国際化方針の策定 25年度

- ・ 海外提携校を中心とした学生及び教員の海外への派遣と受入れを実施する。

※指標：教員・学生派遣 10人以上

- ・ 共同研究費募集の際に、海外提携校との取り組みについても積極的に募集する。

3 大学間連携に関する目標を達成するための措置

- ・ 「地域創成の核となる大学づくり（Center of Community）」を推進し、地域課題の解決に資するため、デザインと看護の連携成果を活かしながらさらに発展させる共同研究や地域と連携した共同教育等が可能となる異分野の連携先大学を探り、将来的には大学間ネットワーク形成につなげていく。

III 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

1 運営体制・手法に関する目標を達成するための措置

(1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置

- ・ 平成24年度に策定した第二期経営戦略を踏まえ、新たに設置する企画会議において、経営戦略の実行プログラムを策定し、経営戦略の計画的な推進に取り組む。

- ・ 平成24年度に策定した第二期経営戦略を踏まえて、経営会議の設置等の学内組織の見直しを行い、理事長（学長）の補佐体制の強化を図る。

※指標：学内組織の見直しによる補佐体制の強化 25年度

(2) 教職員の配置・定員の適正化に関する目標を達成するための措置

ア 教職員配置の適正化

- ・ 予算及びその基準となる定員計画等に基づき、適正に教職員を配置するとともに検証を行う

イ 職員の育成

- ・ 平成25年度末に市派遣職員1名を引き上げるとともに、それに伴う職員の採用を行う。

※指標：札幌市派遣職員の引揚げ 1名/年

- ・ 平成24年度に策定した人材育成基本方針に基づき、研修受講機会を適切に提供するとともに、受講履歴を管理する。



- (3) 教員評価制度に関する目標を達成するための措置
- ・ 年度上半期中に平成24年度教員活動実績申告に基づく教員評価を実施し、実施結果や第二期経営戦略を踏まえて教員評価制度の見直しを行う。

- 2 事務の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置
- ・ 業務分析や第二期経営戦略を踏まえた職員配置・人事異動を行う。
 - ・ 時間外労働を削減するための取り組みを、事務局全課体制で実施する。
- ※指標：超過勤務時間の削減 前年度比減

- 3 広報の充実に関する目標を達成するための措置
- ・ 広報戦略を策定し、実行計画を立案する。
- ※指標：広報戦略の策定 25年度

IV 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

- 1 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置
- ・ 科学研究費補助金を含む外部資金の募集情報に関して、e-Radなどの情報提供手段を教員に対し周知する。
- ※指標：教員向け情報提供 年3回実施
- ・ 科学研究費補助金の獲得に向けて、申請支援策の強化に継続的に取り組む。
 - ・ 平成24年度に設置した基金の運用状況を検証し、寄付金等を活用した基金の更なる設置等に向けた検討を行う。
- 2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置
- ・ 平成25年度予算の運営費交付金査定において枠として査定されている教育経費、教育研究支援経費、一般管理費について、その執行の際に義務的経費の抑制に努め、捻出された経費を優先度の高い事業等へ充当する。

V 自己点検・評価に関する目標を達成するための措置

- ・ マネジメントサイクルによる自己点検・評価を実施し、半期（中期計画大項目第4、第5、第7にかかる計画は四半期ごと）の年度計画の進捗管理を行う。
- ・ 認証評価及び札幌市地方独立行政法人評価委員会の評価の結果を受け、改善が必要な事項については、適宜大学運営に反映させる。
- ・ 自己点検・評価委員会は、認証評価機関の評価項目及び評価基準に基づき、次回の自己点検・評価の実施に向け必要な資料を作成し蓄積する。

VI その他業務運営に関する目標を達成するための措置

- 1 施設・設備の整備・維持管理に関する目標を達成するための措置
- (1) 教育研究環境の充実に関する目標
- ・ 平成25年度施設整備費補助金による冷暖房設備保全工事を適正に実施する。
 - ・ 平成26年度施設整備費補助金の予算要求を行う。
 - ・ 年間2,000冊程度の図書を整備し、図書館の蔵書の充実を図るとともに、電子ジャーナルの購読数を維持する。
 - ・ 平成25年度から予算化された教育研究備品整備費（10,000千円）を、理事長を中心とした経営会議等で検討し適切に執行する。
 - ・ 平成26年度の前編成に向けた備品整備に関する学内調整を行う。
 - ・ 図書館における学術情報等の集積、提供などの機能充実のため、平成24年度に実施した利用者アンケート結果を踏まえ、文献検索に関する講習会の開催など学内利用者に対する



図書館利用に関する情報提供の機会を設ける。

- (2) キャンパスの活用に関する目標を達成するための措置
 - ・ 平成26年度のプラン骨子策定に向けて、長期計画の骨子（案）を取りまとめる。

2 安全管理等に関する目標を達成するための措置

- (1) 安全管理の徹底に関する目標を達成するための措置
 - ・ 全学的な安全衛生管理において、可能な限りのリスク低減を実現する体制を確立するため、リスクマネジメント体制を見直す。
※指標：リスクマネジメント体制の見直し 25年度
 - ・ キャンパスハラスメントの防止に向けた周知、啓発等を継続的に実施する。
 - ・ キャンパスハラスメントに関する相談や申出があった場合には適切に対応し、防止に向けた改善策を実施する。
- (2) 災害時の対応に関する目標を達成するための措置
 - ・ 全学的な危機管理に関して、可能な限りのリスク低減を実現する体制を確立するため、リスクマネジメント体制を見直す。
※指標：リスクマネジメント体制の見直し 25年度（再掲）

3 環境に関する目標を達成するための措置

- ・ 平成24年度から情報を集積している施設管理支援システム（CAFM）を活用し、施設でのエネルギー使用状況を把握するとともに、学生や教職員へ節電等の意識啓発を行うなど、省エネルギー対策の取り組みを継続する。
※指標：エネルギー消費量 前年度比減

Ⅶ 予算(人件費の見積りを含む)、収支計画及び資金計画

別紙参照

Ⅷ 短期借入金の限度額

- 1 短期借入金の限度額
2億円
- 2 想定される理由
運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。

Ⅸ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし。

X 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。



XI 施設及び設備に関する計画

- ・ 経常的修繕 8,647千円
- ・ 空調設備保全業務 178,900千円

(注) 金額については見込みであり、上記のほか、業務の実施状況に応じた施設・設備の改善や、老朽度合いに応じた改修等を追加することもあり得る。

XII 人事に関する計画

1 教職員配置の適正化

- ・ 予算及びその基準となる定員計画等に基づき、適正に教職員を配置するとともに検証を行う。(再掲)

2 職員の育成

- ・ 平成25年度末に市派遣職員1名を引き上げるとともに、それに伴う職員の採用を行う。(再掲)

3 研修の充実

- ・ 平成24年度に策定した人材育成基本方針に基づき、研修受講機会を適切に提供するとともに、受講履歴を管理する。(再掲)



別紙 予算、収支計画、資金計画(人件費の見積りを含む)

1. 予算 (単位:百万円)

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	1,482
施設整備費補助金	179
授業料等収入	476
受託研究等収入及び寄附金収入	27
補助金収入	12
その他収入	22
目的積立金取崩	28
計	2,226
支出	
教育研究経費	452
受託研究等経費及び寄附金事業費等	24
人件費	1,253
一般管理費	306
施設整備費	179
補助金事業費	12
計	2,226

2. 収支計画 (単位:百万円)

区 分	金 額
費用の部	
経常費用	2,109
教育研究経費	411
受託研究等費	22
人件費	1,253
一般管理費	264
財務費用	6
減価償却費	153
収益の部	
経常収益	2,081
運営費交付金収益	1,463
授業料等収益	498
受託研究等収益	27
補助金収益	12
資産見返運営費交付金戻入	37
資産見返寄附金戻入	3
資産見返物品受贈額戻入	16
資産見返補助金戻入	3
雑益	22
その他収益	22
純利益(純損失)	△28
目的積立金取崩益	28
総利益(総損失)	0



3. 資金計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	2,384
業務活動による支出	1,921
投資活動による支出	198
財務活動による支出	107
翌年度への繰越金	158
資金収入	2,384
業務活動による収入	2,019
運営費交付金による収入	1,482
授業料及入学金検定料による収入	476
受託研究等による収入	27
補助金等による収入	12
その他収入	22
投資活動による収入	179
施設費による収入	179
財務活動による収入	0
前年度よりの繰越金	186

2 平成25年度決算

(単位:百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算-予算)	備 考
収入				
運営費交付金	1,482	1,482	0	
施設整備費補助金	179	4	△ 175	(注1)
授業料等収入	476	465	△ 11	(注2)
受託研究等収入及び寄附金収入	27	44	17	(注3)
補助金収入	12	53	41	(注4)
その他収入	22	30	8	
目的積立金取崩	28	24	△ 4	(注5)
前中期目標期間繰越積立金取崩	-	4	4	
計	2,226	2,106	△ 120	
支出				
教育研究経費	452	430	△ 22	(注6)
受託研究等経費及び寄附金事業費等	24	40	16	(注3)
人件費	1,253	1,235	△ 18	(注7)
一般管理費	306	309	3	
施設整備費	179	4	△ 175	(注1)
補助金事業費	12	49	37	(注4)
計	2,226	2,067	△ 159	
収入-支出	0	39	39	

○予算と決算の差異について

- (注1) 芸術の森キャンパス空調設備更新が平成26年度に実施されることとなったため、減少しました。
- (注2) 予算積算における学生数に比べ実際の学生数が少なかったため、減少しました。
- (注3) 受託研究・受託事業の契約額が増加しました。
- (注4) COC(地(知)の拠点整備事業)等の補助金が増加されたことにより、増加しました。
- (注5) 予算額28百万円の取崩しについて、目的積立金の取崩しでなお不足する分を前期中期目標期間繰越積立金から取崩しました。
- (注6) 業務の効率的運営(リース契約の見直し等)により、減少しました。
- (注7) 教員の欠員により、減少しました。



3 教職員数 (平成26年3月31日現在)

1) 学部別教員数 (単位:名)

学 長	1
副 学 長	1
デザイン学部	36
看護学部	41
合計	79

2) 職位別教員数 (単位:名)

		教授	准教授	講師	助教	助手	計	非常勤講師
デザイン学部	男	19	4	6	3	0	32	27
	女	0	2	3	0	0	5	12
看護学部	男	1	1	0	0	2	4	32
	女	11	8	10	5	4	38	18
合計		31	15	19	8	6	79	89

3) 職員数 (単位:名)

	事務系	教務系	技術・技能系	医療系	その他	計
男	24	2	0	0	0	26
女	51	3	0	0	0	54
合計	75	5	0	0	0	80

4 管理職一覧表 (平成26年3月31日現在)

役職名	教職員名
学長	蓮見 孝
副学長 兼 看護学研究科長	中村 恵子
デザイン学部長	酒井 正幸
看護学部長	樋之津 淳子
デザイン研究科長	城間 祥之
地域連携研究センター長	スーディ神崎 和代
附属図書館長	中原 宏
事務局長	林 泰男
事務局次長 兼 経営企画課長	坂本 将司
桑園事務室長 兼 調整担当部長	川上 敏正
事務局総務課長	西村 剛
事務局地域連携課長	上田 理子
事務局学生課長	田村 洋郷
事務局桑園担当課長	加藤 聖治



5 教員一覧表 (平成26年3月31日現在)

デザイン学部		看護学部	
職位	教員名	職位	教員名
教授	蓮見 孝	教授	中村 恵子
教授	酒井 正幸	教授	樋之津 淳子
教授	城間 祥之	教授	スーディ神崎 和代
教授	中原 宏	教授	宮崎 みち子
特任教授	原田 昭	教授	猪股 千代子
特任教授	小西 敏正	教授	内田 雅子
教授	石井 雅博	教授	河原田 まり子
教授	石崎 友紀	教授	川村 三希子
教授	上遠野 敏	教授	坂倉 恵美子
教授	齋藤 利明	教授	定廣 和香子
教授	杉 哲夫	教授	松浦 和代
教授	武邑 光裕	教授	山本 勝則
教授	羽深 久夫	准教授	大野 夏代
教授	原 俊彦	准教授	貝谷 敏子
教授	細谷 多聞	准教授	菊地 ひろみ
教授	望月 澄人	准教授	清水 光子
教授	矢部 和夫	准教授	菅原 美樹
教授	吉田 和夫	准教授	村松 真澄
教授	吉田 恵介	准教授	守村 洋
准教授	柿山 浩一郎	准教授	山田 典子
准教授	齊藤 雅也	准教授	吉川 由希子
准教授	武田 亘明	講師	太田 晴美
准教授	張 浦華	講師	神島 滋子
准教授	町田 佳世子	講師	櫻井 蘭子
准教授	山田 良	講師	田中 広美
講師	石田 勝也	講師	原井 美佳
講師	上田 裕文	講師	藤井 瑞恵
講師	大淵 一博	講師	三上 智子
講師	片山 めぐみ	講師	山内 まゆみ
講師	小宮 加容子	講師	山本 真由美
講師	杉本 達應	講師	渡邊 由加利
講師	福田 大年	助教	工藤 京子
講師	松井 美穂	助教	多賀 昌江
講師	三谷 篤史	助教	田仲 里江
助教	金子 晋也	助教	檜山 明子
助教	須之内 元洋	助教	坂東 奈穂美
助教	長谷川 聡	助手	小田嶋 裕輝
特任教員	籾谷 祐介	助手	柏倉 大作
		助手	鈴木 ちひろ
		助手	星 幸江
		助手	御厩 美登里
		助手	横川 亜希子



6 学生定員及び学生数 (平成25年5月1日現在)

1) 学生定員 (単位:名)

学部	入学定員	3年次編入学定員	総定員
デザイン学部	85	10	355
看護学部	80	10	340
合計	165	20	695

2) 学生数 (単位:名)

学部	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン学部	1学年	17	71	88
	2学年	30	63	93
	3学年	25	69	94
	4学年	26	73	99
看護学部	1学年	7	75	82
	2学年	10	77	87
	3学年	7	83	90
	4学年	13	76	89
助産学専攻科		0	10	10
合計		135	597	732

研究科	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン研究科 博士前期課程	1学年	4	6	10
	2学年	7	9	16
看護学研究科 博士前期課程	1学年	2	15	17
	2学年	6	29	35
合計		19	59	78

研究科	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン研究科 博士後期課程	1学年	1	1	2
	2学年	2	2	4
	3学年	-	-	-
看護学研究科 博士後期課程	1学年	1	2	3
	2学年	1	4	5
	3学年	-	-	-
合計		5	9	14

3) 科目等履修生・聴講生・研究生 (単位:名)

学部	科目等履修生	聴講生	研究生	計
デザイン学部	0	0	1	1
看護学部	1	1	0	2
合計	1	1	1	3

学部	科目等履修生	聴講生	研究生	計
デザイン研究科	1	0	4	5
看護学研究科	3	1	3	7
合計	4	1	7	12



7 授業料等

(単位:円)

区分	検定料	入学料		授業料
		札幌市内居住者	札幌市外居住者	
学部生	17,000	141,000	282,000	535,800
科目等履修生・聴講生	9,800	14,100	28,200	1単位につき 14,800
研究生	9,800	42,300	84,600	月額 29,700

8 奨学金貸与・授業料減免実施状況 (平成26年3月31日現在)

奨学金貸与状況

(単位:名)

学年	日本学生支援機構		その他	計
	第1種	第2種		
1学年	42	45	2	89
2学年	42	54	1	97
3学年	46	51	4	101
4学年	46	49	1	96
助産学専攻科	1	2	2	5
大学院1年生	5	1	0	6
大学院2年生	6	3	6	15
合計	188	205	16	409

授業料減免実施状況

(単位:名)

学年	学期	全額減免者	半額減免者	計
1学年	前期	0	15	15
	後期	0	14	14
2学年	前期	0	22	22
	後期	0	23	23
3学年	前期	0	19	19
	後期	0	22	22
4学年	前期	0	12	12
	後期	0	11	11
助産学専攻科	前期	0	1	1
	後期	0	1	1
大学院1年生	前期	0	4	4
	後期	0	3	3
大学院2年生	前期	0	5	5
	後期	0	4	4
合計	前期	0	78	78
	後期	0	78	78



9 学生の入選・受賞

入選・受賞 年月	氏名	タイトル及び入賞・受賞の別	主催者
平成25年5月	大学院デザイン研究科 日野 桂子	第2回北海鋼機デザインアワード・奨励賞	北海鋼機株式会社
平成25年6月	疋田 佐和子	YOSAOKIソーラン公式Tシャツ完成・デザイン採用	YOSAOKIソーラン祭実行委員会
平成25年6月	小比類巻 郁恵	映画製作プロジェクト「コトニ夢映画製作プロジェクト」・長編映画作品「茜色クラリネット」・採用	札幌市西区の琴似地区
平成25年7月	松田 実	第3回東京レザーフェアデザインコンテスト・一次審査通過	革コン！TLF革のデザインコンテストWeb人気投票
平成25年7月	team-SCU 丸山 唯花 加藤 葉子(3年) 佐藤 南津子 浦本 昂志 川島 健夫 栗原 風花 児玉 彩夏 佐々木 優二 安田 創(2年)	「EV超小型モビリティデザインコンテスト」・一次審査通過	電気自動車普及協議会
平成25年9月	萩原 由美乃 (院2年)	アートの祭典「六甲ミーツ・アート2013」・展覧会 出展	阪神総合レジャー株式会社、阪神電気鉄道株式会社
平成25年9月	富田 歩 (院1年)	TOBIUCAMP 2013(飛生芸術祭)・展覧会 出展	飛生アートコミュニティー
平成25年10月	垂水 浩貴	さっぽろ学生ITアイデアコンテスト2013・優秀賞	札幌市経済局産業振興部
平成25年10月	斎藤 美雪	さっぽろ学生ITアイデアコンテスト2013・優秀賞	札幌市経済局産業振興部
平成25年10月	高野 愛梨	日本女性会議2014札幌 大会ロゴマーク・デザイン採用	札幌市
平成25年10月	笹島 麻代	北の住まい住宅設計コンペ・優秀賞・展覧会出展	一般社団法人北海道建築事務所協会
平成25年10月	富田 歩 (院1年)	アート亀山・展覧会出展	
平成25年12月	平中 麻美子	サイバー犯罪防止ポスター制作・優秀賞	北海道警察
平成25年12月	山越 双葉	サイバー犯罪防止ポスター制作・優秀賞	北海道警察
平成25年12月	郷家 智代	北海道新幹線開業PRロゴマーク募集・優秀賞	北海道新幹線PR会議
平成25年12月	柳田 萌	「札幌市グリーティングカード」デザイン採用	札幌市
平成25年12月	高田 広隆	「札幌ワシダ」ロゴマーク採用・最優秀賞・採用	中古車販売会社「札幌ワシダ」
平成25年12月	加藤 羽留奈 飯島 美咲子 前川 莉菜 田中 千晴	未来を創ろう！メッセージムービーサミット2014	札幌市円山動物園、北海道ココロラボトリング(株)、札幌市立大学デザイン学部



入選・受賞 年月	氏名	タイトル及び入賞・受賞の別	主催者
平成25年12月	田中 裕介 中島 隆紀 丸山 達也 日沼 葵	未来を創ろう！メッセージムービーサミット 2014	札幌市円山動物園、北海道ココ コーラボトリング(株)、札幌市 立大学デザイン学部
平成25年12月	加藤 羽留奈 飯島 美咲子 前川 莉菜 田中 千晴 田中 裕介 中島 隆紀 丸山 達也 日沼 葵	未来を創ろう！メッセージムービーサミット 2015	札幌市円山動物園、北海道ココ コーラボトリング(株)、札幌市 立大学デザイン学部
平成25年12月	加藤 羽留奈 飯島 美咲子 前川 莉菜 田中 千晴 田中 裕介 中島 隆紀 丸山 達也 日沼 葵	未来を創ろう！メッセージムービーサミット 2016	札幌市円山動物園、北海道ココ コーラボトリング(株)、札幌市 立大学デザイン学部
平成25年12月	村野 朱苑	第7回産業技術大学院大学デザインコンテスト (募集テーマ:きざし)・最優秀賞	産業技術大学
平成25年12月	大塚 めぐみ	犬のふん始末しっかり・作品採用	札幌市
平成25年12月	上田 なつみ	札幌時計台の活性化・最優秀賞	札幌市
平成25年12月	菅井 ひとみ	札幌時計台の活性化・優秀賞	札幌市

10 学生の課外活動

1	バスケットボール部	15	映像制作研究サークル「Vomish」
2	吹奏楽部	16	作品制作サークル「ワレモノ」
3	軽音楽部	17	国際協力／ボランティアを考える同好会「AMIGO」
4	美術部「noumenon」	18	地域交流ボランティア同好会「act」
5	YOSAKOIソーラン部「真花」	19	カレー研究同好会「SCUカレー研究会」
6	デザイン部「GNING」	20	演劇同好会「デンコラ」
7	服飾制作部「Alice」	21	スポーツ同好会「すぼさ」
8	写真映像部「SEED」	22	アクティ部(同好会)「ナースポ」ナース+スポーツ
9	絵本ボランティアサークル「しゃぼん玉」	23	バドミントン同好会
10	フットサルサークル「SCUギャラクシー」	24	アウトドア同好会「PEAK」
11	創作活動サークル「創-KIZ-」	25	コピーダンス同好会「CO*Peace」
12	茶道サークル「Cha部」	26	ハンドメイド同好会「はらっば」
13	ダンスサークル「VOLUME」	27	野球同好会「ウップス！」
14	バドミントンサークル	28	バレーボール同好会



11 後援会

後援会（平成19年2月発足）は、学生の福利厚生推進等、学生生活の充実にに向けて必要な支援を行い、教育目的の達成に寄与することを目的として活動している。

（平成25年度）

役員	(会 長) 田中 直人 (副会長) 小林 宏史 (理 事) 魚住 由美、村井 哲也、服部 聖、服部 博和、鎌田 久美子、今野 裕二、 土屋 節子、中田 保之 (監 事) 本間 日出春、三浦 正
主な事業	・ 課外活動（部活動、大学祭、地域ボランティア活動等）支援 ・ 就職対策（企業開拓支援、就職講話、資格取得支援、国家試験対策） ・ 後援会報「SSA News」発行
後援会費	学部1年生40,000円、学部編入学生20,000円、助産学専攻科生10,000円

12 教育・研究刊行物一覧

発行年月	名称
平成25年4月	平成25年度履修要項
平成25年4月	平成25年度学生生活ハンドブック
平成25年4月	2014大学案内
平成25年5月	平成26年度デザイン学部3年次編入学生募集要項
平成25年5月	平成26年度学生募集要項(デザイン研究科 博士前期課程 推薦選抜)
平成25年6月	平成26年度学生募集要項(デザイン研究科 博士前期課程 一般選抜・特別選抜)
平成25年6月	平成26年度学生募集要項(デザイン研究科 博士後期課程)
平成25年6月	平成26年度入学者選抜要項(デザイン学部・看護学部)
平成25年6月	平成26年度看護学部3年次編入学生募集要項
平成25年6月	平成26年度学生募集要項(看護学研究科 博士前期課程)
平成25年6月	札幌市立大学研究・成果事例集2012
平成25年6月	平成26年度学生募集要項(助産学専攻科)
平成25年7月	平成26年度学生募集要項(看護学研究科 博士後期課程)
平成25年7月	札幌市立大学研究成果報告集2012
平成25年9月	平成26年度学生募集要項(デザイン学部・看護学部 特別選抜)
平成25年11月	平成26年度学生募集要項(デザイン学部・看護学部 一般選抜)
平成25年11月	平成26年度学生募集要項(デザイン研究科 博士前期課程 第2次募集)
平成25年11月	平成26年度学生募集要項(看護学研究科 博士前期課程 第2次募集)
平成26年1月	札幌市立大学附属図書館ニュースレターのほほん第7号
平成26年3月	就職パンフレット
平成26年3月	平成25年度札幌市立大学看護学部キャリア支援委員会活動報告書
平成26年3月	デザイン学部・デザイン研究科卒業修了研究展(2014 図録)
平成26年3月	平成25年度 デザイン研究科修了研究梗概集
平成26年3月	平成25年度「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」成果報告書
平成26年3月	平成25年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」活動資料集



13 施設

1) 校地・校舎、講義室・演習室等の面積

(平成25年3月31日現在)

区分	校地・校舎		講義室・演習室等	
	校地面積(m ²)	校舎面積(m ²)	総数	面積(m ²)
芸術の森キャンパス	167,617	23,087	53	5,696
桑園キャンパス	18,152	12,367	30	3,132
合計	185,769	35,454	82	8,828
サテライトキャンパス	178	178	2	152

2) 芸術の森キャンパス・桑園キャンパス・サテライトキャンパス (施設配置図・校舎配置図)

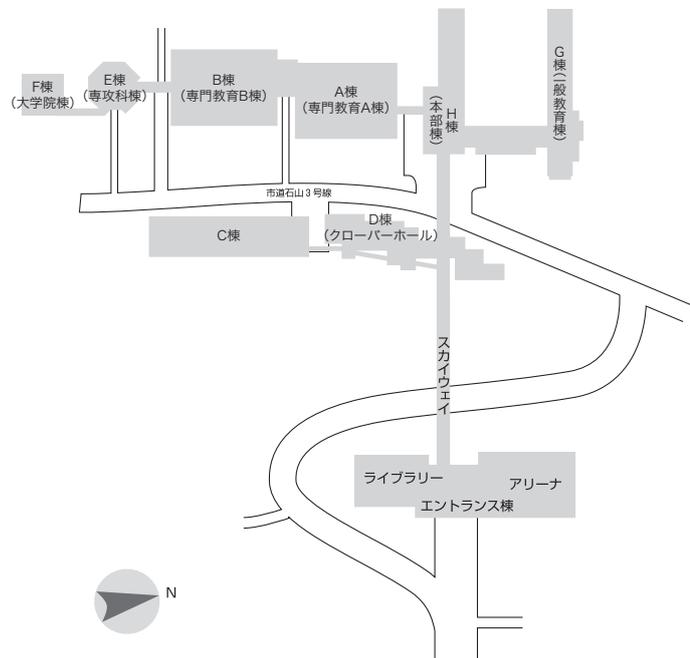
芸術の森キャンパス

〒005-0864

北海道札幌市南区芸術の森1丁目

TEL : 011-592-2300 (代)

FAX : 011-592-2369



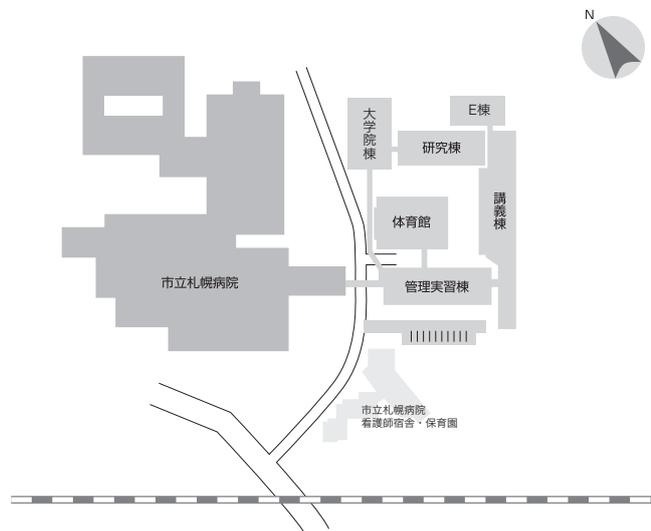
桑園キャンパス

〒060-0001

北海道札幌市中央区北11条西13丁目

TEL : 011-726-2500 (代)

FAX : 011-726-2506





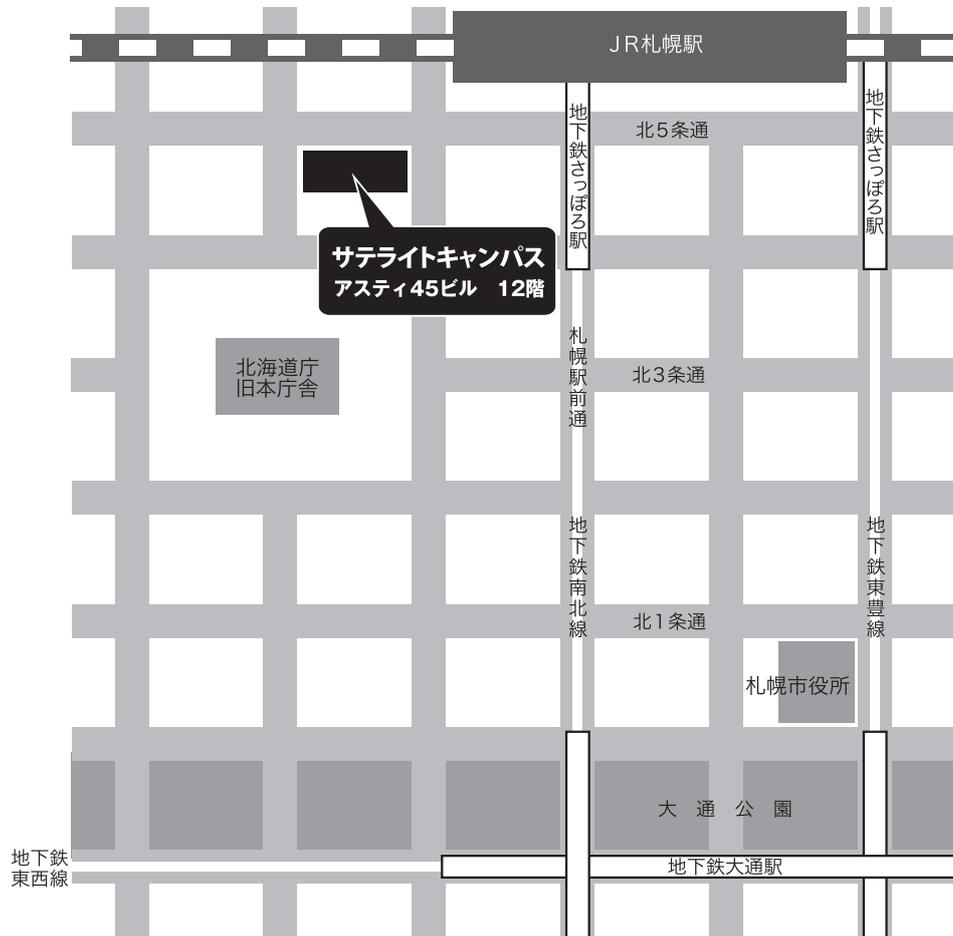
サテライトキャンパス

〒060-0004

北海道札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45ビル12階

TEL：011-218-7500（代）

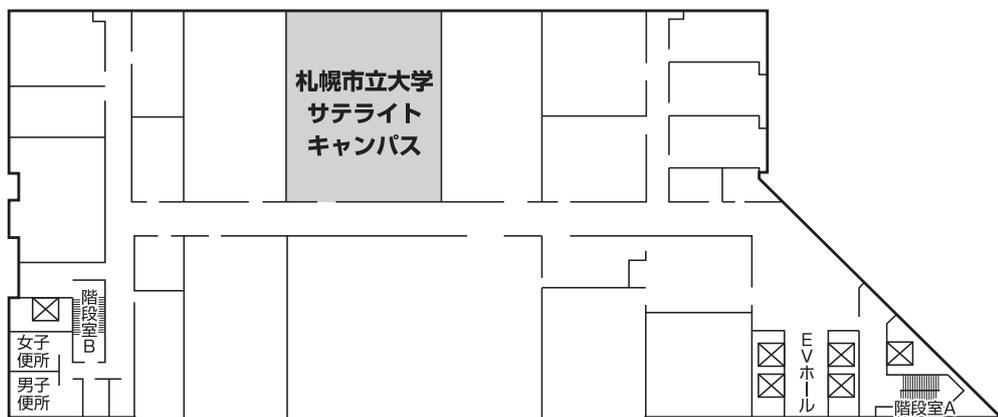
FAX：011-218-7507



〈施設配置図〉

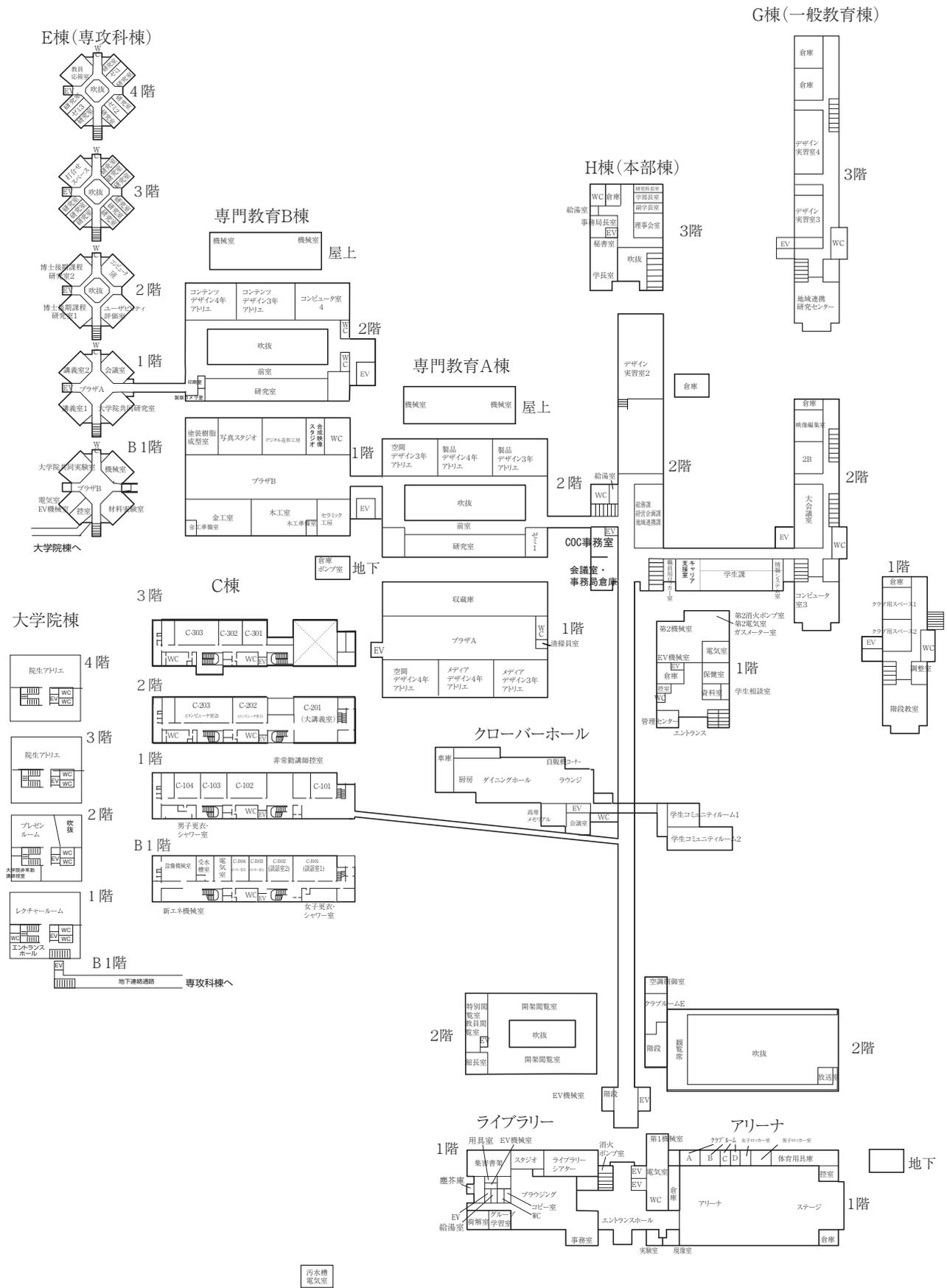
北側（JR札幌駅方面）

アスティ45ビル12階





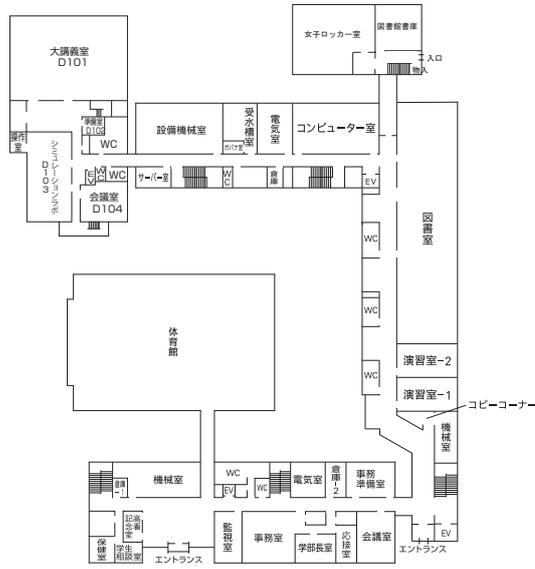
芸術の森キャンパス(校舎配置図)



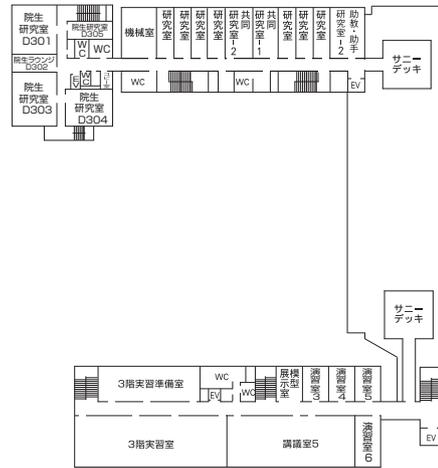


桑園キャンパス〈校舎配置図〉

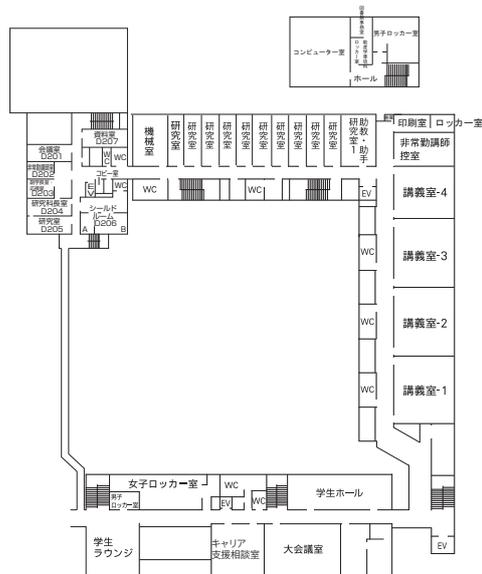
1F



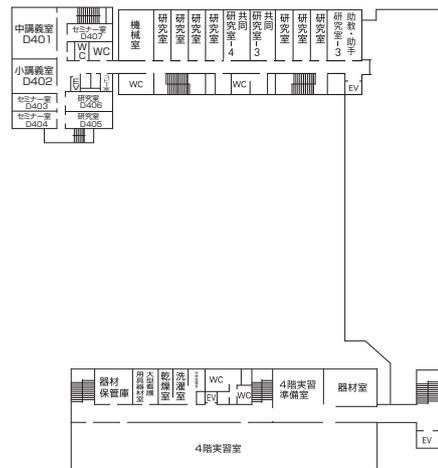
3F



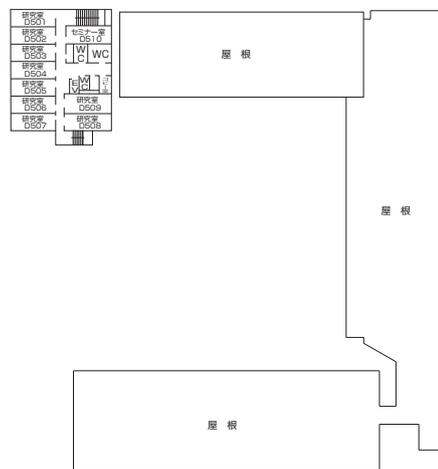
2F



4F



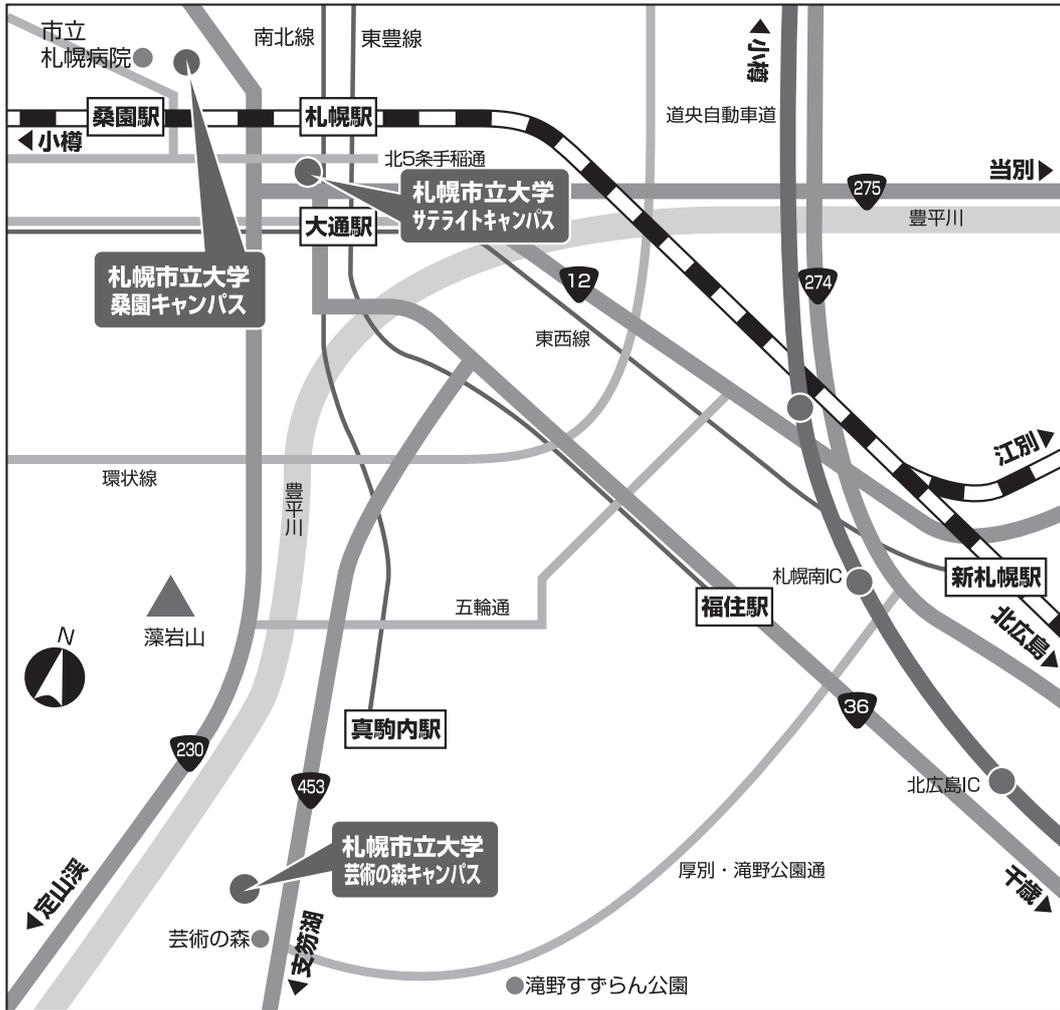
5F



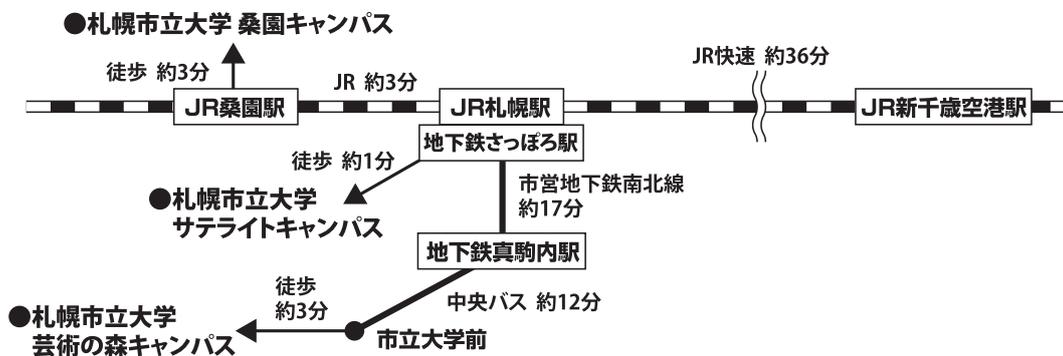


14 大学への交通アクセス

1) アクセスマップ



2) 交通案内





15 札幌市立大学 大学歌『みらいの手』

作詞：後藤優太・首藤翠(デザイン学部 第4期生)
作曲：堀 彩菜(デザイン学部 第3期生)

力強く風が吹き抜ける
新たな希望をたずさえて
さあ飛び出そう
翼広げて
光の指す方へと

ともに笑いともに競った仲間たち
これからは別々の道を往く
強い風に吹かれ
立ち止まりかけても
恐れず歩き続けて

僕らには創りあげる手がある
僕らには支えあえる手がある
同じ空の下には今も
走り続ける仲間がいるだろう

僕らには創りあげる手がある
僕らには支えあえる手がある
あの地平の彼方にはきっと
君の染める世界がある

僕らには導く能力(ちから)がある
僕らには差し伸べる精神(こころ)がある
その壁の向こうにはきっと
君を待つ世界がある

『みらいの手』

公立大学法人 札幌市立大学 大学歌

作詞：後藤 翠・首藤 翠太
作曲：堀 彩菜

Musical score for the left page of 'Future Hand'. It includes a piano introduction, followed by vocal and piano parts for sections A, B, and C. The lyrics are written below the vocal line.

Continuation of the musical score for the right page of 'Future Hand'. It includes vocal and piano parts for sections C, A, B, and C. The lyrics are written below the vocal line.

XI 教員業績一覧

- ・研究業績
- ・社会貢献活動



デザイン学部

蓮見 孝

<学術論文>1.画像鑑賞と描画作業の体験における気分の評価（共著、平成25年7月、デザイン学研究 Vol.60 No.2）

<著書>1.感性認知脳科学への招待（分担執筆、平成25年9月、筑波大学出版会、ISBN 4904074289）

<その他の論文>1.学生が夢を語れる社会へ 新たな価値を生み出すクロスデザイナー（平成26年1月、JDCA Journal Vol.3）

<学会発表>1.Additional Explanation for Post “Hot society”（招待講演、LOCHAS2013国際大会）
／2.デザインの基本（講演、サインデザイン学会セミナー）／3.アート&デザインによる療養環境改善（講演、アート・ミーツケア学会）

<研究大会発表>1.閉会の挨拶及び研究発表（単独、道総研との共催シンポジウム）

<学会役員就任状況>IASDR組織運営委員会（委員）／日本デザイン学会（理事、評議員）

<講演会・講習会活動>「いばらきデザイン・ラボ」講義／「北海道日建設計株式会社研修会」講演

酒井 正幸

<学術論文>1.キャンパスと地域を結ぶインタラクション型デザイン教育（共著、平成25年9月、日本デザイン学会誌）／2.環境教育教材としての芸術の森地区の自然に関する研究（共著、平成26年3月、札幌市立大学研究論文集）／3.A study on guide dog training and affordance（共著、平成25年8月、IASDR2013）

<学会発表>1.観光案内所における対面案内をサポートするICT 端末の提案（共同、平成25年6月、日本デザイン学会春季大会）／2.ジャー炊飯器の視覚的使いやすさ感（共同、平成25年6月、日本デザイン学会春季大会）／3.キャンパスを教材とした環境教育ガイドブック（共同、平成25年9月、第15回日本感性工学会大会）／4.教育とプロダクトデザインにおける人間工学専門家の役割（単独、平成25年6月、日本人間工学会第54回大会）／5.「見た目の使いやすさ」とそのガイドライン（共同、平成25年11月、日本人間工学会北海道支部大会）／6.盲導犬と盲導犬使用者のためのユニバーサル研究（共同、平成25年11月、日本人間工学会北海道支部大会）

<論文査読・学会抄録査読>1.IASDR2013（3件、IASDR）／2.感性工学（1件、日本感性工学会）／3.デザイン学研究（1件、日本デザイン学会）／4.SCU JOURNAL（1件、札幌市立大学）

<学会役員就任状況>日本人間工学会（理事）／日本人間工学会（北海道支部役員、評議員）

<講演会・講習会活動>円山動物園の森ボランティア講習会「動物園の森の目指すもの&昆虫とデザイン」

城間 祥之

<学術論文>1.キャンパスと地域を結ぶインタラクション型デザイン教育（共著、平成26年3月、日本デザイン学会誌）

<その他の論文>1.札幌市立大学大学院デザイン研究科における地域連携教育（平成26年3月、IDE大学協会北海道支部）

<学会発表>1.製品利用目的の理解度差抽出を目的としたオンラインアンケートの評価（共同、平成25年6月、日本デザイン学会第60回春季大会）／2.商品の価値創造にはたすパッケージデザインの役割に関する研究（共同、平成25年9月、第15回日本感性工学会大会）／3.パッケージデザインの価値創造に関する基礎研究-板チョコレートの嗜好度調査と眼球運動計測を通して-（共同、平成26年3月、第9回日本感性工学会春季大会）／4.パッケージデザインの価値創造に関する基礎研究-板チョコの嗜好度調査を通して-（共同、平成26年1月、感性フォーラム札幌2014）／5.日本におけるアートによる地域活性化事例研究の中国への適用方法に関する研究（共同、平成26年1月、感性フォーラム札幌2014）／6.死産児安置の為の「わが子のひつぎ」プロトタイプデザイン -第4報:病院での試用を通じた製品評価-（共同、平成26年1月、感性フォーラム札幌2014）／7.死産児安置の為の「わが子のひつぎ」プロトタイプデザイン -第5報:悲しみを癒す要素の評価-（共同、平成



26年1月、感性フォーラム札幌2014)

<論文査読・学会抄録査読>1.Tools and Methods of Competitive Engineering (3件、TMCE 2014 Symposium) / 2.International Journal of Affective Engineering (1件、日本感性工学会) / 3.日本感性工学会論文誌 (4件、日本感性工学会)

<学会役員就任状況>日本感性工学会 (日本感性工学会第9期理事(平成25年9月～平成27年9月)、理事) / 芸術工学会 (理事) / 日本感性工学会 (日本感性工学会北海道支部支部長(平成25年11月～平成27年11月)、会長)

<学術集会運営>感性フォーラム札幌2014 / 2014年度精密工学会北海道支部学術講演会 / 第15回日本感性工学会大会 / 第9回日本感性工学会春季大会 / IASDR2013組織運営委員会

<上記以外の業績>ワーキング (教員評価委員会「教員評価専門部会」、システム要件検討会議及び作業部会)

中原 宏

<論文査読・学会抄録査読>1.札幌市立大学研究論文集 第8巻1号 (1件、札幌市立大学)

<学会役員就任状況>日本建築学会 (論文審査委員会査読員、委員) / 北海道都市地域学会 (副会長)

<講演会・講習会活動>本学COC事業について (札幌市南区連合町内会長連絡協議会・南区地区女性連絡協議会合同研修会): ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業について (平成25年11月20日、札幌市南区連合町内会長連絡協議会・南区地区女性連絡協議会合同研修会) / 本学COC事業について (札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪ルート幹事会): ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業について (平成25年12月12日、札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪ルート幹事会) / 平成25年度北のまちづくり賞講評 (北のまちづくりセミナー 主催:北海道建設部まちづくり局): 平成25年度北のまちづくり賞講評 (平成26年3月27日、北海道建設部まちづくり局)

石井 雅博

<学術論文>1.点図ディスプレイを用いた触図作成システムにおけるペン・指先入力の比較 (共著、平成25年12月、映像情報メディア学会誌、67巻、12号、pp.448-454)

<学会発表>1.Depth percept from motion parallax by backward/forward head movements (共同、Vision Sciences Society) / 2.Stereoanomaly for crossed disparity in the upper visual field and uncrossed disparity in the lower visual field (共同、Vision Sciences Society)

<論文査読・学会抄録査読>1.映像情報メディア学会誌 (3件、映像情報メディア学会) / 2.感性工学会論文誌 (1件、感性工学会) / 3.デザイン学会論文誌 (1件、デザイン学会)

<学会役員就任状況>電子情報通信学会 (論文誌編集委員会リエゾン委員) / 映像情報メディア学会 (論文委員) / 日本視覚学会 (世話人、委員) / 日本バーチャリアリティ学会 (論文員、委員)

<学術集会運営>日本視覚学会夏季大会 / アジア太平洋視覚会議

石崎 友紀

<学術論文>1.大英博物館製模造品と日本製模造品と贋作品の技術文化比較 (単著、平成26年3月、道具学論集第9号)

<作品発表>1.日本クラフトデザイン展 (平成26年1月) / 2.ASSEMBLE-SIXTH (平成25年9月)

<学会発表>1.未来の家庭用ロボットにおける形態的アプローチの考察と提案 掃除ロボットを題材としたロボットデザインの探求 (共同、平成25年12月、芸術工学会平成25年度秋期大会) / 2.大英博物館金属修復室の道具立て (単独、平成26年1月、2013年度道具学研究発表フォーラム)

<学会シンポジウム>1.道具学の源流 (平成26年1月、道具学会)

<学会役員就任状況>道具学会 (研究委員会、委員長)

<学術集会運営>道具学研究フォーラム

<講演会・講習会活動>石狩放送教育研究会大会

<専門職者・企業・展覧会等への支援>新型車両デザイン案選定アドバイス (札幌市交通局) / 試作品提案 (トローラーライン)

**上 遠 野 敏**

<調査研究報告書>1.COAL MINE ART PROJECT平成25年度文化庁事業研究成果報告書(共著、平成26年3月、札幌市立大学)

<作品発表>1.ヒーロになろうアートインスタレーション(共同、平成25年7月、ニセコ倉庫邑2013(ニセコ町委託)) / 2.もっと遠くに飛ぶために2013(単独、平成25年9月、ミニ大通お散歩まつり「樹上展」実行委員会依頼) / 3.奔愛(Pon Love)・4.黄金郷(El Dorado)・5.モス3(単独、平成25年9月~11月、奔別アートプロジェクト2013(主催者選出)) / 6.札愛(Satsu Love)(単独、平成25年11月~平成26年1月、500m美術館vol.9「Sapporo Art Map2」CAI02ブース(主催者選出)) / 7.奔別アートプロジェクト2013報告パネル(共同、平成25年12月、奔別アートプロジェクト2013報告展) / 8.アートプロジェクト2004~2013報告パネル(単独、平成26年1~2月、炭鉱の記憶をキーワードにしたアートプロジェクト展) / 9.NE・SAL・I・MU・SCENE 8作品組(単独、平成26年3月~4月、Distant Observations Fukushima in Berlin(主催者選出))

<作品設置>札幌市民憲章50周年記念モニュメント(単独、平成26年2月、札幌時計台ホール)

<講演会・講習会活動>札幌を創った「近代」の底力を学ぶ:アートの光で近代を再び照射する 一空知らみて(平成26年2月25日、空知総合振興局)

<専門職者・企業・展覧会等への支援>三吉神社例大祭、地域再生プロジェクト:キャラクターグッズ開発、ゲーム冊子 アートディレクター(平成25年5月14日~15日、三吉神社例大祭を楽しくする会) / 奔別アートプロジェクト、奔別アートプロジェクト2013アートディレクター兼プロデューサー(平成25年9月21日~11月3日、札幌市立大学) / 北海道炭鉱遺産カレンダー、北海道炭鉱遺産カレンダーデザイン、アートディレクター(平成25年6月~8月、北海道炭鉱遺産ファンクラブ)

齋 藤 利 明

<作品発表>1.黒沙弥(くろさや)(単独、平成25年6月3日~9日、群炎セレクト展(神田画廊)) / 2.祈り(単独、平成25年11月26日~12月3日、第52回 群炎展(東京都美術館)) / 3.木霊(こだま)・4.葉二つ・5.白樺(単独、平成25年12月16日~23日、個展創作人形「冬の妖精たち」(金沢県立美術館広坂別館)) / 6.すずらん・7.柊(ひいらぎ)・8.花梨(かりん)(単独、平成26年3月6日~11日、個展齋藤利明創作人形展「森の妖精たち」(マリヤクラフトギャラリー))

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>一般公募「アート・ボックス」審査委員(札幌駅総合開発株式会社) / 北海道建築学会賞審査委員(北海道建築学会)

杉 哲 夫

<作品発表>1.足踏みアシストスノーダンプ(単著、平成25年11月、第27回北海道技術・ビジネス交流会(ビジネスEXPO))

<学会発表>1.スノーダンプの改良研究(共同、平成25年6月、日本デザイン学会) / 2.石狩鍋「蛸」、スノーダンプの改良研究(共同、平成25年8月、日本災害看護学会)

<講演会・講習会活動>「地域に根差したものづくり」北海道中小企業家同友会同友会大学講師(平成26年3月27日、北海道中小企業家同友会) / 「地域に根差したデザイン開発」HoPE12月例会(平成25年12月11日、北海道中小企業家同友会)

武 邑 光 裕

<学術論文>1.Japans größter Star "Hatsune Miku" wird als eine Schöpfung von Fans gefeiert(単著、平成25年11月、Berliner Gazette)

<調査研究報告書>1.札幌メディア・アーツ・ラボ2013年度調査研究報告書(平成26年3月、札幌メディア・アーツ・ラボ) / 2.芸術文化導入によるまちづくりに関する研究(平成26年3月、札幌市立大学)

<学会発表>1.The Hatsune Miku:The secret solidarity between Amateurs & Pros in the third space of cultural production.(単独、International Conference: Complicity、平成25年11月)

<学会役員就任状況>日本予防医学リスクマネジメント学会(日本予防医学リスクマネジメント学会理事(理論・情報学分野))



<学術集会運営>ユネスコ創造都市ネットワーク札幌市加盟記念国際フォーラム(学術集会誘致・運営(大会長)、平成26年3月16日)

<専門職者・企業・展覧会等への支援>全北海道広告賞審査委員長(全北海道広告協会)／年間の事業運営・企画(札幌メディア・アーツ・ラボ)／芸術祭の企画運営・ゼネラル・プロデューサー(札幌国際芸術祭実行委員会)

羽 深 久 夫

<学術論文>1.札幌市円山動物園チンパンジータワー利用状況(共著、平成26年3月、札幌市立大学、8巻、1号、pp.65-79)

<調査研究報告書>1.王子製紙苫小牧工場(『近代産業遺産』所収)(平成26年3月、pp.431-437)

<学会シンポジウム>1.豊平館の文化財建造物の意義(単独、平成25年8月、日本建築学会建築歴史意匠委員会)／2.豊平館の構造補強工事(単独、平成25年10月、日本建築学会)／3.帯広市の文化財建造物(単独、平成26年3月、日本建築学会北海道支部)

<学会役員就任状況>日本建築学会建築歴史・意匠委員会日本建築史小委員会委員(日本建築学会、委員)／日本建築学会北海道支部歴史意匠専門委員会主査(日本建築学会北海道支部、委員長)

<所属学会・研究会>全国 建築史学会 会員／全国 日本生活文化史学会 会員／全国 日本家政学会 会員／全国 風俗史学会 会員／地方 北海道考古学会 会員

<講演会・講習会活動>NHK新さっぽろ文化講座2013春夏講座 全6回 西洋近代建築序説／NHK新さっぽろ文化講座2013秋冬講座 全6回 西洋近代建築の展開／札幌市商工会議所 札幌シティガイドフォローアップ研修 さっぽろの建築文化財

<専門職者・企業・展覧会等への支援>「建築学および建築学関連分野」JABEE審査プログラム審査委員(通年(平成26年6月23年から)、日本技術者認定機構)

原 俊 彦

<学術論文>1.札幌市の配偶関係別純移動率1995年-2000年:推計モデルと国勢調査再集計の比較(単著、平成25年6月、人口学研究、36巻、1号、pp.31-46)

<書評>新刊短評:『早稲田大学学術叢書 日独比較研究市町村合併—平成の大合併はなぜ進展したか?』(平成25年6月、人口学研究、36巻、1号、pp.99-100)

<学会発表>1.日本の人口転換と人口学的扶養負荷-持続可能な人口の原理?(単独、平成25年6月、第65回日本人口学会)／2.配偶関係別純移動率の推計と国勢調査結果との比較:札幌市2005年-2010年(単独、平成26年3月、日本人口学会 2013年度 第2回 東日本部会)

<研究会発表>1.第8章 縮減する日本社会の課題 「ポスト人口転換期の日本」プロジェクト(8)(単著(単独)、平成25年11月、559回人口学研究会)／2.日本の人口転換と人口学的扶養負荷-持続可能な人口の原理?(単著(単独)、平成25年8月、人口転換科研プロジェクト 2013年度 第1回研究会(国立社会保障・人口問題研究所))／3.人口転換のマクロ・シミュレーションモデル:平均寿命の延伸と少子化のフィードバックループ(単著(単独)、平成26年3月、人口転換科研プロジェクト 2013年度 第3回研究会(国立社会保障・人口問題研究所))

<論文査読・学会抄録査読>1.家族社会学研究(1件、日本家族社会学会)／2.札幌市立大学研究論文集(1件)

<学会役員就任状況>日本人口学会(副会長)／日本家族社会学会(編集委員会 査読委員)／北海道社会学会(会長)

<学術集会運営>日本人口学会第65回大会

<講演会・講習会活動>平成25年度 社会保障・人口問題基礎講座 地域人口の将来:加速する人口減少と地域社会の持続可能性(平成25年10月5日、(財)厚生労働統計協会)／第2回東京の自治のあり方研究会部会 東京都庁内会議室 東京の将来と自治のあり方:中間報告書(2013年3月)をもとにした考察(平成25年9月9日、東京都)／男女共同参画公開学習会 手稲区の将来人口と男女共同参画社会の実現:鍵を握るのは女性(平成25年6月15日、手稲区役所)／いしかりまちづくりディスカッション2013 講師 人口からみた石狩市の将来(平成25年9月5日、石狩市)



<刊行物>Springer Japanを通じ、日本人口学会編の英書シリーズ「日本の人口研究」刊行を企画、シリーズを創刊。編集委員会 委員長 (Population Studies of Japan (<http://www.springer.com/series/13101>) Editor in Chief

細谷 多聞

<作品発表>1.untitled、folding cosmos (札幌→ニューヨーク→バース(英)巡回展)<http://foldingcosmos.org/> (単独、平成25年9月～)

<学会発表>1.人間の見立て行動にもとづいた入力インタフェース研究 (共同、平成25年9月、第15回日本感性工学会大会) / 2.水流を用いた計算機の設計と制作 (共同、平成25年9月、第15回日本感性工学会大会)

<学会役員就任状況>日本デザイン学会 (概要集編集委員会 委員長、理事)

矢部 和夫

<辞書・辞典>1.自然エネルギーと環境の事典 (共著、平成25年11月、東洋書店)

<学会発表>1.RELATIONSHIP BETWEEN HYDROCHEMICAL CONDITIONS AND VARIATION IN FOREST AND GRASSLAND COMMUNITIES IN PEAT SWAMPS OF CENTRAL KALIMANTAN, INDONESIA (共同、平成25年9月、4th International Workshop on Wild Fire and Carbon Management in Peat-Forest in Indonesia 2013)

<研究会発表等>1.基調講演 札幌市の山野草の将来への不安 (単独、平成25年11月、「さっぽろシードソン2013～秋の生き物調査隊～ 札幌市環境局環境都市推進部活動報告会」) / 2.石狩川フォーラム第13回:『北の湿原をはぐくむ霧と雪-石狩低地帯で見られる湿原景観の地理的変異-』 (単独、平成26年1月、石狩川フォーラム)

<論文査読・学会抄録査読>1.保全生態学研究 (1件、日本生態学会) / 2.Ecological Research (1件、日本生態学会) / 3.Landscape and Ecological Engineering (1件、応用生態工学会)

<学術集会運営>ウエットランドセミナー運営幹事

<講演会・講習会活動>藻岩高校 環境教育講座 (デザイン学部で高校生25人対象に実施) 森という自然 (平成25年9月20日) / 環境教育 (美々川) 道胆振総合振興局 室蘭建設管理部主催 美々川の自然 (平成25年10月～平成26年3月)

吉田 和夫

<所属学会・研究会>TDC 東京デザイナーズクラブ

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>広告電通賞 地区選考委員会 委員長 (広告電通賞審議会) / 駅前通地下広場広告デザイン審査会 委員 (札幌駅前通まちづくり株式会社) / 札幌デザインウィーク2013 用メインビジュアル等のデザイン (平成25年10月、札幌デザインウィーク実行委員会)

吉田 恵介

<学会シンポジウム>1.都市近郊農業地域における市民交流の可能性に関する考察 (単独、平成25年11月、日本技術士会近畿支部)

<論文査読・学会抄録査読>1.環境情報科学学術研究27 (論文(全国学会)、1件、平成25年6月、環境情報科学センター)

<学会役員就任状況>日本造園学会北海道支部 (委員) / デザイン学会 (環境デザイン部会ブロック幹事、委員) / 日本造園学会 (理事)

<講演会・講習会活動>農ある暮らしフォーラム:さっぽろで農体験をはじめませんか (平成26年2月22日、札幌市) / さっぽろ都市型グリーンツーリズム事業モニターツアー講師:札幌の農家と生産物について (平成25年8月2日、札幌市) / 「ほっかいどう学」かでの講座:江戸期と現代との北海道の海岸景観比較 (平成25年6月7日、北海道) / 第十二回南区塾:グリーンツーリズムを育てよう (平成25年12月8日、ぶどうの会)

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>ふらっとホーム2013の運営:ふらっとホーム (平成25年11月9日、札幌市南区役所) / ワインラベルデザインコンペ:八剣山ワイナリーラベルコンペ (平成26年1月29日、八剣



山ワイナリー) / 雪まつりポスターの審査: 第65回さっぽろ雪まつりポスターシンボルキャラクターデザインコンペ (平成25年6月13日、札幌雪まつり実行委員会)

柿山 浩一郎

<学術論文> 1. A study on different evaluation methods to obtain differences in image evaluation from elements of design (筆頭著者、平成25年8月、Consilience and Innovation in Design Proceedings and Program Vol.1+2, 5th International Congress of International Association of Societies of Design Research 2013, Vol.1+2巻、pp.4732-4743)

<調査研究報告書> 1. E-KURASHI Project 2013「産学連携によるE-KANGOを応用した集合住宅用健康管理システムの検証」-クラウドコンピューティングによる情報セキュリティを確保した健康管理システムの構築・実証実験 (共著、平成26年3月、札幌市立大学 研究報告書)

<受賞等> 1. 超低床路面電車 [札幌市路面電車 A1200形] プロデューサー (平成25年10月、Good Design Award)

<学会発表> 1. 製品利用目的の理解度差抽出を目的としたオンラインアンケートの評価 (共同、平成25年6月、日本デザイン学会誌 第60回研究発表大会概要集) / 2. 広域寒冷積雪地における地域完結型遠隔看護システムの構築-在宅療養者に対する効果- (共同、平成25年10月、日本遠隔医療学会雑誌) / 3. 死産児安置の為に「わが子のひつぎ」プロトタイプデザイン -第5報: 悲しみを癒す要素の評価 (共同、平成26年2月、日本感性工学会 感性フォーラム札幌2014) / 4. 死産児安置の為に「わが子のひつぎ」プロトタイプデザイン - 第4報: 病院での試用を通じた製品評価 - (共同、平成26年2月、日本感性工学会 感性フォーラム札幌2014) / 5. E-KANGOシステム (遠隔看護) 4年目の検証 保健師の視点から (共同、平成26年3月、日本在宅ケア学会第18回学術集会)

<学会シンポジウム> 1. オーガナイズドセッション: 視覚的な使いやすさと直感的なインタフェースデザイン (共著 (共同)、パネリスト、平成25年6月、日本デザイン学会)

<論文査読・学会抄録査読> 1. 日本デザイン学会 (日本デザイン学会 春季大会編集委員 幹事長、委員) / 2. 日本感性工学会 (日本感性工学会 論文編集委員会 論文編集委員、委員) / 3. 日本デザイン学会 (日本デザイン学会 評議委員、評議員)

<学術集会運営> 日本人口学会第65回大会 / 感性フォーラム札幌2014

<所属学会・研究会> 日本デザイン学会 / 日本感性工学会 / 教育工学会

<講演会・講習会活動> 札幌管区気象台 ファシリテーション研修

齊藤 雅也

<学術論文> 1. 北方型住宅を対象とした夏期室内環境のエクセルギー評価 (共著、平成26年2月、日本建築学会環境系論文集、79巻、696号、pp.159-166) / 2. 老人福祉センター利用者における主観的幸福感と関連要因の検討 (共著、平成26年3月、北海道公衆衛生学雑誌、27巻、2号、pp.115-122)

<著書> 1. 自然エネルギーと環境の事典 (共著、平成25年11月、東洋書店、ISBN 9784864591447)

<調査研究報告書> 1. 平成25年度受託研究報告書 積雪寒冷地におけるゾウ舎のデザイン研究 (共著、平成26年2月、札幌市立大学) / 2. 平成25年度受託研究報告書 大規模複合商業施設における商学連携による地域向け住環境教育のデザイン研究 (共著、平成26年2月、札幌市立大学) / 3. 平成25年度受託研究報告書 アフリカに生息する動物の展示デザインと動物舎のエネルギー・マネジメントに関する研究 (共著、平成26年2月、札幌市立大学) / 4. 平成25年度 札幌市大学提案型共同研究 報告書 札幌市の全住宅の熱需要MAP作成と札幌市南区真駒内での「次世代コミュニティ暖房」の検討 (共著、平成26年3月、札幌市立大学)

<作品発表> 1. “Utaripe” - gastronomic party - (共同、平成26年3月、第4回LIXIL国際大学建築コンペ (主催者依頼: 北海道大学との協働)) / 2. 自立する住宅 (共同、平成25年11月、第27回建築環境デザインコンペティション)

<学会発表> 1. 人口動態統計を用いた住宅内の安全性に関する研究 その9 兵庫在住高齢者の室温と血圧変化 (共同、平成25年6月、日本建築学会北海道支部研究発表会) / 2. 札幌市都市計画基礎調査データを活用した「暖房熱需要マップ」の作成 (共同、平成25年6月、日本建築学会北海道支部研究発表会)



／3.A Study on Cognitive Temperature Scale with Thermal Discomfort of Elementary Students in Summer in Sapporo and Kumamoto (共同、平成25年6月、CLIMA 2013)／4.A Field Measurement of the Utilizing Geothermal and External Insulated House in Winter Season with Energy and Exergy Analysis (共同、平成25年6月、CLIMA 2013)／5.北方型住宅を対象とした夏期室内環境の放射エクセルギー評価 (共同、平成25年8月、2013年度日本建築学会大会(北海道) 学術講演会)／6.真冬の教室における小学児童の想像温度と温熱的不快の関係 札幌・東京・熊本の比較 (共同、平成25年8月、2014年度日本建築学会大会(北海道) 学術講演会)／7.熊本と東京および札幌における小学児童と教員の温熱的不快・想像温度 (共同、平成25年8月、2015年度日本建築学会大会(北海道) 学術講演会)／8.健康と安全を支える住環境 (共同、平成25年8月、2013年度日本建築学会大会(北海道) 環境工学部門 研究協議会)／9.主旨説明 異分野からの視点を活かす建築環境工学 一人材育成と地域課題解決に向けた連携のすがた (単独、平成25年8月、2014年度日本建築学会大会(北海道) 環境工学部門 研究協議会)／10.開園前の保育園の地中熱ヒートポンプ暖房による温熱環境 地中の熱エネルギー利用率・温エクセルギー利用率の考察 (共同、平成25年9月、平成25年度空気調和・衛生工学会大会)／11.住宅の温熱環境と高齢者の血圧変化に関する調査研究 兵庫県南東部を事例として (共同、平成25年10月、第72回日本公衆衛生学会総会)／12.入浴環境(脱衣環境)が血液循環に与える影響 福井における調査 (共同、平成25年10月、第73回日本公衆衛生学会総会)／13.人口動態統計を用いた疾病発生と月平均外気温に関する分析 (共同、平成25年10月、第74回日本公衆衛生学会総会)／14.人口動態統計を用いた最寒日から死亡に至るまでの経過日数に関する分析 (共同、平成25年10月、第75回日本公衆衛生学会総会)／15.寒冷地に建つ認定こども園における園児の温熱快適性に関する研究 (共同、平成26年3月、空気調和・衛生工学会北海道支部 第48回学術講演会)

<学会シンポジウム>1.統計データから導く健康と安全を支える住環境 (共同、平成25年10月、日本建築学会 第43回熱シンポジウム)

<論文査読・学会抄録査読>1.日本建築学会環境系論文集(2件、日本建築学会)／2.日本建築学会技術報告集(2件、日本建築学会)／3.GRAND RENEWABLE ENERGY 2014(5件、GRAND RENEWABLE ENERGY 2014)

<学会役員就任状況> (一社)日本建築学会((一社)日本建築学会本部環境工学本委員会、委員)／(一社)日本建築学会北海道支部((一社)日本建築学会北海道支部環境工学専門委員会、主査)／(公社)空気調和・衛生工学会北海道支部((公社)空気調和・衛生工学会北海道支部 運営委員会、委員)／(公社)日本建築家協会北海道支部(第5回JIA・テストチャレンジ設計コンペ 審査委員会、委員長)／The LowEx Net (LowEX. Net、委員)

<学術集会運営> (一社)日本建築学会主催:大会(北海道) 実行委員会(平成25年8月30日～9月1日開催)／(一社)日本建築学会北海道支部環境工学専門委員会主催 第8回環境工学系・卒業論文発表会(平成26年3月7日開催)／(一社)日本建築学会北海道支部環境工学専門委員会+NPO法人パッシブシステム研究会主催:寒冷地の住宅の換気と暖房を考える一省エネ基準改正をきっかけとして(平成26年2月20日開催)／あなたの住環境と健康・安全を考えるシンポジウム(平成26年3月14日開催)

<所属学会・研究会>日本建築学会／空気調和・衛生工学会／日本デザイン学会／日本公衆衛生学会／日本看護科学学会／住まい・環境教育学会／日本太陽エネルギー学会／北海道自然エネルギー研究会／日本感性工学会

<講演会・講習会活動>札幌ECO動物園2013:もっと教えて動物トークショー(平成25年10月19日、札幌エコ動物園2013実行委員会)／福井大学公開講座 シンポジウム「冬のお風呂はどれだけ危ないの?」:私たちの身体に影響を与える「暮らしの温熱環境」(平成25年10月20日、福井大学地域環境研究教育センター、福井大学ISO規格推進室)／文部科学省スーパーサイエンスハイスクール(SSH) SS実験講座 環境科学実験:ペットボトルハウスで温房・涼房を考える(平成25年10月12日・13日、北海道旭川西高等学校)

<専門職者・企業・展覧会等への支援>平成25年度議員研修会 健康や家族の状況で変わる高齢者の住まい(平成25年9月4日、留萌管内町村議会)／BIS試験講習委員会(養成講習会2回+更新講習会2回) BIS養成講習会、BIS更新講習会(平成25年12月10日、平成26年1月20日、29日、2月4日、一般社団法人北海道建築技術協会)／学識委員 北方型住宅の普及のためのアドバイザー(平成25年4月～平成26年3月、北海道トップランナーネットワーク構築会議)／記念特別講演:「創(つくる)―建築の可能性」、市民・学会のコ



ラボレーション:コラボレーティブなまちづくり「創(つくる)―都市のパブリックスペースの再構築」(平成25年8月30日、日本建築学会大会(北海道)実行委員会) / パッシブ換気システムの普及のためのアドバイザー(平成25年9月1日、NPO法人パッシブシステム研究科) / ケア環境改善フォーラム(北のケア環境研究会の紹介) 北のケア環境研究会の紹介(平成25年7月18日、ケア環境研究会) / 第5回JIA・テスクチャレンジ設計コンペの審査委員長 第5回JIA・テスクチャレンジ設計コンペ(平成25年11月～平成26年3月、(公社)日本建築家協会北海道支部+株式会社テスク) / 地区講演会「寒冷地における給湯システムの現在と未来のすがた」の企画と実施 寒冷地における給湯システムの現在と未来のすがた(平成26年1月27日、(公社)空気調和・衛生工学会北海道支部)

武田 亘明

<論文>1.3年生ゼミ活動における実践的学びの場のデザイン(単著、平成26年3月、日本教育工学会、JSET14巻、1号、pp.305-310)

<学会役員就任状況>日本教育工学協会(日本教育工学協会理事)

<所属学会・研究会>情報処理学会/日本教育工学会/日本教育工学協会/北海道中国哲学会/教育とコンピュータ利用研究会/北海道企画デザイン研究会

<講演会・講習会活動>平成25年度安平町教育研究会合同研修会基調講演 情報の安全安心教育とメディア社会を生き抜く力(平成25年11月8日、安平町教育委員会) / 平成25年度枝幸町学校支援地域本部事業実行委員会総会基調講演 地域連携による状況的学習の展開と意義(平成25年6月14日、枝幸町教育委員会) / 平成25年度枝幸町学校支援地域本部事業成果報告会基調講演 学校・家庭・地域の連携でサイバー犯罪から子供を守る(平成26年2月27日、枝幸町教育委員会)

<専門職者・企業・展覧会等への支援>運営、ヒント集企画デザイン(北海道クラウド導入ヒント集作成検討会) / 二次審査員(全日本中学高校Webコンテスト) / 審査員(平成25年度北海道高等学校商業クラブ研究発表大会) / 審査委員会審査員(札幌国際短編映画祭「アイアン・フィルムメーカー・コンテスト」)

張 浦 華

<学術論文>1.「形態喜好感性評価方法的研究」(形態に対する快・不快の感性評価に関する研究)(共著、平成25年5月、lobal Chinese Industrial Design Forum and Conference論文集、2013巻、pp.268-273)

<調査研究報告書>1.異文化の中のデザイン(共著、平成26年3月、共同研究プロジェクト、pp.1-279) / 2.寿都町におけるコミュニティ・レストランの調査研(共著、平成26年3月、札幌市立大学、pp.1-29) / 3.受託研究「寿都町におけるブルーツーリズムと中間支援組織に関する調査研究」報告書(共著、平成26年3月、札幌市立大学、pp.1-30)

<作品発表>1.CLENCHED BAMBOO VASE(単独、平成25年8月3日～10日、Asia Network Beyond Design exhibition at the Art Museum of Joshibi University of Art and Design, Sagami-hara, Japan) / 2.FLOWER SHIP VASE(単独、平成25年9月27日～10月3日、Asia Network Beyond Design exhibition at National Yunlin University of Science and Technology Art Center, Yunlin, Taiwan) / 3.NEBULA POT(単独、平成25年10月14日～21日、Asia Network Beyond Design exhibition at Tianjin Academy of Fine Arts, Tianjin, China) / 4.ROTTED GREEN LEEF POT(単独、平成25年11月15日～21日) / 5.大水甕、6.水甕(単独、平成26年3月4日～9日、第35回北海道陶芸作家協会展(札幌・コンチネンタルギャラリー))

<学会シンポジウム>1.「形態喜好感性評価方法的研究」(形態に対する快・不快の感性評価に関する研究)(共同、平成26年2月、Global Chinese Industrial Design Forum and Conference 論文集) / 2.シーズン・シーンに合わせてカスタマイズ可能な服の提案(共同、平成26年2月、感性フォーラム2014) / 3.三輪車とベビーカーの可変式移動ツール「trica(トライカ)」の提案(共同、感性フォーラム2014)

<学会招聘講演>1.「關於形態喜好感性評価方法的研究」(形態の好みに対する感性評価方法に関する研究)(単独、平成25年5月、Global Chinese Industrial Design Forum and Conference)

<論文査読・学会抄録査読>1.日本感性工学会論文誌(1件、日本感性工学会)

<学会役員就任状況>日本感性工学会(日本感性工学会 第8期(平成25,26年度)評議員)

<学術集会運営>日本感性工学会北海道支部準備会(サテライト)平成25年11月30日/日本感性工学会



感性フォーラム2014 (サテライト) 平成26年2月8日/日本感性工学会春季大会実行委員 平成26年3月22日
 <所属学会・研究会>日本デザイン学会入/日本感性工学会/軽労化研究会/北海道陶芸作家協会
 <専門職者・企業・展覧会等への支援> (スマートスーツ・ライト実用化促進事業推進) アドバイザー (株式会社スマートサポート) /被災地支援チャリティーバザール出品ならびにポスター制作等 (北海道陶芸作家協会)

町田 佳世子

<調査研究報告書>1.平成24年度助成研究論文集「就労期を迎えた北海道の若者のコミュニケーション能力実態調査-道内企業の期待との比較-」(単著、平成25年6月、一般財団法人北海道開発協会開発調査総合研究所、pp.185-206) /2.就職活動を控えた大学生のコミュニケーション能力に関する意識調査(単著、平成25年10月、開発こうほう、603巻、pp.35-39) /3.平成24年度研究助成の成果概要「就労期を迎えた北海道の若者のコミュニケーション能力実態調査-道内企業の期待との比較-」(単著、平成25年6月、開発こうほう、599巻、pp.21-22)

<学会発表>1.仕事をしていく上で必要なコミュニケーション能力-企業と大学生の意識比較-(共同、平成25年9月、産業・組織心理学会第29回大会) /2.大学生が考えるコミュニケーション能力とは-能力要素と自己評価調査をもとに-(単独、平成25年8月、日本質的心理学会第10回大会) /3. Psychological effects of hill-walking on workers of urban enterprises: Is hill-walking an effective option to promote mental health of company employees? (共同、平成25年10月、World Psychiatric Association International Congress 2013 Vienna) /4. Psychological effects of healthy hill-walking and water exercise for the retired elderly in Japan (共同、平成25年10月、World Psychiatric Association International Congress 2013 Vienna) /5. What do kids learn from their "Keeper for a Day" experience? (共同、平成25年12月、The 4th Asian Zoo Educator's Conference) /6. Experience of zoo keepers: How did children learn the job of zoo keepers? (共同、平成25年12月、The 4th Asian Zoo Educator's Conference) /7.人と集う楽しみは運動を継続する要因となりうるか-山形県上山市健康講座調査から-(単独、平成26年3月、日本コミュニケーション学会北海道支部研究会)

<論文査読・学会抄録査読>1.札幌市立大学研究論文集第8巻(2件、札幌市立大学) /2.天使大学紀要第14巻(1件、天使大学) /3.日本感性工学会論文誌(1件、日本感性工学会)

<学会役員就任状況>日本コミュニケーション学会(理事(北海道支部長)) /一般社団法人大学英語教育学会(社員(一般社団法人および一般財団法人に関する法律上の社員)、委員) /一般社団法人大学英語教育学会北海道支部(研究企画委員)

<学術集会運営>日本コミュニケーション学会北海道支部研究大会/日本人口学会

<所属学会・研究会>日本コミュニケーション学会/International Pragmatics Association/一般社団法人大学英語教育学会/日本質的心理学会/日本語用論学会/全日本博物館学会/産業・組織心理学会/日本動物園水族館教育研究会

<講演会・講習会活動>株式会社アイティコミュニケーションズ フレッシュマンコミュニケーションセミナー コミュニケーションとは(平成25年4月2日、株式会社アイティコミュニケーションズ) /札幌医科大学保健医療学部 保健医療総論における講演 コミュニケーションとは何か-人をつなぐ私たちの営みについて考える-(平成25年4月8日、札幌医科大学保健医療学部)

山田 良

<学術論文>1.接合点 (Juncture) としての環境芸術(単著、平成25年10月、環境芸術学会論文集、12号)

<作品発表>1. indeplete landscape / 向き合う場(平成25年5月、小樽アートプロジェクト) /2. もうひとつの教室(平成25年5月、樽前arty誰かが見たこの街) /3. 自転車カフェ等(平成25年9月、ミライサイクルプロジェクト) /4. 鏡楔の森(平成25年11月、杜舞台アートプロジェクト) 5. site specific room(平成25年12月、DOMANI明日展) /6. 海拔ゼロメートル/石狩低地帯(平成25年12月、札幌美術展アクアライン)

<学会発表>1. 接合点 (Juncture) としての環境芸術 その2(単独、平成25年10月、環境芸術学会大会)

<専門職者・企業・展覧会等への支援>小樽アートプロジェクト運営(NPO小樽ワークス) /ノボシビルス



クでの研修会(シベリア北海道文化センター)／作品審査、アドバイザー等(ElkiPalki(ロシア))

石田 勝也

<作品発表>1.ブンブンサテライツリミックスコンテスト「優秀賞」"NINE (sizk mix)"

<講演会・講習会活動>チカホ北2条メディアゾーンコンテンツ制作講座

<講演イベント企画運営>メディアアーティスト「クワクボリョウタ」ワークショップ(平成25年10月28日・29日、札幌市立大学)

<所属学会、研究会等>芸術科学会／札幌メディアアーツラボ研究員

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>作品「Heart☆Full」出品 ビジネスエキスポ(平成25年11月7日・8日、北海道技術・ビジネス交流会 運営事務局)／札幌理容師会主催のイベント(平成26年4月15日) オープニング映像の制作 チカホDE就活(平成25年12月～平成26年3月、札幌理容師会)／札幌国際芸術祭「フォレストシンフォニー」テクニカルスタッフ(平成25年11月～平成26年3月、札幌市)

上田 裕文

<学術論文>1.札幌市の都市イメージにおけるみどりの位置づけとその利用(筆頭共著者、平成26年3月、ランドスケープ研究、77巻、5号、pp.487-490)

<著書>1.Basic and Clinical Environmental Approaches in Landscape Planning(共著、平成26年2月、Springer、ISBN 978-4-431-54415-9、pp.115-132)

<調査研究報告書>1.寿都町の地域資源を活かしたブルーツーリズムに関する調査研究報告書(平成26年3月)

<学会発表>1.森林ウォーキングによってもたらされる気分変化のプロセスに関する研究(共同、平成25年5月、平成25年度日本造園学会全国大会)／2.札幌市における都市のみどりの利用実態(単独、平成25年10月、平成25年度日本造園学会北海道支部大会)／3.Forest Imagery in Japan and Russia(共同、平成25年5月、日本地球惑星科学連合2013年大会)

<論文査読・学会抄録査読>1.都市計画(2件、日本都市計画学会)／2.農村計画学会誌(1件、農村計画学会)／3.日本森林学会誌(2件、日本森林学会)／4.Urban and Regional Planning Review(1件、日本都市計画学会)／5.札幌市立大学研究論文集(1件、札幌市立大学)

<学会役員就任状況>日本造園学会(日本造園学会論文集委員)／日本造園学会(日本造園学会編集委員)／日本造園学会(日本造園学会北海道支部運営委員)／日本都市計画学会(日本都市計画学会北海道支部幹事)

<講演会・講習会活動>井戸端寺子屋会議 in 平取(平成26年3月3日、札幌市立大学)

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>水源地域支援ネットワーク会議講師 北海道寿都町の活性化の取組と東峰村の取組について(平成25年9月27日、国土交通省水管理・国土保全局水資源部)

大 淵 一 博

<調査研究報告書>1.ユニバーサルデザイン視点からの動物園のサイン計画研究-西門周辺アプローチの誘導サイン、平成25年度受託研究報告書(共著、平成26年3月、札幌市立大学)

<実務関係書>1.日本デザイン学会春季研究発表大会 <開催虎の巻>(共著、平成26年3月、第59回日本デザイン学会春季研究発表大会実行委員会)

<学会発表>1.助産学OSCEに参加した模擬患者の「感想」票が持つ意味の検討(共同、平成25年10月、第54回日本母性衛生学会学術集会)／2.助産学専攻科における客観的臨床試験を用いた助産技術教育の効果(共同、平成26年3月、第28回日本助産学会学術集会)／3.助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの開発(1)-取組みの実際-(共同、平成26年3月、第28回日本助産学会学術集会)／4.助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの開発(2)-OSCEに関する第三者評価-(共同、平成26年3月、第28回日本助産学会学術集会)／5.助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの開発(3)-プログラム運営のためのシステム活用-(共同、平成26年3月、第28回日本助産学会学術集会)

<学会役員就任状況>日本感性工学会(日本感性工学会北海道支部 役員)



<学術集会運営> 日本人口学会 第65回大会／感性フォーラム札幌2014 (日本感性工学会)／第9回日本感性工学会春季大会／2014年度 日本精密工学会 北海道支部学術講演会
<所属学会・研究会> 電子情報通信学会／日本教育工学会／日本感性工学会／日本看護学教育学会／日本母性衛生学会／日本集団災害医学会
<専門職者・企業・展覧会等への支援> 札幌イメージコーディネート研究会所属メンバーへのソフトウェア利用に関する個別指導等、配色トレーニングソフトウェアの活用方法 (札幌イメージコーディネート研究会)／札幌市長グリーティングカード 選考会審査員 (札幌市国際部)

片山 めぐみ

<学術論文> 1. 屋内展示を主とした積雪寒冷地の動物園デザイン：札幌市円山動物園アジアゾーンの新築計画 (筆頭共著者、平成26年2月、日本建築学会技術報告集)／2. 高揚感と共感を生み出す動物園デザインの仕掛け<特集>仕掛学 (単著、平成25年6月、人工知能学会誌)
<調査研究報告書> 1. 喜茂別町における「交流ハウス」のデザインと住民主体のまちづくり促進に関するアクションリサーチ (平成26年3月、札幌市立大学)／2. 寿都町におけるコミュニティ・レストランを拠点としたソーシャルキャピタル醸成のアクションリサーチ (平成26年3月、札幌市立大学)
<学会発表> 1. Intergenerational Communication of “EN-GAWA service” (共同、平成25年6月、International Association of Gerontology and Geriatrics)／2. 日本世代間交流学会高齢者福祉に対する子どもの感性を育む地域コミュニティ-幼老複合施設における世代間交流の試み- (単独、平成25年10月、日本世代間交流学会)／3. 古着とライフレビューを用いた「思い出ファッションショー」による世代間交流 (共同、平成25年10月、日本世代間交流学会)
<学会招聘講演> 1. 移動とともに変化する出会いの期待感 (平成25年6月、人工知能学会)
<研究会発表等> 1. 心理的負担の少ないナースコールシステムのデザインの提案 (北のケア環境研究会)
<論文査読・学会抄録査読> 1. デザイン学研究 (2件、日本デザイン学会)／2. 第5回国際デザイン学会連合国際会議抄録 (5件、国際デザイン学会)／3. AI & Society Special Issue on Shikakeology (1件、AI & Society)
<学会役員就任状況> 日本建築学会 (日本建築学会北海道支部都市計画委員会委員)
<所属学会・研究会> 日本建築学会／日本デザイン学会／日本福祉のまちづくり学会／地域活性学会
<講演会・講習会活動> いしかりまちづくりディスカッション／網走管内社会福祉協議会研修会

小宮 加容子

<調査研究報告書> 1. 平成25年度札幌市大学提案型共同研究事業「子どもの能動的参加を促し、遊び場を構築する道具や手法に関する基礎的研究」報告書 (共著、平成26年3月、札幌市立大学、1巻、1号)
<作品発表> 1. 環境かるた、2. 遊びイベント「フワヌノ」、3. 遊びイベント「ハコマチ」 (共著、平成25年8月、環境広場さっぽろ2013)／4. ひもっこ広場 (共同、平成25年11月、みがけ!こども目線のデザイン力! キッズデザイン展)／5. わわわっ (共同、平成26年3月、キッズワークショップカーニバルinふくしま)
<受賞等> 1. 第7回キッズデザイン賞復興支援デザイン部門 遊びのワークショップ「フワヌノ」 (平成25年7月、札幌市立大学デザイン学部 あそびlab「オヘソ」)／2. 第7回キッズデザイン賞復興支援デザイン部門 遊びのワークショップ「ハコマチ」 (札幌市立大学デザイン学部 あそびlab「オヘソ」)
<学会発表> 1. 多人数によるお絵描きを活かした表現型の遊びワークショップ「ハコマチ」の活動報告-頭と体と心をつなぐ遊びの活動「コネキッド」の取組み事例の報告 (1) (共同、平成25年6月、日本デザイン学会第60回研究発表会概要集)／2. 受動的行動から能動的行動へと誘導する「フワヌノあそび」の活動報告-頭と体と心をつなぐ遊びの活動「コネキッド」の取組み事例の報告 (2) (共同、平成25年6月、日本デザイン学会第60回研究発表会概要集)／3. 遊びの蓄積が場を構築する表現型の遊びワークショップ「ハコマチ」の活動報告-頭と体と心をつなぐ遊びの活動「コネキッド (Connekid)」の取組み事例の報告 (3) (共同、平成25年8月、日本福祉のまちづくり学会第16回全国大会)／4. 協働により発展する遊びの提案「フワヌノあそび」の活動報告-頭と体と心をつなぐ遊びの活動「コネキッド」の取組み事例の報告 (4) (共同、平成25年8月、日本福祉のまちづくり学会第16回全国大会)／5. The suggestion of the medication packages to derive remedy



movement suitable for powders-The inspection and consideration of the remedy movement of the child- (共同、平成25年8月、5th IASDR 2013)

<所属学会・研究会> ヒューマンインタフェース学会／計測自動制御学会／日本リハビリテーション工学協会／日本機械学会／日本福祉のまちづくり学会／玩具福祉学会／日本デザイン学会／日本科学看護学会

<講演会・講習会活動> 札幌市南区児童会館地域子育て力向上事業「遊びの宝箱」:おさかなワッショイ! (平成25年9月8日、南区児童会館)／SORA こそだてフェスティバル2012:まねっこサンタさん ～メリークリスマス!! HO!HO!HO!～ (平成25年12月14日、札幌コンベンションセンター)／SAPPORO DESIGN WEEK2012:ぐるっとさっぽろ (平成25年10月23日～27日、札幌デザインウィーク実行委員会、幌駅前通まちづくり株式会社)

杉本 達應

<著書>1.メディア技術史:デジタル社会の系譜と行方 (共著、平成25年10月、ISBN 4779303931、北樹出版、pp.113-141)

<学会発表>1.タンジブルなメディアあそび-ブロックとタブレット端末を用いた幼児向け教材企画の授業実践- (単独、平成26年3月、モバイル'14)

<所属学会・研究会> 日本デザイン学会／日本映像学会／社会情報学会／MAGNET

<講演会・講習会活動> DEVELOPMENTAL／オープントーク「メディア表現の未来を考える」 (平成25年10月5日、札幌市立大学杉本達應研究室)／DEVELOPMENTAL／オープントークvol.2「おもてなしのデザイン」 (平成26年2月22日、札幌市立大学杉本達應研究室)

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動> Jobway2015ポスターデザインコンペ審査員 (平成25年11月5日～12月6日、北海道中小企業家同友会)／旧真駒内緑小のプロモーションイベント効果測定への協力 まこ×まち2014 緑小からはじまるまちづくり (平成26年3月8日、札幌市)／コロガル公園inネイチャーのメディアディレクションのための事前調査 札幌国際芸術祭 (2014年度、創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会)

福田 大年

<実践報告書>1.遊びからつながる地域と大学について (札幌市立大学 研究・活動事例集2012) (共著、平成25年6月、札幌市立大学、pp.8-9)／2.包括的に在宅療養者を支援するICTを用いた遠隔看護 (E-KANGO) (札幌市立大学 研究・活動事例集2012) (共著、平成25年6月、札幌市立大学、pp.14-15)

<調査研究報告書>1.子どもの能動的参加を促し、遊び場を構築する道具や手法に関する基礎的研究 (共著、平成26年2月、札幌市立大学)／2.E-KANGOを応用した集合住宅居住者用健康管理システムの検証 (共著、平成26年2月、札幌市立大学)／3.アフリカに生息する動物の展示デザインと動物舎のエネルギー・マネジメントに関する研究 (共著、平成26年3月、札幌市立大学)

<作品発表>1.防災勇者 (共同、平成25年6月、環境広場さっぽろ2013)／2.イヌノネゴト (共同、平成25年11月、Futaba.EXIHIATION 「イヌノネゴト」)／3.わかかでおえかき、4.わをさがそ、5.みんなでさがそ (共同、平成26年3月、キッズワークショップカーニバルinふくしま2014「わわわっ」)

<受賞等>1.第7回キッズデザイン賞 復興支援デザイン部門 (平成25年7月、キッズデザイン協議会)／2.第7回キッズデザイン賞 復興支援デザイン部門 (平成25年7月、キッズデザイン協議会)

<学会発表>1.観光案内所における対面案内をサポートするICT端末の提案-外国人観光客のための情報ユニバーサルデザインのコンセプトモデル提案- (共同、平成25年6月、第60回 日本デザイン学会春季研究発表大会)／2.多人数によるお絵描きを活かした表現型の遊びワークショップ「ハコマチ」の活動報告-頭と体と心をつなぐ遊びの活動「コネキッド (Connekid)」の取組み事例の報告 (1) - (共同、平成25年6月、第60回 日本デザイン学会春季研究発表大会)／3.受動的行動から能動的行動へと誘導する遊びの提案「フワヌノあそび」の活動報告-頭と体と心をつなぐ遊びの活動「コネキッド (Connekid)」の取組み事例の報告 (2) - (共同、平成25年6月、第60回 日本デザイン学会春季研究発表大会)／4.遊びの蓄積が場を構築する表現型の遊びワークショップ「ハコマチ」の活動報告-頭と体と心をつなぐ遊びの活動「コネキッド (Connekid)」の取組み事例の報告 (3) - (共同、平成25年9月、日本福祉のまちづくり学会 第16回全国大会)／5.協働により発展する遊びの提案「フワヌノあそび」の活動報告-頭と体と心をつなぐ遊びの活動「コネキッド (Connekid)」の



取組み事例の報告(4) - (共同、平成25年9月、日本福祉のまちづくり学会 第16回全国大会)

<所属学会・研究会>日本デザイン学会/情報文化学会/札幌アートディレクターズクラブ/札幌メディア・アート・フォーラム/札幌情報デザイン研究会 (spk_infod) /アジアネットワークビヨンドデザイン

<講演会・講習会活動>遊びイベント「コネキッド (connekid) in ふくしま 2014」 キッズワークショップカーニバル in ふくしま 2014 (平成26年3月8日・9日、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会) /遊びイベント「まねっこサンタさん～メリークリスマス!! HO! HO! HO!～」 SORA こそだてフェスティバル2013 (平成25年12月14日、札幌コンベンションセンター) /遊びイベント「ひもっこ広場」 みがけ!こども目線のデザイン!キッズデザイン展 (平成25年11月2日～4日、新潟県立自然科学館) /遊びイベント「ぐるっとさっぽろ」

SAPPORO DESIGN WEEK 2013 (平成25年10月23日～27日、札幌デザインウィーク実行委員会) /ジョブキタ×SAPPORO DESIGN WEEK 2013 北海道ココロカラープロジェクト (平成25年10月23日～27日、札幌デザインウィーク実行委員会) /遊びイベント「フワヌノ～おさかなわっしょい!～」 札幌市南区児童会館地域子育て力向上事業「遊びの宝箱」 (平成25年9月8日、札幌市南区児童会館) /遊びイベント「コネキッド (connekid) 2013」 札幌市立大学公開講座「コネキッド (connekid) 2013」 (平成25年7月27日、札幌市立大学)

<専門職者・企業・展覧会等への支援>講演会「紙媒体の情報を子どもと保護者に伝えるコツ」 紙媒体の情報を子どもと保護者に伝えるコツ (平成25年11月13日、札幌市養護教員会西ブロック研修会) /HCD-Net教育セミナーin札幌「エスノグラフィとカスタマージャーニーマップ」 (平成25年7月13日・14日、特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構) /インターカレッジ・アニメーション・フェスティバル (ICAF) 2013 札幌の運営サポート (インターカレッジ・アニメーション・フェスティバル実行委員会) /団体の運営および一部のイベントの企画・運営を担当、研究会に参加 (札幌メディア・アート・フォーラム)

松井 美穂

<博士論文>1. Passing into the Darkness: Sexuality, Race, and Integration of the Segregated in the Works of the Southern Renaissance (単著、平成26年3月、北海道大学大学院文学研究科)

<書評>1. 越智博美著『モダニズムの南部的瞬間—アメリカ南部詩人と冷戦』 (単著、平成25年12月、『英文学研究』、90巻、pp.121-126)

<学会役員就任状況>北海道アメリカ文学会 (幹事、広報委員)

<所属学会・研究会>日本アメリカ文学会/日本アメリカ文学会北海道支部/日本英文学会/日本英文学会北海道支部/アメリカ学会/日本ウィリアム・フォークナー協会

三谷 篤史

<学術論文>1. Effect of Geometry Parameters of Saw-tooth Surface on the Feeding Velocity of Micro-parts (共著、平成25年9月、IEEJ Trans. on Electrical and Electronic Engineering、8巻、S1号、pp.S102-S105)

<学会発表>1. 遊び手の操作に応じて反応が変化するメカトロ積木の開発 (積木パーツの汎用化を目的とした第3次プロトタイプを検討) (単独、平成25年5月、ROBOMECH2013) /2. Analysis of the Velocity of Micro-parts on Vibration Surface with the Vibrating Amplitude and Geometry Parameters (共同、平成25年5月、ROBOMECH2013) /3. 新人看護師のストレス軽減を目的とした感情表現ツールの制作 (共同、平成25年6月、日本デザイン学会第60回春季大会) /4. 遊び手の操作に反応するメカトロ積木のデモ実験実施とその考察 (共同、平成25年8月、2013精密工学会北海道支部学術講演会) /5. Improvement of Sawtooth Shape Generated By Anisotropic Etching Process of Single-Crystal Silicon For Microparts Feeding Using Horizontal and Symmetric Vibrations (共同、平成25年7月、IEEE AIM2013) /6. Simulation Model for Sub-Millimeter Part Feeding on the Asymmetrical Saw-Tooth Surface with Air Drag (共同、平成25年7月、IEEE AIM2013) /7. A Biomimetic Soft Fingertip Applicable to Haptic Feedback Systems for Texture Identification (共同、平成25年10月、HAVE2013)

<論文査読・学会抄録査読>1. Advanced Robotics (3件、RSJ) /2. Proceedings. ROBIO2013 (1件、IEEE) /3. Proceedings. IROS2013 (1件、IEEE/RSJ)



<学会役員就任状況>日本機械学会(ロボティクス・メカトロニクス部門第2地区委員会委員長)／精密工学会(北海道支部第54期商議員・会計幹事)／日本トライボロジー学会(北海道トライボロジー研究会主査)
 <学術集会運営>SICE Annual Conference 2014／感性フォーラム2014札幌／ROBOMECH2013／2014年精密工学会北海道支部学術講演会
 <所属学会・研究会>北海道トライボロジー研究会／日本機械学会／日本ロボット学会／精密工学会／計測自動制御学会／アメリカ電気電子学会(IEEE)／日本デザイン学会
 <専門職者・企業・展覧会等への支援>ニッケルパウダーのブランディング(ネーミング)に関する支援(寿産業株式会社)／サッポロ・ロボットコーナーへの作品展示(札幌市青少年科学館)／道内のトライボロジー関連従事者への講演会実施(北海道トライボロジー研究会)／メカトロ積み木に関する講演の実施 操作により反応が変わるメカトロ積み木の開発(平成25年12月16日、株式会社オムロン)／メカトロ積み木に関するポスター講演の実施 遊び手の操作に反応するメカトロ積み木のデモ実験実施とその考察(平成25年11月15日、北海道総合研究機構)

金子 晋也

<学術論文>1.民家再生に学ぶ(単著、平成25年9月、農村計画学会)
 <他大学紀要(査読無)>1.「方丈の庵」の居住空間のデザインに関する実践的研究(共著、平成25年11月、神戸芸術工科大学)
 <作品発表>1.共同住宅のリノベーション [鈴木文化シェアハウス](共同、平成25年10月30日、2013年度グッドデザイン賞)
 <受賞等>1.2013年度グッドデザイン賞(平成25年10月、日本デザイン振興会)
 <学会発表>1.日本とイギリスの民家における小屋組材の語義の比較: 伝統木造用語に関する比較研究 その8(共同、平成25年8月、2013年度 日本建築学会大会(北海道))
 <研究大会発表>1.「方丈の庵」の居住空間のデザインに関する実践的研究(平成25年11月、札幌市立大学・道総研 研究交流会)
 <学会役員就任状況>日本建築学会(木造建築構法小委員会、委員)

須之内 元洋

<学術論文>1.SIMILARITY SEARCH OF FREESOUND ENVIRONMENTAL SOUND BASED ON THEIR ENHANCED MULTISCALE FRACTAL DIMENSION(筆頭共著者、平成25年8月、Proceedings of the Sound and Music Computing Conference 2013、pp.715-721)
 <調査研究報告書>1.デジタルアーカイヴのススめ(単著、平成26年3月、公益財団法人東京都歴史文化財団)
 <作品発表>1.CANDY(共同、平成25年9月、TOBIU芸術祭)
 <学会発表>1.拡張マルチスケールフラクタル次元を用いた環境音の類似検索システム(共同、平成25年8月、情報処理学会 音楽情報科学研究会 第100回研究発表会)
 <研究大会発表>1.アートプロジェクトにおける「音」の記録研究 公開研究会(単独、平成26年2月、アートプロジェクトにおける「音」の記録研究)／2.アートプロジェクトのインパクトリサーチ 公開研究会(単独、平成26年2月、アートプロジェクトのインパクトリサーチ)
 <学会役員就任状況>日本建築学会(空間更新手法“TRADE”の開発研究[若手奨励] 特別研究委員会、委員)
 <専門職者・企業・展覧会等への支援活動>国際公募、新千歳空港坂本龍一プログラムのプロジェクトマネージャー 札幌国際芸術祭2014 プロジェクトマネージャー(平成25年4月、創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会)／札幌駅前地下歩行空間北2条広場公共サインの運営団体審査等 札幌駅前地下歩行空間北2条広場運用団体審査(平成25年4月、札幌市市長政策室)／特別研究員 札幌メディア・アーツラボ 特別研究員(平成25年4月、札幌メディア・アーツラボ)／陶磁器デザイナー森正洋氏のデジタルアーカイヴ構築アドバイス・支援(平成25年4月、合同会社森正洋デザイン研究所)／2017冬季アジア札幌大会公式ホームページ構築支援・運用のアドバイス(平成25年8月、第8回札幌アジア冬季競技大会組織委員会事務局)／東京大学教養学部アーカイヴ企画、アーツカウンスル東京支援事業アーカイヴ企画・構築の支援(平成25年10



月、株式会社SETENV) / 集中セミナー: 運営・記録・評価のサイクルをつくる 講師など (平成25年12月、東京都) / アール・ブリュットに関する資料、作品のデジタルアーカイブ企画 (平成26年3月、日本財団) / 障害者施設の制作活動に関するデジタルアーカイブ企画・構築支援 (平成26年3月、みずのき美術館)

長谷川 聡

<総説> 1. 有機系太陽電池の用途開発・デザインの展望—シリコン系太陽電池の用途開発・デザインからの転換 (単著、平成26年3月、月刊ディスプレイ、12巻、3号、pp.81-87)

<著書> DESIGNER'S FILE2014 (平成26年3月、ワークスコーポレーション、pp.224-225)

<解説文> 1. JIDA デザインミュージアムセレクション vol.15 (共著、平成26年3月、日本インダストリアルデザイナー協会、15巻、pp.58-59) / 2. プロダクトデザインにおける「かわいい」とはなにか (単著、日本感性工学会、12巻3号、pp.399-400)

<作品発表> 1. snail (単独、平成25年8月、5th IASDR 2013 TOKYO Consilience and Innovation in Design)

<受賞等> 1. 第1回かわいい感性デザイン賞 優秀賞 (平成25年7月、日本感性工学会) / 2. 東海キヨスク新概念店デザインコンペ 最優秀賞 (平成25年11月、東海キヨスク株式会社) / 3. かわさき産業デザインコンペ2014 入賞 (平成26年2月、川崎市)

<研究大会発表> 1. 有機系太陽電池の早期普及に向けた用途開発・デザインの展望 (平成25年7月、CREST 有機太陽電池シンポジウム)

<所属学会・研究会> 日本デザイン学会 / 芸術工学会 / 日本感性工学会 / 日本建築学会 / 土木学会 / 日本インダストリアルデザイナー協会 / 有機太陽電池コンソーシアム・京都大学エネルギー理工学研究所 / 産業用LED応用研究会

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動> JIDAデザインミュージアム選定委員 (平成25年～、日本インダストリアルデザイナー協会) / JIDA職能委員会委員 (平成25年～、日本インダストリアルデザイナー協会)



看護学部

中村 恵子

<学術論文>1.多用な支援活動に取り組んでいる看護職の力を社会へ発信(単著、平成25年12月、日本災害看護学会誌)

<著書>1.ファーストエイド(分担執筆、平成25年6月、へるす出版、補訂版) / 2.老年看護学(分担執筆、平成25年12月、ヌーベルヒロカワ、第5版)

<調査研究報告書>1.厚生労働科研分担研究;看護師の高度な臨床実践能力の評価及び向上に関する研究(平成26年3月)

<書評>1.救急レジデントマニュアル 第5班(平成25年10月)

<学会発表>1.救命救急センターで働く看護師へのせん妄の教育に関する研究(共同、平成25年10月、第15回日本救急看護学会) / 2.救急看護師が外傷看護実践において重要視している看護に関する研究(共同、平成25年10月、第15回日本救急看護学会) / 3.シミュレーション学習の効果に関する研究(共同、平成25年10月、第15回日本救急看護学会) / 4.救急初療における看護師の調整(共同、平成25年10月、第15回日本救急看護学会) / 5.看護師の高度な臨床実践能力の構成要素の明確化(共同、平成25年10月、第15回日本救急看護学会) / 6.看護学部卒業後の目標管理ツールの活用状況に関する実態調査(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 7.成人看護学演習における臨床とのコミュニケーション(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 8.実習開始前に実施した助産学客観的臨床能力試験の学修の意義(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 9.助産学客観的臨床能力試験(OSCE)後に感じた助産学生の学びと改善点(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 10.穿刺シミュレータを用いた注射の技術の実施状況と課題(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会)

<学会招聘講演>1.教育講演Ⅱ チーム医療の将来像(平成25年6月、日本看護診断学会)

<論文査読・学会抄録査読>1.日本看護管理学会 第17回学術集会(4件、日本看護管理学会) / 2.日本クリティカルケア看護学会 学術集会(5件、日本クリティカルケア看護学会) / 3.日本臨床救急医学会雑誌(1件、日本臨床救急医学会) / 4.日本臨床救急医学会 学術集会(10件、日本臨床救急医学会総会) / 5.日本災害看護学会誌(3件、日本災害看護学会)

<学会役員就任状況>一般社団法人日本救急看護学会(代表理事、理事、社員(評議員)) / 一般社団法人日本看護研究学会(副理事長、理事、評議員) / 日本看護学教育学会(理事、評議員) / 日本災害看護学会(理事、評議員) / 一般社団法人日本臨床救急医学会(社員(評議員)) / 一般社団法人日本集団災害医学会(社員(評議員)) / 公益法人日本看護科学学会(評議員) / 一般社団法人日本クリティカルケア看護学会(評議員) / 日本救急医学会(第7回アジア救急医学カンファレンス)

<学術集会運営>第15回日本災害看護学会年次大会会長 / 第19回日本看護診断学会学術大会 運営委員

<所属学会・研究会>日本看護科学学会 / 日本看護研究学会 / 日本救急看護学会 / 日本看護学教育学会 / 日本クリティカルケア看護学会 / 日本看護管理学会 / 日本災害看護学会 / 日本臨床救急医学会 / 日本集団災害医学会 / 日本看護診断学会 / 日本看護技術学会 / 日本医療・病院管理学会 / 日本集中治療医学会 / 看護理工学会

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>講師:看護管理者ファーストレベル研修:看護管理概説(北海道看護協会) / 教育研修事業委員 講師トリアージ(日本救急医療財団) / 講師:救急看護師の役割(日本救急看護学会) / 専門家ヒアリング(日本看護協会)

樋之津 淳子

<学会発表>1.就業先の指導者から見たA大学卒業生の特徴-学社連携就業力育成プログラム意見交換会から-(共同、平成25年8月、日本看護学教育学会) / 2.臨床現場の教育担当者が捉える新人教育の課題-学社連携就業力育成プログラム意見交換会から-(共同、平成25年8月、日本看護学教育学会) / 3.蛍光塗料を用いた薬液吸引時の注射器への手指接触部位の特定(共同、平成25年8月、日本看護学教育学会) / 4.中堅看護師の臨床実践力と承認との関連(共同、平成25年8月、日本看護管理学会) / 5.データベースを活用した



看護実践能力の自己評価力育成への取り組み報告1(共同、平成25年8月、日本看護管理学会) / 6.データベースを活用した看護実践能力の自己評価力育成への取り組み報告2(共同、平成25年8月、日本看護管理学会) / 7.可視化機能を導入した注射シミュレーション改良モデルの使用感に関する研究(第1報)(共同、平成25年9月、日本看護技術学会) / 8.可視化機能を導入した注射シミュレーション改良モデルの使用感に関する研究(第2報)(共同、平成25年9月、日本看護技術学会) / 9.仰臥位による足浴の同一体位がもたらす身体負荷と主観評価(共同、平成25年9月、日本看護技術学会) / 10.安全で適切な注射の技術の研究～薬液を吸引した後の針の取り扱い方法の検証～(共同、平成25年9月、日本看護技術学会) / 11.日常的な看護行為における安楽な手の使い方を可視化する試み(共同、平成25年9月、看護理工学会)

<論文査読・学会抄録査読>1.日本看護科学学会誌(3件、日本看護科学学会) / 2.看護理工学会誌(1件、看護理工学会) / 3.日本看護研究学会雑誌(1件、日本看護研究学会) / 4.看護人間工学研究誌(1件、日本人間工学会) / 5.第33回日本看護科学学会学術集会講演集(6件、日本看護科学学会)

<学会役員就任状況>看護理工学会(看護理工学会評議員)

<学術集会運営>平成25年度北海道看護研究学会「教育・質評価」座長

<所属学会・研究会>日本看護研究学会 / 日本保健医療行動科学学会 / 日本人間工学会 / 日本老年泌尿器科学学会 / 日本泌尿器科学学会 / 日本がん看護学会 / 日本看護学教育学会 / 日本看護科学学会 / 日本看護技術学会 / 日本看護管理学会 / 日本コンチネンス協会

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>看護教員現任教育研修の講師(金沢医科大学) / 平成25年度専任教員養成講習会(北海道保健福祉部) / 「日本型地域ケア実践開発研究事業」に係る意見交換(自治医科大学) / 大学院博士課程設置に係る指導助言(京都府立医科大学)

スーディ神崎 和代

<学術論文>1.異分野連携・産学連携で研究アウトカムを地域に還元(単著、平成25年5月、コンサルタンツ北海道、130号、pp.3-7) / 2.広域寒冷積雪地における地域完結型遠隔看護システムの構築(共著、平成25年10月、日本遠隔医療学会、9巻、2号、pp.159-162)

<調査研究報告書>1.市民・看取りを経験した家族・専門職の連携で在宅での看取りを叶えるために(共著、平成25年12月、札幌市立大学、1号、pp.1-18) / 2.E-KANGO Project2012(共著、平成26年3月、札幌市立大学、4号、pp.1-54) / 3.E-KURASHI Project 2013(共著、平成26年3月、札幌市立大学、1号、pp.1-61)

<学会発表>1.製品利用目的の理解度差抽出を目的としたオンラインアンケートの評価(共同、平成25年6月、日本デザイン学会) / 2.在宅看護学OSCEの取り組みにおける受験学生の到達度(共同、平成25年8月、日本看護学教育学会) / 3.Primary Study on the relationship between Grip Strength and Fall among the Older Adults in Rural Japan(単独、平成25年10月、日本ルーラルナーシング学会) / 4.死産児安置の為の「わが子のひつぎ」プロトタイプデザイン:病院での試用を通じた製品評価(共同、平成26年2月、日本感性工学会北海道支部) / 5.死産児安置の為の「わが子のひつぎ」プロトタイプデザイン:悲しみを癒す要素の評価(共同、平成26年2月、日本感性工学北海道支部) / 6.E-KANGOシステム4年目の検証:保健師の視点から(共同、平成26年3月、日本在宅ケア学会) / 7.訪問看護職の研修ニーズに対する看護大学の教育的支援と評価(共同、平成26年3月、日本在宅ケア学会)

<研究大会発表>1.在宅での看取りを可能にするために(平成25年11月、北海道ホームヘルスケア研究会)

<学会役員就任状況>北海道公衆衛生学会(北海道公衆衛生学会評議員)

<所属学会・研究会>日本在宅ケア学会 / 日本ルーラルナーシング学会 / 日本看護科学学会 / 日本看護教育学会 / 日本遠隔医療学会 / 北海道ホームヘルスケア研究会 / National Association of Healthcare Quality / Association for Professionals in Infection Control and Epidemiology

<講演会・講習会活動>認知症進行の遅延と自然環境(平成25年10月5日、札幌市立大学・芸術の森財団) / 2013年度時点での認知症情報と効果的なコミュニケーション(平成25年10月19日、北海道看護協会北空知支部) / 認知症と社会活動の関係(平成25年10月22日、札幌市中央区) / 住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みづくり(平成25年10月22日、札幌市北区市民部新琴似まちづくりセンター) / 在宅での看取りを可能にするために(平成25年11月2日、札幌市立大学) / 自分が望む在宅で療養を受け、終焉の時まで地域でくらす(平成25年11月15日、札幌市立大学・北海道立総合研究機構) / 認知症とアクティビティ療法(平成25年



11月16日、札幌市立大学)／認知症とQOL(平成25年11月20日、札幌大通ライオンズクラブ)／ひとを理解する基本:異文化アセスメント(平成26年2月9日、札幌国際プラザ)／認知症看護～在宅へつなぐ認知症看護～(平成26年2月22日、北海道看護協会札幌第一支部)／今、認知症研究が教えてくれること(平成26年3月6日、日本認知症グループホーム協会北海道支部)

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理委員会委員 平成28年3月末まで審査員委嘱・定例審査会に出席(定例、札幌医科大学)／委員として定例会議出席・活動(中小企業家同友会)／運営委員 平成27年3月末まで委嘱運営委員(定例、北のケア環境研究会)／訪問看護師養成講習会講師(北海道看護協会)／世話役 1回:2か月定例会議および世話役としての活動(定例、北海道医療福祉産業研究会)／プロジェクトマネジャー育成講座の講師 イノベーション創出に向けた産学官連携概論(平成25年1月15日～3月19日、北海道大学産学連携本部)

宮崎 みち子

<学会発表>1.助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた助産技術教育の効果-学生へのインタビュー調査結果から-(共同、平成25年5月、第27回日本助産学会)／2.助産師教育におけるOSCE:新生児の観察(共同、平成25年10月、第3回世界看護科学学会)／3.助産師教育におけるOSCE:分娩準備(共同、平成25年10月、第3回世界看護科学学会)／4.助産学OSCEに参加した模擬患者の「感想」票が持つ意味の検討(共同、平成25年10月、第54回日本母性衛生学会)／5.助産学客観的臨床能力試験(OSCE)における教員評価と学生自己評価の相違(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会)／6.客観的臨床能力試験(OSCE)後に感じた助産学生の学びと改善点-自作質問紙調査から-(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会)／7.実習開始直前に実施した助産学客観的臨床能力試験の学修上の効果(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会)／8.助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの開発(1)取組みの実際(共同、平成26年3月、第28回日本助産学会)／9.助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの開発(2)OSCEに関する第三者評価(共同、平成26年3月、第28回日本助産学会)／10.助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの開発(3)プログラム運営のためのシステム活用(共同、平成26年3月、第28回日本助産学会)／11.教育課程修了直前に実施した客観的臨床能力試験の学修上の意義(共同、平成26年3月、第28回日本助産学会)

<論文査読・学会抄録査読>1.日本母性衛生学会誌(1件、日本母性衛生学会)／2.日本助産学会誌(2件、日本助産学会)

<学会役員就任状況>日本母性衛生学会(代議員)／日本看護倫理学会(評議員)／北海道公衆衛生学会(評議員)

<学術集会運営>第44回北海道母性衛生学会／第43回北海道母性衛生学会

<所属学会・研究会>日本助産学会／日本生命倫理学会／日本医事法学会／日本看護科学学会／日本母性衛生学会／日本看護管理学会／日本看護学教育学会／日本看護研究学会／国際看護研究会／北海道母性衛生学会／北海道公衆衛生学会

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>社会貢献委員会委員長として、災害支援・健やか親子21支援・助産師希望学生支援・地域貢献などの委員会活動支援(平成25年度、全国助産師教育協議会)／札幌におけるワークショップの開催協力 看護倫理カンファレンスの運営、うまくいっていますか?(平成25年11月2日、日本看護倫理学会)

猪股 千代子

<実践報告書>1.寄り添い・絆を深め・しなやかな心を取り戻す生を支える統合医療ケアの実践と普及活動(単著、平成25年12月、IMJ北海道支部事務局、7号、pp.1)

<学会発表>1.統合医療ヘルスケアシステム開発機構HOKT123研究会 アロマセラピーケア5年間の活動報告(共同、平成25年10月、IMJ北海道支部大会)／2.神経難病患者に対し4年間のアロマケア前後のストレス度と感情プロフィール評価結果(共同、平成25年12月、日本統合医療学会東京大会)

<論文査読・学会抄録査読>1.札幌市立大学紀要(1件、札幌市立大学紀要)／2.日本医療マネジメント学会(3件、日本医療マネジメント学会)



<学会役員就任状況>日本統合医療学会(理事)／日本医療マネジメント学会(評議員)／北日本看護学会(研究奨励)／日本看護研究学会北海道支部会(地方会役員)／IMJ看護部会北海道地区研究会(会長)／IMJ北海道支部会(評議員)

<学術集会運営>第17回日本統合医療学会学術集会 研究発表座長

<所属学会・研究会>日本看護管理学会／日本統合医療学会／日本医療マネジメント学会／日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本看護教育学会／日本音楽療法学会／北日本看護学会

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>医療看護経営のスーパーバイズ 第4回認定看護管理者制度サードレベル教育課程修了者合同研修会(平成25年11月9日、北海道認定看護管理者の会)／ヒーリングタッチ講習会企画 安心・安全・効果的な癒しの療法:ヒーリングタッチ(平成25年7月20日・21日、IMJ看護部会北海道地区研究会 会長 猪股千代子)／看護研究の指導・論文査読・講評 平成25年度看護職員研修「看護研究発表会」(平成26年2月13日、市立札幌病院 荒木美弥子)／IMJ看護部会北海道地区研究会公開セミナー 人々に寄り添い・絆を深め・しなやかな心を取り戻す生活を支える統合医療(平成26年3月2日、IMJ看護部会北海道地区研究会 会長 猪股千代子)／看護部研修講師／院内研修会講師、済生会東北・北海道ブロック看護研修会講師

河原田 まり子

<学術論文>1.Effect of Interaction Between Employment Level and Psychosocial Work Environment on Insomnia in Male Japanese Public Service Workers(共著、平成25年4月、20巻、3号、pp.355-364)／2.保健師がとらえる子ども虐待事例における父親の対人関係と行動の特性(共著、平成26年3月、日本公衆衛生看護学会誌、2巻、1号、pp.2-11)／3.健康寿命の延伸と地域保健活動との関連—北海道市町村を対象とした生態学的研究—(共著、平成26年3月、日本公衆衛生看護学会誌、2巻、1号、pp.20-28)

<学会発表>1.看護師の主観的健康感と職場のソーシャル・キャピタルの関連(単独、平成25年10月、第72回日本公衆衛生学会総会)／2.健康寿命の延伸と地域保健活動との関連—北海道市町村を対象にした生態学研究(共同、平成25年11月、第65回北海道公衆衛生学会)／3.看護学部卒業後の目標管理ツールの活用状況に関する実態調査(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会)／4.大学看護学部のポートフォリオプロジェクト改善点 学生へのグループインタビューから(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会)／5.保健師がとらえる子供虐待事例における父親の対人関係の特性(共同、平成26年1月、第2回日本公衆衛生看護学会)／6.看護学教員の地域看護学の必要性に関する認識(共同、平成26年1月、第2回日本公衆衛生看護学会)

<論文査読・学会抄録査読>1.日本産業看護学会(2件、日本産業看護学会第2回学術集会)／2.日本看護科学学会(4件、第33回日本看護科学学会学術集会)／3.日本地域看護学会誌(2件、日本地域看護学会)／4.日本産業看護学会誌(1件、日本産業看護学会)／5.北海道公衆衛生学会誌(2件、北海道公衆衛生学会)／6.札幌市立大学研究論文集(1件、札幌市立大学)

<学会役員就任状況>日本産業看護学会(日本産業看護学会理事)／看護総合科学研究会(看護総合科学研究会理事)／日本産業衛生学会地方会(日本産業衛生学会地方会理事)／日本産業衛生学会(日本産業衛生学会代議員)／北海道公衆衛生学会(北海道公衆衛生学会評議員)

<講演会・講習会活動>北海道開発局新任管理職メンタルヘルス研修

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>平成25年度千歳地域保健室管内保健師現任研修会(北海道千歳保健所)／看護師への研究指導(札幌市立大学と病院の連携協力)(市立札幌病院)／産業保健相談員(北海道産業保健推進センター)

川村 三希子

<学術論文>1.早期食道がん患者が食道全摘出術・胸壁後再健術後に受ける生活への影響と対処(共著、日本がん看護学会誌、27巻、2号、pp.65-73)

<著書>1.3ステップ実践緩和ケア(共著、平成25年6月、青海社、ISBN 978-4-902249-69-9、pp.56-81)／2.緩和医療薬学(共著、平成25年10月、南江堂、ISBN 978-4-524-26685-0、pp.172-174)

<学会発表>1.Some Aspects On The Palliative Care Unit For Cancer Patients With Dementia In



Japan（共同、平成25年10月、10th Asia Pacific Hospice Conference 2013）／2.認知症とがんを併せもつ高齢者への看護に関する調査（第1報）—緩和ケア病棟、一般病棟管理者が感じていること（共同、平成25年11月、日本死の臨床研究会）／3.緩和ケア認定看護師の捉えるスピリチュアリティ（共同、平成25年11月、日本死の臨床研究会）

<論文査読・学会抄録査読>1.日本緩和医療学会（20件、日本緩和医療学会）／2.日本緩和医療学会誌（1件、日本緩和医療学会）

<学会役員就任状況>日本緩和医療学会（NPO法人日本緩和医療学会 代議員 教育研修委員会 ELNEC-J WPG）／日本ホスピス緩和ケア協会（NPO法人日本ホスピス緩和ケア協会 理事）／日本ホスピス緩和ケア協会（NPO法人日本ホスピス緩和ケア協会北海道支部 役員、教育委員）／日本がん看護学会（NPO法人日本がん看護学会 表彰委員）

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>専門的ホスピス緩和ケアを担う看護師のELNEC-J研修会（日本ホスピス緩和ケア協会北海道支部）／ELNEC-J指導者研修会（日本緩和医療学会）／ELNEC-J看護師研修会（北海道大学病院）

坂倉 恵美子

<学術論文>1.北海道老人福祉センター利用者における主観的幸福感と関連要因の検討（共著、平成26年2月、北海道公衆衛生雑誌）／2.北海道の介護保険施設における口腔ケアに関する看護管理的取り組みの実態調査（共著、平成26年2月、北海道公衆衛生雑誌）

<実践報告書>1.産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成（平成25年4月、札幌市立大学）

<実務関係報告書>1.看護学校における教育倫理指針（平成25年5月、北海道看護教育施設協議会）

<学会発表>1.看護学生が持つ高齢者観の形成要因（共同、平成25年6月、日本老年看護学会第18回）／2.健康高齢者を対象とした老年看護学実習の学生の学び（共同、平成25年6月、日本看護学教育学会）／3.S大学老年看護学臨地実習を履修した学生による実習評価（共同、平成25年6月、日本看護学教育学会）／4.後期高齢者の閉じこもり防止に向けた個人回想法の試み（共同、平成25年12月、日本看護科学学会）／5.積雪寒冷地で生活する地域高齢者の主観的幸福感を規定する要因の検討（共同、平成25年9月、日本ルーラルナーシング学会）／6.積雪寒冷地高齢者の暴風雪災害における生活と支援に関する学修（共同、平成25年5月、日本災害看護学会）／7.看護学部卒業後の目標管理ツールの活用状況に関する実態調査（共同、平成25年12月、日本看護科学学会）／8.A大学看護学部ポートフォリオプロジェクト改善点（共同、平成25年12月、日本看護科学学会）

<論文査読・学会抄録査読>1.日本ルーラルナーシング学会（1件、日本ルーラルナーシング学会）／2.札幌市立大学研究論文集（1件、SCU）／3.名寄市立大学（1件、名寄市立大学紀要）

<学術集会運営>日本災害看護学会

定廣 和香子

<学術論文>1.看護職者の過失が認定された医療過誤判例における結果回避義務の分析 看護基礎教育カリキュラムにおける教育内容の検討（共著、平成25年6月、医療の質・安全学会誌、8巻、2号、pp.105-113）

<受賞等>1.座長推薦演題 4位（平成25年12月、日本看護技術学会）

<学会発表>1.Counternesure and Practice for Medical Accident Prevention While Ensuring Patient Safety During Crinical Nursing Practicum with the Japanese Nursing Teachers（共同、平成25年7月、Sigma Theta Tau International 24th International Nursing Research Congress）／2.看護学実習中の医療事故防止に向けた教員の対策と実践（共同、平成25年8月、第23回日本看護教育学会学術集会）／3.北海道地方の看護専門学校に所属する教員の教育ニード一部下、後輩のいる教員に焦点を当てて（共同、平成25年8月、第23回日本看護学教育学会学術集会）／4.高度実践看護師の養成教育に関する研究—米国NPの教育プログラムの現状に焦点をあてて（共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会）／5.高度実践看護師の役割に関する研究—米国NP教育課程の役割と機能に焦点をあてて（共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会）／6.北海道地方の看護専門学校教員の学習ニードの現状と教員特性との関係（共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会）／7.性暴力被害者に対する看護の現状



と課題一北海道内の産婦人科病院外来に勤務する看護職者に焦点を当てて(共同、平成25年9月、日本看護技術学会第12回学術集会)

<論文査読・学会抄録査読>1.看護教育学研究(1件、日本看護教育学学会)／2.看護技術学会(1件、日本看護技術学会)／3.千葉看護学会会誌(1件、千葉看護学会)／4.日本看護学教育学会講演集(4件、日本看護学教育学会)／5.日本看護技術学会講演集(5件、日本看護技術学会)／6.日本看護学教育学会(1件、日本看護学教育学会)

<学会役員就任状況>日本看護学教育学会(評議員・査読委員・教育評価委員)／日本看護教育学学会(評議員)／日本看護技術学会(評議員・査読委員)

<学術集会運営>日本看護教育学学会第23回学術集会／日本看護教育学学会第24回学術集会

<所属学会・研究会>Sigma Theta Tau International／日本看護教育学学会／日本看護学教育学会／日本看護技術学会／日本看護科学学会／医療の質・安全学会／日本看護学会

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>秋田県実習指導者講習会 9時間 看護教育論(平成25年7月11日・12日、秋田県)／専任教員養成講習会 看護論(平成25年7月5日・19日、北海道)

松浦 和代

<入門書>1.病気の子どもの教育入門(共著、平成25年8月、ISBN 978486342、クリエイツかもがわ、pp.131-158)

<実務関係書>1.Child Life Council 遊び活動レシピブック 日本語版(共著、平成25年5月、Child Life Council、pp.59-86)

<その他の論文>1.大学主催による新人看護職員の「社会化」支援①札幌市立大学看護学部「往還型研修」とは(共著、平成26年1月、看護管理、24巻、1号、pp.61-69)／2.大学主催による新人看護職員の「社会化」支援②卒後2年目までのシャトル研修(共著、平成26年2月、看護管理、24巻、2号、pp.159-165)／3.大学主催による新人看護職員の「社会化」支援③札幌市立大学看護学部による卒業前スキルアップトレーニングについて(共著、平成26年3月、看護管理、24巻、3号、pp.260-269)

<調査研究報告書>1.多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集 第1集:子どもと家族の心理社会的問題の理解と支援(共著、平成26年3月、西南女学院大学、pp.16-22)／2.北海道保健授業に関する調査-小学校6年生・中学校3年生-実施報告書(共著、平成26年3月、札幌市立大学)／3.DVD がん教育シリーズ「煙よさらばツルカメ食堂」(17分30秒)(平成26年3月、公益法人札幌がんセミナー、UHB企画)

<実務関係報告書>1.多職種合同ワークショップ実施ガイドライン2.0(共著、平成26年3月、西南女学院大学、pp.8-24)／2.看護教育におけるFDマザーマップ活用ガイドVer.2(共著、平成26年3月、千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター)／3.JICA草の根技術協力事業(モンゴル国)先天性股関節脱臼ハイリスク児の育児指導2013年度報告書(日本語版・モンゴル語版)(共著、平成26年3月、札幌市立大学)

<学会発表>1.系統的で持続可能な研修システム構築の試み-多職種合同ワークショップの実施経験の分析-(共同、平成25年6月、日本医療保育学学会第17回学術集会)／2.小児看護OSCE課題における看護実践能力達成率の検討(共同、平成25年7月、日本小児看護学学会第23回学術集会)／3.特別支援学校における児童生徒の医療的ケアに関する保護者のニーズ(共同、平成25年7月、日本小児看護学学会第23回学術集会)／4.卒業大学主催による往還型研修の評価-入職後4ヶ月時研修を2年間開催して-(共同、平成25年8月、日本看護学教育学会第23回学術集会)／5.卒業大学主催の往還型研修-卒後1・2年目合同研修の評価と傾向(共同、平成25年8月、日本看護学教育学会第23回学術集会)／6.卒業大学主催の往還型研修の取り組みと評価-卒後3年目研修-(共同、平成25年8月、日本看護学教育学会第23回学術集会)／7.看護師と医療保育士の連携による模擬事例分析1-身体的苦痛と激しい感情表出をする学童前期の子どもへの対応-(共同、平成25年8月、日本育療学会第17回学術集会)／8.看護師と医療保育士の連携による模擬事例分析2-グループ内でコミュニケーショントラブルを起こす小学生への対応-(共同、平成25年8月、日本育療学会第17回学術集会)／9.看護師と医療保育士の連携による模擬事例分析3-ストレス表出、中・長期的自立目標の不明確な思春期女子への対応-(共同、平成25年8月、日本育療学会第17回学術集会)／10.低学年児童における転倒予防マットレスを用いた運動プログラム導入後の基礎活動力(共同、平成25年11月、第60



回日本学校保健学会学術大会) / 11. 授業時間外の活動における小学校低学年児童の怪我の実態調査 (共同、平成25年11月、第60回日本学校保健学会学術大会) / 12. 卒業生インストラクターを活用した卒業前スキルアップトレーニングの参加状況と評価 (共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 13. 卒業前スキルアップトレーニングに参加した卒業生インストラクターの実態と評価 (共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 14. 看護系大学における卒業前スキルアップトレーニングの実践-過去4年間の評価- (共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会)

<学会シンポジウム> 1. 「現代社会に生きる若者に対する看護学教育の挑戦」大学主催によるシームレスな新人看護師の「社会化」支援-往還型研修の取組とSCUモデルの提案- (単独、平成25年8月、日本看護学教育学会第23回学術集会)

<論文査読・学会抄録査読> 1. 日本小児看護学会誌 (1件、日本小児看護学会) / 2. 日本小児看護学会第23回学術集会講演集 (4件、日本小児看護学会) / 3. 日本看護学教育学会第23回学術集会講演集 (4件、日本看護学教育学会) / 4. 札幌市立大学研究論文集第7巻第1号 (1件、札幌市立大学)

<学会役員就任状況> 北海道小児保健研究会 (幹事、委員) / 北海道学校保健学会 (評議員) / 「看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進」事業 (看護学教育FDマザーマップ開発専門家委員) / 全国病弱教育研究会 (東日本ブロック北海道 地域担当世話人、委員) / 北海道成育看護研究会 (理事、第9回北海道成育看護研究会会長)

<学術集会運営> 北海道成育看護研究会第9回研究会

<講演会・講習会活動> 思春期健康教育講演 (帯広大谷高校) / 健康講話 (札幌平岸高校)

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動> 臨床指導者研修会 (平成25年5月17日、市立札幌病院) / 看護研究研修会 (平成25年6月6日、KKR札幌医療センター) / 「新人看護職員研修制度における実地指導者」研修会 (平成25年6月12日・26日、札幌医科大学付属病院) / 「新人看護職員の社会化支援」研修会 全国看護セミナー「基礎教育で学んだ力を臨床で発揮させよう-新人看護職員の社会化」 (平成25年8月31日、日本看護協会出版会) / ユーモアコミュニケーション研修(基礎講義・ワークショップ) 子どものトータルケアセミナー in Sapporo (平成26年2月2日、子どものトータルケアセミナー) / メカトロ積み木に関する講演 / 「操作により反応が変わるメカトロ積み木の開発」(株式会社オムロン) / メカトロ積み木に関するポスター講演 / 「遊び手の操作に反応するメカトロ積み木のデモ実験実施とその考察」(北海道総合研究機構)

山本 勝則

<学術論文> 1. 患者を理解することと看護師から理解されることとのギャップ-患者の期待と看護師の考え- (単著、平成25年7月、応用心理学研究、39巻、1号、pp.46-52)

<学会発表> 1. WS「精神障害者の社会参加を支援するための民生委員児童委員を対象としたセミナーの可能性」(共同、平成25年6月、日本精神保健看護学会第23回学術集会) / 2. 看護師による患者の気持ちの理解-患者の期待/体験と看護師の考え/体験 (単独、平成25年6月、第14回日本赤十字看護学会学術集会) / 3. 患者を理解することと看護師から理解されること (単独、平成25年8月、日本看護研究学会第39回学術集会) / 4. 精神看護学における段階的シミュレーション教育-イメージへの影響- (共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 5. 精神看護学における段階的シミュレーション教育-態度への影響- (共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 6. 看護師にとっての患者理解の内容一般科看護師と精神科看護師との比較- (共同、平成25年9月、日本応用心理学会第80回大会) / 7. WS「可視化する精神看護技術~スキルの質の向上への試み」(共同、平成25年10月、日本病院・地域精神医学会総会) / 8. 精神障がい者の社会参加を支援する準備セミナーの実施報告 (共同、平成25年9月、日本応用心理学会第80回大会)

<論文査読・学会抄録査読> 1. SCU JOURNAL (1件)

<講演会・講習会活動> メンタルケア協会 第150回メンタルケア・スペシャリスト養成講座 メンタルケアの手法論I

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動> 精神障がいを持つ人への訪問看護のツボ (本学公開講座) / 「気持ち良い体験」をしよう (共同企画・講義担当) (本学公開講座) / 認知症者とのコミュニケーションを考える (株えがお)



大野 夏代

<著書>1.国際看護学—グローバル・ナーシングに向けての展開 (編集・分担執筆、平成25年12月、中山書店、ISBN 978-4-521-73912-0、pp.13-18、30-32、43-45、108、128-133、142-155、170-171、176-180)

<その他の論文>1.安楽を提供するマッサージー看護師による実践の報告 (共著、平成25年4月、日本看護研究学会雑誌、36巻、1号、CD) / 2.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援①札幌市立大学看護学部「往還型研修」とは (共著、平成26年1月、医学書院、24巻、1号、pp.61-69) / 3.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援②卒業2年目までのシャトル研修 (共著、平成26年1月、医学書院、24巻、2号、pp.159-165) / 4.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援③札幌市立大学看護学部による卒業前スキルアップトレーニング (共著、平成26年1月、医学書院、24巻、3号、pp.260-269)

<学会発表>1.交流セッション4 技に思想あり (共同、平成25年9月、日本看護技術学会第12回学術集会) / 2.仰臥位による足浴の同一体位がもたらす身体負荷と主観評価 (共同、平成25年9月、日本看護技術学会第12回学術集会) / 3.卒業大学主催の往還型研修の取組みと評価-卒業3年目研修- (共同、平成25年8月、日本看護学教育学会第23回学術集会) / 4.卒業大学主催の往還型研修-卒業1・2年目合同研修の評価と傾向 (共同、平成25年8月、日本看護学教育学会第23回学術集会) / 5.卒業大学主催の往還型研修の評価-入職後4ヶ月時研修を2年間開催して (共同、平成25年8月、日本看護学教育学会第23回学術集会) / 6.看護系大学における卒業前スキルアップトレーニングの実践-過去4年間の参加状況と影響要因 (共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 7.卒業生インストラクターを活用した卒業前スキルアップトレーニングの参加状況と評価 (共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 8.卒業前スキルアップトレーニングに参加した卒業生インストラクターの実態と評価 (共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会)

<論文査読・学会抄録査読>1.国際看護研究会第16回学術集会抄録集 (1件、国際看護研究会第16回学術集会) / 2.日本災害看護学会第15回年次大会講演集 (20件、日本災害看護学会第15回年次大会)

<学会役員就任状況>国際看護研究会 (副代表、副会長) / 日本災害看護学会第15回年次大会 (日本災害看護学会第15回年次大会編集委員)

<学術集会運営>日本災害看護学会第15回年次大会 / 第2回 病院ボランティア国際フォーラム

<所属学会・研究会>日本看護科学学会 / 日本看護研究学会 / 国際看護研究会 / 日本看護学教育学会 / 国際看護交流協会 / 日本国際保健医療学会 / 日本渡航医学会 / 日本人間工学会 / 日本人間工学会看護人間工学部会 / 看護における指圧マッサージ研究会

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>新入職看護職員の面談 ほっとライン (平成25年6月17日・7月1日・11月19日・27日、IMSグループ) / 勤医協病院研究指導 札幌市立大学研究支援 (平成25年5月15日・平成26年1月28日、勤医協病院) / 「気持ち良い体験をしよう (平成25年8月26日、本学公開講座)

<上記以外の業績>選挙管理委員会 / 「災害看護学」ゲストスピーカー「SCU いわきミッション」について / 海外提携大学との交流事業 中国承德医学院の研修への学生の引率 (平成25年9月8日～9月13日)

貝谷 敏子

<学術論文>1. Cost-effectiveness of conservative sharp wound debridement for pressure ulcers offered by wound, ostomy and continence nurses: A propensity score matching analysis. (筆頭共著者、平成25年9月、J Wound Technol、21巻、pp.6-10) / 2. Undermining incision and healing of deep pressure ulcers: a prospective cohort study of pressure ulcers by the Japanese National Hospital Organization. (共著、平成25年7月、Wound Repair Regen、21巻、4号、pp.512-519) / 3. Reliability and validity of the Chinese version of DESIGN-R, an assessment instrument for pressure ulcers. (共著、平成25年6月、Ostomy Wound Manage、59巻、2号、pp.36-43) / 4. JSPU Guideline for the Prevention and Management of Pressure ulcers(3rd Ed.) (共著、平成26年1月、日本褥瘡学会誌、13巻、1号、pp.12-90)

<その他の論文>1. 創傷被覆材の変遷と将来 (単著、平成25年8月、医学出版、1巻、1号、pp.69-76)

<論文査読・学会抄録査読>1. 日本創傷オストミー失禁管理学会 (6件、第23回日本創傷オストミー失禁管理学会学術集会) / 2. 日本災害看護 (8件、日本災害看護学会第15回年次大会)

<学会役員就任状況> 日本創傷オストミー失禁管理学会 (理事 (広報委員長・倫理メンバーシップ副委員



長) / 日本褥瘡学会 (委員、評議員)

<学術集会運営> 日本災害看護学会第15回年次大会

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動> 第1回看護理工学入門セミナー講師 高度褥瘡管理技術の効率性評価 マルコフモデルを用いた分析 (平成25年7月14日、東京大学) / 平成25年度 第3回看護現任教員研修の講師 看護学生における卒業時看護実践能力の修得方法OSCEを巡る (平成25年11月9日、金沢医科大学) / 平成25年度看護職員研修 看護研究指導講師 (平成25年11月27日、市立札幌病院) / 平成25年度 看護職員研修「看護研究発表会」の講師 看護研究論文査読・研究発表の講評 (平成26年2月13日、市立札幌病院)

菊地 ひろみ

<学術論文> 1. 広域寒冷積雪地における地域完結型遠隔看護システムの構築 在宅療養者に対する効果 (筆頭共著者、平成25年8月、日本遠隔医療学会誌、9巻、2号、pp.159-162)

<調査研究報告書> 1. E-KANGOプロジェクト2013 (共著、平成26年3月) / 2. 看護系大学の在宅看護分野における看護技術教育の到達度と方法の明確化 (共著、平成26年3月)

<学会発表> 1. 広域寒冷積雪地における地域完結型遠隔看護システムの構築在宅療養者に対する効果 (共同、平成25年10月、第17回日本遠隔医療学会学術集会) / 2. 在宅看護学OSCE (客観的臨床技能試験) の取り組みにおける受験学生の到達度 (共同、平成25年8月、第23回日本看護学教育学会学術集会) / 3. 訪問看護職の研修ニーズに対する看護大学の教育的支援と評価 (共同、平成26年3月、第18回日本在宅ケア学会学術集会) / 4. e-kangoシステム4年目の検証 (共同、平成26年3月、第18回日本在宅ケア学会学術集会)

<論文査読・学会抄録査読> 1. 日本災害看護学会 (1件、日本災害看護学会学術集会)

<学術集会運営> 日本災害看護学会第15回年次大会 (編集委員会)

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動> 訪問看護スキルアップ講座の講師 (札幌市立大学公開講座) / 留萌地域在宅医療推進講座 (留萌保健所) / 訪問看護実践発表会 (訪問看護実践発表会) / 訪問看護師養成講習 (北海道看護協会) / 「看護学生における卒業時看護実践能力の修得方法 (OSCE) を巡る」講師 (金沢医科大学)

清水 光子

<論文> 1. 継続的に養育支援が必要な家族への保健師の援助の実態 (共著、平成25年11月、日本地域看護学会誌、16巻、2号、pp.55-62)

<研究大会発表> 1. 官学民の連携による地域に根ざした健康教育演習の実態と学習効果—行政職員のインタビュー分析から— (共同、平成25年10月、第17回看護総合科学学会学術集会)

<論文査読・学会抄録査読> 1. 日本災害看護学会 (6件、日本災害看護学会)

<学会役員就任状況> 北海道公衆衛生学会 (北海道公衆衛生学会の評議員)

<学術集会運営> 日本災害看護学会

<所属学会・研究会> 日本公衆衛生学会 / 北海道公衆衛生学会 / 北海道公衆衛生セミナー / 日本地域看護学会 / 日本看護科学学会 / 日本公衆衛生看護学会 / 看護総合科学学会

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動> 老人クラブリーダー研修会「健康な地域づくりに高齢者の力を！」 (平成25年11月15日、全国老人クラブ連合会)

菅原 美樹

<著書> 1. 知って安心急変対応 (共著、平成25年5月、照林社、ISBN 978-4-7965-2292-2、pp.2-29) / 2. 看護のためのクリティカルケア場面の問題解決ガイド (共著、平成25年10月、三輪書店、ISBN 978-4-89590-445-2、pp.66-81)

<その他の論文> 1. 救急領域における学生・新人の臨床実践能力を育てるための基礎教育と臨床の連携 (単著、平成26年3月、日本救急看護学会雑誌 へるす出版、16巻、1号、pp.43-45)

<学会発表> 1. 看護師の高度な臨床実践能力の構成要素の明確化 (共同、平成25年10月、日本救急看護学会) / 2. 救急看護師が外傷看護実践において重要視している看護に関する研究 (共同、平成25年10月、日本



救急看護学会) / 3. シミュレーション学習の効果に関する研究-フィジカルアセスメント能力を向上させるために- (共同、平成25年10月、日本救急看護学会) / 4. 救急初療における看護師の調整～熟練看護師の実践から専門看護師に期待される調整役割についての検討～ (共同、平成25年10月、日本救急看護学会) / 5. 救命救急センターで働く看護師へのせん妄の教育に関する研究 (共同、平成25年10月、日本救急看護学会) / 6. A大学看護学部のポートフォリオプロジェクト改善点学生へのグループインタビューから (共同、平成25年12月、日本看護科学学会) / 7. 看護学部卒業後の目標管理ツールの活用状況に関する実態調査 (共同、平成25年12月、日本看護科学学会) / 8. 成人看護学演習における臨床とのユニフィケーション 中小規模病院教育担当者・学生・教員にとっての効果 (共同、平成25年12月、日本看護科学学会)

<論文査読・学会抄録査読> 1. 札幌市立大学研究論文集 (1件) / 2. 日本救急看護学会雑誌 (1件、日本救急看護学会) / 3. 日本クリティカルケア看護学会誌 (1件、日本クリティカルケア看護学会) / 4. 日本循環器看護学会誌 (1件、日本循環器看護学会) / 5. 日本クリティカルケア看護学会誌 第10巻2号 (3件、日本クリティカルケア看護学会) / 6. 日本災害看護学会誌 第15巻1号 (5件、日本災害看護学会) / 7. 日本救急看護学会雑誌 第15巻3号 (4件、日本救急看護学会)

<学会役員就任状況> 日本救急看護学会 (日本救急看護学会理事) / 日本クリティカルケア看護学会 (日本クリティカルケア看護学会理事) / 日本臨床救急医学会 (日本臨床救急医学会JTAS検討委員会委員) / 北のケア環境研究会 (北のケア環境研究会運営委員)

<学術集会運営> 日本災害看護学会第15回年次大会

<所属学会・研究会> 日本救急看護学会 / 理事 / 日本クリティカルケア看護学会 / 理事 / 日本循環器看護学会 / 日本臨床救急医学会 / 日本集中治療医学会 / 日本看護科学学会 / 日本看護教育学学会 / 日本看護研究学会 / 日本災害看護学会 / 日本看護管理学会

<講演会・講習会活動> 北海道医療大学看護福祉学部FDセミナー 『看護OSCEの実際』 看護OSCEの実際 ～課題作成・評価・フィードバックのポイント～ (平成25年11月9日、北海道医療大学看護福祉学部)

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動> 呼吸セミナー (平成23年5月25日・26日、神戸百年記念病院尾崎塾主催) / トリアージナース育成研修会の運営支援 (平成25年6月1日・2日、日本救急看護学会) / 呼吸セミナーの運営支援 (神戸百年記念病院 尾崎塾)

村松 真澄

<学術論文> 1. 北海道の介護保険施設における口腔ケアに関する看護管理的取り組みの実態調査 (筆頭共著者、平成26年3月、北海道公衆衛生学雑誌、27巻、2号、pp.137-142) / 2. 老人福祉センター利用者における主観的幸福感と関連要因の検討 (共著、平成26年3月、北海道公衆衛生学雑誌、27巻、2号、pp.115-122) / 3. 全国の新生児集中治療室(NICU)における口腔ケアの実践状況 (共著、平成26年3月、札幌保健科学雑誌、3巻、pp.9-17)

<その他の論文> 1. ICU入室患者の口腔内乾燥状態と全身状態との関係 (共著、平成25年6月、北海道医療新聞社、ベストナース、24巻、6号、pp.68-71) / 2. 口腔ケアを意欲付けるナースの働き (単著、平成25年8月、ハートナーシング、26巻、8号、pp.108-109) / 3. まずは口腔ケア! 忙しくてもできる日常的口腔ケア (単著、平成25年9月、高齢者安心安全ケア実践と記録、11巻、1号、pp.1-34) / 4. 口腔内の状態を適切にアセスメントするためのOAGの活用: 症状別ケア実践OAGを活用し、適切なケアのつなげる口腔ケア編 (単著、平成26年1月、看護技術、メディカルフレンド社、60巻、1号、pp.9-11)

<学会発表> 1. 病態別口腔ケア基準を用いた口腔ケアシステム導入後の実態調査 (共同、平成25年6月、第10回日本口腔ケア学会) / 2. 細菌数測定装置「細菌カウンタ」のモニタリング調査 (共同、平成25年6月、第10回日本口腔ケア学会) / 3. 口腔ケアプロトコル導入後のICUの患者の口腔環境評価と口腔ケア回数の実態調査 (共同、平成25年6月、第10回日本口腔ケア学会) / 4. 全国の介護保険施設において実践されている口腔ケアに関する看護管理的取り組みの実態調査 (共同、平成25年6月、日本老年歯科医学会第24回学術集会第28回日本老年学会合同セッション発表) / 5. 看護学生が持つ高齢者観の形成要因家族生活背景との関連について (共同、平成25年6月、日本老年看護学会第18回学術集会) / 6. 健康高齢者を対象とした老年看護学実習の学生の学び-実習レポートの内容を示すキーワードの分析のまとめ- (共同、平成25年6月、日本



看護学教育学会第23回学術集会) / 7.S大学老年看護学臨地実習を履修した学生による実習評価-2期生と3期生、4期生の比較(共同、平成25年8月、日本看護学教育学会第23回学術集会) / 8.データベースを活用した看護実践能力の自己評価力育成への取り組み報告1(共同、平成25年8月、第17回日本看護管理学会) / 9.データベースを活用した看護実践能力の自己評価力育成への取り組み報告2(共同、平成25年8月、第17回日本看護管理学会) / 10.上部内視鏡検査における映像視聴による効果-2群を比較して(共同、平成25年9月、第44回日本看護学会看護総合) / 11.大学教員による看護研究支援の成果-A病院看護師への調査結果から(共同、平成25年9月、第44回日本看護学会看護管理) / 12.口腔ケアプロトコール導入後のICUの患者の口腔内水分値と口腔ケア回数の変化(共同、平成25年9月、第19回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会) / 13.古着とライフレビューを用いた「思い出ファッションショー」による世代間交流(共同、平成25年10月、日本世代間交流学会 第4回全国大会) / 14.積雪寒冷地で生活する地域高齢者の主観的幸福感を規定する要因の検討(共同、平成25年10月、第8回日本ルーラルナースング学会) / 15.A survey of oral care nursing practices at nursing homes in Japan(共同、平成25年10月、A survey of oral care nursing practices at nursing homes in Japan) / 16.日本の介護保険施設における口腔ケアに関する看護管理の実態調査-3施設間の比較(共同、平成25年10月、第72回日本公衆衛生学会総会) / 17.地域高齢者を対象とした訪問型介入による個人回想法(Life Review)の効果(共同、平成25年10月、第72回日本公衆衛生学会総会) / 18.口腔ケアに対する看護師の意識の変化の比較~エイラズ口腔ケアアセスメント導入後の意識~第2報(共同、平成25年10月、第44回日本看護学会 成人看護I) / 19.冬季の地域在住高齢者への個人回想法の精神的評価(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会) / 20.A大学看護学部卒業生における社会人基礎力、看護者の基本姿勢、職場貢献度、及び就業満足度の関係(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会) / 21.後期高齢者の閉じこもり防止に向けた個人回想法の試み(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会)

<研究大会発表>1.口腔アセスメントと口腔ケアプロトコール~介護保険施設の口腔ケアの今後の課題(平成25年8月、第5回日本口腔ケア協会学術大会) / 2.「病院における口腔ケア」ワークショップ口腔ケア難症例にどう立ち向かうかのパネリスト看護師の立場から(平成26年1月、第6回日本口腔ケア協会学術大会) / 3.“Oral Care for Cancer Patients” 「がん患者の口腔ケア~Oral Assessment Guide を活用した実践力の向上を目指して~」(平成26年3月、第3回ハワイ国際交流セミナー高知大学がんセンター主催)

<学会役員就任状況>日本口腔ケア学会(理事) / 日本摂食嚥下リハビリテーション学会(評議員)

<学術集会運営>第11回日本口腔ケア学会

<所属学会・研究会>日本看護科学学会会員 / 日本看護研究学会会員 / 日本歯科医学会会員 / 北海道歯学会会員 / 日本公衆衛生学会会員 / 日本口腔ケア学会理事 / 日本・摂食嚥下リハビリテーション学会評議員 / 日本老年看護学会会員 / 日本がん看護学会会員 / 日本口腔科学学会会員 / 北海道口腔ケア研究会会員 / 日本看護管理学会会員 / 日本医療・病院管理学会 / 日本医療マネジメント学会 / 北海道プライマリーケア研究会会員

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>北海道における口腔ケア研究会の企画運営 第12回北海道口腔ケアセミナー(平成25年5月18日、北海道口腔ケア研究会) / お笑いヨガ研修会をQOL研究会会員福岡篤彦先生を招いて企画 「お笑いヨガで健康」(平成25年7月27日、プラットフォームと共同企画) / 口腔ケア手技研修会 細菌カウンターを使った口腔ケア手技研修会(平成25年8月21日・27日、愛全病院) / 「口腔ケアマネジメント-人材育成・実務・歯科との連携-」の研修会プログラム(in札幌、旭川) 全国の介護保険施設において実践されている口腔ケアに関する 看護管理的取り組みの実態調査(平成25年8月26日、札幌市立大学看護学部村松真澄) / 口腔ケア研修会 口腔ケアの必要性(平成25年8月29日、9月17日、東苗穂病院) / 国際セミナーを企画全国5か所で開催 日本口腔看護研究会第1回国際セミナー-in札幌(平成25年9月4日、日本口腔看護研究会) / 食べる支援のネットワークつくりと研修会企画 第1回のみこみ安心ネット札幌セミナー(平成25年10月19日、のみこみ安心ネット札幌) / 医療職向けセミナー講師 口腔ケア最前線-看護師ができる簡単な口腔アセスメントとお口のお手入れ(平成25年11月2日、テルモ株式会社名古屋) / 全国の介護保険施設において実践されている口腔ケアに関する 看護管理的取り組みの実態調査(平成25年11月17日、札幌市立大学看護学部村松真澄) / 口腔ケア等に関する勉強会 急性期病院での口腔ケア(平成26年3月10日、旭川医科大学病院) / 第3回ハワイ国際交流セミナー “Oral Care for Cancer Patients”



「がん患者の口腔ケア～Oral Assessment Guide を活用した実践力の向上を目指して～」(平成26年3月15日、高知大学がんセンター主催)／重度心身障碍児の口腔ケア(平成26年3月18日、北海道済生会西小樽病院)／2014 Multidisciplinary Grand Rounds 1st International Oral Health Care Consortium “Oral Care for Cancer Patients”(平成26年3月28日、Barrow Neurological Institute)／口腔ケア活動の普及と研究会企画(1年間、上川中部地域歯科保健推進協議会・旭川口腔ケア普及会)

守 村 洋

<学会発表>1.精神看護学における段階的シミュレーション教育 -態度への影響(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会)／2.精神看護学における段階的シミュレーション教育 -イメージへの影響(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会)／3.新人看護師のストレス軽減を目的とした感情表現ツールの制作(共同、平成25年6月、日本デザイン学会第60回春季研究発表会)

<学会シンポジウム>1.PEECコースと精神科救急(平成25年7月、第16回日本臨床救急医学会総会・学術集会)／2.思春期・青年期の危機～自殺に傾く心理の理解とその支援～(平成25年9月、第56回日本病院・地域精神医学会)／3.可視化する精神看護技術(平成25年9月、第56回日本病院・地域精神医学会)

<論文査読・学会抄録査読>1.第56回日本病院・地域精神医学会総会(5件、日本病院・地域精神医学会)／2.SCU JOURNAL OF DESIGN & NURSING 2014(1件、札幌市立大学)／3.日本精神保健看護学会第24回学術集会(3件、日本精神保健看護学会)

<学会役員就任状況>日本臨床救急医学会(自殺企図者のケアに関する検討委員会、委員)

<学術集会運営>第56回日本病院・地域精神医学会／第22回日本精神科救急医学会

<講演会・講習会活動>札幌市立大学模擬患者「桑の会」定例学習会「本学部で学修する看護技術について ～精神看護学領域の概要～」(平成25年8月1日、札幌市立大学看護学部教務委員会)／第380回精神療養講座「大切な人の悩みに気づいてください ～うつを抱える人への関わり方～」(平成25年8月17日、札幌市精神障がい家族会連合会)／平成25年度自殺予防講演会「こころの健康を考える ～気づく・つながる・見守る～」(平成26年2月27日、せたな保健所)

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>平成25年度千歳地域自殺予防対策連絡会議における講演会講師 救急現場における自殺未遂者支援について(平成25年8月8日、千歳保健所)／医療情報技師検定試験(平成25年8月25日、日本医療情報学会)／平成25年度八雲保健所自殺対策連絡会議の講師及び助言者 自殺未遂者の現状と対応の実際について(平成25年9月9日、北海道渡島総合振興局)／平成25年度こころのケア講座ゲートキーパー研修会講師 相談の受け止め方(平成25年11月13日、千歳市)／平成25年度渡島保健所管内自殺予防対策地域連絡会議 自殺未遂者の正しい理解と支援のあり方(平成25年12月5日、渡島保健所)／市立千歳市民病院講演会 自殺未遂患者への救急場面での対応(平成26年1月17日、市立千歳市民病院)／平成25年度「自殺予防講演会」「自殺予防人材育成研修」メンタルヘルスのすすめ ～うつ病の理解と対応について～(平成26年2月27日、せたな保健所)／相談対応のポイント ～マイクロカウンセリングを用いて～(平成26年2月28日、せたな保健所)／講演会「可視化する精神看護」(平成26年3月10日、日本赤十字秋田看護大学)

山 田 典 子

<学術論文>1.Screening of the difficulties of physical movement in the daily lives of the elderly, who are prone to have injuries -questionnaire survey of the experiences of falling in the age group of 65 and over-(筆頭共著者、平成25年10月、Internacional de Comunidades Seguras、21巻、1号、pp.113)／2.Nurse's support to the victims from the Domestic Violence with consideration of the sense of incongruity experienced during the supporting process. (単著、平成25年10月、Journal of Japan Academy of Human Care Science(ISSN1882-6962)、6巻、2号、pp.89-102)／3.セーフコミュニティにおける市民参画型外傷予防活動 ～グループインタビューから導かれた施策化の課題～(筆頭共著者、平成25年10月、日本ヒューマンケア科学会誌、6巻、2号、pp.77-87)／4.高齢者における日常生活動作の「おっくう感」の認識に基づく外傷の高危険者の判別-地域を基盤とした外傷に関する世帯調査のデータから-(筆頭共著者、平成26年3月、日本セーフティプロモーション学会誌、6巻、1号、pp.29-37)／5.セーフティプロモーション



の担い手である市民ボランティアの変化(筆頭共著者、平成26年3月、日本セーフティプロモーション学会誌、6巻、1号、pp.21-28) / 6. フォレンジック看護教育の活用の課題(筆頭共著者、平成26年3月、日本ヒューマンケア科学学会誌、7巻、1号、pp.54-55) / 7. 学習者の感じるストレスは学習満足度を阻害するか(共著、平成26年3月、日本ヒューマンケア科学学会誌、7巻、1号、pp.32-33) / 8. 東日本大震災後の情報の入手に関する満足度とコミュニティにおける関わりの強さとの関連について(共著、平成26年3月、日本ヒューマンケア科学学会誌、7巻、1号、pp.62-63)

<実務関係書>1. SANE性暴力被害者支援看護職養成講座テキスト 第2版(共著、平成25年11月、特定非営利活動法人 女性の安全と健康のための支援教育センター、pp.271-272) / 2. グループホームという生きるかたち -ともに語り、暮らしあう試み- (共著、平成26年2月、発行NPO法人SAN-net青森、pp.59-95)

<調査研究報告書>1. 精神障害者の多様なライフスタイルを支援するピア活動・共同居住の研究報告書(共著、平成26年1月、SAN-net青森) / 2. 北海道 保健の授業に関する調査、小学校6年生・中学校3年生、実施報告書(共著、平成26年3月、公益財団法人 札幌がんセミナー)

<実践報告書>北海道・東北ブロック共通取組、産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成、平成25年度活動資料看護学部キャリアデータベース班報告書(共著、平成26年3月、pp.59-63)

<学会発表>1. データベースを活用した看護実践能力の自己評価力育成への取り組み 報告1(共同、平成25年8月、第17回日本看護管理学会学術集会) / 2. データベースを活用した看護実践能力の自己評価力育成への取り組み 報告2(共同、平成25年8月、第17回日本看護管理学会学術集会) / 3. 性暴力被害者への看護の現状と課題 ~北海道内の産婦人科外来に焦点をあてて~(共同、平成25年9月、日本看護技術学会第12回学術集会) / 4. Screening of the difficulties of physical movement in the daily lives of the elderly, who are prone to have injuries. (共同、平成25年10月、XXI Conferencia Internacional de Comunidades Seguras) / 5. 官学民の連携による地域に根ざした健康教育演習の実際と学習効果-行政事務職員のインタビュー分析から-(共同、平成25年10月、看護総合科学研究会第17回学術集会) / 6. A大学看護学部卒業生における社会人基礎力、看護者の基本姿勢、職場貢献度、及び就業満足度の関係(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 7. 学習者の感じるストレスは学習満足度を阻害するか(共同、平成25年12月、第6回日本ヒューマンケア科学学会学術集会) / 8. フォレンジック看護教育の活用の課題(共同、平成25年12月、第6回日本ヒューマンケア科学学会学術集会) / 9. 東日本大震災後の情報の入手に関する満足度とコミュニティにおける関わりの強さとの関連について(共同、平成25年12月、第6回日本ヒューマンケア科学学会学術集会) / 10. 発達支援を必要とする幼児をもつ母親支援における前向き子育てプログラムの有用性-プログラム参加者に対する質問紙調査から-(共同、平成26年1月、第2回日本公衆衛生看護学会学術集会) / 11. 看護学教員の地域看護学の必要性に関する認識(共同、平成26年1月、第2回日本公衆衛生看護学会学術集会) / 12. シミュレーション教育を用いたフォレンジック・ナース育成の課題(共同、平成26年1月、第2回日本公衆衛生看護学会学術集会)

<学会シンポジウム>1. 災害時における保健師活動(共同、平成25年8月、日本災害看護学会第15回年次大会)

<研究大会発表>1. Changes in Citizen Volunteer's Participation in Safe Community Activities as an Important Part of Social Capital(単独、平成25年5月)

<論文査読・学会抄録査読>1. 日本災害看護学会第15回年次大会抄録集(6件、日本災害看護学会第15回年次大会)

<学会役員就任状況>日本災害看護学会編集委員(日本災害看護学会) / 日本フォレンジック看護学会編集委員会委員長(日本フォレンジック看護学会) / 日本ヒューマンケア科学学会評議員(日本ヒューマンケア科学学会) / 日本市民安全学会評議員(日本市民安全学会)

<学術集会運営>日本災害看護学会第15回年次大会、実行委員長 / 日本フォレンジック看護学会設立準備事務局 / 日本ヒューマンケア科学学会第6回学術合同集会モデレーター / 日本女性会議2014札幌の分科会シンポジウムの企画調整

<所属学会・研究会>日本看護科学学会 / 日本公衆衛生看護学会 / 日本フォレンジック看護学会 / 日本公衆衛生学会 / 日本健康教育学会 / 日本母性衛生学会 / お茶の水医学会 / 日本看護技術学会 / 日本ヒューマンケア科学学会 / 日本看護管理学会 / 子ども虐待防止学会 / 嗜癮行動学会 / 日本セーフティプロモーション学会 / 日本災害看護学会



<講演会・講習会活動>セーフコミュニティとは何か?～メリットとデメリット、あなたは思う?～ 私たちのセーフコミュニティ(平成25年7月9日～11月19日 全6回開催)
<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>SANE研修講師 地域におけるSANE活動(平成25年7月15日) / SARTの取り組み例:性暴力被害に遭った中学生に対する関係機関の話し合い(平成25年7月15日)

太田 晴美

<学会発表>1.災害看護に取り組む看護師連携-アクションリサーチによる教育企画・実践を通して-(単独、平成25年6月、日本医療マネジメント学会) / 2.就業先の指導者から見たA大学卒業生の特徴 -学社連携就業力育成プログラム意見交換会から-(共同、平成25年8月、日本看護学教育学会) / 3.臨床現場の教育担当者が捉える新人教育の課題-学社連携就業力育成プログラム意見交換会から-(共同、平成25年8月、日本看護学教育学会) / 4.登別・室蘭地域暴風雪災害時に停電被害を受けなかった病院の救急外来対応(共同、平成25年8月、日本災害看護学会) / 5.特別豪雪地域に居住する看護学生の豪雪に対する意識と備え(共同、平成25年8月、日本災害看護学会) / 6.災害医療基礎教育セミナー(日本集団災害医学会セミナー)プログラム改訂(共同、平成25年8月、日本災害看護学会) / 7.病院で災害看護基礎教育を行う教育者の創意工夫とやりがい(共同、平成25年8月、日本災害看護学会) / 8.災害時における病院間相互支援協定の取り組み-道内自治体病院4病院支援看護師派遣体制の構築を目指して-(共同、平成25年8月、日本災害看護学会) / 9.北海道内4自治体病院における”相互支援看護師”派遣の現状と課題-災害時支援の体制整備を構築して-(共同、平成25年10月、全国自治体病院学会)

<論文査読・学会抄録査読>1.日本災害看護学会学会誌(3件、日本災害看護学会) / 2.日本災害看護学会抄録(10件、日本災害看護学会)

<学会役員就任状況>日本災害看護学会(編集委員会、調査調整部会ネットワーク活動委員会) / 日本臨床救急医学会(地域救急医療体制検討委員会)

<学術集会運営>第15回日本災害看護学会年次大会 / 第44回日本労務学会年次大会

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>講義・演習 災害時に看護力を発揮する～日常から備える災害看護(平成25年7月25日・26日、北海道看護協会苫小牧支部) / 講義・演習 「寒冷地の災害看護」-極寒の2月に停電!あなたならどう乗り切りますか-(平成25年7月27日、北海道看護協会札幌第一支部) / 講義・演習 災害拠点病院・自治体病院職員として、災害への「備える」ための基盤づくり(平成25年10月17日・18日、名寄市立総合病院看護部) / 講義・演習 災害看護について(平成25年10月17日・18日、北海道自治体病院協議会小規模病院等看護技術強化研修事業、北海道自治体病院協議会小規模病院等看護技術強化研修事業) / 講義・演習 平成25年度良質な医師を育てる研修(救急初療)(平成25年12月6日・7日、独立行政法人国立病院機構) / 講義・演習 課長補佐研修人財育成(平成26年1月24日、釧路市立病院看護部) / 講義 多職種のトップマネージャー研修「医療の質をあげるためのマネジメント」(平成26年1月24日、釧路市立病院) / 基礎教育終了時の学生の現状と教育方法(平成26年3月11日、札幌厚生病院看護部) / グループワーク開催 道内自治体病院4病院支援看護師派遣体制の構築にむけて(平成26年5月10日、自治体4病院看護部) / 講演 看護管理者の災害対策(平成26年6月29日、認定看護管理者会東北・北海道ブロック) / 研究指導 認定看護師研究指導(1年間、砂川市立病院看護部) / 研究指導 透析室看護研究指導(1年間、札幌徳洲会病院看護部) / 外部委員 防災対策委員(1年間、勤医協中央病院)

<顕著な成果>Emergo train systemのEducatorとして認定

神島 滋子

<著書>1.ナーシング・プロフェッション・シリーズ高次脳機能障害を持つ人へのナーシングアプローチ(筆頭共著者、平成25年6月、医歯薬出版、ISBN 9784263237892、pp.25-57およびpp.116-139)

<その他の論文>1.疾患と看護がわかる看護過程ナーシングプロセス 下垂体腫瘍(単著、平成25年8月、クリニカルスタディ(メヂカルフレンド社)、34巻、9号、pp.747-761) / 2.【なぜその選択?どういう効果?治療過程に沿ったクスリの話】 ケース別 薬剤の選択と効果 頭部血管障害(共著、平



成25年10月、重傷集中ケア（日総研）、12巻、4号、pp.47-54）／3.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援 札幌市立大学看護学部「往還型研修」とは（共著、平成26年1月、看護管理（医学書院）、24巻、1号、pp.61-69）／4.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援・卒後2年目までのシャトル研修（共著、平成26年2月、看護管理（医学書院）、24巻、2号、pp.159-165）／5.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援・札幌市立大学看護学部による卒業前スキルアップトレーニング（共著、平成26年3月、看護管理（医学書院）、24巻、3号、pp.260-269）

<学会発表>1.卒業大学主催の往還型研修 卒後1、2年目合同研修の評価と傾向（共同、平成25年7月、日本看護学教育学学会）／2.卒業大学主催の往還型研修の取り組みと評価 卒後3年目研修（共同、平成25年7月、日本看護学教育学学会）／3.卒業大学主催による往還型研修の評価入職後4ヶ月時研修を2年間開催して（共同、平成25年7月、日本看護学教育学学会）／4.看護学生が認識したりハビリテーション看護の様相（共同、平成25年7月、日本看護学教育学学会）／5.成人看護学演習における臨床とのユニフィケーション 中小規模病院教育担当者・学生・教員にとっての効果（共同、平成25年12月、日本看護科学学会学術集会）／6.看護系大学における卒業前スキルアップトレーニングの実践 過去4年間の参加状況と影響要因（共同、平成25年12月、日本看護科学学会学術集会）／7.卒業生インストラクターを活用した卒業前スキルアップトレーニングの参加状況と評価（共同、平成25年12月、日本看護科学学会学術集会）／8.卒業前スキルアップトレーニングに参加した卒業生インストラクターの実態と評価（共同、平成25年12月、日本看護科学学会学術集会）

<学会シンポジウム>1.workshop3 Paradigm shift in care: Nursing for patients with consciousness disturbance（共同、平成25年9月、WFNN）

<論文査読・学会抄録査読>1.日本災害看護学会（5件、日本災害看護学会第15回年次大会）

<学会役員就任状況>日本脳神経看護研究学会（評議員）

<学術集会運営>日本災害看護学会第15回年次大会

<所属学会・研究会>日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本脳神経看護研究学会／日本高次脳機能障害学会／日本看護学教育学学会／日本慢性看護学会／日本クリティカル看護学会／国際リハビリテーション看護研究会／日本ニューロサイエンス看護学会／American Association of Neuroscience Nurses／日本看護管理学会

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>脳神経領域の看護職員のための研修会企画・運営 北海道地方部会研究発表会・講演会・総会（平成25年4月25日ほか、日本脳神経看護研究学会）／看護記録に関する研修会講師・回復期リハビリテーション病棟指導 「電子カルテ導入に向けた看護記録」（平成25年6月11日・18日ほか、北海道済生会小樽病院看護部）／看護研究に関する講義・指導（平成25年9月17日・12月10日・平成26年1月10日ほか、北海道中央労災病院せき損センター看護部）／依頼にて中堅看護師のための研修講師（OSCE課題の作成）「中堅看護師ステップアップ研修・OSCE体験コース」（平成25年8月～平成26年2月、手稲溪仁会病院看護部）

櫻井 繭子

<実務関係書>1.ワークデザイン(翻訳)（共著、平成25年5月、労働科学研究所）

<学会発表>1.データベースを活用した看護実践能力の自己評価力育成への取り組み報告1（共同、平成25年8月、第17回日本看護管理学会学術集会）／2.データベースを活用した看護実践能力の自己評価力育成への取り組み報告2（共同、平成25年8月、第17回日本看護管理学会学術集会）／3.看護師の月経随伴症状と生活習慣の関連（共同、平成25年9月、第44回日本看護学会-母性看護-学術集会）／4.上部内視鏡検査における映像視聴における効果（共同、平成25年9月、第44回日本看護学会-看護総合-学術集会）／5.A大学看護学部卒業生における社会人基礎力、看護者の基本姿勢、職場貢献度、及び就業満足度の関係（共同、平成25年12月、第32回日本看護科学学会学術集会）

<学会役員就任状況>日本産業衛生学会（看護部会幹事(研究担当)）／日本産業衛生学会北海道地方会（運営委員、看護部会幹事(研修担当)）／北海道公衆衛生学会（評議員）

<所属学会・研究会>日本看護科学学会／日本地域看護学会／日本産業衛生学会／日本公衆衛生学会／日本産業保健学会／日本精神保健学会／日本看護管理学会／北海道公衆衛生学会



<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>精神障がい者の社会復帰に関する講演会企画(共催) 24時間365日、精神障がい者のリカバリーは地域でおこる(平成25年7月14日、札幌なかまの杜クリニック)

田中 広美

<実務関係報告書>1.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援(平成26年3月、医学書院)

<学会発表>1.就業前スキルアップトレーニングの参加状況と評価(共同、平成25年8月、第23回日本看護学教育学会学術集会) / 2.可視化機能を導入した注射シミュレーション改良モデルの使用感に関する研究(第1報)(共同、平成25年9月、第12回日本看護技術学会学術集会) / 3.可視化機能を導入した注射シミュレーション改良モデルの使用感に関する研究(第2報)(共同、平成25年9月、第12回日本看護技術学会学術集会) / 4.圧力センサーを内蔵した注射の技術シミュレーターに関する研究(共同、平成25年10月、第1回看護理工科学会学術集会) / 5.卒業前スキルアップトレーニングに参加した卒業生インストラクターの実態と評価(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 6.卒業生インストラクターを活用した卒業前スキルアップトレーニングの参加状況と評価(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 7.看護系大学における卒業前スキルアップトレーニングの実践-過去4年間の評価(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 8.針穿刺シミュレータを用いた注射の技術の実施状況と課題 ~動画による採血場面の視覚的分析~(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 9.圧力センサー機能及び撮影機能を導入した注射技術シミュレーションモデルに関する研究(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 10.蛍光塗料を用いた薬液吸引時の注射器への手指接触部位の特定(共同、平成25年8月、第23回日本看護学教育学会学術集会) / 11.タイムプレッシャーによる注射技術時の危険性の認識(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 12.安全で適切な注射の技術の研究~薬液を吸引した後の針の取り扱い方法の検証~(共同、平成25年9月、第12回日本看護技術学会学術集会)

<論文査読・学会抄録査読>1.日本看護学会論文集(看護総合)(6件、日本看護学会)

<所属学会・研究会>日本看護科学学会/日本看護学教育学会/日本看護研究学会/日本看護技術学会/日本看護歴史学会/日本看護管理学会/日本看護理工科学会

原井 美佳

<学術論文>1.Risk factors for urinary incontinence in Japanese elderly women.(筆頭共著者、平成25年7月、LUTS(Lower Urinary Tract Symptom)、6巻、2号、pp.94-97) / 2.老人福祉センター利用者における主観的幸福感と関連要因の検討(筆頭共著者、平成26年3月、北海道公衆衛生学雑誌、27巻、2号、pp.115-122) / 3.北海道の介護保険施設における口腔ケアに関する看護管理的取り組みの実態調査(共著、平成26年3月、北海道公衆衛生学雑誌、27巻、2号、pp.137-142) / 4.中小規模病院に勤務する看護師長の職務上の困難についての検討(筆頭共著者、平成26年4月、第44回日本看護学会論文集 看護管理、pp.321-324)

<その他の論文>1.前期高齢者である女性の加齢に伴う尿失禁有病率の推移(共著、平成25年11月、日本老年泌尿器科学会、26巻、pp.112)

<受賞等>1.第26回日本老年泌尿器科学会 学会賞(平成25年5月、日本老年泌尿器科学会)

<学会発表>1.前期高齢者の女性の加齢に伴う尿失禁有病率の推移(共同、平成25年5月、第26回日本老年泌尿器科学会) / 2.看護学生が持つ高齢者観の形成要因(共同、平成25年6月、日本老年看護学会第18回学術集会) / 3.健康高齢者を対象とした老年看護学実習の学生の学び-実習レポートの内容を示すキーワードの分析のまとめ-(共同、平成25年6月、日本看護学教育学会第23回学術集会) / 4.S大学老年看護学臨地実習を履修した学生による実習評価-2期生と3期生、4期生の比較(共同、平成25年6月、日本看護学教育学会第23回学術集会) / 5.中小規模病院に勤務する看護師長の職務上の困難についての検討(共同、平成25年9月、第44回日本看護学会 看護管理) / 6.前期高齢者である女性の加齢に伴う尿失禁の状態の変化-ICIQ-SFスコアの推移(共同、平成25年10月、第72回日本公衆衛生学会総会) / 7.後期高齢者の閉じこもり防止に向けた個人回想法の試み(共同、平成25年12月、



第33回日本看護科学学会学術集会) / 8. 冬季の積雪寒冷地における後期高齢者への個人回想法の精神的評価 (共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会)

<学会役員就任状況>北海道公衆衛生学会 (北海道公衆衛生学会評議員)

<所属学会・研究会>日本老年看護学会 / 日本看護管理学会 / 日本看護科学学会 / 日本看護学教育学会 / 日本公衆衛生学会 / 北海道公衆衛生学会 / 日本産業カウンセラー協会 / 札幌市介護支援専門員連絡協議会 / 福祉住環境コーディネーター協会 / 愛知排泄ケア研究会 / 日本コンチネンス協会 / 日本老年泌尿器科学会 / 日本排尿機能学会

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>看護研究発表会における講評 (札幌中央病院) / 看護研究支援 (東苗穂病院)

藤井 瑞恵

<学術論文>1. 北海道の介護保険施設における口腔ケアに関する看護管理的取り組みの実態調査 (共著、平成26年3月、北海道公衆衛生学会誌、27巻、2号、pp.137-142)

<学会発表>1. 臨床現場の教育担当者が捉える新人教育の課題—学社連携就業力育成プログラム意見交換会から— (共同、平成25年8月、日本看護学教育学会) / 2. 就業先の指導者から見たA大学卒業生の特徴—学社連携就業力育成プログラム意見交換会から— (共同、平成25年8月、日本看護学教育学会) / 3. 看護師個人の成長をチームの成長へとつなぐ継続教育プログラム (共同、平成25年8月、日本看護管理学会) / 4. 成人看護学演習における臨床とのユニフィケーション—中小規模病院教育担当者・学生・教員にとっての効果 (共同、平成25年12月、日本看護科学学会)

<論文査読・学会抄録査読>1. 日本糖尿病教育・看護学会誌 (4件)

<学会役員就任状況>日本糖尿病教育・看護学会 (編集委員会専任査読者、委員)

<学術集会運営>第15回日本災害看護学会年次大会

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>院内研究の指導・助言 (札幌徳州会病院)

三上 智子

<学会発表>1. 小児看護OSCE課題における看護実践能力達成率の検討 (共同、平成25年7月、日本小児看護学会第23回学術集会) / 2. データベースを活用した看護実践能力の自己評価力育成への取り組み報告2 (共同、平成25年8月、第17回日本看護管理学会学術集会) / 3. データベースを活用した看護実践能力の自己評価力育成への取り組み報告1 (共同、平成25年8月、第17回日本看護管理学会学術集会) / 4. 看護師と医療保育士の連携による模擬事例分析-グループ内でコミュニケーショントラブルをおこす小学生への対応- (共同、平成25年8月、日本育療学会第17回学術集会) / 5. 看護師と医療保育士の連携による模擬事例分析-ストレス表出、中・長期的自立目標の不明確な思春期女子への対応- (共同、平成25年8月、日本育療学会第17回学術集会) / 6. 看護師と医療保育士の連携による模擬事例分析-身体的苦痛と激しい感情表出をする学童前期の子どもへの対応- (共同、平成25年8月、日本育療学会第17回学術集会) / 7. 低学年児童における転倒予防マットレスを用いた運動プログラム導入後の基礎活動力 (共同、平成25年11月、第60回日本学校保健学会) / 8. 授業時間外の活動における小学校低学年児童の怪我の実態調査 (共同、平成25年11月、第60回日本学校保健学会) / 9. A大学看護学部卒業生における社会人基礎力、看護者の基本姿勢、職場貢献度、及び就業満足度の関係 (共同、第33回日本看護科学学会学術集会)

<所属学会・研究会>日本看護科学学会 / 日本看護教育学会 / 日本看護研究学会 / 日本母性衛生学会 / 日本小児看護学会 / 北海道小児保健研究学会 / 日本学校保健学会 / 小児保健研究学会 / 在宅ケアを考える診療所・市民ネットワーク / 日本看護管理学会

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>看護研究支援 (勤医協中央病院)

山内 まゆみ

<学術論文>1. 専修学校に在学する助産師学生の成人学習能力に関する1考察 (単著、平成25年6月、医学と生物学、157巻、6号、pp.891-898)



<実践報告書>1.初妊婦用テキスト「わが家に赤ちゃんがやってくる」(平成25年4月)

<学会発表>1.教育課程修了直前に実施した助産学客観的臨床能力試験の学修上の意義(共同、平成25年4月、日本助産学会) / 2.助産学生の職業準備性を高める教育手法に関する研究報告(単独、平成25年7月、第15回日本母性看護学会) / 3.助産師の卒後教育に関する調査報告(共同、平成25年8月、第39回日本看護研究学会) / 4.北海道・東北圏に勤務する助産師の卒後教育に関する調査報告第1報(共同、平成25年10月、第54回日本母性衛生学会) / 5.北海道・東北圏に勤務する助産師の卒後教育に関する調査報告第2報(共同、平成25年10月、第54回日本母性衛生学会) / 6.助産OSCEに参加した模擬患者の「感想」票が持つ意味の検討(共同、平成25年10月、第54回日本母性衛生学会) / 7.A大学看護学部のポートフォリオプロジェクト改善点 学生へのグループインタビューから(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会) / 8.看護学部卒業後の目標管理ツールの活用状況に関する実態調査(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会) / 9.実習開始前に実施した助産学客観的臨床能力試験の学修上の効果(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会) / 10.客観的臨床能力試験(OSCE)後に感じた助産学生の学びと改善点 自記式質問紙調査から(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会) / 11.助産学客観的臨床能力試験(OSCE)における教員評価と学生自己評価の相違(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会) / 12.助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの開発(1) 取り組みの実際(共同、平成26年3月、第28回日本助産学会) / 13.助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの開発(2) OSCEにおける第3者評価(共同、平成26年3月、第28回日本助産学会) / 14.助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの開発(3) プログラム運営のためのシステム活用(共同、平成26年3月、第28回日本助産学会) / 15.助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた助産技術教育の効果—学生へのインタビュー調査結果からの検証—(共同、平成26年3月、第28回日本助産学会)

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>乳房のケアに関する研修の講師を2回(各3時間程度)

札幌市の保健師研修 9時~12時30分、14時~17時30分(平成26年6月14日・8月1日、札幌市) / 勤医協札幌病院への研究指導(平成26年8月28日・12月13日・18日、勤医協)

山本 真由美

<論文>1.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援①(共著、平成26年1月、看護管理、24巻、1号、pp.61-69) / 2.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援②(共著、平成26年2月、看護管理、24巻、2号、pp.159-165) / 3.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援③(共著、平成26年3月、看護管理、24巻、3号、pp.260-269)

<学会発表>1.教育課程修了直前に実施した助産学客観的臨床能力試験の学修上の意義—学生インタビューからの考察—(共同、平成25年5月、第27回日本助産学会学術集会) / 2.就業前スキルアップトレーニングの参加状況と評価(共同、平成25年8月、第23回日本看護学教育学会学術集会) / 3.可視化機能を導入した注射シミュレーション改良モデルの使用感に関する研究(第1報)(共同、平成25年9月、第12回日本看護技術学会学術集会) / 4.可視化機能を導入した注射シミュレーション改良モデルの使用感に関する研究(第2報)(共同、平成25年9月、第12回日本看護技術学会学術集会) / 5.圧力センサーを内蔵した注射の技術シミュレーターに関する研究(共同、平成25年10月、第1回看護理工科学学会学術集会) / 6.助産学OSCEに参加した模擬患者の「感想」票が持つ意味の検討(共同、平成25年10月、第54回日本母性衛生学会学術集会) / 7.卒業前スキルアップトレーニングに参加した卒業生インストラクターの実態と評価(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 8.卒業生インストラクターを活用した卒業前スキルアップトレーニングの参加状況と評価(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 9.看護系大学における卒業前スキルアップトレーニングの実践—過去4年間の評価(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 10.針穿刺シミュレータを用いた注射の技術の実施状況と課題 ~動画による採血場面の視的分析~(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 11.圧力センサー及び撮影機能を導入した注射技術シミュレーターに関する研究(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会)



集会) / 12.客観的臨床能力試験 (OSCE) の受験による助産学専攻科生の学び - 質問紙調査結果から - (共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 13.実習開始直前に実施した助産学客観的臨床能力試験の学修上の意義 (共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 14.助産学客観的臨床能力試験(OSCE) における教員評価と学生自己評価の相違 (共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 15.助産学専攻科における客観的能力試験を用いた助産技術教育の効果-学生へのインタビュー調査結果からの検証- (共同、平成26年3月、第28回日本助産学会学術集会) / 16.助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの開発 (1) -取組みの実際- (共同、平成26年3月、第28回日本助産学会学術集会) / 17.助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの開発 (2) -OSCEに関する第三者評価- (共同、平成26年3月、第28回日本助産学会学術集会) / 18.助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの開発 (3) -プログラム運営のためのシステム活用- (共同、平成26年3月、第28回日本助産学会学術集会)

<学術集会運営>平成25年度北海道看護協会研究発表会 / 日本災害看護学会学術集会 / 日本人口学会
<所属学会・研究会>日本助産学会 / 日本看護科学学会 / 日本母性衛生学会 / 北海道母性衛生学会 / 日本看護管理学会 / 日本看護学教育学会 / 日本看護技術学会 / 看護理工学会

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>平成25年度北海道看護協会教育委員 / 看護研究 (研究計画書、統計処理、質的分析) 講義 (平成25年5月14日、北海道がんセンター看護部) / 看護研究 (講義および研究指導) / 看護教員・卒後教育担当者のための研修会運営 (平成25年7月26日~30日、北海道看護協会) / 看護研究指導 (不定期) (平成25年10月~平成26年1月、北海道がんセンター看護部) / 看護研究発表会講評 (平成26年2月28日、北海道がんセンター看護部) / 災害看護研修会運営 (平成26年3月8日・9日、北海道看護協会) / 看護教員・看護教育担当者のキャリアを充実させる研修会企画立案 (平成26年度、北海道看護協会) / 看護教員・看護教育担当者のキャリアを充実させる研修会 (公開講座) 企画立案 (平成26年度、北海道看護協会)

渡邊 由加利

<調査研究報告書>1.看護教育における模擬患者養成プログラムの検証と模擬患者を支援するシステム構築 (平成25年7月、日本学術振興会)

<学会発表>1.「Objective Structured Clinical Examination in Midwifery Education (2): Preparation for Delivery」 (共同、平成25年10月、Scientific Committee of 9th INC & 3rd WANS) / 2.「Objective Structured Clinical Examination in Midwifery Education (1) Observation of Newborns」 (共同、平成25年10月、Scientific Committee of 9th INC & 3rd WANS) / 3.「助産学客観的臨床試験 (OSCE) における教員評価と学生自己評価の相違」 (共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 4.「実習開始直前に実施した助産学客観的能力試験の学修上の効果」 (共同、平成25年12月、第34回日本看護科学学会学術集会) / 5.「客観的臨床能力試験 (OSCE) 後に感じた助産学生の学びと改善点-自作質問紙調査から-」 (共同、平成25年12月、第35回日本看護科学学会学術集会) / 6.「助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの開発 (1) -取組みの実際-」 (共同、平成26年3月、第28回日本助産学会学術集会) / 7.「助産学専攻科における客観的能力試験を用いた助産技術教育の効果-学生へのインタビュー調査結果からの検証-」 (共同、平成26年3月、第29回日本助産学会学術集会) / 8.「助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの開発 (2) -OSCEに関する第三者評価-」 (共同、平成26年3月、第30回日本助産学会学術集会) / 9.「助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの開発 (3) -プログラム運営のためのシステム活用-」 (共同、平成26年3月、第31回日本助産学会学術集会)

<学術集会運営>日本人口学会

<所属学会・研究会>日本看護科学学会 / 日本助産学会 / 日本看護教育学会 / 日本人間工学会 / 看護人間工学部会 / 母性衛生学会 / 北海道母性衛生学会

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>社会貢献委員 (平成25年4月~平成26年3月、全国助産師教育協議会) / クレーム対応のワークショップ開催の助言 考えよう、心の通う接遇-お母様方の満



足度を高めるために」(平成26年3月、桶谷式乳房管理研鑽会) / 助産師を対象として妊娠・出産育児期にある夫婦への支援を考える。産前産後の夫婦間のコミュニケーションと父親学級にできること(平成26年3月2日、渡邊由加利)

工藤 京子

<実践報告書>1.特別記事 大学が主催する新人看護職員の『社会か』支援①札幌市立大学看護学部「往還型研修」とは(共著、平成26年1月、医学書院、24巻、1号、pp.61-69) / 2.特別記事 大学が主催する新人看護職員の『社会か』支援②卒後2年目までのシャトル研修(共著、平成26年2月、医学書院、24巻、2号、pp.159-165) / 3.特別記事 大学が主催する新人看護職員の『社会か』支援②札幌市立大学看護学部による卒業前スキルアップトレーニング(共著、平成26年3月、医学書院、平成26年3月、医学書院、24巻、3号、pp.260-269)

<学会発表>1.就業前スキルアップトレーニングの参加状況と評価(共同、平成25年8月、第23回日本看護学教育学会学術集会) / 2.看護系大学における卒業前スキルアップトレーニングの実践-過去4年間の参加状況と影響要因(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 3.卒業前スキルアップトレーニングに参加した卒業生インストラクターの実態と評価(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 4.卒業生インストラクターを活用した卒業前スキルアップトレーニングの参加状況と評価(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) / 5.成人看護学演習における臨床とのユニフィケーション-中小規模病院教育担当者・学生・教員にとっての効果-(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会)

<論文査読・学会抄録査読>1.日本災害看護学会第15回年次大会講演抄録集(7件、日本災害看護学会)

<学術集会運営>日本災害看護学会第15回年次大会

<所属学会・研究会>日本看護学教育学会 / 日本看護科学学会 / 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 / 日本看護研究学会 / 日本看護研究学会 / 日本創傷治癒学会 / 日本看護技術学会 / 日本看護管理学会

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>看護研究計画書、看護研究成果発表での講評、学会発表に向けての支援 院内研究発表会(平成26年2月19日、札幌中央病院) / 看護研究の実施と論文作成、院内発表までの指導、発表時の講評 看護研究研修(平成25年4月~平成26年3月、札幌市病院局市立札幌病院)

多賀 昌江

<学術論文>1.死産児安置のための棺の開発研究-助産師として、経験者としてのニーズから研究者としての製品デザインへ-(単著、平成25年5月、日本デザイン学会誌、第20巻、3号、pp.56-63)

<その他の論文>1.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援①札幌市立大学看護学部「往還型研修とは」(共著、平成26年1月、医学書院、24巻、1号、pp.61-69) / 2.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援②卒後2年目までのシャトル研修(共著、平成26年2月、医学書院、24巻、2号、pp.159-165) / 3.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援③札幌市立大学看護学部による卒業前スキルアップトレーニング(共著、平成26年3月、医学書院、24巻、3号、pp.260-269)

<実践報告書>1.産学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成平成25年度活動資料集(共著、平成26年3月、札幌市立大学、pp.31-33)

<学会発表>1.教育課程修了直前に実施した助産学客観的臨床能力試験の学修上の意義(共同、平成25年5月、第27回日本助産学会学術集会) / 2.製品利用目的の理解度抽出を目的としたオンラインアンケートの評価(共同、平成25年6月、日本デザイン学会第60回春季研究発表大会) / 3.トラベルヘルス業務に従事する看護職の役割と教育に関する実態調査(共同、平成25年7月、第17回日本渡航医学会学術集会) / 4.卒業大学主催による往還型研修の評価-入職後4か月時研修を2年間開催して-(共同、平成25年8月、日本看護学教育学会第23回学術集会) / 5.卒業大学主催による往還型研修の評価-入職後4ヶ月時研修を2年間開催して-(共同、平成25年8月、日本看護学教育学会第23回学術集会) / 6.卒業大学主催による往還型研修の取り組みと評価-卒業2年目研修-(共同、平成25年



8月、日本看護学教育学会第23回学術集会) /7.助産学OSCEに参加した模擬患者の「感想」票が持つ意味の検討(共同、平成25年10月、第54回日本母性衛生学会学術集会) /8.Objective Structured Clinical Examination in Midwifery Education(2):Preparation for Delivery(共同、平成25年10月、9th International Nursing Conference2013) /9.実習開始直前に実施した助産学客観的臨床能力試験の学修上の効果(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) /10.助産学客観的臨床能力試験(OSCE)における教員評価と学生自己評価の相違(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) /11.客観的臨床能力試験(OSCE)後に感じた助産学生の学びと改善点-自作質問紙調査から-(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) /12.看護系大学における卒業前スキルアップトレーニングの実践-過去4年間の参加状況と影響要因-(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) /13.卒業生インストラクターを活用した卒業前スキルアップトレーニングの参加状況と評価(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) /14.卒業前スキルアップトレーニングに参加した卒業生インストラクターの実態と評価(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) /15.死産児安置の為の「わが子のひつぎ」プロトタイプデザイン第4報:病院での試用を通じた製品評価調査-(共同、平成26年2月、日本感性工学会感性フォーラム2014) /16.死産児安置の為の「わが子のひつぎ」プロトタイプデザイン-第5報:悲しみを癒す要素の評価-(共同、平成26年2月、日本感性工学会感性フォーラム2014) /17.助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた助産技術教育の効果-学生へのインタビュー調査結果からの検証-(共同、平成26年3月、日本助産学会第4回(第28回)学術集会) /18.助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの開発(1)-取組みの実際-(共同、平成26年3月、日本助産学会第4回(第28回)学術集会) /19.助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの開発(2)-OSCEに関する第三者評価-(共同、平成26年3月、日本助産学会第4回(第28回)学術集会) /20.助産学専攻科における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの開発(3)-プログラム運営のためのシステム活用-(共同、平成26年3月、日本助産学会第4回(第28回)学術集会)

<学会役員就任状況>日本渡航医学会(評議委員)

<学術集会運営>第18回(平成26年)日本渡航医学会学術集会看護部会運営委員

<所属学会・研究会>日本助産学会/日本助産師会/文化人類学会/北海道民族学会/日本渡航医学会/国際看護研究会/日本母性衛生学会/北海道母性衛生学会/日本人間工学会/日本感性工学会/日本看護科学学会/日本看護教育学会

<講演会・講習会活動>母子衛生研究会ワーキングマタニティスクール「夫婦で楽しく妊娠ライフ」合計3回 「夫婦で楽しく妊娠ライフ」(平成25年5月26日・11月8日・平成26年3月8日、母子衛生研究会)

<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>家庭教育学級全市合同学習会の運営企画に関わる助言、相談、講師紹介(平成25年7月17日、家庭教育学級全市合同学習会)

田 仲 里 江

<調査研究報告書>1.北海道 保健の授業に関する調査 小学校6年生・中学校3年生 実施報告書(平成26年3月、札幌市立大学、順天堂大学、公益財団法人札幌がんセミナー)

<学会発表>1.看護師の月経随伴症状と生活習慣の関連(共同、平成25年6月、第44回日本看護学会-母性看護-学術集会抄録集) /2.日勤の時間外労働短縮に向けた取り組み~パートナーシップナーシングシステム(PNS)の受け持ちペア制を導入して~(共同、平成25年9月、第44回日本看護学会-看護総合-学術集会抄録集) /3.看護学教員の地域看護学の必要性に関する認識(共同、平成26年1月、第2回日本公衆衛生看護学会学術集会) /4.A大学看護学部のポートフォリオプロジェクト改善点 学生へのグループインタビューから(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会) /5.看護学部卒業後の目標管理ツールの活用状況に関する実態調査(共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会)

<研究大会発表>1.官学民の連携による地域に根ざした健康教育演習の実際と学習効果-行政事務職員インタビュー分析から(平成25年10月、看護総合科学研究会)



- <論文査読・学会抄録査読>1.日本災害看護学会第15回年次大会一般演題（6件、日本災害看護学会）
<学術集会運営>日本災害看護学会第15回年次大会／日本人口学会第65回大会
<所属学会・研究会>日本公衆衛生学会／日本公衆衛生看護学会／日本地域看護学会／日本看護科学学会／看護総合科学研究会／保健活動を考える自主的研究会
<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>手稲溪仁会病院の看護研究への研究指導（手稲溪仁会病院）

坂東 奈穂美

- <学会発表>1.可視化機能を導入した注射シミュレーション改良モデルの使用感に関する研究（第1報）（共同、平成25年9月、日本看護技術学会）／2.可視化機能を導入した注射シミュレーション改良モデルの使用感に関する研究（第2報）（共同、平成25年9月、日本看護技術学会）／3.圧力センサーを内蔵した注射技術シミュレーターに関する研究（共同、平成25年10月、看護理工学学会）／4.針穿刺シミュレータを用いた注射技術の実施状況と課題－動画による採血場面の視覚的分析－（共同、平成25年12月、日本看護科学学会）／5.圧力センサー及び撮影機能を導入した注射技術シミュレーターに関する研究（共同、平成25年12月、日本看護科学学会）
<論文査読・学会抄録査読>1.日本災害看護学会第15回年次大会（5件、日本災害看護学会）
<学術集会運営>日本災害看護学会第15回年次大会

檜山 明子

- <論文>1.「看護過程がうまくいく！」情報収集学生の視点／指導者の視点（共著、平成25年5月、学研メディカル ナーシングキャンパス、1巻、2号、pp.8-38）
<調査研究報告書>1.厚生労働科学研究費補助金 看護師の高度な臨床実践能力の評価方法の開発 平成25年度総括・分担研究報告書（共著、平成26年3月、pp.17-22）
<学会発表>1.胸腰椎圧迫骨折の早期退院を妨げる要因～当院における傾向を把握して～（共同、平成25年7月、第44回日本看護学会、老年看護）／2.蛍光塗料を用いた薬液吸引時の注射器への手指接触部位の特定（共同、平成25年8月、第23回日本看護学教育学会学術集会）／3.北海道地方の看護専門学校に所属する教員の教育ニーズ－部下、後輩のいる教員に焦点を当てて－（共同、平成25年8月、第23回日本看護学教育学会学術集会）／4.性暴力被害者に対する看護の現状と課題－北海道内の産婦人科病院外来に勤務する看護職者に焦点をあてて－（共同、平成25年9月、日本看護技術学会第12回学術集会）／5.安全で適切な注射の技術の研究～薬液を吸引した後の針の取り扱い方法の検証～（共同、平成25年9月、日本看護技術学会第12回学術集会）／6.外傷センターにおける複数回転倒予防対策～看護師への教育的介入と多職種カンファレンスの効果～（共同、平成25年10月、第44回日本看護学会、成人看護Ⅱ）／7.救急センターのJTASを用いた院内トリアージにおける判断のプロセス（共同、平成25年11月、第44回日本看護学会、成人看護Ⅰ）／8.A大学看護学部のポートフォリオプロジェクト改善点 学生へのグループインタビューから（共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会）／9.タイムプレッシャーによる注射技術時の危険性の認識～薬液吸引に焦点をあてて（共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会）／10.高度実践看護師の役割に関する研究－米国NP教育課程の役割と機能に焦点をあてて－（共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会）／11.高度実践看護師の養成教育に関する研究－米国NPの教育プログラムの現状に焦点をあてて－（共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会）／12.北海道地方の看護専門学校教員の学習ニーズの現状と教員特性との関係（共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会）／13.看護学部卒業後の目標管理ツールの活用状況に関する実態調査（共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会）
<所属学会・研究会>日本看護研究学会／日本看護倫理学会／日本看護学教育学会／日本看護科学学会／看護総合科学研究会／日本看護技術学会／日本看護管理学会／日本看護管理学会
<専門職者・企業・展覧会等への支援活動>研究支援（平成25年4月～平成26年3月、札幌徳洲会病院）／研修講師 移動・移乗の基礎看護技術～らくらく動作介助技術を用いて～（平成25年5月10日、北海道自治体病院協議会 小規模病院等看護技術強化事業）

**小田嶋 裕輝**

<学術論文>1.2型糖尿病患者のストレス対処力・心理的負担感・医療者の支援との関連性（筆頭共著者、平成25年9月、看護総合科学研究会誌）

<所属学会・研究会>看護科学研究学会／日本民族衛生学会／日本慢性看護学会／看護総合科学研究会

柏倉 大作

<実務関係報告書>1.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援①（平成26年1月、医学書院、Vol.24 No.1）／2.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援②（平成26年2月、医学書院、Vol.24 No.2）／3.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援③（平成26年3月、医学書院、Vol.24 No.3）

<実務関係書>1.水分・栄養の維持に欠かせない！アルブミン（平成25年7月、ナーシングキャンパス、Vol.1 No.4）

<学会発表>1.圧力センサーを内蔵した注射の技術シミュレーターに関する研究（共同、平成25年8月、第一回日本看護理工学会）／2.可視化機能を導入した注射シミュレーション改良モデルの使用感に関する研究（共同、平成25年8月、第12回日本看護技術学会）／3.可視化機能を導入した注射シミュレーション改良モデルの使用感に関する研究（第2報）（共同、平成25年8月、第12回日本看護技術学会）／4.看護系大学における卒業前スキルアップトレーニングの実践―過去4年間の参加状況と影響要因―（共同、平成25年11月、JANS33）／5.卒業生インストラクターを活用した卒業前スキルアップトレーニングの参加状況と評価（共同、平成25年11月、JANS33）／6.卒業前スキルアップトレーニングに参加した卒業生インストラクターの実態と評価（共同、平成25年11月、JANS33）／7.圧力センサー及び撮影機能を導入した注射技術シミュレーターに関する研究（共同、平成25年11月、JANS33）

<学術集会運営>第15回日本災害看護学会

御厩 美登里

<実務関係報告書>1.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援①（平成26年1月、医学書院、Vol.24 No.1）／2.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援②（平成26年2月、医学書院、Vol.24 No.2）／3.大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援③（平成26年3月、医学書院、Vol.24 No.3）

<学会発表>1.訪問看護師の職務継続意向と同僚間コミュニケーションの関連（単独、平成25年8月、第16回日本地域看護学会）／2.北海道で働く訪問看護師の職務継続意向と職場環境の関連（単独、平成25年11月、北海道公衆衛生学会）／3.訪問看護師の職務継続意向に関連する要因～個人属性と働く喜びに焦点をあてて～（単独、平成26年3月、日本在宅ケア学会）

<学術集会運営>第15回日本災害看護学会

星 幸江

<学会発表>1.看護学部卒業後の目標管理ツールの活用状況に関する実態調査（共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会）／2.精神看護学における段階的シミュレーション教育 イメージへの影響（共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会）／3.精神看護学における段階的シミュレーション教育 態度への影響（共同、平成25年12月、第33回日本看護科学学会学術集会）

<学術集会運営>日本災害看護学会学術集会

横川 亜希子

<所属学会・研究会>看護教育学学会／医療の質・安全学会

「札幌市立大学のシンボルマークについて」

札幌市立大学のシンボルマークは、
英国の著名なクリエイティブグループtomatoの
ジョン・ワーウィッカー氏によってデザインされました。
雪の結晶のイメージは、札幌の自然環境を特徴づけると共に、
大学での学習過程を図像的にあらわしたものです。(登録商標)



札幌市立大学

SAPPORO CITY UNIVERSITY

札幌市立大学年報 平成25年度 第8号

編 集 広報室

担 当 事 務 経営企画課

発 行 日 平成26年12月1日

発 行 札幌市立大学

〒005-0864 北海道札幌市南区芸術の森1丁目

TEL : 011-592-2300 FAX : 011-592-2369

URL <http://www.scu.ac.jp>